

2015年度後学期
静岡大学市民開放授業

授業内容（シラバス）



静岡大学
Shizuoka University

授業内容の見方

1 頁～1 0 頁 市民開放授業科目一覧を掲載してあります。

1 1 頁～ 授業内容（シラバス）を掲載してあります。

例

※授業内容は学生向けに作られています。対象学年・必修選択・単位数 等は学生向けの情報です。
平成 27 年 8 月末時点の情報を掲載していますので、内容に変更がある可能性があります。最新情報は、静岡大学
ウェブサイトにてご覧いただけます。(http://www.lc.shizuoka.ac.jp/class_list.html シラバス検索)

授業科目名	ドイツ語 A－2					
担当教員名	静岡 太郎			所属等	人文社会科学部	
				研究室	人文 A 棟 4 2 2	
分担教員名						
クラス	学部共通 2	学期	前学期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4	
キーワード	文法の基礎					
● 授業の目標	ドイツ文法の基礎をしっかりと学習する。テープは使用しない。					
● 学習内容	教科書に沿って行う。					
● 授業計画	1 回 話法の助動詞 2 回 話法の助動詞 3 回 動詞の 3 基本形 4 回 動詞の 3 基本形 5 回 動詞の 3 基本形 6 回 時制 7 回 時制 8 回 形容詞 9 回 形容詞 1 0 回 形容詞 1 1 回 関係代名詞 1 2 回 受動 1 3 回 受動 1 4 回 接続法 1 5 回 接続法					
● 受講要件	問わない。					
テキスト	ドイツ文法 1 8 歩					
参考書	無し					
予習・復習について	辞書を丹念に引いて、予習復習を行うこと。					
成績評価の方法・基準	試験の成績のみで評価を行う。					
● オフィスアワー	火曜日 7・8 時限 研究室にて。 事前にメール連絡を。					
担当教員からのメッセージ	自分の勉強不足を教員になすりつけないこと。					

授業の目標
学習内容
授業計画
これらを参考に受講したい科目を探してください。

受講要件
こちらの要件を満たしているかご確認ください。

オフィスアワー
意味：教員が学生の質問や相談を受けるために、特定の場所で待機する時間のこと。
会議等、特別な用事がないかぎり、ここに記された場所・時間に教員と直接会うことができます。

科目番号
市民開放授業で開放されている科目に割り振られた番号。
受講申込書や払込取扱書に記入する番号です。

※シラバスは各学部で作成されていますので、多少並びが異なる場合があります。

表の見方

■No.

◇科目番号です。市民開放授業で開放されている科目に割り振られた番号で、授業内容（シラバス）の下端にある番号や、市民開放授業時間割の表の番号と一致しています。受講申込書や払込取扱票にはこの番号を記入します。

■学部等

◇授業を実施している学部等を指します。

■学期

◇この欄に「後学期（前半）」「後学期（後半）」と記載された授業については、後学期をさらに半分に分けて開講されます。「後学期（後半）」の開始時期は後学期スケジュール（P2）でご確認ください。

■時間割

◇授業時間は、次のとおりです。

時限	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10
時間	8:40 } 10:10	10:20 } 11:50	12:45 } 14:15	14:25 } 15:55	16:05 } 17:35

■教室名

◇静岡キャンパス

- ・共＝共通教育棟、人＝人文社会科学部棟、教＝教育学部棟、理＝理学部棟、農＝農学部棟の略です。
- ・アルファベットは、それぞれの棟を表します。たとえば、「共A201」は、共通教育A棟201教室のことを指します。

◇浜松キャンパス

- ・情＝情報学部棟、総＝総合研究棟、1～8＝工学部1～8号館の略です。

※授業開始当初は、受講学生数等により、教室を変更する場合がありますので、掲示に注意してください。

■受入可能人数

◇1科目につき若干名とします。

◇受講の可否については、教員の判断に委ねられますので、担当教員に確認してください。

◇正規の授業の一部を開放し、本学の学生と一緒に受講していただくため、本学の学生だけで講義室の収容人数を超える場合や、同じ科目に多数の応募があった場合には、受講できないことがあります。

■難易度

◇市民開放授業科目の難易度は、授業の内容に応じて、次の4段階に区分しています。ご自分の実力に適した授業をお選びください。

- (A) 入門的な内容で、高校卒業程度の学力を必要とします。〈大学1年次対象の授業に相当〉
- (B) より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となります。〈大学2～3年次対象の授業に相当〉
- (C) 高度な内容であり、当該専門分野について系統立った学習がなされていることを前提とするものです。〈大学3～4年次対象の授業に相当〉
- (D) 専門的な知識が必要なため、受講登録にあたり担当教員と面談を行います。〈大学3～4年次対象の授業に相当〉

■受講料

◇半期全14回で9,500円が基本となっていますが、週2回開講の場合は14,700円、「後学期（前半）」「後学期（後半）」の場合は6,800円です。

平成27年度 静岡大学市民開放授業科目一覧

〔静岡キャンパス〕

〈後学期〉

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
1	全学	初修外国語(フランス語)入門Ⅱ	浅野 幸生	後学期	月3・4	共A403	若干名	A	9,500円
2	全学	初修外国語(現代韓国語)入門Ⅱ	南 富鎮	後学期	月3・4	共A305	若干名	A	9,500円
3	全学	初修外国語(ドイツ語)Ⅰ	大藺 正彦	後学期	月5・6	共A205	若干名	A	9,500円
4	全学	初修外国語(フランス語)Ⅰ	安永 愛	後学期	月5・6	共A403	若干名	A	9,500円
5	全学	私たちの生活と植物	木寄 暁子	後学期	月5・6	未定	若干名	B	9,500円
6	全学	地域社会と災害	牛山 素行	後学期	月5・6	未定	若干名	A	9,500円
7	全学	ヒューマン・エコロジー	野上 啓一郎	後学期	月5・6	未定	若干名	B	9,500円
8	全学	エネルギーと環境	大矢 恭久	後学期	月5・6	未定	若干名	B	9,500円
9	全学	人間環境と分子科学	山本 歩	後学期	月5・6	未定	若干名	A	9,500円
10	全学	NPO・ボランティア論	日詰 一幸	後学期	月5・6	未定	若干名	B	9,500円
11	全学	化学Ⅱ(物理化学B)	松本 剛昭	後学期	火1・2	共A201	若干名	A	9,500円
12	全学	化学Ⅱ(物理化学B)	菅野 秀明	後学期	火1・2	共A103	若干名	A	9,500円
13	全学	歴史と文化	藤井 真生	後学期	火3・4	未定	若干名	A	9,500円
14	全学	ことばと表現	森本 隆子	後学期	火3・4	未定	若干名	A	9,500円
15	全学	日本国憲法	根本 猛	後学期	火3・4	未定	若干名	A	9,500円
16	全学	経済と社会	朴 根好	後学期	火3・4	未定	若干名	B	9,500円
17	全学	数理の構造	鈴木 信行	後学期	火3・4	未定	若干名	A	9,500円
18	全学	日本国憲法	小谷 順子	後学期	水1・2	未定	若干名	A	9,500円
19	全学	数学の世界	四之宮 佳彦	後学期	水1・2	未定	若干名	A	9,500円
20	全学	生物と環境	向井 啓雄	後学期	水1・2	未定	若干名	A	9,500円
21	全学	生物学Ⅱ(基礎B)	丑丸 敬史	後学期	木1・2	理B202	若干名	A	9,500円
22	全学	地球科学Ⅱ(基礎B)	森下 祐一	後学期	金1・2	理B202	若干名	A	9,500円
23	全学	生物多様性の保全	山下 雅幸	後学期	金3・4	未定	若干名	B	9,500円
24	人文社会科学部	フランス事情Ⅳ	コルベユ	後学期	月1・2	人B209	若干名	B	9,500円
25	人文社会科学部	金融論Ⅱ	鳥畑 與一	後学期	月1・2	人大講	若干名	B	9,500円
26	人文社会科学部	英米事情	ユーリック	後学期	月3・4	人E101	若干名	B	9,500円
27	人文社会科学部	フランス文学概論Ⅱ	安永 愛	後学期	月3・4	人B303	若干名	B	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
28	人文社会科学部	経営情報論	伊東 暁人	後学期	月3・4	共L306	若干名	C	9,500円
29	人文社会科学部	フランス言語文化演習VI	浅野 幸生	後学期	月5・6	人B207	若干名	C	9,500円
30	人文社会科学部	地域政策Ⅱ	太田 隆之	後学期	月5・6	人E201	若干名	C	9,500円
31	人文社会科学部	ケアの社会学	白井 千晶	後学期	月7・8	人B205	若干名	B	9,500円
32	人文社会科学部	日本経済史Ⅱ	日向 祥子	後学期	月7・8	共L306	若干名	B	9,500円
33	人文社会科学部	ミクロ経済学Ⅲ	山下 隆之	後学期	月9・10	共L306	若干名	C	9,500円
34	人文社会科学部	アジア経済論Ⅱ	朴 根好	後学期	月9・10	人E201	若干名	B	9,500円
35	人文社会科学部	日本近世地域史	今村 直樹	後学期	火3・4	人B401	若干名	C	9,500円
36	人文社会科学部	中国言語文化各論Ⅱ	張 盛開	後学期	火3・4	人B205	若干名	B	9,500円
37	人文社会科学部	フランス言語文化特論VI	安永 愛	後学期	火3・4	人B207	若干名	C	9,500円
38	人文社会科学部	地方財政論Ⅱ	川瀬 憲子	後学期	火3・4	人E201	若干名	C	9,500円
39	人文社会科学部	ヨーロッパ文明史Ⅱ	藤井 真生	後学期	火5・6	人B402	若干名	C	9,500円
40	人文社会科学部	英語学概論	大村 光弘	後学期	火5・6	人B302	若干名	B	9,500円
41	人文社会科学部	経済学説史	田島 慶吾	後学期	火5・6	人E201	若干名	A	9,500円
42	人文社会科学部	ギリシア語Ⅱ	田中 伸司	後学期	火7・8	人B403	若干名	A	9,500円
43	人文社会科学部	比較文学概論Ⅲ	今野 喜和人	後学期	火7・8	人B303	若干名	B	9,500円
44	人文社会科学部	翻訳論Ⅳ	田村 充正	後学期	火9・10	人B303	若干名	C	9,500円
45	人文社会科学部	日本語学概論Ⅱ	勝山 幸人	後学期	水1・2	人B403	若干名	B	9,500円
46	人文社会科学部	言語学原書講読Ⅲ	熊谷 滋子	後学期	水1・2	人B209	若干名	B	9,500円
47	人文社会科学部	世界経済論Ⅲ	安藤 研一	後学期	水1・2	人E201	若干名	C	9,500円
48	人文社会科学部	哲学の歴史Ⅱ	堂園 俊彦	後学期	水3・4	人B301	若干名	B	9,500円
49	人文社会科学部	自己と関係の社会学	荻野 達史	後学期	水3・4	人B401	若干名	B	9,500円
50	人文社会科学部	人間環境論Ⅰ	小松 かおり	後学期	水3・4	人B303	若干名	B	9,500円
51	人文社会科学部	中国言語文化各論Ⅴ	埋田 重夫	後学期	水3・4	人B201	若干名	B	9,500円
52	人文社会科学部	アメリカ文学文化各論Ⅰ	レッドフォード	後学期	水3・4	人B403	若干名	C	9,500円
53	人文社会科学部	ミクロ経済学Ⅱ	山下 隆之	後学期	水3・4	人大講	若干名	B	9,500円
54	人文社会科学部	財政学Ⅱ	櫻井 良治	後学期	水3・4	人E201	若干名	B	9,500円
55	人文社会科学部	情報経済学Ⅱ	石橋 太郎	後学期	水5・6	共L306	若干名	C	9,500円
56	人文社会科学部	社会保障論Ⅱ	李 蓮花	後学期	水5・6	人E201	若干名	C	9,500円
57	人文社会科学部	臨床心理学Ⅰ	江口 昌克	後学期	水7・8	人B402	若干名	B	9,500円
58	人文社会科学部	イギリス文学文化各論Ⅱ	久木田 直江	後学期	水7・8	人B303	若干名	C	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
59	人文社会科学部	比較文学各論Ⅲ	花方 寿行	後学期	水9・10	人B301	若干名	B	9,500円
60	人文社会科学部	仏会話・作文Ⅱ	コルベユ	後学期	水9・10	人C204	若干名	B	9,500円
61	人文社会科学部	臨床社会心理学Ⅰ	橋本 剛	後学期	木3・4	人B207	若干名	B	9,500円
62	人文社会科学部	英語学各論Ⅰ	大村 光弘	後学期	木3・4	人B206	若干名	C	9,500円
63	人文社会科学部	企業経済特論Ⅱ	鈴木 拓也	後学期	木3・4	共L306	若干名	B	9,500円
64	人文社会科学部	神経心理学	幸田 るみ子	後学期	金5・6	人B402	若干名	B	9,500円
65	人文社会科学部	日本文学史Ⅲ	袴田 光康	後学期	金5・6	人B403	若干名	B	9,500円
66	人文社会科学部	英語史	大村 光弘	後学期	金5・6	人B303	若干名	B	9,500円
67	人文社会科学部	統計学Ⅱ	上藤 一郎	後学期	金5・6	共L306	若干名	B	9,500円
68	人文社会科学部	企業経済特論Ⅰ	永田 守男	後学期	金5・6	人E201	3	C	9,500円
69	人文社会科学部	福祉社会学	山本 崇記	後学期	金7・8	人B303	若干名	B	9,500円
70	人文社会科学部	比較文学各論Ⅴ	南 富鎮	後学期	金7・8	人B301	若干名	B	9,500円
71	人文社会科学部	社会経済論Ⅱ	遠山 弘徳	後学期	金7・8	人E201	若干名	B	9,500円
72	人文社会科学部	比較文学文化基礎講読Ⅳ	南 富鎮	後学期	金9・10	人B301	若干名	B	9,500円
73	教育学部	応用数学基礎	畑 宏明	後学期	月9・10	教B218	若干名	B	9,500円
74	教育学部	集合と論理	山田 耕三	後学期	火3・4	教G001	若干名	A	9,500円
75	教育学部	微分積分学	大和田 智義	後学期	火7・8	教B110	若干名	A	9,500円
76	教育学部	代数学Ⅱ	谷本 龍二	後学期	火7・8	教B216	若干名	B	9,500円
77	教育学部	解析学Ⅱ	大和田 智義	後学期	水5・6	教G201	若干名	B	9,500円
78	理学部	数学基礎論	鈴木 信行	後学期	月1・2	理B204	若干名	C	9,500円
79	理学部	幾何学Ⅰ	久村 裕憲	後学期	月3・4	理B204	若干名	C	9,500円
80	理学部	植物生化学	天野 豊己	後学期	月3・4	理B212	若干名	C	9,500円
81	理学部	生物環境科学概論Ⅱ	宗林 留美	後学期	月3・4	理B201	若干名	B	9,500円
82	理学部	有機化学Ⅳ	小林 健二	後学期	月3・4	理B213	若干名	B	9,500円
83	理学部	分子生物学	山内 清志	後学期	月5・6	理B212	若干名	A	9,500円
84	理学部	有機化学Ⅱ	坂本 健吉	後学期	月5・6	理B213	若干名	A	9,500円
85	理学部	力学Ⅰ	森田 健	後学期(前半)	月5・6 金3・4	理B203	若干名	A	9,500円
86	理学部	力学Ⅱ	森田 健	後学期(後半)	月5・6 金3・4	理B203	若干名	A	9,500円
87	理学部	線型代数学Ⅱ	久村 裕憲	後学期	月7・8	理B204	若干名	B	9,500円
88	理学部	放射化学Ⅰ	大矢 恭久	後学期	月7・8	理B213	若干名	B	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
89	理学部	基礎熱化学	河合 信之輔	後学期	火1・2	理B202	若干名	A	9,500円
90	理学部	応用数学	松本 敏隆	後学期	火1・2	理B204	若干名	C	9,500円
91	理学部	解析力学	松本 正茂	後学期	火1・2	理B203	若干名	B	9,500円
92	理学部	海洋学	宗林 留美	後学期(前半)	火1・2	理B201	若干名	C	6,800円
93	理学部	無機機器分析	加藤 知香	後学期	火1・2	理B213	若干名	B	9,500円
94	理学部	応用生化学	瓜谷 眞裕	後学期	火3・4	理B212	若干名	C	9,500円
95	理学部	古動物学	鈴木 雄太郎	後学期(前半)	火3・4	共C611	若干名	C	6,800円
96	理学部	固体物理学	海老原 孝雄	後学期	火3・4	理B203	若干名	C	9,500円
97	理学部	代数学Ⅰ	浅芝 秀人	後学期	火3・4	理B204	若干名	C	9,500円
98	理学部	位相数学Ⅰ	保坂 哲也	後学期	火5・6	理B213	若干名	C	9,500円
99	理学部	植物発生学	木寄 暁子	後学期	火5・6	理B202	若干名	B	9,500円
100	理学部	生化学	天野 豊己	後学期	火5・6	理B212	若干名	A	9,500円
101	理学部	地球科学入門Ⅲ	生田 領野	後学期	火5・6	理B201	若干名	A	9,500円
102	理学部	微分積分学Ⅱ	板津 誠一	後学期	火5・6	理B204	若干名	B	9,500円
103	理学部	代数学入門	毛利 出	後学期	火7・8	理B204	若干名	B	9,500円
104	理学部	放射線生物学概論	山内 清志	後学期	火9・10	理B202	若干名	B	9,500円
105	理学部	位相数学入門	依岡 輝幸	後学期	水1・2	理B204	若干名	B	9,500円
106	理学部	代謝生化学	山本 歩	後学期	水1・2	理B201	若干名	B	9,500円
107	理学部	有機化学Ⅵ	山中 正道	後学期	水1・2	理B213	若干名	C	9,500円
108	理学部	量子力学Ⅱ	土屋 麻人	後学期	水1・2	理B203	若干名	C	9,500円
109	理学部	構造化学	岡林 利明	後学期	水3・4	理B211	若干名	C	9,500円
110	理学部	生物物理学	山崎 昌一	後学期(前半)	水3・4	理B213	若干名	C	6,800円
111	理学部	地球ダイナミクス概論Ⅱ	道林 克禎	後学期	水3・4	理B201	若干名	B	9,500円
112	理学部	地球生命史	加藤 憲二	後学期(前半)	水3・4	共C611	若干名	C	6,800円
113	理学部	相対性理論	嘉規 香織	後学期(後半)	水3・4	理B211	若干名	C	6,800円
114	理学部	熱力学	鈴木 淳史	後学期	水3・4	理B203	若干名	B	9,500円
115	理学部	微分積分学Ⅳ	松本 敏隆	後学期	水3・4	理B204	若干名	B	9,500円
116	理学部	量子化学Ⅰ	松本 剛昭	後学期	水3・4	理B202	若干名	B	9,500円
117	理学部	確率論	板津 誠一	後学期	水5・6	理B204	若干名	C	9,500円
118	理学部	放射化学概論	矢永 誠人	後学期	水5・6	理B202	若干名	B	9,500円
119	理学部	離散数学Ⅱ	保坂 哲也	後学期	水7・8	理B213	若干名	C	9,500円
120	理学部	生物学Ⅱ	藤原 健智	後学期	木1・2	理B212	若干名	A	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
121	理学部	無機化学Ⅰ	近藤 満	後学期	木1・2	理B213	若干名	B	9,500円
122	理学部	解析学Ⅰ	田中 直樹	後学期	木3・4	理B204	若干名	C	9,500円
123	理学部	神経科学	竹内 浩昭	後学期	木3・4	理B212	若干名	C	9,500円
124	理学部	統計力学Ⅱ	松山 晶彦	後学期	木3・4	理B203	若干名	C	9,500円
125	理学部	反応錯体化学	菅野 秀明	後学期	木3・4	理B213	若干名	C	9,500円
126	理学部	化学反応論	関根 理香	後学期	金1・2	理B213	若干名	C	9,500円
127	理学部	電磁気学Ⅱ	松本 正茂	後学期	金1・2	理B203	若干名	B	9,500円
128	理学部	微生物学	藤原 健智	後学期	金1・2	理B212	若干名	C	9,500円
129	理学部	複素解析学Ⅰ	奥村 善英	後学期	金1・2	理C309	若干名	C	9,500円
130	理学部	有機機器分析	塚田 直史	後学期	金5・6	理B213	若干名	B	9,500円
131	理学部	地球科学入門Ⅳ	木村 浩之	後学期	金7・8	理B201	若干名	A	9,500円
132	農学部	持続可能型農業科学	南雲 俊之	後学期	月1・2	農B201	若干名	C	9,500円
133	農学部	植物生理学	原 正和	後学期	月1・2	農B208	若干名	B	9,500円
134	農学部	森林利用システム学	近藤 恵市	後学期	月3・4	農B205	若干名	B	9,500円
135	農学部	食品機能化学	森田 達也	後学期	月3・4	農B210	若干名	C	9,500円
136	農学部	生体機能学	茶山 和敏	後学期	月3・4	農B207	若干名	B	9,500円
137	農学部	応用生態学	澤田 均	後学期	月3・4	農B201	若干名	C	9,500円
138	農学部	農業簿記入門	柴垣 裕司	後学期	月5・6	農B210	若干名	A	9,500円
139	農学部	ゲノム科学	堀池 徳祐	後学期	月7・8	農B201	若干名	C	9,500円
140	農学部	生化学	鳥山 優	後学期	火1・2	農B208	若干名	C	9,500円
141	農学部	森林環境水文学	土屋 智	後学期	火1・2	農B210	若干名	B	9,500円
142	農学部	微生物代謝工学	徳山 真治	後学期	火1・2	農B201	若干名	C	9,500円
143	農学部	土壌圏科学	南雲 俊之	後学期	火3・4	農B208	若干名	B	9,500円
144	農学部	食品製造化学	日野 真吾	後学期	火3・4	農B210	若干名	A	9,500円
145	農学部	生命環境倫理学	竹之内 裕文	後学期	水1・2	農B201	若干名	B	9,500円
146	農学部	有機化学概論	河岸 洋和	後学期	水1・2	農B210	若干名	A	9,500円
147	農学部	園芸食品利用学	山脇 和樹	後学期	水1・2	共A302	若干名	A-B	9,500円
148	農学部	住環境構造学	安村 基	後学期	水3・4	農B211	若干名	C	9,500円
149	農学部	植物微生物学	瀧川 雄一	後学期	水3・4	農B201	若干名	B	9,500円
150	農学部	植物機能科学	原 正和	後学期	水3・4	農B210	若干名	B	9,500円
151	農学部	環境社会学	富田 涼都	後学期	水5・6	農B208	若干名	B	9,500円
152	農学部	森林生態学	檜本 正明	後学期	水5・6	農B205	若干名	B-C	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
153	農学部	動物生理学	与語 圭一郎	後学期	水5・6	農B201	若干名	C	9,500円
154	農学部	高分子材料学	山田 雅章	後学期	水7・8	農B203	若干名	A	9,500円
155	農学部	野菜園芸学	糠谷 明	後学期	木1・2	農B203	若干名	C	9,500円
156	農学部	分子機能化学	平井 浩文	後学期	木1・2	農B210	若干名	B	9,500円
157	農学部	分子細胞生物学	与語 圭一郎	後学期	木3・4	農B201	若干名	B	9,500円
158	農学部	酵素科学	村田 健臣	後学期	金1・2	農B205	若干名	B	9,500円
159	農学部	分子生物学	加藤 竜也	後学期	金1・2	農B210	若干名	B	9,500円
160	農学部	環境毒性学	釜谷 保志	後学期	金1・2	農B208	若干名	C	9,500円
161	農学部	溪流環境学	土屋 智	後学期	金1・2	農B204	若干名	B	9,500円
162	農学部	樹木成分化学	河合 真吾	後学期	金3・4	農B205	若干名	B	9,500円
163	農学部	生物有機化学2	轟 泰司	後学期	金3・4	農B210	若干名	C	9,500円
164	農学部	植物生理学	大野 始	後学期	金3・4	農B201	若干名	B	9,500円
165	農学部	応用測量学	逢坂 興宏	後学期	金5・6	農B317	若干名	C	9,500円
166	農学部	応用昆虫学	西東 力	後学期	金5・6	農B208	若干名	B	9,500円

A 入門的な内容であり、高校卒業程度の学力を必要とするもの(大学1年次対象の授業)

B より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となるもの(大学2～3年次対象の授業)

C 高度な内容であり、当該専門分野について系統立てた学習がなされていることを前提とするもの(大学3～4年次対象の授業)

平成27年度 静岡大学市民開放授業科目一覧

〔浜松キャンパス〕

〈後学期〉

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
167	全学	基礎無機化学	平川 和貴	後学期	月1・2	工5-11	若干名	A	9,500円
168	全学	基礎無機化学	平川 和貴	後学期	月3・4	工5-11	若干名	A	9,500円
169	全学	生物学Ⅱ	吉田 信行	後学期	月3・4	工5-24	若干名	B	9,500円
170	全学	ことばと表現	田村 敏広	後学期	火3・4	工5-21	若干名	A	9,500円
171	全学	日本国憲法	岡田 安功	後学期	火3・4	総24	若干名	A-B	9,500円
172	全学	現代の社会	笹原 恵	後学期	火3・4	情21	若干名	A	9,500円
173	全学	心理学	漁田 武雄	後学期	火3・4	工3-31	若干名	A	9,500円
174	全学	心理学	須藤 智	後学期	火3・4	工6-22	若干名	B	9,500円
175	全学	歴史と文化	杉山 茂	後学期	水3・4	工3-31	若干名	A	9,500円
176	全学	現代の社会	中澤 高師	後学期	水3・4	情21	若干名	A	9,500円
177	全学	心理学	高橋 晃	後学期	水3・4	情11	若干名	A	9,500円
178	全学	工学基礎化学Ⅱ	梅本 宏信	後学期	木1・2	工3-31	若干名	A	9,500円
179	全学	工学基礎化学Ⅱ	梅本 宏信	後学期	木3・4	工3-31	若干名	A	9,500円
180	全学	静岡県の防災・減災と原子力	大矢 恭久	後学期	金3・4	総31	若干名	B	9,500円
181	全学	新・佐鳴湖から考える	戸田 三津夫	後学期	金3・4	総32	若干名	A	9,500円
182	全学	ロックとアートからみるメンタルヘルス	太田 裕一	後学期	金3・4	工5-11	若干名	A	9,500円
183	全学	音楽・音響と人間	松田 智	後学期	金3・4	総33	若干名	B	9,500円
184	全学	化学物質と人間	田中 康隆	後学期	金3・4	工5-21	若干名	A	9,500円
185	全学	わが街・浜松の市政	中澤 高師	後学期	金5・6	情21	若干名	A	9,500円
186	全学	ヒューマン・エコロジー	戸田 三津夫	後学期	金5・6	工6-22	若干名	A	9,500円
187	全学	ロボットと人間	末長 修	後学期	金5・6	工5-31	若干名	B	9,500円
188	全学	科学技術と倫理を考える	清水 一男	後学期	金5・6	総21	若干名	B	9,500円
189	全学	身近なナノテク	下村 勝	後学期	金5・6	総22	若干名	A	9,500円
190	工学部	環境化学工学	松田 智	後学期	月1・2	工3-31	若干名	B	9,500円
191	工学部	食品工学	金原 和秀	後学期	月3・4	工1-32	若干名	C	9,500円
192	工学部	基礎有機高分子材料	久保野 敦史	後学期	水5・6	工3-31	若干名	B	9,500円
193	工学部	オペレーションズ・リサーチ	守田 智	後学期	水5・6	工5-21	若干名	B	9,500円
194	情報学部	博物館情報・メディア論	高松 良幸	後学期	月1・2	情25	若干名	A	9,500円

No.	学部等	授業科目名	(代表)担当教員名	学期	曜日・ 時限	教室名	受入可 能人数	難易度	講習料
195	情報学部	現代コミュニケーション論	近藤 真	後学期	月7・8	情21	若干名	A	9,500円
196	情報学部	美術史	高松 良幸	後学期	火1・2	情23	若干名	B	9,500円
197	情報学部	社会調査論	中 正樹	後学期	水1・2	情21	若干名	A	9,500円
198	情報学部	認知心理学	漁田 武雄	後学期	水5・6	情13	若干名	A	9,500円

A 入門的な内容であり、高校卒業程度の学力を必要とするもの(大学1年次対象の授業)

B より進んだ内容であり、当該専門分野についての一定の基礎知識が必要となるもの(大学2～3年次対象の授業)

C 高度な内容であり、当該専門分野について系統立てた学習がなされていることを前提とするもの(大学3～4年次対象の授業)

授業科目名	初修外国語（フランス語）入門Ⅱ (Basic French Ⅱ)					
担当教員名	浅野 幸生 (ASANO Yukio)			所属等	学術院人文社会科学領域	
				研究室	人文 A 棟 4 0 8	
分担教員名						
クラス	学部共通 1	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	1 年	単位数	1	曜日・時限	月 3・4	
キーワード	着実・積極性の重視・繰り返し					
授業の目標	文法・音声の基本を固めると同時に、同時にフランス文化の諸相についても理解を深めるようにする。					
学習内容	前期の学習を受け、基本重視ではあるがより発展的な学習に進み、フランス語のバランスのとれた能力の獲得を目指す。					
授業計画	前期に基本をある程度学んだことを前提として、より発展的な学習に入る。主な内容は以下の通りであるが、それまでの進捗や受講生の事情により多少変わる可能性がある。 1) 比較・疑問代名詞 2) 所有形容詞・目的語代名詞・強勢形 3) 半過去と複合過去の用法・単純未来 4) 関係代名詞・強調構文 5) 受動態・非人称構文・on の用法 6) 中性代名詞(en, y, le) 7) 接続法・条件法					
受講要件	試験と平常点による。出席重視。理由のない遅刻は厳禁。					
テキスト	前期と同じテキストを継続して使う。					
参考書						
予習・復習について						
成績評価の方法・基準	やる気と学習に対する誠実さを高く評価します。					
オフィスアワー	月 1 4 : 2 0 ~ 1 5 : 3 0					
担当教員からのメッセージ						

授業科目名	初修外国語（現代韓国語）入門Ⅱ （Basic Modern Korean Ⅱ）					
担当教員名	南 富鎮 (NAM bujin)			所属等	学術院人文社会科学領域	
				研究室	人文 A 棟 5 2 7	
分担教員名						
クラス	学部共通 1	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	1 年	単位数	1	曜日・時限	月 3・4	
キーワード	韓国語、韓国文化、日韓比較、異文化理解、相互理解、国際化					
授業の目標	・韓国語の基礎を勉強して韓国文化への理解を目指します。 ・韓国語は日本語に類似しているので日本語・日本文化への理解も深めます。 ・国際化の大きな時代潮流のなか、相互理解の精神を学びます。					
学習内容	・韓国語に関する基礎知識を勉強します。 ・言語を通して韓国文化への理解を高めていきます。 ・日本語との比較を通して日本語・日本文化への理解も深めていきます。					
授業計画	回 内容 1 復習 2 発音規則 3 指示代名詞 4 形式名詞 5 目的助詞 6 叙述表現 7 場所の助詞 8 否定文 9 曜日を覚える 10 敬語表現 11 過去表現 12 過去の敬語表現 13 未来表現 14 数詞 15 総復習					
受講要件	教育学部 1 年・理学 1 年、農学部 1 年（選択）					
テキスト	李昌圭『韓国語を学ぼう一初級』朝日出版社、2006 年					
参考書	とくにありません。					
予習・復習について	教員がその都度指示しますが、基本的にはご自分で決めてください。					
成績評価の方法・基準	出席 40%、試験 60%。最初の授業時にもう一度お知らせします。					
オフィスアワー	最初の授業時にお知らせします。					
担当教員からのメッセージ	難易度 C。 韓国語は日本語にもっとも近い外国語の一つです。その類似性には皆様も驚くでしょう。そのため、日本人学習者にはわりと親しみやすく、簡単に習得できる言語です。ぜひ気楽に挑戦してみてください。難易度は非常に低いです。					

授業科目名	初修外国語（ドイツ語）Ⅰ (German Ⅰ)					
担当教員名	大 菌 正彦 (OZONO Masahiko)	所属等	学術院人文社会科学領域			
		研究室	人文 A 棟 4 2 3			
分担教員名						
クラス	人 2	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6	
キーワード	ドイツ語、ドイツ文化、言語運用能力、多文化理解、文法					
授業の目標	読む・書く・聞く・話すという 4 技能のバランスに配慮して、ドイツ語の基礎的運用能力を身につけることが目的です。また、英語以外の外国語を学ぶことで、文化の多元的理解を目指します。					
学習内容	前期の続きです。教科書の内容に沿って学習していきます。2 回の授業で 1 課ずつ進めます。各課は、大きく「文法説明」「練習」「補足」の 3 つの部分から成りますが、授業では、個々の項目ごとに練習、小テストなどを織り交ぜながら進めていきます。また、折に触れ、さまざまなドイツ事情についても紹介します。					
授業計画	1. 授業のオリエンテーション、前期の復習 2. 第 7 課 分離動詞 (1) 3. 第 7 課 分離動詞 (2) 4. 第 8 課 話法の助動詞 (1) 5. 第 8 課 話法の助動詞 (2) 6. 第 9 課 過去形・現在完了形 (1) 7. 第 9 課 過去形・現在完了形 (2) 8. 第 10 課 受動態 (1) 9. 第 10 課 受動態 (2) 10. 第 11 課 関係文 (1) 11. 第 11 課 関係文 (2) 12. 第 12 課 接続法 (1) 13. 第 12 課 接続法 (2) 14. 文法補足 15. まとめと復習 16. 期末試験					
受講要件	クラス指定に従って履修してください。					
テキスト	大菌正彦『異文化理解のための初級ドイツ語文法』朝日出版社（2,400 円＋税）					
参考書	独和辞典は必携です。					
予習・復習について	授業 1 回あたり，1 時間・1 時間半の授業外学習が前提です。					
成績評価の方法・基準	期末試験の成績（50％）と平常点（50％）をもとに評価します。平常点は，原則として毎回行う小テストの結果に授業への参加状況を加味して評価します。正当な理由なく 5 回以上欠席した場合は成績評価の対象外となります。					
オフィスアワー	金曜日昼休み					
担当教員からのメッセージ						

授業科目名	初修外国語（フランス語）Ⅰ (French Ⅰ)					
担当教員名	安永 愛 (YASUNAGAAi)		所属等	学術院人文社会科学領域		
			研究室	人文 A 棟 5 2 5		
分担教員名						
クラス	人 2	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6	
キーワード	フランス語の基礎、フランス語圏の文化、フランス語会話					
授業の目標	前期の「初修外国語（フランス語）入門Ⅰ,Ⅱ」の授業に引き続き、フランス語の基礎力を身につけるとともに、フランス語圏の文化に触れていきます。					
学習内容	教科書『Elle est gourmande!』に沿い、「読む」「聴く」「書く」「話す」を繰り返しながら、フランス語の基礎を身につけていきます。折々、フランス語圏の話題に触れます。					
授業計画	回 内容 1 教科書第 6 課までの復習 2 教科書第 7 課前半 3 教科書第 7 課後半 4 教科書第 8 課前半 5 教科書第 8 課後半 6 教科書第 9 課前半 7 教科書第 9 課後半 8 復習と中間テスト 9 教科書第 10 課前半 10 教科書第 10 課後半 11 教科書第 11 課前半 12 教科書第 11 課後半 13 教科書第 12 課前半 14 教科書第 12 課後半 15 復習と問題演習					
受講要件						
テキスト	朝日出版社『Elle est gourmande!（新・彼女は食いしん坊！） 1』					
参考書	仏和辞典					
予習・復習について	毎回宿題を課します。語学は反復練習が重要です。発音や聞き取りの能力を高めるため、教科書付属の CD を活用しましょう。					
成績評価の方法・基準	期末の筆記試験（聞き取り含む）の素点を基準とします。単位認定基準の 60 点に達しない場合のみ、出席点（1 回 1 点）を加点します。また、中間テストの結果を考慮する場合があります。					
オフィスアワー	初回の授業でお伝えします。					
担当教員からのメッセージ	フランス語の音とリズムを楽しんでください。せっかくフランス語を学ぶのですから、フランス語圏に目を向けてみましょう。 静岡大学には、フランスのロレーヌ大学、リヨン第 3 大学への留学制度があります。意欲ある学生に道は開かれています。					

授業科目名	私たちの生活と植物 (Living with plants)					
担当教員名	木寄 暁子 (KOZAKI Akiko)	所属等	学術院理学領域			
		研究室	総合研究棟 701			
分担教員名						
クラス	学部共通 1	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6	
キーワード	バイオテクノロジー、遺伝子、遺伝子組み換え植物、農業					
授業の目標	植物は私達にとってなくてはならない存在である。この授業では、私達が植物とどう関わってきたのか、またどう関わっていかようとしているのかを考えるとともに、植物を通して環境、バイオテクノロジー、農業などについて考える。					
学習内容	特に遺伝子組み換えやクローン技術などのバイオテクノロジー分野で、人々の関心が高いが、必ずしも正しく理解されていないことに関して、その本質を理解するための基礎を学ぶ。また背景として、私達がどのように植物に関わってきたかを学ぶことで、植物を含む自然環境、そして新しい科学技術と、今後どのように関わっていくべきかを新たな視点で考える力をつける。					
授業計画	1. 植物と人との関わり 2. 生命の歴史と植物 3. 植物の体と細胞 4. 5. 植物の体をつくる物質 6. 7. 遺伝子とは。 8. 9. 遺伝子の働き 10. 11. 遺伝子と農業（栽培植物、品種改良） 12. 13. 遺伝子組み換え技術 14. 15. 遺伝子組み換え植物の可能性と問題点					
受講要件	理学部生物科学科の学生は履修しないように。					
テキスト	特にしていしない					
参考書						
予習・復習について						
成績評価の方法・基準	試験および出席により評価					
オフィスアワー						
担当教員からのメッセージ						

授業科目名	地域社会と災害 (Regional Society and Natural Disaster)				
担当教員名	牛山 素行 (USHIYAMA Motoyuki)	所属等	防災総合センター		
		研究室	防災総合センター		
分担教員名	原田 賢治、石橋 秀巳、矢守 克也、横幕 早季、山岡 泰治				
クラス	学部共通 1	学期	後期		必修選択区分 選必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6
キーワード	豪雨災害、地震災害、火山災害、津波災害、防災行政、防災対策				
授業の目標	静岡県では災害というと地震災害に目が向きがちかもしれないが、豪雨災害をはじめとして、災害には様々な姿がある。本講義では、災害を考えるための基礎的な考え方や、災害をもたらす現象のメカニズム、災害による被害を軽減するための技術や制度について理解し、社会の一員として、当事者意識を持って災害に備える事ができる人材の育成を目指す。				
学習内容	(1)自然災害の基本的な性質を理解し、長期的かつ広い視野から災害を見ることができるようにする。(2)自然災害をもたらす様々な自然現象(ハザード)の基本的なメカニズムと、災害との関係について理解することができる。(3)地域における自然災害による被害を軽減するための技術、社会的な制度の現状と課題について理解することができる。				
授業計画	自然災害科学概論 1 牛山素行 静大 地震災害 原田賢治 静大 自然災害科学概論 2 牛山素行 静大 火山災害 石橋秀巳 静大 津波・高潮災害 原田賢治 静大 豪雨災害 牛山素行 静大 洪水・土砂災害 牛山素行 静大 緊急被ばく医療 山岡泰治 浜松医大 地域社会と災害 矢守克也 京都大 災害情報 牛山素行 静大 警報と避難 牛山素行 静大 行政と災害対応 牛山素行 静大 防災行政実務 杉村晃一 静岡市 ハザードマップ 牛山素行 静大 災害と身近な暮らし 横幕早季 静大 ※都合により、講義順序が入れ替えとなる場合がある。				
受講要件	特になし				
テキスト	特に指定しない。講義中に適宜資料を配付する。				
参考書	特に指定しない。講義中に文献を紹介する場合がある。				
予習・復習について					
成績評価の方法・基準	・講義時間中に小課題を出題し、その内容を採点する。最後に、出題したすべての小課題の採点結果を集計し、成績を評価する。小課題の出題回数は未定だが少なくとも8回以上は出題する。出題日は予告しない。出題形式はレポート形式の場合と、クイズ形式の場合があり、いずれも講義時間中に記入、提出する。 ・小課題の提出回数が、出題回数の2／3以上の者を成績評価の対象とする。たとえば、8回出題の場合5回以上の提出が必要となる。成績評価対象者が自動的に「可」以上の成績となる訳ではない。 ・欠席、遅刻などによる小課題の事後提出は認めない。 ・欠席時の講義内容については、欠席者自身で情報収集すること。 ・講義期間終了後に、レポート出題などによって不合格者に対するいわゆる「救済措置」をとることはない。				
オフィスアワー					
担当教員からのメッセージ	・学際科目「地震防災」の内容を拡大させた講義です。「地震防災」と本講義は、両方、あるいはどちらか一方のみを受講しても構いません。 ・成績評価方法にも書いてあるように、本講義では小課題の提出回数不足の場合、講義期間終了後にレポート出題などによって救済をすることはありません。単位を絶対に落とすと困るが、欠席回数が増えるかもしれないと思う人は受講しないことを勧めます。				

授業科目名	ヒューマン・エコロジー (Human Ecology)				
担当教員名	野上 啓一郎 (NOGAMI Keiichiro)		所属等	学術院農学領域	
			研究室	農学総合棟 523	
分担教員名	雨谷 敬史、戸田 三津夫、安村 基、山脇 和樹、檜本 正明、恒川 隆生、藤本 征司				
クラス	学部共通 1	学期	後期		必修選択区分 選必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6
キーワード	安全・快適・便利、水環境、食料を生活、生態学、風景、環境リスク、行政法と環境、エネルギー政策、人口問題、ライフサイクルアセスメント				
授業の目標	人間と環境の関係を「俯瞰的に見る目」を養うことを目標とする。				
学習内容	リスクで見る原則、持続可能性で見る原則、人間社会を理解する原則、感性で見る原則、エネルギーを見る原則を主な内容とする。				
授業計画	1. 野上啓一郎（静岡大学農学部）：はじめに 2. 戸田三津夫（静岡大学工学部）：都市と田舎・・・安全・快適・便利を求めて・・・ 3. 戸田三津夫（静岡大学工学部）：水環境の保全と修復 4. 安村 基（静岡大学農学部）：安全・快適そして人と環境にやさしい住宅の供給 5. 山脇和樹（静岡大学農学部）：食料と生活エネルギーの循環 6. 藤本征司（非常勤講師）：生態学から見た人間環境の構造と風景造り 7. 藤本征司（非常勤講師）：生態学から見た風景モザイクの動態と造景 8. 檜本正明（静岡大学農学部）：乾燥地生態系概論 9. 恒川隆生（静岡大学法科大学院）：環境保全・・・ヒューマンエコロジーと行政法・・・ 10. 雨谷敬司（静岡県立大学）：室内環境に快適さや安全性を求めて 11. 雨谷敬司（静岡県立大学）：環境リスク評価と管理 12. 野上啓一郎（静岡大学農学部）：エネルギーシフト 13. 野上啓一郎（静岡大学農学部）：地球温暖化説 14. 野上啓一郎（静岡大学農学部）：異議あり？生命環境倫理学（問い） 15. 野上啓一郎（静岡大学農学部）：エネルギー問題総論				
受講要件	なし				
テキスト	ヒューマンエコロジーとつくる・・・人と環境の未来を考える・・・共立出版 野上啓一郎編				
参考書	授業中に、各教員が適宜紹介する。				
予習・復習について	なし				
成績評価の方法・基準	レポートによる。				
オフィスアワー	afknoga@icloud.com まで連絡すること。				
担当教員からのメッセージ	授業計画の順番や授業内容は変更することがある。				

授業科目名	エネルギーと環境 (Energy and Environments)					
担当教員名	大矢 恭久 (OYA Yasuhisa)	所属等	学術院理学領域			
		研究室	理学部 A202			
分担教員名	近田 拓未、矢永 誠人					
クラス	学部共通 1	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6	
キーワード	エネルギー、環境、放射線、原子力、放射線影響、地球温暖化					
授業の目標	エネルギー問題および環境問題の現状について理解すると共に、放射線や核エネルギーと人間との関わりについて科学的な教養を深める。					
学習内容	エネルギーと環境問題についてサイエンスの観点から理解するとともに、その解決法の一つである核エネルギー発電の原理および仕組み、核エネルギー発電の問題点を学ぶ。また、放射線の応用的利用についても言及する。					
授業計画	1. ガイダンスおよびエネルギー・環境問題(1) (大矢・近田) 2. エネルギー・環境問題(2) (近田) 3. 化石燃料とエネルギーセキュリティ (近田) 4. 核エネルギーの歴史 (大矢) 5. 原子力発電の仕組みと課題 (1) 原子炉 (中電：岡田) 6. 原子力発電の仕組みと課題 (2) 原子炉 (中電：岡田) 7. 原子力発電の仕組みと課題 (3) 放射性廃棄物 (中電：岡田) 8. 核融合炉発電の仕組みと開発の現状 (大矢) 9. 地球温暖化の科学 (大矢) 10. 温室効果ガス削減の取り組み (大矢) 11. 原子力エネルギー行政 (静岡県：神村) 12. 省エネルギー (大矢) 13. 放射線の測定 (矢永) 14. 放射線の生物影響 (矢永) 15. エネルギーと環境および社会との関わり (矢永)					
受講要件	特になし					
テキスト	講義中に資料を配付する。					
参考書	エネルギーと地球環境 (エネルギーフォーラム)、原子力がひらく世紀 (日本原子力学会編)					
予習・復習について	テキスト、講義資料や関連図書による予習および復習を必ず行うこと。					
成績評価の方法・基準	講義中の小レポートおよび各教員が課すレポートにより評価する。					
オフィスアワー	8:00-20:00					
担当教員からのメッセージ	文理学生合同での講義のため、極力数式を用いない講義とする。エネルギー・環境問題に関する教養を深めることを主たる目標とする。					

授業科目名	人間環境と分子科学 (Molecular Science in the Human Environment)					
担当教員名	山本 歩 (YAMAMOTO Ayumu)	所属等	学術院理学領域			
		研究室	理学部 A 棟 311			
分担教員名	大吉 崇文					
クラス	学部共通 1	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6	
キーワード	分子、化学、環境汚染、生体分子、医薬					
授業の目標	人間をとりまく環境や分子科学については国民の関心も高く、毎日のように多くの報道が行われています。この講義ではこれらについて、誤った報道に惑わされることのない、正しく広い科学的教養を身につけることをめざします。					
学習内容	食品の安全など身近な問題から地球全体の将来に関わる問題まで、今日の環境問題を理解するためには化学物質やその反応について幅広い正確な知識が必要です。報道などでは語られない、これらの問題を理解するために必要な分子科学的な知識を分かりやすく概説します。					
授業計画	環境や分子科学に関する問題を毎回 1 テーマずつ、臨機応変に取り上げます。これまでに取り上げたテーマは以下の通りです。 1. 大気の基礎 2. 大気中の有害物質：天然に存在する有害物質 3. 大気中の有害物質：人間活動によって生み出される有害物質 4. オゾン層破壊 5. 紫外線と人体 6. 老化と寿命 7. 老化しない細胞：ガン細胞、ES 細胞、iPS 細胞 8. エネルギー代謝と老化 9. 新薬開発 10. 環境ホルモン 11. 麻薬 12. DNA 研究と医学の関わり 13. DNA 研究と倫理問題 14. 環境と遺伝の関係 15. 生体材料とナノテクノロジー					
受講要件	特になし。					
テキスト	特に指定しません。					
参考書	テーマごとに必要であれば随時紹介します。					
予習・復習について	特に必要ありません。					
成績評価の方法・基準	レポートあるいは小試験によって評価します。					
オフィスアワー	特に用事のない限りいつでも対応します。					
担当教員からのメッセージ						

授業科目名	N P O ・ ボランティア論 (Introduction to Nonprofit Organizations and Voluntary Groups)					
担当教員名	日詰 一幸 (HIZUME Kazuyuki)		所属等	学術院人文社会科学領域		
			研究室	人文 A 棟 6 2 1		
分担教員名	今井 奈保子、久保田 翠					
クラス	学部共通 1	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6	
キーワード	ボランティア、ボランティア団体、市民活動、非営利組織、社会的企業、協働、市民社会					
授業の目標	ボランティア団体や NPO 活動について、その概要を理解する。					
学習内容	NPO 法人やボランティア活動に関する理論を学ぶとともに、実際に静岡県内で活動している NPO 法人の関係者から活動の実態を学ぶ。					
授業計画	回 内容 1 ガイダンス 2 ボランティア活動の世界 (1) 3 ボランティア活動の世界 (2) 4 ボランティア活動の世界 (3) 5 福祉とアートの融合による NPO (1) 6 福祉とアートの融合による NPO (2) 7 福祉とアートの融合による NPO (3) 8 NPO の基礎知識 (1) 9 NPO の基礎知識 (2) 10 NPO の基礎知識 (3) 11 NPO の基礎知識 (4) 12 NPO の基礎知識 (5) 13 環境分野で活動する NPO 14 福祉分野で活動する NPO 15 男女共同参画で活動する NPO					
受講要件	特にない。					
テキスト	社会福祉法人大阪ボランティア協会編『テキスト 市民活動論』					
参考書	講義の中でその都度紹介する。					
予習・復習について	特にない。					
成績評価の方法・基準	レポートと期末試験の成績を総合的に評価する。					
オフィスアワー	水曜日 13:00～14:00					
担当教員からのメッセージ	講義中の私語、携帯電話の使用（特にスマートフォン）、他の授業の準備等を厳しく禁じます。これに違反する場合は、退出を求めます。					

授業科目名	化学Ⅱ（物理化学B） (Chemistry II(Physical Chemistry B))					
担当教員名	松本 剛昭 (MATSUMOTO Yoshiteru)		所属等	学術院理学領域		
			研究室	総 512		
分担教員名						
クラス	理MP	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2	
キーワード	熱化学、化学平衡、酸と塩基、電気化学、化学反応速度					
授業の目標	化学変化を理解するための基本的な知識とそれらの応用について学ぶ。					
学習内容	物質の状態変化や化学変化に伴う熱エネルギーの役割と、化学反応の平衡や方向を理解するための熱化学の基本法則を学ぶ。また、酸と塩基、電気化学、化学変化の速度と反応機構についても学習する。なお、この講義で使用するテキストの1章から8章については、前期に開講される化学Ⅰ（物理化学A）で学習する。					
授業計画	テキストの章に従い、次の項目を講義する。 回 内容 1 9 章 状態変化に伴うエネルギー-熱化学： 熱力学の第一法則、転移のエンタルピー 2 9 章 状態変化に伴うエネルギー-熱化学： エンタルピーのはたらき 3 9 章 状態変化に伴うエネルギー-熱化学： エンタルピーのはたらき 4 10 章 化学反応の平衡： 平衡の記述 5 10 章 化学反応の平衡： 諸条件の影響 6 10 章 化学反応の平衡： 相の間の平衡 7 11 章 自然に起こる変化の方向-熱力学の第二法則： エントロピーと熱力学の第二法則 8 11 章 自然に起こる変化の方向-熱力学の第二法則： ギブズ関数 9 12 章 イオンを含む平衡： 溶解度と溶解度積、酸と塩基 10 12 章 イオンを含む平衡： pH の応用 11 12 章 イオンを含む平衡： 緩衝作用、ルイスの酸および塩基 12 13 章 化学エネルギーと電気エネルギー-電気化学： 化学電池、起電力と平衡 13 13 章 化学エネルギーと電気エネルギー-電気化学： 電極電位の使い方、起電力の熱力学 14 14 章 化学変化の速さ： 反応の速度、速度式 15 14 章 化学変化の速さ： 速度と諸条件、触媒作用					
受講要件	前期に開講される化学Ⅰ（物理化学A）を履修していること。					
テキスト	物理化学の基礎、Atkins・Clugstone 著／千原・稲葉訳、東京化学同人、1984 年、978-4807902262					
参考書	講義中に参考図書リストのプリントを配付する。					
予習・復習について	授業毎に予習・復習をすること。また、各章毎に練習問題を与えるので、レポートとして提出すること。					
成績評価の方法・基準	レポートの内容（20％）と期末試験の得点（80％）で評価する。					
オフィスアワー	特に指定しない。					
担当教員からのメッセージ	質問はできるだけ授業中に。研究室での質問等も随時受け付ける。					

授業科目名	化学Ⅱ（物理化学B） (Chemistry II(Physical Chemistry B))					
担当教員名	菅野 秀明 (KANNO Hideaki)	所属等	学術院理学領域			
		研究室	理学部A棟3階 A306室			
分担教員名						
クラス	理BG	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火1・2	
キーワード	熱化学、化学平衡、酸と塩基、電気化学、化学反応速度					
授業の目標	化学変化を理解するための基本的な知識とそれらの応用について学ぶ。					
学習内容	物質の状態変化や化学変化に伴う熱エネルギーの役割と、化学反応の平衡や方向を理解するための熱化学の基本法則を学ぶ。また、酸と塩基、電気化学、化学変化の速度と反応機構についても学習する。なお、この講義で使用するテキストの1章から8章については、前期に開講される化学Ⅰ（物理化学A）で学習する。					
授業計画	テキストの章に従い、次の項目を講義する。 回 内容 1 9章 状態変化に伴うエネルギー-熱化学： 熱力学の第一法則、転移のエントルピー 2 9章 状態変化に伴うエネルギー-熱化学： エントルピーのはたらき 3 9章 状態変化に伴うエネルギー-熱化学： エントルピーのはたらき 4 10章 化学反応の平衡： 平衡の記述 5 10章 化学反応の平衡： 諸条件の影響 6 10章 化学反応の平衡： 相の間の平衡 7 11章 自然に起こる変化の方向-熱力学の第二法則： エントロピーと熱力学の第二法則 8 11章 自然に起こる変化の方向-熱力学の第二法則： ギブズ関数 9 12章 イオンを含む平衡： 溶解度と溶解度積、酸と塩基 10 12章 イオンを含む平衡： pHの応用 11 12章 イオンを含む平衡： 緩衝作用、ルイスの酸および塩基 12 13章 化学エネルギーと電気エネルギー-電気化学： 化学電池、起電力と平衡 13 13章 化学エネルギーと電気エネルギー-電気化学： 電極電位の使い方、起電力の熱力学 14 14章 化学変化の速さ： 反応の速度、速度式 15 14章 化学変化の速さ： 速度と諸条件、触媒作用					
受講要件	前期に開講される化学Ⅰ（物理化学A）を履修していること。					
テキスト	物理化学の基礎、Atkins・Clugstone 著／千原・稲葉訳、東京化学同人、1984年、4-8079-0226-1					
参考書	講義中に参考図書リストのプリントを配付する。					
予習・復習について	授業毎に予習・復習をすること。また、各章毎に練習問題を与えるので、レポートとして提出すること。					
成績評価の方法・基準	レポートの内容（20％）と期末試験の得点（80％）で評価する。					
オフィスアワー	特に指定しない。					
担当教員からのメッセージ	質問はできるだけ授業中に。研究室での質問等も随時受け付ける。					

授業科目名	歴史と文化 (History and Culture)					
担当教員名	藤井 真生 (FUJII Masao)			所属等	学術院人文社会科学領域	
				研究室		
分担教員名						
クラス	学部共通 2	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4	
キーワード	ヨーロッパ中世、信仰、紛争、労働、学問					
授業の目標	異なる地域、異なる時代の歴史について学び、それにより現在の日本や日本の歴史について比較・考察するための知識や理解力を養うことを目的とする。					
学習内容	中世ヨーロッパの歴史について、政治史・事件史的ではなく、当時の人々の暮らしぶりに着目して学ぶ。視覚的な資料を用いて想像力を豊かにし、現在の日本との生活との違いを考える。					
授業計画	回 内容 1 イン트로ダクション——中世のヨーロッパ—— 2 中世ヨーロッパの国家 3 中世の祈り①キリスト教信仰と聖人 4 中世の祈り②修道士の暮らし 5 中世の祈り③中世の教会美術 6 中世の争い①中世の国家と身分 7 中世の争い②騎士の暮らし 8 中世の争い③紛争と裁判 9 中世の働き①農民の暮らし 10 中世の働き②職人の暮らし 11 中世の働き③商人の暮らし 12 中世の学び①文字の伝承 13 中世の学び②大学の成立 14 中世の学び③学生の暮らし 15 中世から近世へ					
受講要件	とくになし。					
テキスト	講義後にスライド資料を学務情報システムで配信します。					
参考書	各回のテーマごとに、講義内で紹介します。					
予習・復習について	とくに予習は求めませんが、紹介した参考文献に 1 冊でも目を通してくれることが望ましいです。					
成績評価の方法・基準	期末レポートにより評価します。					
オフィスアワー	月曜日午前					
担当教員からのメッセージ	1.県立大学単位互換（認めない） 2.科目等履修生（認める） 難易度A 日ごろから「ヨーロッパ」や「中世」などの言葉に敏感に反応し、自らヨーロッパ中世についての関心を高めていくように心がけてください。					

授業科目名	ことばと表現 (Language Arts)					
担当教員名	森本 隆子 (MORIMOTO Takako)		所属等	学術院人文社会科学領域		
			研究室	人文 A 棟 5 2 0 - 2		
分担教員名						
クラス	学部共通 1	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4	
キーワード	近代、テキスト、アイデンティティ、恋愛、友情、家族、セクシュアリティ、ジェンダー					
授業の目標	私たちが生きる<日本の近代>とは、どのような時代なのだろう？ 文芸作品を機軸に、明治の文豪・夏目漱石から村上春樹やよしもとばなな、ジブリに至るまでが一貫して追究してきた恋愛・家族・アイデンティティ等の問題群について、様々な角度からの提起を試みたい。 偉大なる人気作家たちは、規範にはまらず、逸脱を生きる。その変奏を大いに楽しみ、かつ議論したい。					
学習内容	人は生涯に、おおむね 2 つの家族を生きる、というのが、長く近代社会の約束事であった。 <血縁>によって結ばれた生家と、<愛>の絆によって育むもう 1 つの家族と。 近代の文芸作品は、この 2 つの家族の過渡期を<青春(思春期)>と呼んで、恋愛、友情、性的成熟などの葛藤をヴィヴィッドに織り込んでゆく。 <幸福>の名の下に近代人が追究してきた夢と幻想をときほぐし、その先に見えてくるものを展望したい。 「アイデンティティ」とは、何だったのだろうか？					
授業計画	第 1 回 青春、恋愛、そして友情……—「近代小説」の発生 第 2 ～ 6 回 夏目漱石『こころ』—— 2 つのちゃぶ台・恋愛結婚イデオロギーの登場 ・ <私的空間>の発生——純白の愛と性欲と ・ 男たちの絆——三角形の欲望と帰結としての淋しい「明治の精神」 ・ 「心臓(ハート)の授受」と巡る血潮——愛と友情の連続体 第 7, 8 回 「新しい女」の発生と男たち——夏目漱石 VS. 森鷗外 第 9、10 回 <家族映画>を<読む>——小津安二郎・女性映画の能手 第 11、12 回 村上晴樹『ノルウェイの森』——「まとも」であることの断念・社会からの逃走＝闘争 第 13 回 ジブリの批評性——脱・漱石、脱・春樹、あるいは男と国家の退場 第 14、15 回 女性作家の現代——ばななの「夢のキッチン」と江國の「きらきら」&「流しのした」					
受講要件	特になし。					
テキスト	夏目漱石『こころ』(ちくま文庫)、他は本文抜粋コピーで。					
参考書	小森陽一『漱石を読みなおす』(ちくま新書)、藤本由香里『私の居場所はどこにあるの?』(朝日文庫)、斎藤環『戦闘美少女の精神分析』(ちくま文庫)ほか。教室にて指示します。					
予習・復習について	対象作品を、まずは自力で読み込んでみましょう。自分流の読みや印象と、授業で提供されるアングルおよび友人たちのコメントとのズレや異和を知ること、思考力はグンと伸びます。					
成績評価の方法・基準	毎時のコメント・カード+最終レポートの総和					
オフィスアワー	後期については火曜 55・6 限、後期は火曜 5・6。できれば、アポをとって下さると嬉しいです。					
担当教員からのメッセージ	高校までの「国語」で、みんながよく知っている「鑑賞」。ここでは、それを時代へ問いかけ、また時代の息吹を映し出す生き物としての「テキスト」へ開く刺激と楽しさを味わいましょう。					

授業科目名	日本国憲法 (The Japanese Constitution)					
担当教員名	根本 猛 (NEMOTO Takeshi)	所属等	法務研究科			
		研究室	人文社会科学部A棟531			
分担教員名						
クラス	学部共通3	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火3・4	
キーワード	立憲主義、人権					
授業の目標	日本国憲法の全体像を理解する。					
学習内容	基礎的な解釈論を中心に解説する。現代的な憲法問題にも触れたい。					
授業計画	回 内容 1 憲法って何？ 2 大日本帝国憲法と日本国憲法の生い立ち 3 国民主権と天皇制 4 平和主義1 9条と自衛隊 5 平和主義2 20世紀末以降の展開 6 人権って何？ 7 法の下での平等 8 外国人の人権 9 人身の自由 10 信教の自由と政教分離 11 表現の自由 12 職業選択の自由 13 生存権 14 教育を受ける権利 15 参政権					
受講要件	高校の現代社会が分かっていないと辛いです。またお互い不幸になるので興味がない方は受講しないようお願いします。					
テキスト	初宿正典他 『いちばんやさしい 憲法入門』 有斐閣					
参考書						
予習・復習について	授業には出席しましょう。出席は取りませんが、授業を聴かずに単位修得は難しい思います。軽くで構いませんから教科書の該当箇所を読んで授業に臨むと理解しやすいです。それでも分からなかったら質問に来てください。					
成績評価の方法・基準	期末試験によります。過去問を配布して解説します。なお、不可をもらっても再試験などはありません。そのつもりで受講してください。					
オフィスアワー	時間が許せばいつでも対応します。無駄足になっては申し訳ないので、電話(238-4274)で在室を確かめて研究室にお出でくださることをお勧めします。					
担当教員からのメッセージ	大学生になったら新聞を読もう。					

授業科目名	経済と社会 (Economy and Society)					
担当教員名	朴 根好 (PARK Keunho)		所属等	学術院人文社会科学領域		
			研究室	共通 L 棟 4 0 6		
分担教員名						
クラス	学部共通 4	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4	
キーワード	グローバル化、アジアの巨大消費市場、産業競争力、日本とアジアの関係					
授業の目標	日本にとって、アジアとの経済関係の重要性は益々高まるばかりである。そのアジア経済はまた、ダイナミックに変化して世界でもっとも注目されている。世界経済におけるアジアの位置と今後の課題について考えていきたい。					
学習内容	〔1〕 グローバル化とアジア経済 (2) アジアの産業競争力					
授業計画	(1) アジア経済の発展経路と輸出指向工業化 1.成長のアジア・停滞のアジア 2.アジア成長のメカニズム：輸出指向工業化 3.アジア経済の重心移動と「東アジアの奇跡」 (2) グローバル化とアジア経済 1.アジアの成長と巨大消費市場 2.華僑・印僑のネットワーク 3.中国企業の成長：ケース・スタディハイアール 4.中国産業の競争力 5.インド経済とソフトウェア産業 6.都市国家シンガポールの人材戦略 7.アジア NIES の産業発展：韓国と台湾の比較 8.韓国企業の世界戦略：ケース・スタディ SAMSUNG 9.グローバル・バリュー・チェーンから見る日本経済					
受講要件	特になし					
テキスト	講義レジメ配布					
参考書	なし					
予習・復習について	毎回、宿題のプリントを配る					
成績評価の方法・基準	テスト 60 点、宿題 40 点（予定、詳しくはガイダンスで）					
オフィスアワー	毎週火曜日 17 時～18 時（予定）					
担当教員からのメッセージ	1.県立大学単位互換（ 認める ） 2.科目等履修生（ 認める ） 3.難易度(B)					

授業科目名	数理の構造 (The Structure of Mathematics)				
担当教員名	鈴木 信行 (SUZUKI Nobuyuki)	所属等	学術院理学領域		
		研究室	理学部 C 棟 601		
分担教員名					
クラス	学部共通 2	学期	後期		必修選択区分 ー
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4
キーワード	身近な数、整数、論理的な証明、演繹的推論、一筆書き、微分・積分				
授業の目標	古典的な数学からの話題を通して、数理科学の一面に触れることを目的とする。また、数学を専攻としない学生の素養として、微分積分学や線形代数学の基礎事項にも簡単に触れる。				
学習内容	日常の身近なところにある数学的なもの（数、図形、自然現象の数理など）を題材に、数理科学への橋渡しをしようと思う。また、その過程で現れる様々な論証や証明方法を考察し、数学的なものの考え方や論理的な推論を議論する。 高校の数Ⅰ数Ⅱ程度の知識から出発し、諸君とともに、「大学レベルの数学」の見物に出かけたいと思う。				
授業計画	以下の各項目を解説していく予定であるが、学生諸君の理解の状況をみて適宜調節する。また、学生諸君の希望があれば、内容の一部変更の可能性もある。学生諸君と対話型形式を取り、議論に参加を求める場合もある。 1. 身近な数の話 2. 整数の話 3. 一筆書きの話（グラフ理論） 4. 論証の構造（数理論理学入門） 5. 微分と積分（微分積分学の基本定理） 6. 線形代数学の基礎				
受講要件	なし。高校 1 年生くらいの数学（数Ⅰ数Ⅱ程度）の知識は仮定しますが、復習しながら進めます。				
テキスト	なし				
参考書	必要に応じて講義中に指示します。				
予習・復習について	予習復習は古来より効果的な学習法です。この講義では、特に復習に力を入れてください。自宅での自発的かつ積極的な学習なくしては、身に付くものも少ないですよ。				
成績評価の方法・基準	試験の得点による。				
オフィスアワー	最初の講義で伝える。出張・会議によって対応できない場合もあります。アポイントをとってけると確実です。				
担当教員からのメッセージ	数学は「積み上げ」が大事といわれます。しかし、この講義では、再チャレンジが可能なように、いくつかのトピックスを数回ずつ話します。一度解らなくなっても諦めずに出席してください。予習復習は古来より効果的な学習法です。諸君の自宅での自発的かつ積極的な学習、特に復習を前提として講義します。大学の講義ですから、ただ出席して座っているだけで解るようなレベルの内容は講義しません。高校数学の復習ではなく、大学レベルの話をします。「定理や公式を当てはめて練習問題を解く」という受験勉強のようなことは期待しないでください。				

授業科目名	日本国憲法 (The Japanese Constitution)					
担当教員名	小谷 順子 (KOTANI Junko)			所属等	学術院人文社会科学領域	
				研究室	人文 A 棟 6 1 2	
分担教員名						
クラス	教（教員養成課程 1）	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2	
キーワード	日本国憲法、憲法、国家、法の支配、基本的人権、権利、自由、立憲主義					
授業の目標	受講生が、憲法及び立憲主義に関する基礎知識を習得したうえで、とくに人権分野の重要論点及び時事問題に関する憲法学上の問題点を理解することを目標とする。					
学習内容	憲法の歴史的背景及び意義について確認した上で、基本的人権の総論（享有主体性、私人間への憲法の適用）、基本的人権の各論（精神的自由、私生活の自由）、裁判員制度をめぐる憲法学上の論点を、判例を中心に解説する。					
授業計画	以下の項目（教科書に対応）を扱う予定である。なお、随時、時事問題等を解説するため、以下の順番及び項目を変更する可能性がある。授業は講義形式で行なう。 回 内容 1 法とはなにか 2 憲法と憲法判例（憲法の意味と法源） 3 基本権と権利保障（総論：基本権の享有主体） 4 基本権と権利保障（総論：私人間の権利保障） 5 基本権と権利保障（包括的権利：幸福追求権） 6 基本権と権利保障（平等原則：差別的取扱） 7 基本権と権利保障（平等原則：私生活の平等） 8 統治の原理と組織（選挙制度：投票価値の平等） 9 基本権と権利保障（精神的自由：思想良心の自由） 10 基本権と権利保障（精神的自由：信教の自由） 11 基本権と権利保障（精神的自由：政教分離原則） 12 基本権と権利保障（精神的自由：表現の自由） 13 基本権と権利保障（精神的自由：表現の自由） 14 統治の原理と組織 15 まとめ					
受講要件						
テキスト	大石眞・大沢秀介編『判例憲法（第 2 版）』（有斐閣、2012 年）					
参考書	必要があれば授業中に指示する。					
予習・復習について	予習： 予め教科書の該当箇所を読む。 復習： 毎回の講義終了後、各自で授業支援システム（学務情報システム上）にログオンし、授業内容を再確認するための小テストを受験する。					
成績評価の方法・基準	最終成績は、期末試験と平常点（授業支援システムの小テスト）に基づいて算出する。なお、最終成績に占める期末試験の重みは 60・80%、平常点は 20・40%程度の予定である。					
オフィスアワー	毎週の授業終了後。その他、電子メールにて、いつでも質問可。					
担当教員からのメッセージ	高校の「現代社会」又は「政治経済」の教科書の日本国憲法や民主主義に関する説明部分を熟読して理解したうえで履修することが望ましい。また、日常的に新聞やニュースに目を通して、社会・政治の動きを把握しておくこと。					

授業科目名	数学の世界 (Introduction to Mathematics)					
担当教員名	四之宮 佳彦 (SHINOMIYA Yoshihiko)	所属等	学術院教育学領域			
		研究室				
分担教員名						
クラス	学部共通 1	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2	
キーワード	微分、積分、関数、極限					
授業の目標	高等学校で数学 II は学習したが、数学 III の授業を受けていない（または、数学 III を受けたが落ちこぼれてしまった）学生を対象に、微分と積分の講義をします。					
学習内容	高等学校数学 III の微分積分+アルファの内容。具体的には、1 変数関数（特に、分数関数、指数関数、対数関数、三角関数、逆三角関数、無理関数）の微分、平均値の定理、置換積分と部分積分、およびそれらの応用が中心。授業時間中だけでは十分な問題演習ができないので、予習・復習のための演習問題を配ります。					
授業計画	回 内容 1 関数とグラフ 2 微分と微分公式 3 合成関数の微分法 4 三角関数の微分 5 逆三角関数の微分 6 指数関数、対数関数の微分 7 対数微分法 8 高次導関数 9 ☆中間テスト 10 平均値の定理と不定形の極限 11 マクローリンの定理・微分の応用 12 不定積分と定積分 13 置換積分 14 部分積分 15 定積分の応用					
受講要件	教育学部数学教育専修の学生は、受講出来ません。 高校学校の数学 II の知識を必要とします。					
テキスト	石村園子『やさしく学べる微分積分』共立出版，2000 円+Tax					
参考書	授業の最初に紹介する。					
予習・復習について	数学は復習が特に大切。復習のための演習問題を配りますので、次週までにしっかり復習しておこう。					
成績評価の方法・基準	中間テスト 30%+期末試験 70%，授業への取り組み状況を加味して評価します。					
オフィスアワー	授業の最初に知らせる。					
担当教員からのメッセージ	この授業では、高等学校の数学 II の内容を使います。数学 II を学習していない学生は、授業開始までに各自で勉強しておいて 下さい。 この授業だけではありませんが、休まず出席することが大切。遅刻もしないように気をつけよう。					

授業科目名	生物と環境 (Life and the Environment)					
担当教員名	向井 啓雄 (MUKAI Hiroo)		所属等	学術院農学領域		
			研究室	農学総合棟 428		
分担教員名						
クラス	学部共通 3	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2	
キーワード	植物、環境、生理					
授業の目標	生命体（主に植物）が自らを維持する（生きる）ために様々な機能（生理）を持ち、それが外部（物理的、化学的、生物的、社会的）環境とどのような関わりを持っているかを理解する					
学習内容	生物学の一分野である「植物生理学」をテキストに沿って学習する。					
授業計画	回 内容 1 ガイダンス、序章 地球上の生命を支える植物 2 第1章 植物の構造 3 第2章 発生と分化 4 第3章 光による制御 5 第4章 植物ホルモンによる制御 6 第5章 生殖 7 第8章 エネルギー獲得系1 呼吸 8 第8章 エネルギー獲得系2 光合成 9 第9章 糖と脂質の代謝 10 第10章 無機栄養の同化 11 第11章 二次代謝産物の生合成と機能 12 第12章 緑葉の生理生態学 13 第13章 環境ストレスとストレス耐性 14 第14章 形質転換と植物のバイオテクノロジー 15 第15章 農作物の生理学と環境					
受講要件	特になし。高校で生物を履修していれば内容を理解しやすいと思われる					
テキスト	塩井祐三・井上弘・近藤矩朗 共編、『ベーシックマスター 植物生理学』、オーム社、2009 年、ISBN 978-4-274-20663-4、3800 円テキストの購入を義務付けないが、テキストに沿って授業を進める。また、試験はテキストの文章を用いて出題される。					
参考書	石川統ら編、『ダイナミック図説生物』東京書籍、2004 年、ISBN 9784487367863、880 円この参考書は高校生物の教材であり、すでに同様のものを持っている人はそれを利用するとよい。ただ、授業で使用することはない。高校で生物を学んでいない人、あるいは生物をあまり理解できなかった人は、この参考書で予習復習すると理解が容易になると思われる。					
予習・復習について	予習：教科書あるいは参考書を読んで、その内容を理解することに努める。復習：教科書の内容を確実に理解する。教科書を読んでさらに理解を深める。					
成績評価の方法・基準	定期試験により 100%評価する。試験における正答率を、「生物と環境」に対する理解の到達度としての判断基準とする。 試験：択一式 50 問のマークシート方式、1 問 1 点で 50 点満点。 教科書の記述から出題される。 出題箇所は授業支援システム（授業連絡）等以示される。 評価点：（試験の得点から求められる）偏差値+30 点 およそ平均点以上取れば優以上、平均点未満であれば良以下となる。 評価点の上限を 100 点とし、試験を受けなかった人の評価点は 0 点とする。					
オフィスアワー	農学総合棟と共通教育棟が離れた場所にあるため、オフィスアワーを特に設けない。電子メールでの質問等を随時受け付ける（メール返信、あるいは次の講義において回答する）メールアドレス abhmuka@ipc.shizuoka.ac.jp					
担当教員からのメッセージ	この授業は生物学の一分野です。他分野についても様々な本を読んで生物学に対する理解を深めることを勧めます。昨年度と同じテキスト（ベーシックマスター植物生理学）を使用します。2009～2014 年度の『生物と環境』（向井担当）に関して、試験結果・授業アンケート等が果樹園芸学オリジナルホームページに記載されているので参考にしてください。http://www.agr.shizuoka.ac.jp/b/pomology/index.html					

授業科目名	生物学Ⅱ（基礎B） (Biology II)					
担当教員名	丑丸 敬史 (USHIMARU Takashi)	所属等	学術院理学領域			
		研究室	総合研究棟 702			
分担教員名	栗井 光一郎					
クラス	理MP	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	木 1・2	
キーワード	ヒトゲノム、遺伝子治療、性淘汰、癌とタバコ、iPS 細胞とクローン、遺伝子と寿命、脂質、機能性食品					
授業の目標	ニュースでとりあげられる生命科学の進展に関して十分な理解が得られるようにする。					
学習内容	基本的な生物のしくみを理解した上で、生物学の進展とそれにより影響を受ける社会の問題を理解する。					
授業計画	1. はじめに（生命科学は面白い） 2. 遺伝子、染色体、ゲノムとは 3. ヒトのこんな行動まで遺伝子で決定されている 4. 男と女（遺伝子が違えば行動も違う） 5. ヒトゲノムが決定されると社会は、個人はどう影響を受けるか 6. クローンと臓器移植 7. 癌とタバコ 8. ヒトはなぜ老化して死ぬのか？現代科学で寿命をのばせるか 9. コエンザイム Q10：呼吸の仕組み 10. セラミド：保湿剤？細胞死誘導？ 11. DHA, EPA：頭がよくなる脂肪酸 12. コンドロイチン：軟骨に多い多糖類 13. こんにゃくゼリー：本当にカロリーゼロ？ 14. イソフラボン：植物の2次代謝産物 15. 抗酸化物質：細胞をダメージから守る					
受講要件	生物学Ⅰを受講していることが望ましい。					
テキスト	丑丸：『科学でわかる 男と女の心と脳』麻生一枝著、SoftBank Creative 栗井：特に定めない。					
参考書						
予習・復習について	予習・復習としてテキストおよびプリントをよく読んでおく。					
成績評価の方法・基準	出席（毎回出席代わりに小テストを行う）、期末テスト。					
オフィスアワー	丑丸：特に定めないが、午後が比較的時間がとりやすいと思います。来る前に連絡をいただければ助かります。栗井：月曜日 7・8 時限を予定。					
担当教員からのメッセージ	質問を活発にして欲しい。					

授業科目名	地球科学Ⅱ（基礎B） (Geosciences II(Fundamentals B))					
担当教員名	森下 祐一 (MORISHITA Yuichi)	所属等	学術院理学領域			
		研究室	理 C401			
分担教員名						
クラス	理C B	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2	
キーワード	地球科学、プレートテクトニクス、同位体、資源と環境、マグマ熱水系					
授業の目標	様々なトピックスを通じて地球に関心を持ち、地球を理解するよう努める。					
学習内容	社会との接点を持つ課題などの理解し易い例を挙げ、地球科学における研究手法や現在の知見について解説する。また、地球科学分野における機器分析法にも触れる。					
授業計画	授業計画 授業のねらい：地球科学の見かた プレートテクトニクスに基づく地球内部物質科学（地球科学Ⅰの復習） 岩石と鉱物 同位体の性質と分析法 地球科学と化学の接点での学際的研究 地球科学と生物科学の接点での学際的研究 地球科学における機器分析法（気体質量分析法、二次イオン質量分析法など） マグマ熱水系とメタルフロー（社会における金属の役割） 鉱物資源の形成：様々な熱水性鉱床の成因と鉱石の特徴 外国の鉱床、特に白金族鉱床 海底鉱物資源 鉱床成因解明研究と鉱床探査法 地熱発電と温泉、地中熱の利用 資源・環境問題 地球表層変動に関するトピックス					
受講要件	要件ではないが、少しでも地球科学に関心をもつ人を歓迎する。					
テキスト	ニューステージ「新地学図表」、浜島書店 1000 円未満（生協で販売）。古い版は構成とページ数が異なるので要注意。					
参考書	必要に応じて、授業の中で地球科学分野の書籍を紹介する。					
予習・復習について	授業中にプロジェクターで写す内容の要点をノートに書留めて、随時配布するプリントと合わせて授業でのストーリーを追う復習をして欲しい。					
成績評価の方法・基準	原則として、2/3 以上の出席を前提として、期末の試験等に基づき評価する。					
オフィスアワー	授業の最後に質問時間を設ける。個別の質問はメールで時間を予約してから研究室に来て欲しい。					
担当教員からのメッセージ	地球科学は太陽系の一員としての地球を対象としており、諸事象が複雑に関連している。知識を蓄積するより、地球科学の見方を身につける視点を持って欲しい。					

授業科目名	生物多様性の保全 (Conservation of Biodiversity)					
担当教員名	山下 雅幸 (YAMASHITA Masayuki)	所属等	学術院農学領域			
		研究室	農学総合棟 472			
分担教員名						
クラス	学部共通 1	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4	
キーワード	生物多様性、自然保護、保全生物学、保全生態学、農業生態系					
授業の目標	生物多様性の危機的現状およびその保全の必要性を理解する。また、農業生態系（たとえば里山）など、人間との関わりの深い 2 次的自然の重要性についての認識も深める。					
学習内容	「生物多様性の保全」という社会的な目標の実現のための指針と技術の確立を目指す保全生物学を中心に学ぶ。生物多様性の意味、その危機的現状、保全の必要性および対策事例などを紹介する。					
授業計画	回 内容 1 ガイダンス 2 生物多様性の意味（生物多様性とは何か？） 3 生物多様性の仕組み 4 生物多様性の増大（進化） 5 生物多様性の危機①（生息地の破壊） 6 生物多様性の危機②（持続不能な利用） 7 生物多様性の危機③（侵略的外来種） 8 生物多様性の危機④（絶滅） 9 生物多様性の保全①（種の保全 1） 10 生物多様性の保全②（種の保全 2） 11 生物多様性の保全③（生態系の保全） 12 生物多様性の保全④（保全と持続的利用 1） 13 生物多様性の保全⑤（保全と持続的利用 2） 14 生物多様性の保全⑥（生態学的復元） 15 まとめ					
受講要件	農学部での保全生物学を受講していないことが望ましい（内容が重複するため）。					
テキスト	使用しない。適宜、資料を配付する予定。					
参考書	Andrew S. Pullin（2004）保全生物学．丸善 Richard B. Primack（1997）保全生物学のすすめ．文一総合出版 樋口広芳編（1996）保全生物学．東京大学出版会 鷲谷いづみ・矢原徹一（1996）保全生態学入門．文一総合出版 その他、講義中に適宜紹介する。					
予習・復習について	予習・復習のために、ほぼ毎回宿題（あるいは小テスト）を課す。					
成績評価の方法・基準	出席率 40%、レポート（小テストを含む） 30%、試験 30%の合計で総合的に評価する。 評価基準は講義内容の理解度等をみる。					
オフィスアワー	主担当の山下（abmyama@ipc.shizuoka.ac.jp）まで連絡下さい。					
担当教員からのメッセージ	主に山下が担当するが、他の教員による事例紹介等も予定している（担当者未定）。					

授業科目名	フランス事情Ⅳ (Situation in France)					
担当教員名	コルベイク (CORBEIL STEVE)		所属等	大学教育センター		
			研究室	人文社会科学部A棟325		
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月1・2	
キーワード						
授業の目標	言語と文化は切り離せないものである。目標言語を理解するためにはその背景となる文化を理解することは必須である。この授業では学生がまずフランス文化の基礎的な背景知識（地理的背景、歴史、社会の仕組み、生活習慣、文学など）を学ぶ。本授業ではフランス語のテキストを使用し、フランスの文化をフランス語で読むことによって、その思考過程や構造を理解する。さらに、フランス文化の概念を、具体的な形として認識できるようにテキスト上の情報のみならず、映像なども利用する。様々な活動を通して、最終的に、学生自身が総合的かつ多角的な視点を持って、フランス文化・社会を捉え、個々の事象について自分なりの意見を構築することを一つの目標とし、より高度で具体的なコミュニケーションができることを目指す。					
学習内容	授業の流れとして、まずテキストの内容把握をする。（学生は予習としてテキストを読んでくる）テキストに沿って内容を理解し、学生からの質問があればそれに答える。さらに関連してその話題についての補足的な説明も加える。特に各トピックのキーワードについては、その言葉の背景について説明をし、発音や使い方なども指導する。適宜映像も使用し、理解を深める。授業の最後には意見交換や小作文を課す。					
授業計画	回 内容 1 前期の復習 2 フランス映画 3 パリ 4 エッフェル塔 5 アメリ・プーラン 6 フランスと政治 7 共和国フランス 8 ヴィトン 9 ツール・ド・フランス 10 フランスの教育制度 11 ラントレ 12 フランスのシャンソン 13 フランス文学 14 奇才ボリス・ヴィアン 15 復習					
受講要件						
テキスト	Denis C. Meyer, Clé pour la France, volume 2, Hachette, ISBN 978-4-907970-03-1					
参考書						
予習・復習について						
成績評価の方法・基準	授業への参加 (20%) 宿題 (20%) 中間テスト (30%) 最終テスト (30%) 3回以上欠席する場合は単位不可					
オフィスアワー	月曜日の14:30～16:00					
担当教員からのメッセージ						

授業科目名	金融論Ⅱ (Theory of Money and BankingⅡ)					
担当教員名	鳥畑 與一 (TORIHATA Yoichi)			所属等	学術院人文社会科学領域	
				研究室	共通 L 棟 4 1 2	
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 1・2	
キーワード	貨幣（通貨）、金融制度、金融業務、金融理論、金融政策					
授業の目標	金融論の取り扱う諸テーマに関わる総合的理解					
学習内容	金融論は資金の融通にまつわる諸事象を分析する学問分野ですが，一般的に，いくつかのテーマによって構成されています．たとえば，「金融理論」，「金融制度（システム）論」，「金融業務論」，「金融政策論」，「金融史」などです．本講義では，主に「金融制度」と「金融業務」に重点を置いて学習します．なお，「金融論Ⅰ」は国内金融を主に取り扱い，「金融論Ⅱ」は国際金融を主に取り扱います．					
授業計画	回 内容 1 ガイダンス 2 国際金融市場の成長 3 国際金融市場の構造 4 国際収支の仕組み 5 日本の国際収支の特徴 6 外国為替相場の仕組み 7 機関投資家の成長と活動 8 投資信託とその仕組み 9 保険会社と保険業務 10 ヘッジファンドとは何か 11 デリバティブの基礎① 12 デリバティブの基礎② 13 証券化とは何か 14 金融システムの現在と未来 15 講義内容の総復習（予備）					
受講要件						
テキスト	使用する場合は初回ガイダンス時に指定します．					
参考書	随時指定していきます．					
予習・復習について	特に復習を十分に行ってください．					
成績評価の方法・基準	期末試験に基づきます．中間課題（小レポートまたは小テスト）を課したり，出欠を取ったりした場合は加算対象とします．					
オフィスアワー	月曜昼休みを予定（変更可能性あり）					
担当教員からのメッセージ	質問には講義終了後にまとめてお答えするので，講義中の質問はご遠慮ください．					

授業科目名	英米事情 (Current Topics in the UK and the USA)					
担当教員名	ユーリック (URICK STEVEN TODD)	所属等	大学教育センター			
		研究室	共通教育A棟513 (東)			
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	月3・4	
キーワード	英米文化、英文読解					
授業の目標	In this course, students will 1) learn about culture and current events in the United Kingdom and North America, and 2) strengthen their English speaking, reading, writing and listening skills.					
学習内容	Students in this course will learn about current events and cultural topics in the UK and North America through readings, mini-lectures, video, and other media. This information will then be used as the basis for students to use English communicatively and develop critical language skills.					
授業計画	The following are examples of topics covered in the course: Multiculturalism in Canada Dialects and class in the UK The 9.11 attacks and “terrorism” African-American music Student selected topics					
受講要件	平成18年度以降の入学者は英語教員免許必修					
テキスト	There is no textbook required for this course.					
参考書						
予習・復習について	Homework will be assigned weekly.					
成績評価の方法・基準	Grades will be assessed based on participation (20%); homework, quizzes and other assignments (45%), and the final exam (35%).					
オフィスアワー	E-mail me at steve@uricks.net for an appointment.					
担当教員からのメッセージ	I look forward to working with students who want to improve their English skills, and are interested in learning about the UK and North America.					

授業科目名	フランス文学概論Ⅱ (Introduction to French Literature)					
担当教員名	安永 愛 (YASUNAGA Ai)	所属等	学術院人文社会科学領域			
		研究室	人文 A 棟 5 2 5			
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4	
キーワード	フランス文学の特質、フランス文学の歴史、フランスの文化					
授業の目標	19 世紀から現代にいたるフランス文学の歴史を振り返りつつ、フランス文学の持つ魅力に触れる。					
学習内容	19 世紀から現代にいたるフランス文学の流れを辿る。基本的に講義形式であるが、フランス語作品の講読や、関連の映像鑑賞も取り入れる。本講義は「フランス文学概論Ⅰ」の続きである。					
授業計画	・近代小説の誕生—スタンダール、バルザック、フローベール ・近代詩の潮流—ボードレール、ヴェルレーヌ、ランボー、マラルメ ・二十世紀前半の新たな潮流—プルースト、ヴァレリー ・実存主義の文学—カミュ、サルトル、ボーヴォワール ・新たなフランス文学の流れ—デュラス、ビュトール、ル・クレジオ、モディアノ ・亡命作家、クレオール作家たち—クンデラ、シャモワゾーなど					
受講要件	フランス語の基礎を習得していること。					
テキスト	プリントを配布する。					
参考書	適宜紹介する。					
予習・復習について	特に課さないが、講義を聴いて興味を持った書物を読んでみて欲しい。					
成績評価の方法・基準	出席状況 20%、期末レポート 80%。ただし、欠席回数が理由なく 3 回を超える場合は、不可とします。					
オフィスアワー	初回の授業でお伝えします。メールのアポイントにより随時対応可能です。アドレス jakurod@ipc.shizuoka.ac.jp					
担当教員からのメッセージ	この講義が、作家や作品に出会う機縁となることを願っています。					

授業科目名	経営情報論 (Management Information)					
担当教員名	伊東 暁人 (ITO Akito)	所属等	学術院人文社会科学領域			
		研究室	共通L棟414			
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	月3・4	
キーワード	ICT（情報通信技術）、経営、組織、意思決定、コミュニケーション、ビジネスプロセス、システム、情報、ネットワーク、企業					
授業の目標	組織（おもに企業）における ICT 利用の変遷を概観したうえで、ICT が組織における意思決定やコミュニケーションに与える影響、ビジネスプロセスの変革、これからの課題について理解してもらうこと。あわせて、経営情報管理にかかわる ICT の基礎的な知識を習得してもらうことです。					
学習内容	経営情報論は、経営学の領域のなかでは最も新しい分野の一つで、その学問体系は必ずしもまだ確立していません。本講義では、組織（おもに企業）における情報技術活用の変遷を踏まえたうえで、どのような考え方でシステム利用が発展してきたのか？、技術と人間の関係はどうあるべきなのか？これからの情報システムの課題は何か？、といったことを考察します。また、授業の中で、情報処理とデータ通信の基礎的な知識を習得してもらう予定です。こうした基礎知識を身につけることは、これから先に、みなさんが様々な新しい情報技術に直面した時にも、その理解の助けとなるでしょう。					
授業計画	1. はじめに 講義の概要説明、経営情報論とは何か？ ・情報社会の到来と企業経営 ・経営資源としての情報 ・組織体と情報システム ・経営情報論の意義 2. 経営情報論の前提としての組織論、戦略論、経営科学（OR） ・経営組織論 ・経営戦略論 ・システムとネットワーク ・オペレーションズリサーチ 3. 経営情報システム概念の変遷 ・ADP から MIS ・DSS ・OA ・SIS ・BPR 4. ICT の進展とその基礎知識 ・データ処理能力の向上 ・標準化の進展 ・DB 技術の発展と活用 ・コミュニケーションネットワーク ・インターネットコンピューティング 5. ICT とビジネスプロセス革新 ・現代の競争環境 ・プロセス革新と企業戦略 ・プロセス革新と ICT 6. ICT とネットビジネスの進展 ・シリコンバレーモデル ・サーチエコノミー ・Web2.0 7. ICT と組織変革 ・ICT と組織の関連性 ・組織間関係 ・仲介組織 8. ICT と組織コミュニケーション ・電子的コミュニケーション ・メディア ・組織知の生成 9. ICT と社会 ・社会的存在としての企業 ・ICT の社会的影響 ・情報倫理の諸課題 10. 講義のまとめと今後の課題・展望 （講義の展開と進行上、内容が前後したり割愛することがあるかもしれませんが、ご承知おきください）					
受講要件	経営学の初歩的な知識があることを前提とします。					
テキスト	遠山・村田・岸『経営情報論（新版）』（有斐閣）ほかに、レジュメと参考資料を授業 HP から DL してもらいます。					
参考書	大阪市立大商学部編『ビジネス・エッセンシャルズ2 経営情報』（有斐閣、2003 年）など。授業内で適宜、紹介します。					
予習・復習について	予習：テキストで次回授業の箇所を読み、授業 HP からレジュメと参考資料を DL し目を通す。復習：テキストの該当章末練習問題を解いてみる。					
成績評価の方法・基準	月末レポート 4 回（10%×4 回＝40%）、期末試験（60%）で評価する予定です。一定回数のレポート提出が期末試験の受験前提資格となります。					
オフィスアワー	正式には初回授業で連絡しますが、月曜 14:30-15:30 を予定しています。					
担当教員からのメッセージ	日ごろから、新聞、雑誌、TVなどで企業や情報システムの実際について関心を持っていることが望ましいです。 1. 県立大学単位互換（認めない） 2. 科目等履修生（認める） 難易度：C（専門的）					

授業科目名	フランス言語文化演習Ⅵ					
担当教員名	浅野 幸生 (ASANO Yukio)			所属等	学院院人文社会科学領域	
				研究室	人文 A 棟 4 0 8	
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6	
キーワード	フランス語の基本					
授業の目標	フランス語を読む力を付ける。フランス文化に関する知識を付ける。					
学習内容	フランス文化に関するエッセーを読む。					
授業計画	フランス文化に関して論じた代表的な著書から選ばれたエッセーを読む。					
受講要件	フランス語の基礎ができていること。					
テキスト	プリントを配布。					
参考書	適宜指示。					
予習・復習について	予習が不可欠。					
成績評価の方法・基準	テストと平常点による。					
オフィスアワー	月 1 3 : 2 0 ～ 1 4 : 3 0					
担当教員からのメッセージ						

授業科目名	地域政策Ⅱ					
担当教員名	太田 隆之 (OTA Takayuki)		所属等	学術院人文社会科学領域		
			研究室	共通教育L棟 328 号室		
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6	
キーワード	地域開発、地域活性化、地方自治、持続可能な発展					
授業の目標	地域が直面する経済・社会問題の捉え方と、こうした諸問題に取り組むための視点及び基礎的思考力を習得することを目標とする。					
学習内容	本講義では現在国および地域が抱える重要な課題の1つである地域問題に注目し、その具体的な内容と、これまで国と地域がこの問題にどうアプローチし、どういう結果を招いてきたかを検証する。特に、日本国内の大都市、地方都市、農山村地域の実態・課題とそれらに対する地域政策の実際に注目し、各トピックに具体的に触れることで、大都市、地方都市、農山村地域の地域政策の今後を検討していく。 以上のことを通じて、地域問題を克服するためのアプローチや地域政策のあり方・方法を考えるとともに、自らの視点で地域経済・社会を捉え、地域で生ずる諸問題を考えるとともに、具体的な政策案考える力を習得することを目指す。					
授業計画	概ね下記の内容で進める予定である。詳細は初回の講義で説明する。 回 内容 1 ガイダンス 2 地域政策の課題は何か―「地域経済の不均衡発展」― 3 これまでの地域政策はどうであったか―全国総合開発計画とそのオルタナティブ― 4 大都市における地域政策 1―全総実施下における都市問題・都市政策― 5 大都市における地域政策 2―シビル・ミニマム論と都市政策― 6 大都市における地域政策 3―昨今の大都市の状況― 7 農山村地域における地域政策 1―「過疎問題」とは何か― 8 農山村地域における地域政策 2―「過疎対策」に注目して― 9 農山村地域における地域政策 3―「内発的発展」論に注目して― 10 地方都市における地域政策 1―「地方中枢都市」に注目して― 11 地方都市における地域政策 2―「企業城下町」に注目して― 12 地方都市における地域政策 3―「地域内産業連関」に注目して― 13 地方都市における地域政策 4―商業集積・中心市街地に注目して― 14 地方都市における地域政策 5―「観光都市」に注目して― 15 今後の地域政策に向けて―まとめと展望―					
受講要件	幅広く科目を履修し、また地域をめぐる日々の動向や報道に関心をもってほしい。可能であれば地域政策Ⅰも受講をしてほしいが、これは本講義を受講するにあたっての必須事項ではない。					
テキスト	レジュメと配布資料を用いて進めていく予定である。詳しくは開講時に説明する。					
参考書	テーマに応じて下記を中心に利用する予定である。参考書については随時講義の中で説明する。・諸富徹(2003),『環境』,岩波書店・淡路剛久他編(2006),『持続可能な発展』,有斐閣・中村剛治郎編(2008),『基本ケースで学ぶ地域経済学』,有斐閣・諸富徹(2010),『地域再生の新戦略』,中央公論新社・増田寛也編著(2014),『地方消滅』,中公新書					
予習・復習について	可能な限り参考書等を利用し、予習・復習を行うことを望む。さしあたり、講義で紹介する文献や資料に関心を持ったものは実際に手に取って読んでみることを。					
成績評価の方法・基準	中間レポートと最終試験により行う予定である。詳しくは開講時に説明する。					
オフィスアワー	開講時に説明する。					
担当教員からのメッセージ	県立大学単位互換(認める) 科目等履修生(認める) 難易度(C) 今地域で起きていることには常に注目し、日々の報道に注視してほしい。地域政策は我々が日常生活を営む地域に影響するため、理念や理論だけではなく、その実際も重要である。また、地域経済・地域社会はダイナミックに変化しており、今起きていることがそのまま地域政策の課題となる。こうした地域で起きる課題とそれらの報道に対して、自分ならどう考え、どう対応するかを常に考えながら、講義を受講してほしい。					

授業科目名	ケアの社会学					
担当教員名	白井 千晶 (SHIRAI Chiaki)		所属等	学術院人文社会科学領域		
			研究室	人文C 4 0 1		
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 7・8	
キーワード	ケア、ジェンダー、グローバル化、社会学					
授業の目標	育てる、看護する、介護する、癒す、家事をする、といった身近な「ケア」が、マクロ社会、特にグローバル化とどのように関連し、変容しているのか、社会学の観点から学ぶ。					
学習内容	トピックスは、家事・育児・介護、福祉、ケア労働、グローバル化、専業主婦、生殖技術、医療など。これらが、社会、家族、グローバル化とどのように関わっているか学んでいきます。					
授業計画	グローバル化、IT 化、世界システム化、近代化、マクドナルド化、スタンダード化といった「化（*zation）」が、結婚、家族、生殖および出産、労働、福祉、国家をどのように再編しているのか、考えていきます。トピックス自体は身近に感じますが、それを読み解き、比較し、課題を発見するためには、社会科学的能力を高めていくことが必要となります。半年を通じて、授業への参加、予復習、レポート、試験の準備を通して、そのトレーニングをおこなっています。 1) オリエンテーション（本講義の目的と概要）／ケアとは 2) 再生産領域とケア／家庭でのケア 3) 生存権保障とナショナルミニマム／福祉とケアワーク 4) ケア労働と感情労働 5) 社会とケア 6) 小括、補足 7) グローバル化とは何か。エスニシティと伝統の創造 8) 世界システムとジェンダー：専業主婦化と再生産領域の市場化 11) 搾取と人身取引（ヒューマン・トラフィッキング） 12) 医療ツーリズム：臓器移植 13) 生殖ツーリズム：生殖技術(1) 14) 生殖ツーリズム：生殖技術(2) 15) まとめ、補足					
受講要件	「社会学概論」または「現代の社会」「社会学の世界」を受講済みであることが望ましい。					
テキスト	なし					
参考書	授業中に都度紹介する					
予習・復習について	授業後の復習は必ずノートのまとめをおこなうこと。					
成績評価の方法・基準	授業への参加状況、レポート、期末試験から評価する。レポートはフィールドワークを予定している（授業中にアナウンスする）。					
オフィスアワー	月曜日または火曜日の昼休みの予定。メールでアポイントをとること。					
担当教員からのメッセージ	授業マナーを守り、積極的に授業・学習に参加できる学生の履修を求めます。県立大学単位互換(認める) 2. 科目等履修生(認める) 3.難易度(B)					

授業科目名	日本経済史Ⅱ					
担当教員名	日向 祥子 (HYUGA Shoko)			所属等	学術院人文社会科学領域	
				研究室	共通教育L棟 318 号	
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	月 7・8	
キーワード	日本経済、歴史、社会、政治					
授業の目標	戦後日本の経済や社会の在り方について、基本的な知識を習得するとともに、史的因果関係を吟味する力を身につける。					
学習内容	①敗戦からバブル崩壊までの日本経済・社会に関する知識 ②実際の人々のくらしに引き付けた経済理論の理解 ③知識を体系的に整理し、論理的に述べる方法					
授業計画	回 内容 1 敗戦 2 ドッジ・ライン 3 保守合同と 55 年体制 4 新日本製鐵の成立 5 模擬試験（1） 6 模擬試験（1）のフィードバック 7 ドル・ショックと石油危機 8 財政再建と民営化 9 プラザ合意とバブル経済 10 不良債権と金融危機 11 模擬試験（2） 12 模擬試験（2）のフィードバック 13 現代社会を考える―武田晴人の『脱・成長神話』（1） 14 現代社会を考える―武田晴人の『脱・成長神話』（2） 15 現代社会を考える―武田晴人の『脱・成長神話』（3）					
受講要件	学務情報システムを通じて配信する講義レジュメを自ら印刷して講義に参加すること。					
テキスト	武田晴人『新版 日本経済の事件簿』日本経済評論社，2009 年武田晴人『脱・成長神話』朝日新書，2014 年					
参考書						
予習・復習について	講義のたびに復習のための素材を提供するので活用されたい。					
成績評価の方法・基準	期末試験のみで評価する。「模擬試験」は理解の確認（受講生と教員の双方）と定着のためにのみ実施するものであり，参加および出来栄は評価に一切影響しない（不参加ないし 0 点でも受講生は何ら不利益を被らない一方，期末試験の出来が悪かった場合の救済手段にもならない）。					
オフィスアワー	火曜日 17：00-18：00					
担当教員からのメッセージ	例年「評価に無関係な模擬試験」に熱心に取り組む受講生の姿に感心しています。今年はどのような力作答案に出会えるか，楽しみにしています。					

授業科目名	ミクロ経済学Ⅲ (MicroeconomicsⅢ)					
担当教員名	山下 隆之 (YAMASHITA Takayuki)	所属等	学術院人文社会科学領域			
		研究室	共通 L 棟 3 1 2			
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	月 9・10	
キーワード	経済理論、ミクロ経済学、一般均衡理論、市場の失敗、費用通減産業、外部性、公共財					
授業の目標	市場では解決が難しい諸問題に焦点を当てながら、市場メカニズムの役割と意義について考察します。併せて、国家公務員試験レベルのミクロ経済学の問題を解ける力を身に付けてもらいたいと思っています。					
学習内容	2 年次の「ミクロ経済学Ⅱ」に引き続いて、ミクロ経済理論を学習します。一般均衡理論と市場の失敗に関して学ぶことで、ミクロ経済学の学習を完成させます。					
授業計画	回 内容 1 オリエンテーション 2 一般均衡理論 (1) パレート最適 3 一般均衡理論 (2) 純粋交換経済 4 一般均衡理論 (3) 生産経済 5 一般均衡分析 (4) 生産と分配 6 一般均衡分析 (5) 厚生経済学 7 一般均衡分析の応用 国際貿易 8 市場の失敗 9 費用通減産業 10 外部性 (1) 外部経済、外部不経済 11 外部性 (2) 外部性下の最適供給 12 公共財 (1) 非競合性、非排除性 13 公共財 (2) 純粋公共財の最適供給 14 不確実性 (1) 15 不確実性 (2)					
受講要件	ミクロ経済学ⅠとⅡを習得していること。					
テキスト	浅利一郎・山下隆之著『はじめよう経済数学』日本評論社、2003 年。					
参考書	奥野正寛編著『ミクロ経済学』東京大学出版会、2008 年。その他、必要に応じて紹介します。					
予習・復習について	予習…テキストを読むこと。復習…例題や練習問題を解くこと。					
成績評価の方法・基準	学期末の筆記試験 (100%)					
オフィスアワー	水曜日 12:10-12:45 (通年)、研究室 (L312)					
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換 (認める) 2. 科目等履修生 (認める) 3. 難易度 (C)					

授業科目名	アジア経済論Ⅱ (Studies of Asian EconomyⅡ)					
担当教員名	朴 根好 (PARK Keunho)		所属等	学術院人文社会科学領域		
			研究室	共通 L 棟 4 0 6		
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	月 9・10	
キーワード	開発経済学、アジア NIES、東アジアの奇跡、輸出指向工業化、アジア経済危機、企業の社会的責任、新興工業先進国					
授業の目標	現代におけるアジア NIES の経済発展の実態と特徴をまず把握し、アジア NIES の経済発展システムを考察する。					
学習内容	アジアに NIES は、産業構造の高度化および経済規模の拡大にともない、人々の所得も大きく伸び、先進国の仲間入りを果たしている。アジア NIES は、国を挙げて産業競争力を強化し、飛躍的な発展を成し遂げてきたが、世界への影響および課題について考えたい。					
授業計画	1.アジア経済の発展経路と輸出指向工業化 (1) 成長のアジア・停滞のアジア (2) アジア成長のメカニズム：輸出指向工業化 (3) アジア経済の重心移動と「東アジアの奇跡」 2.アジア外向き経済発展：アジア NIES の光と影 (1) アジア NIES とオイルダラーの還流メカニズム (2) アジア NIES の産業発展：韓国と台湾の比較 (3) アジア NIES 企業の多国籍化と社会的責任 (CSR) (4) アジア NIES の経済危機の影響：韓国と台湾の比較 3.韓国の成長戦略と課題：産業戦略の日韓比較 (1) 韓国の経済改革：経済危機から回復へ (2) アジア市場に押し寄せるコリアンウェーブ (3) 韓国企業のグローバル経営戦略：ケース・スタディ SAMSUNG (4) 韓国の「先進国クラブ」加盟と課題					
受講要件						
テキスト	なし。プリント資料を配布する予定。					
参考書						
予習・復習について	毎回、宿題のプリント配布。					
成績評価の方法・基準	テスト 60 点、宿題 40 点（予定、詳しくはガイダンスで）					
オフィスアワー	毎週火曜日 17 時～18 時（予定）					
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（ 認める ） 2. 科目等履修生（ 認める） 3.難易度（ B ）					

授業科目名	日本近世社会史 (Social History of Japanese Early Modern)					
担当教員名	今村 直樹 (Imamura Naoki)		所属等	学術院人文社会科学領域		
			研究室			
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4	
キーワード	日本近世史・近代史、「常識」や「通説」の見なおし、歴史と現代					
授業の目標	1. 日本近世史・近代史研究における「常識」「通説」を見なおすことができる。 2. 日本近世史・近代史を、現代社会とのつながりのもと学ぶことができる。 3. 日本近世史・近代史における最新の研究成果を学ぶことができる。					
学習内容	初回はガイダンス、授業の趣旨について論じ、成績評価の方法などの事務的な説明を行う。授業の前半部では日本近代史、後半部では日本近世史における、教科書に掲載されているような「常識」や「通説」について、最新の研究成果に基づき再検討する。					
授業計画	初回 ガイダンス ≪前半部≫ ・「桜」とナショナリズム ・「日清戦争」像を見なおす ・自由民権運動論の現在 ・【特論①】「付ケ火」の社会史 ・鉄道は地域社会から忌避されたのか ・近代日本における「地方自治」の起源 ≪後半部≫ ・【特論②】比較史のなかの明治維新 ・幕府外交の実力 ・「鎖国」言説の形成過程 ・日本社会における「年功序列制」の起源 ・「百姓一揆」像をみなおす ・百姓は「重税」にあえいでいたのか ※上記の授業計画は、授業の進行や理解度に応じて変更する場合がある。					
受講要件	高校までの日本史の知識を習得していることが望ましい。					
テキスト	プリントを使用する。					
参考書	『シリーズ日本近現代史①～④』岩波書店、2006～07 年。尾藤正英『江戸時代とはなにか』岩波現代文庫、2006 年。笠谷和比古『武士道と日本型能力主義』新潮選書、2005 年。					
予習・復習について	【予習】高校日本史などの教科書における該当箇所を読んでくること。【復習】毎回の講義で参考文献を示すので、わからない説明などがあれば、文献にあたって復習してほしい。					
成績評価の方法・基準	コメントペーパー（30%）、小レポート（20%）、学期末試験（50%）。特別な理由なく欠席が 3 分の 1 を超えた場合は、受験資格を認めない。					
オフィスアワー	水 9・10 限。研究室（人文 A318）にて。					
担当教員からのメッセージ	コメントペーパーに記入してもらうことがあるので、積極的に疑問・感想などをよせてほしい。また、よせられた質問には、可能な限り講義で答えたい。					

授業科目名	中国言語文化各論Ⅱ					
担当教員名	張 盛開 (Shengkai Zhang)			所属等	学術院人文社会科学領域	
				研究室	人 A324	
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4	
キーワード	ことば、ふしぎ、エッセイ					
授業の目標	中国語を読みながら中国語を考え、ことばへの興味を引きだし、中国語の奥深さを実感する。					
学習内容	数字、外来語などから中国語の仕組みや不思議なところを学び、中国語力を磨く。					
授業計画	回 内容 1 ガイダンス 2 数字的活用 3 外来詞 4 月亮吃苹果 5 施事与受事 6 討論 7 恢復疲勞的爭論 8 下雨天、留客天 9 下 雨 了 的排列方式 10 討論 11 岐義是怎样產生的 12 用字成双 13 慢話 14 討論 15 総括					
受講要件	初級中国語履修済み					
テキスト	ことばのふしぎー中国語学読本一 相原茂・内田慶市 朝日出版 ISBN978-4-255-45250-0					
参考書	『現代漢語辞典』					
予習・復習について	授業中ではできるだけ中国語を使うので、受講者もそのつもりで予習や復習をしっかりと行ってから授業に臨むこと。					
成績評価の方法・基準	授業への取り組み 2割提出物 2割期末試験 6割					
オフィスアワー	火曜の昼休み					
担当教員からのメッセージ	留学生を歓迎します。					

授業科目名	フランス言語文化特論VI					
担当教員名	安永 愛 (YASUNAGA Ai)		所属等	学術院人文社会科学領域		
			研究室	人文 A 棟 5 2 5		
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4	
キーワード	マルグリット・デュラス、Hiroshima mon amour、アラン・レネ、文学と映画、災厄の表象					
授業の目標	マルグリット・デュラスの Hiroshima mon amour の folio 版 (Gallimard, 1960)を精読すると共に、本作を脚本としたアラン・レネ監督の映画 (邦題『二十四時間の情事』)も視聴し、文学と映画の相互関係や、人類史的な災厄の表象の問題について考察する。また、台詞を読み合う機会も設けたい。					
学習内容	仏領インドシナ生まれのフランス作家マルグリット・デュラス (1914-1996) の Hiroshima mon amour の folio 版 (Gallimard, 1960)を精読する。本テキストは、戦後十数年を経た広島を舞台に、フランス人女性と日本人男性との束の間の出会いを描いたものである。アラン・レネ監督により映画化されており、デュラスのテキストは脚本であると言えるが、この folio 版にはその他に、映画演出のための覚え書きも付されている。授業では、アラン・レネ監督の映画作品も視聴し、文学と映画の相互関係や、人類史的な災厄の表象の問題についても考察を深めていきたい。					
授業計画	回 内容 1 作者マルグリット・デュラスについて。作品 Hiroshima mon amour について アラン・レネ監督による映画化について 2 デュラスによるフランス語のシノプシスの精読 (1) 3 デュラスによるフランス語のシノプシスの精読 (2) 4 デュラスによる脚本第 1 部の精読 (1) 5 アラン・レネ監督『二十四時間の情事』視聴 6 デュラスによる脚本第 1 部の台詞の読み合わせ (2) 7 デュラスによる脚本第 2 部の精読 (1) 8 デュラスによる脚本第 2 部の台詞の読み合わせ (2) 9 デュラスによる脚本第 3 部の精読 (1) 10 デュラスによる脚本第 3 部の台詞の読み合わせ (2) 11 デュラスによる脚本第 4 部の精読 (1) 12 デュラスによる脚本第 4 部の台詞の読み合わせ (2) 13 デュラスによる脚本第 5 部の精読 (1) 14 デュラスによる脚本第 5 部の台詞の読み合わせ (2) 15 文学と映像について。災厄の表象について。					
受講要件	フランス語の学習歴 2 年以上。					
テキスト	初回の授業で Duras, Hiroshima mon amour (Gallimard, folio, 1960)を購入していただきます。					
参考書	マルグリット・デュラスの全作品、DVD アラン・レネ監督『二十四時間の情事』、写真集『Hiroshima 1958』(撮影エマニュエル・リヴァ、港千尋編集) 等。					
予習・復習について	デュラスのフランス語は、シンプルの中に哲学的で鋭角的な問いかけが込められています。文法的に正しい解釈は当然の前提として、その先の理解が求められます。何度も原文を反芻してみてください。また、台詞の部分については、感情を込めて読めるよう、しっかり練習しましょう。					
成績評価の方法・基準	授業での訳読・台詞の読み合わせや発言、期末レポートにより総合的に評価します。理由無く 3 回以上欠席した場合は、不可とします。					
オフィスアワー	初回の授業でお伝えします。					
担当教員からのメッセージ	本講義でデュラスの独特のフランス語表現に触れるとともに、文学と映画の相互関係について、また災厄の表象という倫理的な問題についても、関心を深めるきっかけとしていただきたいと思います。デュラスの脚本をもとに、別の表現を構想することも可能かも知れません。朗読会や上演会の企画につなげて良いかも知れません。皆さんの積極的な参与を期待しています。					

授業科目名	地方財政論Ⅱ					
担当教員名	川瀬 憲子 (KAWASE Noriko)		所属等	学術院人文社会科学領域		
			研究室	共通L棟409		
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火3・4	
キーワード	地方自治、地方分権、公共事業、まちづくり、地方税、課税自主権、住民参加、福祉社会、ローカルガバナンス、地域社会					
授業の目標	地方財政や地方分権、自治・参加のシステムがどのようにして発達し、いま、どのような改革が求められているのかといった諸課題に対して、分野別に国際比較の観点を交えながら、幅広い洞察力を培うことを目標としている。					
学習内容	現代日本の地方財政をめぐる課題に焦点を当て、財政学の方法論にしたがって、地方予算、地方経費、公共事業、社会福祉、地方税、地方交付税、国庫支出金、地方債などの個々のテーマごとに、制度と国際比較を交えながら解題していく。地方自治における住民参加などの課題に対しては、具体的な事例を元にわかりやすく説明を加えることにしている。					
授業計画	回 内容 1 ガイダンス 2 「分権改革」と地方財政をめぐる課題 3 地方予算論－ローカルガバナンスと財政民主主義 4 地方経費論①－国家の役割と地方経費 5 地方経費論②－日本の地域開発と地方財政 6 地方経費論③－民活型地域開発とまちづくり 7 地方経費論④－少子高齢社会と地域福祉 8 地方税論①－地方税の課税原則 9 地方税論②－個人住民税 10 地方税論③－法人住民税と法人事業税 11 地方税論④－固定資産税、その他の税 12 地方財政調整制度論（地方交付税論） 13 補助金論 14 地方債論 15 地方行財政改革をめぐって－住民自治と福祉社会の展望					
受講要件	毎回出席すること					
テキスト	川瀬憲子(2011)『「分権改革」と地方財政－住民自治と福祉社会の展望』自治体研究社					
参考書	宮本憲一・遠藤宏一編（2006）『セミナー現代地方財政Ⅰ』勁草書房、宮本憲一・鶴田廣巳(2008)『セミナー現代地方財政Ⅱ』勁草書房、川瀬憲子(2012)『アメリカの補助金と州・地方財政－ジョンソン政権からオバマ政権へ』勁草書房他					
予習・復習について	テキスト、参考書、新聞などをしっかりと読んでおくこと。					
成績評価の方法・基準	平常点(30%)と定期試験(70%)をもとに評価を行う。授業のまとめや小レポートを課す予定。					
オフィスアワー	オフィスアワー一覧を参照のこと。					
担当教員からのメッセージ	携帯電話の電源を切っておくこと。県立大学との単位互換：認める。科目等履修生：認める。難易度C					

授業科目名	ヨーロッパ文明史Ⅱ					
担当教員名	藤井 真生 (FUJII Masao)			所属等	学術院人文社会科学領域	
				研究室		
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6	
キーワード	ヨーロッパ中世、教会改革、人文主義、ルネサンス、印刷革命					
授業の目標	西洋中世史に関する専門的なテーマについて、その概要を理解するとともに、歴史を学ぶ意義を自分なりに考察することを目標とする。					
学習内容	中世後期から、ヨーロッパの民衆は自ら聖書を読むためにさまざまに努力した。その努力を支えたのが聖書の俗語訳であり、のちに宗教改革へと結実する。しかし、この訳業をさらに裏で支えていたのが人文主義による古典研究であった。人文主義（ルネサンス）は、教会（神）から人を自立させたという点だけが強調されがちであるが、実は両者は決して切り離せない密な関係を維持しながら発展した歴史的現象である。本講義では近世までを射程に入れて、ヨーロッパにおける知のあり方の変遷を紹介する。					
授業計画	回 内容 1 イントロダクション——中世ヨーロッパとキリスト教—— 2 繰り返される教会改革 3 民衆と聖書 4 皇帝カール4世の宮廷 5 説教師たちの活動 6 プラハ大学 7 フス派運動 8 コンスタンツ公会議 9 写本研究 10 フス派の兄弟団 11 人文主義教皇ピウス2世 12 エラスムスとルター 13 印刷革命 14 民衆文化と挿絵 15 まとめ					
受講要件	とくになし。					
テキスト	授業後に、スライド資料を学務情報システムで配信する。					
参考書	適宜紹介する。					
予習・復習について	できれば講義と並行して参考書に目を通しておいってください。					
成績評価の方法・基準	期末レポートおよび授業への貢献度（発言回数など）により評価します。					
オフィスアワー	月曜日午前					
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 難易度C 高校までの世界史教科書では異なる出来事として説明される二つの現象ですが、やはり同時代の社会でおこっていた事象であったことを理解してください。					

授業科目名	英語学概論					
担当教員名	大村 光弘 (OMURA Mitsuhiro)	所属等	学院院人文社会科学領域			
		研究室	人文 A 棟 4 2 7			
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6	
キーワード	生成文法、統語論、機能主義、意味論、語用論					
授業の目標	英語の統語論・意味論・語用論を中心に、英語学の基礎知識を学習する。					
学習内容	一様に言語学といっても様々な分析方法が存在する。英米言語文化コースで提供する言語学は、生成文法と呼ばれる分析方法である。授業は、生成文法の観点から、英語学の下位分野のそれぞれが解明しようとする言語学的トピックと、その方法論を学ぶ。					
授業計画	以下に示した授業計画に従って言語学（生成文法）の基礎知識を学ぶ。 1 ガイダンス＋統語論 1 2 統語論 1 3 統語論 1 4 小テスト 1＋統語論 2 5 統語論 2 6 統語論 2 7 統語論 2 8 小テスト 2＋意味論 9 意味論 10 意味論 11 意味論 12 小テスト 3＋語用論 13 語用論 14 語用論 15 語用論 16 小テスト 4					
受講要件	「英語学基礎読解」とあわせて履修するのが望ましい。					
テキスト	ハンドアウト					
参考書	必要に応じて適宜紹介する。					
予習・復習について	復習により重点を置いた学習を勧める。					
成績評価の方法・基準	4 回の小テストの結果（90％）＋平常点（10％）で評価する。欠席（30 分以上の遅刻は欠席 1 回とみなす）は 3 回までとする。					
オフィスアワー	火曜（12:00-13:00、事前に連絡を頂ければこれ以外の時間帯も可）連絡先メールアドレス：jjmohmu@ipc.shizuoka.ac.jp					
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B） 授業内容で理解できなかった事柄や疑問点をそのままにしないで、担当教員に質問するなどして理解を深めていってほしい。					

授業科目名	経済学説史					
担当教員名	田島 慶吾 (TAJIMA Keigo)			所属等	学術院人文社会科学領域	
				研究室	共通 L 棟 3 2 0	
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6	
キーワード	イギリス古典派経済学、アダム・スミス、マルクス、新古典派経済学、ケインズ					
授業の目標	アダム・スミス以降、経済学はどのような展開を見せてきたかを理解する。					
学習内容	イギリス古典派経済学(スミス、リカード) の経済理論、マルクスの資本主義批判、新古典派経済学の自由紫綬観、ケインズの経済政策論					
授業計画	回 内容 1 経済学における 3 つの理論ー自由市場の効率性と規範性ー 2 イギリス古典派経済学 1 (アダム・スミス) 3 イギリス古典派経済学(アダム・スミス) 4 スミスにおける経済と倫理 5 リカードの経済学 6 マルクスの経済学批判 1 7 マルクスの経済学批判 2 8 マルクスの思想と現代 9 新古典派経済学 1 10 新古典派経済学 2 11 新古典派経済学 3 12 ケインズの経済理論 1 13 ケインズの経済理論 2 14 ケインズは死んだか？ 15 まとめ					
受講要件	特になし					
テキスト	テキストは用いない。レジメを配布する。参考文献は適宜指示する。					
参考書	授業中に指示する。					
予習・復習について	予習は特に必要ない。数学の知識が若干必要。					
成績評価の方法・基準	学期末試験による。					
オフィスアワー	水曜日 1 7:3 0-1 8:3 0					
担当教員からのメッセージ	勉強しよう。					

授業科目名	ギリシア語Ⅱ					
担当教員名	田中 伸司 (TANAKA Shinji)			所属等	学術院人文社会科学領域	
				研究室	人文 A 棟 4 1 8	
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 7・8	
キーワード	古代ギリシア語、文法、統語法					
授業の目標	人文学領域の基礎である古代ギリシア語文法を学ぶ。					
学習内容	前期の「ギリシア語Ⅰ」のあとをうけて、「ギリシア語Ⅱ」では統語法を中心に学ぶことになります。ギリシア語ⅠおよびⅡを履修し終えたときには、簡単なギリシア語文献であれば、辞書を引き引き読めるようになっているはずです。					
授業計画	基本的には、「ギリシア語Ⅰ」と同様に、教科書の練習問題を解くことが授業の中心となります。なお、この授業で使用する教科書は日本ではごく一般的なものですが、やや分量が多いという側面があります。そこで、「ギリシア語Ⅱ」では 1 回で 3 課程度進むことがあります、その際には練習問題の量を加減するつもりです。 また、課が進んで行けば、テキストの練習問題だけではなく、簡単な文章にも触れるようにしたいと思います。 ☆なお、辞書・文法書などについては、下記の「参考文献」を読んでください。授業を受けるためには、教科書だけで十分です。					
受講要件	「ギリシア語Ⅰ」を履修していることを前提としています。もし履修していない場合には、「ギリシア語Ⅰ」で学習した範囲を、履修前に自分で学習しておくこと。					
テキスト	田中美知太郎・松平千秋著『ギリシア語入門 新装版』岩波書店(2012) ISBN 978-4-00-022589-2					
参考書	標準的な辞書としては Liddel & Scott revised by Jones, Greek-English Lexicon (Oxford UP,9 Rev Sub 版 (1996/08)ISBN978-0198642268) [Intermediate (ISBN0199102066) でも可]、文法書としては H. W. Smyth, Greek Grammar (Harvard UP,2nd ed.1984) ISBN978-0674362505)があります。					
予習・復習について	各課の練習問題を解くことが学習（予習と復習）の中心となります。					
成績評価の方法・基準	教科書の練習問題の回答をもとに採点					
オフィスアワー	月曜日 9・10 時限（14：25-15：55）					
担当教員からのメッセージ	1.県立大学単位互換（認める） 2.科目等履修生（認める） 3.難易度（B）ギリシア語を学んで自分でギリシア古典に触れるとき、古典と呼ばれる文献の美しさがわかります。					

授業科目名	比較文学概論Ⅲ (Advanced Studies in Comparative Literature and CultureⅢ)					
担当教員名	今野 喜和人 (KONNO Kiwahito)			所属等	学術院人文社会科学領域	
				研究室	人文 A 棟 4 2 5	
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 7・8	
キーワード	影響、比較、対比、文学理論、翻訳					
授業の目標	比較文学とはどのような学問なのか、主に芥川龍之介の作品群を例にとって、研究方法を紹介する。					
学習内容	芥川龍之介の作品を読みながら、比較文学研究の実際を学ぶ。					
授業計画	比較文学の様々な研究領域——影響、比較、対比、翻訳、文学理論等——について、主に芥川龍之介の作品を例に挙げて解説する。 授業ではまず予備知識無しに芥川龍之介の作品を読むことから始め、比較文学研究の実際を知ることで、その読みがどのように変化していくかに注目したい。 なお、翻訳研究については、いわゆるメディア間翻訳も扱い、小説の映画化の問題などについても触れる予定である。					
受講要件	特になし。					
テキスト	毎回プリントの形で配付する。英語のテキストもある。					
参考書	授業中に適宜紹介する。					
予習・復習について	配付したプリントを前もって（特に英語の場合など）読んできてもらうことがある。					
成績評価の方法・基準	学期末のレポートの他、授業へのレスポンスなどを度々書いて貰うので、それを参考にする。					
オフィスアワー	火曜 3・4 限。前もってメールでアポイントメントを取ることが望ましい。					
担当教員からのメッセージ	難易度 B					

授業科目名	翻訳論Ⅳ					
担当教員名	田村 充正 (TAMURA Mitsumasa)	所属等	学院院人文社会科学領域			
		研究室	人文 A 棟 321			
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	火 9・10	
キーワード	小説と映画、芸術間翻訳、詩学					
授業の目標	小説（言語芸術）と映画（映像芸術）の比較研究を試みる。共通項としての物語性に注目し、それがどのように語られるかをそれぞれのジャンルで検証する。					
学習内容	小説の物語論を常に参考にしながら、映像の詩学を考える。					
授業計画	日本映画を代表する映像作家小津安二郎の作品を論じたデヴィッド・ボードウェル著『小津安二郎 映画の詩学』（青土社）と欧米の映画作品を対象にその修辞学を整理したジェニファー・ヴァン・シル著『映画表現の教科書』（フィルムアート社）を解説する形式で講義を進める。 〈映画の文法〉を検証しながら、その破格としてあらわれる映像に分析の焦点をあわせ、以下の事項を軸に論じる予定である。 (1)ロー・アングル (2)ショット・サイズ (3)視線の行方 (4)連続編集 (5)映像の遊戯					
受講要件						
テキスト	コピーして配布する。					
参考書	講義が進行する過程で紹介する。					
予習・復習について	「授業計画」の欄にあげた二冊を読んでおくことで授業の理解は深まる。					
成績評価の方法・基準	出席と試験あるいはレポートで評価する。					
オフィスアワー	木曜日昼休み 研究室メールアドレス jjmtamu@ipc.shizuoka.ac.jp					
担当教員からのメッセージ						

授業科目名	日本語学概論Ⅱ (Introduction to Japanese LinguisticsⅡ)					
担当教員名	勝山 幸人 (KATSUYAMA Yukito)			所属等	学術院人文社会科学領域	
				研究室	人文 B 棟 519	
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2	
キーワード	日本語学、国語学、音韻史、文字史、日本語教育、いろはうた、五十音図、漢字、仮名					
授業の目標	日本語における音韻と文字・文体の歴史について学ぶ。					
学習内容	中一種免(国語)、高一種免(国語)、及び日本語教育能力検定試験の受験資格を取得する人は、必須科目となります。ただし、「日本語学概論Ⅰ」とあわせて 4 単位が必要となるので、注意してください。					
授業計画	日本語学概論Ⅱでは、おもに日本語の音韻と文字・文体の歴史について学びます。 1.まず、 世界四大文明と文字の発生というテーマから、言語における文字の役割と発達ということから始めます。とくに、中国における漢字の誕生と、漢字に対抗して周辺アジア諸国で作られた民族文字、及び我が国の万葉仮名をはじめとする仮名の発明から、その分化のプロセスについて学習します。 2. 文字と文体のかかわりという観点から、奈良時代の記紀歌謡から近代の言文一致まで、歴史的にざっと眺めてみることにします。 3. 万葉仮名の研究によって推定される上代の母音組織をはじめ、ハ行子音の変遷、ア行の「え」とヤ行の「え」、「お」と「を」の統合、撥音・促音・拗音、オ列長音、四つ仮名の変遷など、日本語の音韻について歴史的に辿ります。あわせて、音韻が仮名を使って表記する原理原則や、仮名遣いの歴史などについても学習します。 4. なお時間があれば、日本語のアクセント史にも及びたいと思います。					
受講要件	日本語学概論ⅠとⅡ合わせて 4 単位を必要とする人は、まず日本語学概論Ⅰを履修してから受講してください。					
テキスト	『日本語学要説』(ひつじ書房 1900 円＋税)の p.117-p.207 をテキストとします。					
参考書						
予習・復習について						
成績評価の方法・基準	出席(遅刻を含む)＋筆記試験					
オフィスアワー	水曜日 15:00～16:00					
担当教員からのメッセージ	はじめて学ぶ人にもよくわかるように、丁寧に説明します。ただ、語学ですから、一回でも休むと後がまるでわからなくなってしまいます。毎回きちんと出られる自信のない人は、はじめから履修しないでください。					

授業科目名	言語学原書講読Ⅲ (Readings in LinguisticsⅢ)					
担当教員名	熊谷 滋子 (KUMAGAI Shigeko)			所属等	学術院人文社会科学領域	
				研究室	人文 A 棟 4 3 0	
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2	
キーワード	レイシズム、メディア、からかいスペイン語、ディスコース（言説）、社会言語学					
授業の目標	このクラスでは、日常生活にある差別的表現の実態と影響について考えます。今回は、アメリカ社会におけるスペイン語話者に対する差別的表現を見ていきます。					
学習内容	アメリカ社会における差別表現は、アフリカ系アメリカ人に対するものについては広く研究がおこなわれてきましたが、今回は、スペイン語話者に対するものを見ていきます。英語文献を読みながら、実態とその影響について、受講生とともに考えていきます。その上で、日本社会における差別表現についても、検討していきたいと思います。					
授業計画	以下の視点を中心に、受講生とともに、英語文献を読みつつ、また、随時関連する日本語文献を参考にして、議論をしていきます。 1.The Persistence of White Racism 2.Language in White Racism: An Overview 3.The Social Life of Slurs 4.Gaffes: Racist Talk without Racists 5.Covert Racist Discourse: Metaphors, Mocking, and the Racialization of Historically Spanish-Speaking Populations in the United States 6. Linguistic Appropriation: The History of White Racism is Embedded in American English 7.Everyday Language, White Racist Culture, Respect, and Civility 以上の点を中心に、英文を読み解きながら、実態の理解を深めていきます。また、受講生には、日本社会における差別表現を扱った文献や具体例などを紹介してもらいます。					
受講要件	英語が読めることです。					
テキスト	Hill, J(2008) The Everyday Language of White Racism. Wiley-Blackwell（仮）最初の授業で確定します。					
参考書	随時、紹介します。					
予習・復習について	英語テキストの理解や関連文献などの収集と紹介などがあります。					
成績評価の方法・基準	関連文献の要約 3 0 %、英語文献の読み解き 3 0 %、期末レポート 4 0 %					
オフィスアワー	水曜日の昼休み					
担当教員からのメッセージ	差別表現の検討は、この表現が差別という、単純な列挙を目的とするものではありません。だれが、だれに、いつ、どこで、どんなふうに使うかという文脈が重要な要素となります。受講生と一緒に、その都度、考えていきたいと思います。					

授業科目名	世界経済論Ⅲ					
担当教員名	安藤 研一 (ANDO Kenichi)			所属等	学術院人文社会科学領域	
				研究室	共通 L 棟 4 0 8	
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2	
キーワード	地域経済統合、欧州連合、E U					
授業の目標	E Uにおける地域経済統合の進展と課題について学ぶ。簡単な四則演算，図表を用いることはあるが，高度な数学を使うことはしない。					
学習内容	欧州諸国は，E Uの下で経済主権の一部を共有しながら直面する課題に対処してきた。各国レベルでは解決が困難な問題を処理してきただけでなく，同時に加盟国間の緊張関係もまた醸成してきた。そうしたE Uにおける補完緊張関係を学ぶ。					
授業計画	概ね以下のようなテーマを取り上げながら，欧州経済統合の理解を深めるようにする。その際，理論と具体的現実の関係に留意しながら授業を進める。 1．欧州経済統合の背景。 2．第二次世界大戦前の欧州経済統合。 3．E U関税同盟，単一欧州市場の形成。 4．単一通貨，ユーロの導入と成果。 5．衡平性追求のためのE U財政の役割。 6．E U加盟国の拡大過程と意義。 7．E Uと残余世界との関係。 8．ユーロ危機の展開と展望。					
受講要件	世界経済論Ⅰについて受講していることが望ましい。					
テキスト	特に，指定しない。毎回の授業に合わせたレジメ・資料については，学務情報システムに随時アップする。					
参考書	『EU とは何か・国家ではない未来の形』中村民雄 信山社					
予習・復習について	学務情報システムにアップされたレジメ，資料を各自でダウンロードして活用すること。それと合わせて，新聞・テレビなどのニュースをフォローし，現在の世界経済でどのようなことが起きているのか，ということに関心を持ちながら授業に出席することが必要である。					
成績評価の方法・基準	出席は取らない。中間試験を課し，学期末試験の結果と合算の上で成績を評価する。中間試験，学期末試験では，論理的思考表現能力についてみる。単純な選択式の問題などは出さず，ある程度の文章を書くことを求める。					
オフィスアワー	金曜日 1630～17:30					
担当教員からのメッセージ	T P Pや日本 E U 間F T Aに見られるように，現在の世界経済はメガF T Aの時代とも言われています。このような状況の背景には，1990 年代から急速に進んだ地域主義の流れがあります。その最先端に位置するE Uを中心にして，現代世界経済の状況，背景，展開への問題意識を持ちながら本講義を受講することを期待します。					

授業科目名	哲学の歴史Ⅱ					
担当教員名	堂 圀 俊彦 (DOHZONO Toshihiko)			所属等	学術院人文社会科学領域	
				研究室	人文 A417	
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4	
キーワード	哲学、二元論、主観、客観、自然観、社会観、言語論的転回、間主観性、實在論					
授業の目標	近世から現代へと至る哲学史を通じて、哲学に関する基本的な概念を学ぶ。 これを通じて、現代の私たちにも影響を与えている思考法とその問題点を明らかにし、同時に解決に向けた取組を概観する。					
学習内容	「主観・自我から言語へ」という大きな流れの中に近世以降の主要な哲学者を位置づけつつ、その主要な学説を学ぶ。					
授業計画	授業計画 1.はじめに——現代の私たちにとって＜西洋近代＞とは何か？ 2.西洋近代における自然観の転換——科学革命とその影響、バイコン、ガリレオ、デカルト 3.西洋近代における社会観の転換——ホブズ、ロック、ルソー 4.超越神の削除——スピノザ哲学の衝撃 5.宇宙を映す鏡——ライプニッツのモナド 6.ヒュームとカントの認識論と道徳論 5.存在から生成へ——17 世紀から 19 世紀にかけての自然観・歴史観の転換 6.ロマン主義——ヘルダーリン、シェリング、ヘーゲル 7.生の躍動——ベルクソン 8.解釈学——ディルタイ、ガダマー 9.現代において共通善は可能か？——ヘーゲル、ミル、ノージック、ロールズ、サンデル					
受講要件	哲学の歴史Ⅰ履修者、哲学概論履修者が望ましい					
テキスト	特になし。					
参考書	教室で指示します。					
予習・復習について	配付されたプリントを予習・復習する。					
成績評価の方法・基準	8 回目に中間テストを、16 回目に最終テストを行います。それぞれ 50 点満点とし、両者の合計によって成績を付けます。なお、中間テストを除いた講義 14 回のうち、4 回以上欠席した場合、テストを受けられなくなります。（出席は毎回とります。）					
オフィスアワー	金曜：12:30-13:30（ただし必ず事前にアポイントメントを取って下さい。）					
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める）2. 科目等履修生（認める）3. 難易度（B）					

授業科目名	自己と関係の社会学					
担当教員名	荻野 達史 (OGINO Tatsushi)		所属等	学術院人文社会科学領域		
			研究室	人文C棟403		
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水3・4	
キーワード	自己、相互行為、演技と儀礼、感情管理、自己物語、社会的性格、個人化、再帰的自己、承認、自己決定					
授業の目標	人間・社会について、歴史・文化・制度といった様々な条件を考慮し、深く理解することができ、その理解をもとに地域社会や職場などの現場で、課題を見出しその解決に向けて活用できる力を修得すること。					
学習内容	社会学における自己論とそれと関係するコミュニケーションや社会変動に関する議論を学ぶ。まず、自己認識が形成される相互行為についての議論から始め、自己の仮構性や自己の政治性について言及していく。次に、その時代や社会を反映した社会的性格（行動指針や自己の評価基準に関わる）についての議論を概観し、より現代的な問題としての個人化社会における再帰的自己の問題を扱う。最後に承認、そして自己決定をめぐる問題についても検討する。					
授業計画	回 内容 1 ガイダンス 2 自己の認識と相互行為 3 相互行為における演技と儀礼 4 感情を管理すること 5 オーディエンスの分離と自己の多元化 6 物語としての自己 7 語られる自己の問題 8 社会的性格論の系譜① 9 社会的性格論の系譜② 10 個人化論と再帰的自己① 11 個人化論と再帰的自己② 12 統治性と心理主義化 13 承認に関する諸議論 14 承認の必要性和陥穽 15 自己決定とその社会的基盤					
受講要件	社会学概論を受講していることが望ましい。専門性はやや高く難易度は中程度である。					
テキスト	特に指定しないが、参考文献についてはリストを適宜配布する。					
参考書	アンソニー・エリオット『自己論を学ぶ人のために』世界思想社、片桐雅隆『自己の発見』世界思想社などが網羅的な参考書となる。					
予習・復習について	復習に力をいれて欲しい。講義の後は必ずノートを電子ファイル化し、思いついた疑問や意見も含めて書き留めていくことが理解と思考力を高めるだろう。比較的読みやすい文献も紹介するので、ぜひ各自で読み進めて期末レポートにも反映させて欲しい。					
成績評価の方法・基準	授業終わりに提出するアンケート（感想・疑問についての自由記述）の内容を20%、期末レポートを80%で評価する。					
オフィスアワー	初回にアナウンスする。					
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 毎回、授業の終わりにアンケートをとりませんが、次回の講義で15～20程度を使って回答します。疑問や質問を中心に、コンパクトに書いて下さい。					

授業科目名	人間環境論Ⅰ					
担当教員名	小松 かおり (KOMATSU Kaori)			所属等	学術院人文社会科学領域	
				研究室	人文C棟205	
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水3・4	
キーワード	文化人類学、生態人類学、農、自然、環境、生業、食、社会、グローバリゼーション					
授業の目標	「農」という営みを通して、人間と自然の関係、人間と人間の関係の多様性について学ぶ。					
学習内容	人間は、自然の中で生き、自然について認識し、自然を改変するなど、自然とさまざまな関係を結んでいる。その中で、自然から食糧を得る「農」という営みに注目し、人間と植物の関係、自然をめぐる人間と人間の関係、グローバリゼーションの中での「農」について学ぶ。					
授業計画	1. ガイダンス 農と農業 2. 農の多様性 焼畑・混作・根栽農耕 3. 有機農法の意義と疑問 4. 農の起源と歴史 5. 農と採集のあいだ 中間レポート提出 6. スーパーのニンジンなぜ同じ形をしているか 7. 焼畑と熱帯林 8. 農村と里山 農をめぐる社会関係 9. 学生による中間レポート発表 10. なぜ農が必要か 11. バナナの世界 12. 先進国から途上国への食糧輸出 13. 種は誰のものか 14. 国際支援と途上国の農 15. まとめ					
受講要件	文化人類学関係の講義を一つ以上履修していることを前提とする。					
テキスト	なし					
参考書	授業中に参考文献リストを配付					
予習・復習について	関連文献やDVDを紹介するので、受講後に興味を深めて欲しい。					
成績評価の方法・基準	中間レポート25%、最終レポート50%、授業中の提出物(5回)25%。中間レポートの発表によって加点。授業中の提出物3回の提出が、最終レポート提出の条件。					
オフィスアワー	火曜日 14:30-15:30。なるべく、事前にメール(jkkomat●ipc.shizuoka.ac.jp)で連絡のこと。					
担当教員からのメッセージ	中間レポートの中からいくつかを授業中に発表してもらいます。1. 県立大学単位互換(認めない) 2. 科目等履修生(認める) 3. 難易度(B)					

授業科目名	中国言語文化各論 V					
担当教員名	埋田 重夫 (UMEDA Shigeo)			所属等	学術院人文社会科学領域	
				研究室	人文 A 棟 5 1 8	
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4	
キーワード	随筆、史伝、写実、漢語、版本、白文、魯迅、老舍、欧陽脩					
授業の目標	1. 中国の随筆文学に親しむ。 2. 現代中国語と古典中国語の読解力を養成する。 3. 中国文学における文言と白話の関係性について考察する。					
学習内容	三千年の歴史を持つ中国文学史には、様々な分野の作品が蓄積されている。今年度の授業では、随筆文学の諸作品を集中的に読んでみたい。最初は近代文学を代表する老舎と魯迅に関連するものを扱い、その後に中国古典文学の中から著名な文章を読み進めることになる。現代語から古典語に到る総合的な漢語の養成に努めたい。					
授業計画	中国随筆文学を読む この授業は、以下の事項に言及しながら進められる。何れも中国学を扱う上で必須の基礎知識である。 1. ガイダンス 2. 文言と白話 3. 発音と節奏 4. 句と読 5. 漢字の形音義 6. 虚字と実字 7. 本義と引申義 8. 本文と訓詁 9. 書誌学 10. まとめ					
受講要件	中国語文献を扱うので、中国語履修者が望ましい。					
テキスト	プリント教材（授業開始時に配布する）					
参考書	小川環樹・新字源（改訂版）・角川書店 *古典中国語の辞書として推薦する。					
予習・復習について	輪読・精読の授業形式を採用するため、毎回の授業にあたっては、受講者全員の予習が必要になる。					
成績評価の方法・基準	1. 出席状況（担当率・発言率など） 2. 試験を予定している。 3. 小課題など。					
オフィスアワー	月曜日の昼休み 1 2 時から 1 2 時 4 5 分まで。＊事前に連絡が必要（メールアドレス参照）					
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 難易度（B）完全な演習形式で行うが、一部講義方式を取り入れる。					

授業科目名	アメリカ文学文化各論 I					
担当教員名	レッドフォード (Redford Steven Wade)			所属等	学院院人文社会科学領域	
				研究室	人文 A 棟 4 2 7	
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4	
キーワード	America、 contemporary 、fiction、 discussion、 presentation、 atomic bomb、					
授業の目標	To develop, at a high level, the ability to read, analyze, and discuss important works of American fiction. To develop an understanding of postmodern thinking and of post-World War II American culture.					
学習内容	Students will read, analyze, and discuss Kurt Vonnegut's SLAUGHTERHOUSE-5, published in 1969. Students will also read a few (short) chapters of Vonnegut's CAT'S CRADLE and give an oral presentation about them. Background information related to cultural and historical matters related to the novels will also be presented.					
授業計画	Schedule*: 1. Course Introduction 2. SLAUGHTERHOUSE-5, Chapter 1 (pp. 1-3) 3. SLAUGHTERHOUSE-5, Chapter 1 (pp. 4－22) 4. SLAUGHTERHOUSE-5, Chapter 2 (pp. 23－38) "So it goes."まで 5. SLAUGHTERHOUSE-5, Chapter 2 (pp. 38－51) 6. SLAUGHTERHOUSE-5, Chapter 3 (pp. 53－71) 7. SLAUGHTERHOUSE-5, Chapter 4 (pp. 72－86) 8. SLAUGHTERHOUSE-5, Chapter 5 (pp. 87－112) "miles away" まで 9. SLAUGHTERHOUSE-5, Chapter 5 (pp. 112－135) 10. SLAUGHTERHOUSE-5, Chapter 6 (pp. 136-153) 11. SLAUGHTERHOUSE-5, Chapter 7 (pp. 154－161) 12. SLAUGHTERHOUSE-5, Chapter 8 (pp. 162－181) 13. SLAUGHTERHOUSE-5, Chapter 9 (pp. 182－209) 14. SLAUGHTERHOUSE-5, Chapter 10 (pp. 210－214) 15. Review, Final Discussion 16. TEST * = schedule is subject to change, and will include student presentations on CAT'S CRADLE					
受講要件	英語による読解、ディスカッション、プレゼンテーションに、積極的に取り組むことが前提となる。					
テキスト	SLAUGHTERHOUSE-5 (Kurt Vonnegut) ISBN 0－440－18029－6 (PUBLISHER: Dell)					
参考書	適宜授業時に紹介する。					
予習・復習について	Weekly reading and study questions are required preparation for each class.					
成績評価の方法・基準	Final test is 50% of final grade. Weekly reading quizzes, 25%; classroom participation, 15%, presentation, 10%.					
オフィスアワー	Thursday, 10:20 - 11:50, and by appointment, e-mail: jrsteve@ipc.shizuoka.ac.jp					
担当教員からのメッセージ	A strong willingness to participate in English is appreciated.					

授業科目名	ミクロ経済学Ⅱ (MicroeconomicsⅡ)																																					
担当教員名	山下 隆之 (YAMASHITA Takayuki)	所属等	学術院人文社会科学領域																																			
		研究室	共通 L 棟 3 1 2																																			
分担教員名																																						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択																																
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4																																	
キーワード	経済理論、ミクロ経済学、消費者行動、独占、寡占																																					
授業の目標	市場メカニズムの意義について考察します。市場メカニズムで解決できない問題に関しては、代わる解決策を考えます。現代の経済問題を理論的に分析する力を養ってもらいたいと考えています。併せて、地方上級公務員試験レベルのミクロ経済学の問題を解ける力を身に付けてもらいたいと思っています。																																					
学習内容	1 年次の「ミクロ経済学Ⅰ」に引き続いて、ミクロ経済理論を学習します。消費者行動の理論と不完全競争の理論に関して、中級レベルの内容を学びます。																																					
授業計画	<table><tr><td>回</td><td>内容</td></tr><tr><td>1</td><td>オリエンテーション</td></tr><tr><td>2</td><td>近代経済学の歴史</td></tr><tr><td>3</td><td>消費者行動の理論 (1)</td></tr><tr><td>4</td><td>消費者行動の理論 (2)</td></tr><tr><td>5</td><td>消費者行動の理論 (3)</td></tr><tr><td>6</td><td>消費者行動の理論 (4)</td></tr><tr><td>7</td><td>消費者理論の応用</td></tr><tr><td>8</td><td>独占の理論 (1)</td></tr><tr><td>9</td><td>独占の理論 (2)</td></tr><tr><td>10</td><td>独占の理論 (3)</td></tr><tr><td>11</td><td>寡占の理論 (1)</td></tr><tr><td>12</td><td>寡占の理論 (2)</td></tr><tr><td>13</td><td>寡占の理論 (3)</td></tr><tr><td>14</td><td>寡占の理論 (4)</td></tr><tr><td>15</td><td>独占的競争の理論</td></tr></table>						回	内容	1	オリエンテーション	2	近代経済学の歴史	3	消費者行動の理論 (1)	4	消費者行動の理論 (2)	5	消費者行動の理論 (3)	6	消費者行動の理論 (4)	7	消費者理論の応用	8	独占の理論 (1)	9	独占の理論 (2)	10	独占の理論 (3)	11	寡占の理論 (1)	12	寡占の理論 (2)	13	寡占の理論 (3)	14	寡占の理論 (4)	15	独占的競争の理論
回	内容																																					
1	オリエンテーション																																					
2	近代経済学の歴史																																					
3	消費者行動の理論 (1)																																					
4	消費者行動の理論 (2)																																					
5	消費者行動の理論 (3)																																					
6	消費者行動の理論 (4)																																					
7	消費者理論の応用																																					
8	独占の理論 (1)																																					
9	独占の理論 (2)																																					
10	独占の理論 (3)																																					
11	寡占の理論 (1)																																					
12	寡占の理論 (2)																																					
13	寡占の理論 (3)																																					
14	寡占の理論 (4)																																					
15	独占的競争の理論																																					
受講要件	ミクロ経済学Ⅰ・経済数学Ⅰを履修済みでないと、単位取得は難しいでしょう。																																					
テキスト	浅利一郎・山下隆之著『はじめよう経済数学』日本評論社、2003年。																																					
参考書	必要に応じて紹介します。																																					
予習・復習について	予習…テキストを読むこと。復習…授業時間の2倍を目安として、例題や多くの練習問題を解いて下さい。(学生便覧の人文学部規則第6条を参照。)																																					
成績評価の方法・基準	学期末の筆記試験 (100%)																																					
オフィスアワー	水曜日 12:10-12:45 (通年), 研究室 (L312)																																					
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換 (認める) 2. 科目等履修生 (認める) 3. 難易度 (B)																																					

授業科目名	財政学Ⅱ (Public FinanceⅡ)					
担当教員名	櫻井 良治 (SAKURAI Ryoji)			所属等	学術院人文社会科学領域	
				研究室	共通 L 棟 4 1 3	
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4	
キーワード	21 世紀の財政健全化問題、望ましい税制改正、税の公平と消費税増税問題、日本の税制、特に消費税の仕組み、高齢化の進展と社会保障経費の増加、老人医療費、介護保険費用、年金経費の増加、消費税の公平性と「逆進性」問題、消費税の税負担「転嫁問題」と最終負担者、消費税「逆進性」解消のための必需品税率軽減、消費税「逆進性」解消のための低所得者税額還付問題					
授業の目標	国家財政制度の基本構造を学び、政府が抱える財政赤字、税制、社会保障、国債累積などの財政上の諸問題を学ぶ。21 世紀の高齢化社会に向けた税制改革、特に消費税増税問題について、詳しく学ぶ。財政学の授業内容は、国家・地方の公務員試験の頻出問題となっているので、役立つ。ただし、授業内容は学術的な項目が中心であり、公務員試験対策の基礎にすぎない。試験内容やその具体的な対策等には最小限しか言及しないので、留意すること。					
学習内容	データ・図表を活用し、現代日本の財政問題、特に社会保障と財源としての税制改革を理解できるように努める。財政学は、公務員試験の基礎となる知識が多い。ただし、大学の学術的な授業なので、試験問題は取り扱わない。以下の授業計画は大まかな見通しであり、経済情勢の変化や受講者の関心度合いにより変更がある。					
授業計画	※ テキストは必携である。テキストなしでは理解できななので、必ず入手すること。 財政学は専門用語が多いので、毎回テキストを読んで、予習・復習が必須である。 必要に応じて、財務省の統計資料や国税庁の制度解説等を学務情報システムにアップする。多忙で、印刷・配布はできないので、各自がダウンロードして、持参すること。画像資料等で、ネットにアップできない資料があれば、印刷して配布することもありうる。 ※ 以下は学ぶ授業計画の概要である。経済情勢の変化や政府の税制改正の流れに沿って、実施順序が変わったり、特定の項目を深めたり、新しい課題を学んだりすることがある。 ※ 近年では、学生と相談したうえで、授業の合間に、学生有志によるレジュメ報告を交えて授業を進めている。 回 内容 1 ガイダンスー半期の授業計画と実施方法ー 2 テキストはしがき「日本の税制の体系と消費税の役割」 ※ 以下の項目は、テキストの目次に沿って記述している。 3 税体系におけるタックス・ミックスによる役割分担 ー所得税と消費税のそれぞれの特徴ー 4 長年の政権選択を左右した増税政策の行方 平成元年、竹下内閣による 3 % 消費税の導入前後の時期 5 長年の政権選択を左右した増税政策の行方 橋本内閣の 5 % 増税、第二次安倍内閣の 8 % 増税の時期 6 現代日本の税制と税の公平理論 ー税の垂直的公平（所得課税）と水平的公平（消費課税）ー 7 前半授業のまとめの「論述テスト」項目指定方の記述試験 ーテキスト持込可として、40 % の配点とする予定。ー 8 21 世紀の望ましい税制改革の展望 所得税、相続税、法人税等も含めた主要税目全体の公平性 9 高齢化に伴う社会保障経費の自然増問題 ー厚生省の統計資料を元に将来の経費増大を論じるー 10 三つの増税理由ー社会保障財源、財政再建、震災復興ー 特に老人医療費、介護費用、年金受給者増加 11 少子化対策としての若年層の子育て支援策 保育所不足解消、子育て経費支援、女性労働等のライフワークバランス等 12 消費税の公平性に関する要点 「逆進性」のより深い理解と「益税」問題の本質 13 21 世紀を代表する税制、特に消費税の役割 ー税収の歳入だけでなく、社会保障の歳出も含めた公平ー 14 2017 年 4 月、消費税 10 % 増税時の望ましい税の姿 ー必需品税率軽減措置と低所得者税額還付制度の選択ー					

	15 授業全体のまとめとの「論述テスト」－項目指定方の記述試験－ テキスト持込不可として、60%の配点とする予定。－
受講要件	テキストは必携とする。新聞やテレビの報道をよく見て、社会の動向に関心があり、質問や応答の出来る学生を歓迎する。
テキスト	桜井良治著『消費税ほど公平な税はない』文真堂、2013年刊行、定価 2400 円＋税（割引提供に努める） ※ 過去に使用したテキストも、万一残部があれば、適切な使用方法と希望者への提供方法を考慮して、連絡する。
参考書	桜井良治著『コスト大国日本の財政』勁草書房、2005年刊行。『最新版（平成 27 年度版）図説日本の財政』東洋経済新報社『最新版（平成 27 年度版）図説 日本の税制』財経詳報社※ 公務員試験対策としては、『基礎コース財政学』（最新版）林宣嗣 サイエンス社
予習・復習について	財政学は専門用語が多いので、テキストをよく読むための予習・復習を要する
成績評価の方法・基準	試験は予告したうえで、授業期間の真ん中と最終回の2回、授業中に小テスト形式で実施する予定。記述項目指定の論述試験であり、知識や認識の深さを問う。考え方や記述内容は自由とする。出題範囲は、授業内容すべて。具体的には、テキスト（進んだ範囲と関連箇所）、口頭説明内容、配布資料、黒板の記載事項等を含む。※ 授業中に学生報告を実施した場合には、報告内容を評価して加点する。
オフィスアワー	月曜日の7. 8時限
担当教員からのメッセージ	社会保障制度改革は元より、将来の税制改正、特に消費税増税問題に関心のある受講生を歓迎する。ミクロ、マクロ、政策関係の授業を習得していれば、より分かりやすく学べると思われる。

授業科目名	情報経済学Ⅱ (Information of economicsⅡ)					
担当教員名	石橋 太郎 (ISHIBASHI Taro)			所属等	学術院人文社会科学領域	
				研究室	共通 L 棟 4 1 5	
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	水 5・6	
キーワード	ゲームの理論、経済理論、人間行動					
授業の目標	上記に挙げたキーワードを中心として展開される経済学(応用ミクロ経済学) の基本的理論の概要について理解することを目標とする。					
学習内容	本講義では、ゲームの理論の基礎を説明し、その応用としての経済理論を解説する。併せて、経済以外の社会的人間行動行についてもゲームの理論でどのように説明されるか解説する。					
授業計画	以下の 6 項目について講義を行う予定である。なお、1 項目当たり、講義 2 回から 3 回を予定している。 1. 完全情報と戦略形ゲーム 2. 完全情報と展開形ゲーム 3. 不完全情報とゲーム 4. ゲーム理論と経済理論 5. 民主主義とゲーム理論 6. 社会的関係とゲーム理論					
受講要件	必ずしも受講要件ではないが、ミクロ経済学、経済数学、統計学をすでに履修済みが望ましい。					
テキスト	特に、指定しない。					
参考書	岡田章『ゲーム理論・入門 人間社会の理解のために』有斐閣渡辺隆裕『ゼミナール ゲーム理論入門』日本経済新聞社武藤滋夫『ゲーム理論入門』日経文庫					
予習・復習について	復習に力を入れ、不明な点はすぐに質問するように心がけてください。					
成績評価の方法・基準	11 月下旬の中間テスト 50%、期末テスト 50%で評価します。					
オフィスアワー	水曜日 12 ; 00 から 12 : 45					
担当教員からのメッセージ	オフィスアワー以外の時間に質問に来たい人は、次のメールアドレスに連絡をしてもらえれば調整します。jetishijp@gmail.com メールだけでの質問も構いません。メールで返答します。					

授業科目名	社会保障論Ⅱ					
担当教員名	李 蓮花 (LI Lianhua)			所属等	学術院人文社会科学領域	
				研究室		
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	水 5・6	
キーワード	社会保障、福祉、福祉国家、少子高齢化、国際比較、東アジア					
授業の目標	現代社会で欠かせない社会保障制度の歴史、理念および主な制度の仕組みを学び、グローバルな視点から日本の社会保障の特徴と課題を理解します。					
学習内容	社会保障論Ⅱでは、雇用保障、年金、介護、居住保障、社会的サービスについて学びます。その後、東アジアの社会保障や民間保険を通して、異なる視点から日本の社会保障を再考します。					
授業計画	回 内容 1 雇用保障 (1) 2 雇用保障 (2) 3 年金 (1) 4 年金 (2) 5 介護保障 (1) 6 介護保障 (2) 7 居住保障 8 社会福祉サービス 9 東アジアの社会保障：全体像 10 東アジアの教育、雇用と少子化 11 東アジアの貧困と最低生活保障 12 東アジアの医療保障 13 東アジアの高齢化と年金・介護 14 生活保障のなかの民間保険 15 復習					
受講要件	社会保障論Ⅰとあわせて履修することが望ましいです。					
テキスト	指定なし（配布する資料を使用します）					
参考書	椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（第10版），有斐閣，2013年，2319円；宮本太郎『生活保障』，岩波新書，2009年，840円					
予習・復習について	事前に資料に目を通してください。					
成績評価の方法・基準	出席 30%、レポート 30%、定期試験 40%					
オフィスアワー	水曜日 14：30～15：30（それ以外の時間は事前にメールでアポを取ってください）					
担当教員からのメッセージ	年金や雇用など生活と密接に関連する諸制度について、国際比較や映像などを通じて多面的に、体系的に学べます。					

授業科目名	臨床心理学 I					
担当教員名	江口 昌克 (EGUCHI Masakatsu)		所属等	学術院人文社会科学領域		
			研究室	人文学部 B 棟 5 0 4 室		
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 7・8	
キーワード	臨床心理学的援助、適応と不適応、実践					
授業の目標	人間援助の学問としての臨床心理学について基礎的な知識を得る。					
学習内容	臨床心理学は、人間の心まつわる諸問題の理解と援助に関する学問である。この授業では、臨床心理学の歴史的背景、基礎となる理論、領域と対象、援助の実際、研究の現状について学ぶ。					
授業計画	1. 臨床心理学とは何か 2. 歴史的背景 3. 基礎となる理論 4. 実践の領域 5. 心理アセスメント 6. 援助の対象（1）：発達臨床 7. 援助の対象（2）：疾患と障害 8. 援助の対象（3）：家族・コミュニティにおける諸問題 9. 援助の方法と過程（1）：源流としての催眠 10. 援助の方法と過程（2）：力動論的アプローチ 11. 援助の方法と過程（3）：行動論的アプローチ 12. 援助の方法と過程（4）：人間論的アプローチ 13. 援助の方法と過程（5）：システム論的アプローチ 14. 臨床心理学の研究 15. 臨床心理学の倫理					
受講要件	心理学概論、基礎心理学を受講していることが望ましい。					
テキスト	とくに指定しない（資料を配布する）。					
参考書	下山晴彦（編）『よくわかる臨床心理学』（ミネルヴァ書房）。下山晴彦・丹野義彦（編）『講座臨床心理学』（東京大学出版会）全 6 巻。その他、そのつど指示する。					
予習・復習について	各テーマについて発展的に参考書等により予習・復習すること。					
成績評価の方法・基準	授業毎の小レポート（30％）と最後の筆記試験（70％）により評価する。					
オフィスアワー	水曜日 3・4 時限					
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（ 認める ） 2. 科目等履修生（ 認める ）単なる知識の習得ではなく、その知見が得られた背景にも思いをめぐらせつつ、積極的に自分の頭と心を働かせながら講義に参加することを期待する。					

授業科目名	イギリス文学文化各論Ⅱ					
担当教員名	久木田 直江 (KUKITA Naoe)			所属等	学術院人文社会科学領域	
				研究室	人文 A 棟 4 2 9	
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	水 7・8	
キーワード	身体論、図像学、西洋中世医学と医療の文化史、キリスト教、ジェンダー論					
授業の目標	西洋中世の宗教と医学を学び、「いかに生きるか」と同時に、「いかに老い、病み、死ぬか」という人間学的テーマを複眼的に捉える視座を築く。					
学習内容	この講義では、病気、健康、生、死などの問題について、キリスト教会の考え方が大きな影響を与えた中世末のヨーロッパ社会に焦点を当て、人びとが病をどのように捉え、病気の治癒、暮らしの改善のためにいかなる手段を講じたか、文化史の観点から学ぶ。					
授業計画	キリスト教の基本的知識を図像資料を用いて確認し、その後、以下のトピックを扱う。 1. 身体と魂の治療：(1) 医師キリストと聖母マリア (2) 修道院の医学 2. 聖人崇拝：奇跡と巡礼の文化 3. ギリシャ・ローマ医学とアラビア医学の継承 4. 身体と宇宙 5. 職業医と薬剤師 6. 健康な心と身体：健康規範（養生訓） 7. ペストの襲来：危機管理と環境の改善 8. 中世の病院：身体のケアと魂のケア 9. 中世文学のなかの医学・医療 10. ルネッサンス・近世の身体論					
受講要件	英語力を十分に備えていること。					
テキスト	英語か日本語の資料を用意します。					
参考書	久木田直江『医療と身体を図像学 宗教とジェンダーで読み解く 西洋中世医学の文化史』知泉書館、2014 年					
予習・復習について	予習は必須。					
成績評価の方法・基準	出席、発表、試験を総合して判断する。					
オフィスアワー	水曜日 11：50－12：40					
担当教員からのメッセージ	質問や相談などがあるときは、メールでアポイントメントをとってください。					

授業科目名	比較文学各論Ⅲ					
担当教員名	花方 寿行 (HANAGATA Kazuyuki)		所属等	学術院人文社会科学領域		
			研究室	人文 A 棟 5 1 5		
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 9・10	
キーワード	比較文学、比較文化、西洋史、欧米文学、映画					
授業の目標	比較文学の切り口で国境・ジャンル横断的な芸術作品群を論ずる方法を身につける。					
学習内容	「吸血鬼・ヴァンパイア」をテーマに、その民俗学的な伝承を出発点に、19 世紀に西欧文学に取り入れられるようになってから現代にいたる文学・映画・マンガでのイメージの変遷を追い、そのヨーロッパおよび世界史的な背景がいかに表象に影響を及ぼしているかを学ぶ。					
授業計画	回 内容 1 イン트로ダクション。 2 民俗学的吸血鬼① 埋葬からの考証。「吸血鬼現象」は科学的に説明できるか。 3 民俗学的吸血鬼② 語源からの考証。吸血鬼には何が託されてきたか。ヨーロッパにおける死生観。 4 18-19 世紀における文学文化への移行。ヴォルテール、バイロンを経て西ヨーロッパで普及。バイロンの主人公。 5 「宿命の女」としての女吸血鬼たち。カゾット、ゴーティエ、レ＝ファニュ。 6 ストーカー『ドラキュラ』の登場① 吸血鬼イメージの固定化。 6 ストーカー『ドラキュラ』の登場② シャーロック・ホームズ、ウェルズ『宇宙戦争』との関係。 7 吸血鬼の舞台化・映像化。ムルナウ監督『ノスフェラトゥ』。 8 吸血鬼の映像化② 『魔人ドラキュラ』『吸血鬼ドラキュラ』によるイメージの確立。 9 パロディ化される吸血鬼。ドラキュラのキャラクター化。ロマン・ポランスキー監督『吸血鬼』、『処女の生血』。 10 吸血鬼からゾンビへ。マシスン『アイ・アム・レジェンド』による転換。ウィンダム『トリフィド時代』。 11 70 年代におけるゾンビの普及。ゾンビとはそもそも何か。『アイ・アム・レジェンド』の影響と吸血鬼とゾンビの「混同」、「分化」。 12 女性の描く耽美的なヴァンパイアの登場。萩尾望都『ポーの一族』、アン・ライス『インタビュー・ウィズ・ヴァンパイア』。 13 80-90 年代、モダン・ホラー流行期における一般的キャラクターとしてのヴァンパイアとゾンビ。キング、マキャモン、シモンズ。 14 21 世紀、「人間」の一種としてのヴァンパイアとゾンビ。『ブレイド』シリーズ、『トワイライト』サーガ、『僕のエリ』。 15 まとめ。					
受講要件	日本語以外の外国語能力は特に要求しないが、積極的に自分から関係する作品を読んだり見る心構えができていることが望ましい。					
テキスト	コピー配布。					
参考書	授業で言及、あるいはレジュメで紹介する。					
予習・復習について	比較的入手しやすい作品を扱う授業なので、事前に積極的にヴァンパイアに関する小説や映画、コミックを読んだり見たりしておくこと。また授業で示された切り口が自分でも応用できるよう、復習もしっかり行うこと。					
成績評価の方法・基準	出席 7 0 %、期末レポート 3 0 %。					
オフィスアワー	月曜 14：30-16：00、花方研究室（人文 A515）にて。ただし確実を期すために、必ず事前にメールでアポを取る こと。					
担当教員からのメッセージ	授業を受け身で聞くのではなく、積極的に作品の読解に取り組んでください。					

授業科目名	仏会話・作文Ⅱ (French Oral Expression and WritingⅡ)					
担当教員名	コルベイク (CORBEIL STEVE)			所属等	大学教育センター	
				研究室	人文社会科学部A棟325	
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水9・10	
キーワード	会話、作文					
授業の目標	本授業では、50語から100語程度、様々なテーマについての作文（エッセイ、意見文、手紙など）をフランス語で書けるようになることを目標とする。					
学習内容	各授業で提示するトピックについてまず、クラス内でフランス語を使って簡単な会話をしてトピックに関連する語彙・表現などを掘り起こす。会話練習の後、同じトピックについて書く作業を段階的に進める。始めに、作文に有効な文型や表現を導入し練習を行う。徐々に長い作文を書く。適宜、教師は添削を行う。学期末には、作文集としてまとめる。					
授業計画	回 内容 1 前期の復習 2 Nous vous rappellerons 3 L'entretien 4 Égalité! 5 Un job? 6 Et la salle de bain? 7 Citoyens 8 Projet d'urbanisme 9 Cohabiter 10 C'est pas possible! 11 Pub magazine 12 Pub radio 13 Biennale 14 La culture pour tous 15 L'actu des régions					
受講要件						
テキスト	Marie-José Lopes, Jean-Thierry Le Bougnec, Totem 2 méthode de français A2, Hachette, 978-2-01-156055-1					
参考書						
予習・復習について						
成績評価の方法・基準	授業への参加、宿題（30％）テスト（70％）					
オフィスアワー	月曜日の14：30～16：00					
担当教員からのメッセージ						

授業科目名	臨床社会心理学 I					
担当教員名	橋本 剛 (HASHIMOTO Takeshi)			所属等	学院院人文社会科学領域	
				研究室	人文 A 棟 4 1 1	
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4	
キーワード	臨床社会心理学、自己概念、自尊心、自己制御、援助行動、ソーシャルサポート、心理社会的ストレス、ウェル・ビーイング、文化、リスク					
授業の目標	臨床社会心理学の基本的知識と探究方法を身につけ、それを地域社会や職場などの現場で活用できる力を修得する。また、そのために必要な論理的思考力、情報リテラシー、協働的対人能力を修得する。					
学習内容	近年、臨床心理学と社会心理学の融合領域である「臨床社会心理学」への注目が高まりつつある。本講義では、これらの領域における主要な知見を概観し、臨床実践における社会心理学的観点の有用性・可能性について理解するとともに、臨床活動や適応行動もまた社会的な営みであり、それらが双方向的に影響を及ぼし合うというダイナミクスの包括的理解を目指す。					
授業計画	回 内容 1 臨床社会心理学とは 2 自己概念と適応 3 自己意識と自己制御 4 自尊心と適応 5 自己表出と適応 6 原因帰属と適応 7 援助行動と援助要請 8 ソーシャル・サポート（1） 9 ソーシャル・サポート（2） 10 対人ストレスと社会的排斥 11 心理社会的ストレス 12 ウェル・ビーイングとポジティブ心理学 13 社会・文化と適応 14 リスクと社会心理学 15 まとめ					
受講要件	心理学概論の履修を前提として授業を進めるので、未履修者は必要に応じて補足学習すること。					
テキスト	必携テキストは指定しないが、参考書として挙げた文献をサブテキストとして積極的に学習を深めることを推奨する。					
参考書	谷口弘一・福岡欣治（編著）『対人関係と適応の心理学』北大路書房、橋本 剛『大学生のためのソーシャルスキル』サイエンス社、坂本真士・佐藤健二（編）『はじめての臨床社会心理学』有斐閣、吉田俊和・橋本 剛・小川一美（編著）『対人関係の社会心理学』ナカニシヤ出版、その他随時紹介する。					
予習・復習について	各トピックの詳細については、参考文献等を活用して積極的に予習・復習することを推奨する。					
成績評価の方法・基準	試験は試験期間中に筆記試験（テキスト、レジュメ、ノートいずれも持ち込み不可）を実施する。その得点を基準点として、さらに平常点（受講態度・小レポート・心理学研究への任意協力等）を加味したものを最終評価とする。詳細については初回授業時に説明する。					
オフィスアワー	水曜日 3・4 限を予定。					
担当教員からのメッセージ	1．県立大学単位互換（ 認める ） 2．科目等履修生（ 認める ） 3．難易度（B）社会心理学の全体像を理解するために、隔年開講の「社会心理学Ⅰ」「社会心理学Ⅱ」とセットで受講することが望ましい。					

授業科目名	英語学各論 I (Topics in English Linguistics I)					
担当教員名	大村 光弘 (OMURA Mitsuhiro)	所属等	学術院人文社会科学領域			
		研究室	人文 A 棟 4 2 7			
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4	
キーワード	認知文法、意味論、語用論、メタファー					
授業の目標	認知言語学の基礎と応用例を学ぶとともに、2 年次に英語学概論で学んだ生成文法と比較する。					
学習内容	1. 認知文法の基本的な見方を他の文法あるいは言語理論と比較することによって、その本質を明らかにする。 2. 認知文法の基本的な記述原理であるスキーマと事例の関係をみる。 3. メタファーに関わる近年の動向と成果を見る。					
授業計画	1. 認知文法の考え方 (1) 認知文法と認知言語学 (2) シンボルとは何か？ (3) 音と意味のシンボル 2. 認知文法の方法 (1) スキーマ (2) 意味の弾性 (3) 関係のプロファイル 3. 文 (1) 語 (2) テンスとアスペクト (3) 節 4. メタファー論					
受講要件	既に「英語学概論」、「英語学基礎読解」を履修していることが望ましい。					
テキスト	認知文法のエッセンス、ジョン・R・テイラー&瀬戸賢一（著）、大修館書店。					
参考書	必要に応じて適宜紹介する。					
予習・復習について	予習（テキストを読んでおく）が必要となる。数回（3～4）の小テストがあるので、小テストのための復習が必要となる。					
成績評価の方法・基準	小テストの結果に基づいて評価する。5 回の欠席で受講資格を失うものとする。尚、30 分以上の遅刻 2 回で欠席 1 回と見なす。					
オフィスアワー	火曜日（12:00-13:00、事前に連絡を頂ければこれ以外の時間帯も可）連絡先メールアドレス：jjmohmu@ipc.shizuoka.ac.jp					
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（ 認める ） 2. 科目等履修生（ 認めない ） 3. 難易度（ C ）					

授業科目名	企業経済特論Ⅱ					
担当教員名	鈴木 拓也 (SUZUKI Takuya)			所属等	学術院人文社会科学領域	
				研究室	共通教育 L 棟 413	
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4	
キーワード	新製品開発、製品ライフサイクル、プライシング、マーケティング・チャネル、統合型マーケティング・コミュニケーション					
授業の目標	マーケティングの基本を一通り理解し、それを使って考える能力を養う。					
学習内容	マーケティングは、企業が自社の商品が売れるようになるために行う諸活動（製品開発、ブランド付け、価格付け、広告など）の総称です。現代ビジネスにおいてマーケティングは必要不可欠のものとなっています。特に多くの業界が成熟している現在においては、いかにして他社との違いを明確にし、それを消費者に認識させるのか、価格をいくらにしたら消費者に受け入れられるのか、最適な販路は何かといったマーケティングの課題が企業の戦略において大きな比重を占めるようになっています。 そこでこの授業では、前期「マーケティング」に引き続き、主に消費財メーカーのマーケティングを想定し、製品、ブランド、消費者行動、プロモーションといったマーケティングの基本について理解します。主に取り上げるテーマは、マーケティング 4P ごとの戦略（製品戦略、価格戦略、流通チャネル戦略、マーケティング・コミュニケーション戦略）、サービス財のマーケティング、人的販売などです。					
授業計画	以下のスケジュールを予定しています。進捗状況によって変更する可能性があります。 回 内容 1 ガイダンス（「マーケティングとは何か」の話も含む） 2 製品管理 3 新製品開発 4 普及理論と製品ライフサイクル 5 サービス財のマーケティング 6 価格設定 7 価格戦略 8 マーケティング・チャネル戦略 9 マーケティング・チャネルにまつわる諸問題 10 小売業、卸売業、ロジスティクス 11 マーケティング・コミュニケーション戦略 12 広告とセールス・プロモーション 13 人的販売と営業戦略 14 グローバル・マーケティング 15 まとめ（予備日）					
受講要件	原則として「マーケティング」を履修済みであること。					
テキスト	フィリップ・コトラー、ケビン・レーン・ケラー著、恩蔵直人監修、月谷真紀訳『コトラー&ケラーのマーケティング・マネジメント 基本編』丸善出版、2008 年。・この授業では第 10 章～第 18 章を取り上げます。・第 1 章～第 9 章は前期の「マーケティング」で取り上げます。・適宜、補足資料を配布します。					
参考書	授業中に適宜紹介します。					
予習・復習について	予習：テキストの該当部分を読んでくる。必ず事前にテキストを読んだ上で授業に出席して下さい。復習：テキスト、ノート、配布資料を見直す。					
成績評価の方法・基準	期末試験 70%、レポート 30%。1 回あたり 2,000 字程度のレポートを授業内に 2 回課す予定です。					
オフィスアワー	毎週火曜日の 16:00～17:00、18:00～19:00					
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認めない） 3. 難易度（B）内容は前期「マーケティング」の続きです。必ずマーケティングを履修した上でこの授業を受けるようにして下さい。未履修の人を排除することはありませんが、マーケティングを履修しなかった人はテキストの第 1 章～第 9 章を必ず読んで下さい。					

授業科目名	神経心理学					
担当教員名	幸田 るみ子 (KODA Rumiko)			所属等	学術院人文社会科学領域	
				研究室		
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6	
キーワード	大脳生理学、認知機能、脳の発達、高次機能障害					
授業の目標	大脳生理学および知覚・認知・感情・行動などの精神活動と脳の働きについて理解する。さらに脳損傷によって生じる認知・行動・感情の障害について紹介し、人間の脳機能と心理学的神経科学的メカニズムについて理解を深める。					
学習内容	脳の基本的な構造と機能、脳の発達、意識とは何か？について理解する。さらに人間の心の働きと脳がどのように関連しているか、最近の知見を紹介しながら、脳のメカニズムについて理解を深める。また、脳損傷によって生じる認知・行動・感情の障害について学びながら、神経心理学的評価方法、認知リハビリテーションなどの介入方法の基礎について取り上げる。さらに、脳が引き起こす心の病気について、脳機能障害という視点から解説する。					
授業計画	回 内容 1 第1回 オリエンテーション、神経心理学の歴史、先人達はどのように脳の正体に迫っていたか？ 2 第2回 脳の構造、解剖学的基礎と神経細胞 3 第3回 脳の発達、神経細胞の発生、胎児の脳の発達 4 第4回 脳と意識、意識とは何か？、脳波 5 第5回 記憶と脳、記憶障害 6 第6回 知能とは何か？大脳皮質の進化とヒト 7 第7回 知覚と知覚の異常、視覚性失認、聴覚性失認 8 第8回 空間、身体、触覚性失認 9 第9回 行為の障害、失行、行為制御障害 10 第10回 言語、失語、失読、失書、失算 11 第11回 遂行機能とは？高次脳機能障害 12 第12回 脳の老化、加齢による脳の変化 13 第13回 ヒトはなぜだまされるか。ヒトはなぜ流されるか。 14 第14回 脳が引き起こす心の病気①うつ病、PTSD 15 第15回 脳が引き起こす心の病気②依存症、認知症					
受講要件	心理学概論および基礎心理学を取得済みであること					
テキスト	特に定めず。毎回資料、プリントを配布する。					
参考書	適宜紹介する。					
予習・復習について	配布資料をよく読み、復習をきちんと行ってください。					
成績評価の方法・基準	1/3 以上欠席すると評価は不可とする。試験 70%、出席 30%、で評価する。					
オフィスアワー	最初の授業の時に連絡先、オフィスアワーを提示する。					
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生(認める) 難易度 C 好奇心旺盛な姿勢を期待します。難しくてもとにかくついてきてください。					

授業科目名	日本文学史Ⅲ					
担当教員名	袴田 光康 (Hakamada Mitsuyasu)		所属等	学術院人文社会科学領域		
			研究室	323		
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6	
キーワード	古代文学、漢字、万葉仮名、変体仮名、和歌、物語、女流文学					
授業の目標	古代から中世にかけての文学の大きな流れを把握し、基本的な知識を正確に身に着けるとともに、個々の文学作品についての理解を深める。					
学習内容	文学史とは、特定の価値と基準のもとに語られる主観的な歴史叙述である。百人がいれば、百通りの文学史が可能であるとも言えるだろう。この講義では、真名(漢字)と仮名(ひらがな)の対立から融合に至るプロセスとして古代文学史全体を構図的に把握することを試みる。作品としては、『日本書紀』・『万葉集』から『源氏物語』・『栄花物語』までの諸作品を取り上げることになるが、律令体制や婚姻制度などの当時の貴族社会の歴史的背景も視野に入れながら、講義を進めていく。					
授業計画	各回、一作品を取り上げる形で講義を行う。作品の概要を説明した上で、具体的に作品の一部を読み、形式と内容の両面から作品の意義を考えていく。受講生は、それぞれの作品の特徴を理解すると同時に、文学史的な大きな流れの中でその作品がどのような意味を持つのか、通史的な視点を併せ持つことが求められる。また、授業では、真名と仮名の表記の問題もあるので、できるだけ活字本ではなく、影印本の原文を読む形で授業を進める。なお、理解度を確かめるために簡単な小テストを行うので、授業内容をよく復習して授業に臨むよう心掛けてほしい。 回 内容 1 文学史の意味 2 日本書紀—律令国家と史書編纂 3 万葉集—漢字と和語 4 懐風藻—公の文学 5 文華秀麗集—国風暗黒時代 6 新撰万葉集—和歌と漢詩 7 古今和歌集—詩経の内面化 8 土佐日記—文字とジェンダー 9 伊勢集—物語への萌芽 10 大和物語—歌物語と歴史叙述 11 竹取物語—物語の元祖 12 蜻蛉日記—古物語の克服 13 紫式部日記—二つの価値観 14 源氏物語—物語論 15 栄花物語—仮名と歴史叙述(まとめ)					
受講要件	特になし					
テキスト	テキスト・資料は、授業の際にプリントして配布する(配布したプリントは各自よく整理して、毎回、授業に持ってくること)					
参考書	文学史に関する文献は多数に上るので、適宜、授業内で紹介する。					
予習・復習について	毎回、前回の作品についての小テストを行うので、授業内容をよく復習して授業に臨むこと。					
成績評価の方法・基準	小テスト 40%、試験 40%、授業への取り組み 20%					
オフィスアワー	金曜日 12:00～13:00(ただし、質問・相談は随時対応するので事前こメール等で連絡のこと)					
担当教員からのメッセージ	漢詩文や変体仮名を含め、原文で読むことが多いので、少しきついかもしれませんが、ただ、確実に実力がつくと思います。					

授業科目名	英語史 (History of the English Language)					
担当教員名	大村 光弘 (OMURA Mitsuhiro)			所属等	学術院人文社会科学領域	
				研究室	人文 A 棟 4 2 7	
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6	
キーワード	古英語、中英語、近代英語、内面史、外面史					
授業の目標	英語の成り立ちとその背景にある歴史、文化、言語上の特徴について考察し、現代英語のみを見ていたのでは判然としない、英語の不思議について、通時的観点から分析する。					
学習内容	古英語から中英語、近代英語、現代英語に至る 1 5 0 0 年に及ぶ英語の発達の様相を概観し、言語変化の種々相を考察する。					
授業計画	テキストおよび配付資料に基づいて講義を行う。考えられるトピック（予定）として、以下のものを示しておく。 1) 英語の外面史 2) 語彙の歴史 3) 文字・綴り字と発音 4) 語形変化の衰退 5) 文法の変化 6) 言語の揺れ 7) 世界の英語					
受講要件	英語学概論および英語学基礎読解を履修していることが望ましい。					
テキスト	未定					
参考書	授業時に適宜紹介する。					
予習・復習について	英語の通史の学習は各時代の要点を的確に整理しておくことが肝要である。その意味で、予習・復習は欠かせない。					
成績評価の方法・基準	小テストの結果（85%）、平常点（15%）で評価する。4 回欠席した時点で受講資格を失うものとする。					
オフィスアワー	火曜日 12:00-13:00、事前に相談があればその他の時間帯も考慮します。jjmohmu@ipc.shizuoka.ac.jp					
担当教員からのメッセージ	1.難易度（B）					

授業科目名	統計学Ⅱ (StatisticsⅡ)					
担当教員名	上藤 一郎 (UWAFUJI Ichiro)	所属等	学術院人文社会科学領域			
		研究室	共通 L 棟 326			
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6	
キーワード	母集団と標本、無作為標本抽出、確率変数と確率分布、統計的推定、統計的検定					
授業の目標	推測統計学の基礎と応用について学習します。					
学習内容	本講義では、推測統計学の初歩的な基礎理論とその応用を学習します。推測統計学とは、確率論に基づいたデータ解析の方法（統計的推測の方法）に関する科学です。従って講義ではまず確率論の基礎を学習します。続いて、母集団と標本の区別と、それに基づく推測統計学の基礎概念や諸定理を取り上げそれらについて平易に解説します。その上で、応用上重要な方法である統計的推定と統計的検定法について、さまざまな方法を具体的な分析事例を用いながら解説します。なおその際、これらの手法を統計データ（人間の行動や社会・経済に関するデータ）に適用する場合の問題点に留意しながら講義を進めていく予定です。					
授業計画	1. 確率の基本 2. 確率変数と確率分布 (1) 確率変数と分布 (2) 期待値と分散 (3) 2 項目分布 (4) 正規分布 3. 母集団と標本 (1) 母集団と標本の峻別 (2) 確率化、復元抽出と非復元抽出 (3) 大数の法則 (4) 衷心極限定理 4. 統計的推定 (1) 良い推定量の基準 (2) 最尤法 (3) 区間推定 5. 統計的検定 (1) 統計的検定の論理 (2) 標本分布 (3) さまざまな統計的検定 6. 標本調査法					
受講要件	必要条件ではありませんが、統計学Ⅰを履修していることが望まれます。					
テキスト	金子治平・上藤一郎編『よくわかる統計学Ⅰ－基礎編－』第2版，ミネルヴァ書房，2011年。					
参考書	講義を通じて随時指示します。					
予習・復習について	予習：テキストの精読復習：テキストの章末問題等の計算					
成績評価の方法・基準	成績は、①平常点（10%），②中間テスト（30%），③期末テスト（60%）によって評価します。					
オフィスアワー	開講時に指示します。					
担当教員からのメッセージ	1. 県立大学単位互換（認める） 2. 科目等履修生（認める） 3. 難易度（B）					

授業科目名	企業経済特論 I					
担当教員名	永田 守男 (NAGATA Morio)			所属等	学術院人文社会科学領域	
				研究室	共通 L 棟 3 2 4	
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6	
キーワード	確定決算主義、申告調整主義、損金経理要件、国際的な財務報告基準、課税所得と企業利益の差異					
授業の目標	会計基準の国際化とそれに対する報じ税制の対応について、日米比較により検討します。これをもとにわが国の会計の特徴について学びます。					
学習内容	財務会計の領域では、国際的な財務報告基準への対応が焦点となっています。商社や製薬などの特定の業種では、国際的な財務報告基準による財務諸表の作成が進んでおり、これをすべての上場企業にあるいはより広い範囲の企業に求めるか否かは 2010 年頃から続く課題です。この課題の解決にあたっては、法人税制の大きな変更をはかる必要があります。この授業では、わが国の会計制度および税務会計制度の特徴を、米国との比較で確認し、わが国の税制改正の論点と、その方向について学習します。					
授業計画	回 内容 1 国際的な財務報告基準の形成 2 わが国の会計制度と会計基準のコンバージェンス 3 我が国の会計制度と会計基準のアドプション 4 会計基準の国際化と法人税制 5 課税所得計算の 2 累計 6 米国の課税所得計算のしくみ 7 会計利益への課税と課税所得計算 8 申告調整方式の特徴と要件 9 会計利益と課税所得の差異の拡大 10 エンロン事件とライブドア事件 11 税ポジションとのその不確実性 12 税務紛争の及ぼす影響 13 不確実性の開示による差異の縮小 14 国際的な財務報告基準に対するわが国法人税制の対応 15 まとめ					
受講要件	会計学に関する基礎的な内容について既習であること、および前期開講の税務会計論を履修していることが望ましいです。					
テキスト	永田守男『会計利益と課税所得』森山書店、2008 年					
参考書	佐藤誠二・石川文子・永田守男『会計のしくみ』森山書店、2015 年					
予習・復習について	復習と、国際財務報告基準（IFRS）に関する新聞記事等に目配りすることが必要です。					
成績評価の方法・基準	学期末試験およびレポートによる総合評価です。					
オフィスアワー	水曜日 12:30～13:30					
担当教員からのメッセージ	前期の税務会計論の理解を前提にしていますので、授業の難易度は高いレベルとなります。					

授業科目名	福祉社会学					
担当教員名	山本 崇記 (YAMAMOTO Takanori)			所属等	学術院人文社会科学領域	
				研究室	人文 C 棟 408	
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 7・8	
キーワード	社会的包摂・排除、マイノリティ、当事者運動、多文化共生					
授業の目標	人間・社会について、歴史・文化・制度といった様々な条件を考慮し、深く理解することができ、その理解をもとに地域社会や職場などの現場で、課題を見出しその解決に向けて活用できる力を修得すること。					
学習内容	社会福祉に関わる諸課題について、特に、社会的マイノリティに関わるイシューを検討し、福祉が持つ排除と包摂の機能やメカニズムを知ること、共生社会と福祉の関係性を深く洞察する。					
授業計画	回 内容 1 ガイダンス～「福祉」という争点 2 福祉社会学の構想 3 地域福祉とセツルメント 4 隣保事業と同和行政 5 差別是正措置と逆差別 6 差別是正措置と逆差別 7 問われる福祉社会学（1）～当事者研究との関わり 8 問われる福祉社会学（2）～批判志向から政策志向へ 9 在日外国人と福祉（1） 10 在日外国人と福祉（2） 11 在日外国人と福祉（2） 12 障害者と福祉（2） 13 ホームレスと福祉（1） 14 ホームレスと福祉（2） 15 まとめ～インクルーシブな福祉社会の展望					
受講要件	「福祉」を始めとした授業のキーワードに関心持っていることが望ましい。					
テキスト	特に指定しない。関連資料を適宜配布する。					
参考書	副田義也編『闘争性の福祉社会学 ドラマトゥルギーとして』（シリーズ福祉社会学 2、東京大学出版会、2013 年）、藤村正之編『協働性の福祉社会学 個人化社会の連帯』（シリーズ福祉社会学 3、東京大学出版会、2013 年）					
予習・復習について	予習に関しては、参考書や紹介された資料を事前に読んで授業に臨むこと。復習については、ノートに整理した授業内容や関連する資料を再確認し理解を深めること。					
成績評価の方法・基準	授業時に実施する小レポートおよびレポートにより評価する。					
オフィスアワー	初回時にアナウンスする。					
担当教員からのメッセージ	授業時に実施する小レポートおよびレポートにより評価する。					

授業科目名	比較文学各論Ⅴ					
担当教員名	南 富鎮 (NAM bujin)		所属等	学術院人文社会科学領域		
			研究室	人文 A 棟 5 2 7		
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 7・8	
キーワード	三国遺事、古事記、詩経、神話、原型、民俗学					
授業の目標	韓国の代表的な古典『三国遺事』を読み、神話・伝説の構造を理解し、日中韓の古代文化の類似と相違について考える。					
学習内容	三国遺事を翻訳文で読む。					
授業計画	三国遺事は韓国を理解するもっとも基本的なテキストである。原文は漢文であるが、翻訳文で読みながら紹介する。授業では古事記や日本書記との比較、あるいは中国の神話や歴史との比較的視点から考察していく。古代文化の総体的な理解につとめる。					
受講要件	とくになし					
テキスト	三国遺事、古事記、詩経などであるが、資料は教員が用意する。					
参考書						
予習・復習について	その都度指示する。					
成績評価の方法・基準	出席（30%）、課題（30%）、試験（40%）の比率で評価する。変更の可能性あり。					
オフィスアワー	月 7・8 限					
担当教員からのメッセージ	難易度：B					

授業科目名	社会経済論Ⅱ					
担当教員名	遠山 弘徳 (TOHYAMA Hironori)		所属等	学院院人文社会科学領域		
			研究室	共通 L 棟 3 2 5		
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 7・8	
キーワード	資本主義、制度					
授業の目標	資本主義という経済システム、およびその多様性への制度経済学的アプローチを学習し理解することを目的とします。					
学習内容	1.所得分配と成長の関係、2.金融制度、3.資本主義の長期モデル、4.資本主義の多様性を理解することを目標とします。					
授業計画	回 内容 1 授業ガイダンス：テキスト、授業方法、授業形式および評価方法等について説明 2 所得と雇用の決定(1)：テキスト第9章 3 所得と雇用の決定(2)：テキスト第9章 4 賃金主導型成長と利潤主導型成長：テキスト第9章 5 インフレーションとデフレーション：テキスト第10章 6 貨幣・金融制度（1）：テキスト第5章 7 貨幣・金融制度（2）：テキスト第5章 8 中央銀行の独立性：テキスト第5章 9 国家の経済への介入（1）：テキスト第6章 10 国家の経済への介入（2）：テキスト第6章 11 資本主義の構造変化（1）：テキスト第13章 12 資本主義の構造変化（2）：テキスト第13章 13 資本主義の構造変化（3）：テキスト第13章 14 資本主義の多様性（1） 15 資本主義の多様性（2）					
受講要件	とくにありません。					
テキスト	宇仁・坂口・遠山・鍋島著『入門社会経済学』（第2版）ナカニシヤ出版					
参考書	ホール・ソスキス『資本主義の多様性』ナカニシヤ出版					
予習・復習について	予習にあたってはテキストを一読することが望まれます。					
成績評価の方法・基準	期末試験(100%)によって評価します。					
オフィスアワー	第1回の授業のさいにお知らせします。					
担当教員からのメッセージ	講義はパワーポイントを使用して進めます。ファイルは提供しませんので、毎回ノートを取ることが大切となります。					

授業科目名	比較文学文化基礎講読Ⅳ					
担当教員名	南 富鎮 (NAM bujin)		所属等	学術院人文社会科学領域		
			研究室	人文 A 棟 5 2 7		
分担教員名						
クラス	人文専門	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 9・10	
キーワード	韓国語、文化、人文学、言語学、人間学					
授業の目標	韓国語を理解し、その背後にある文化を理解していくが、全体的には幅広い人文学の総合学習のようなものを目指す。					
学習内容	韓国語の仕組み、文法、文化事項についての理解を向上する。同時に人文学を総体的に理解する。韓国語はそのための一つの道具となる。					
授業計画	韓国語のテキストを読みながら、文法、表現能力、読解の能力を高めていく。教材に沿って説明するが、説明過程で文化論的・言語論的な話が多くなる。					
受講要件	人文学部言語文化学科 1・2・3・4 年（他学科は要相談。韓国語を履修したことのない学生が望ましい）					
テキスト	教材はいちおう李昌圭『韓国語を学ぼう（初級編）』（朝日出版社、2006 年）であるが、教員が複写して配布する。とくに購入する必要はない。					
参考書	教員が指定する					
予習・復習について	その都度指示するが、必ずしも必要なものではない。					
成績評価の方法・基準	出席、試験、課題などを合わせて評価する					
オフィスアワー	月曜日 7／8 限					
担当教員からのメッセージ	とくにない。					

授業科目名	応用数学基礎 (Elements of Applied Mathematics)					
担当教員名	畑 宏明 (HATA Hiroaki)		所属等	学術院教育学領域		
			研究室	教育学部 I 棟 4 0 8		
分担教員名						
クラス	数学	学期	後期		必修選択区分	—
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 9・10	
キーワード	確率、統計					
授業の目標	確率統計の基礎の完成					
学習内容	組合せ計算、確率とその計算、期待値、分散、標本データ、推定、検定の基礎を学ぶ。					
授業計画	回 内容 1 個数の処理、順列と組合せ、二項定理 2 確率とその計算、事象の独立 3 条件付き確率、ベイズの定理 4 確率変数、期待値、分散 5 2 項分布(1) 6 2 項分布(2) 7 標本と母集団 8 確率分布の性質 9 正規分布、2 項分布の正規近似 10 推定とは・・・ 11 区間推定 12 仮説と 2 種類の誤り 13 平均値の検定 14 相関と回帰(1) 15 相関と回帰(2)					
受講要件	集合と論理基礎、微分積分学基礎を受講していること。					
テキスト	篠田正人著『教育系学生のための数学シリーズ 確率論・統計学入門』共立出版					
参考書	講義中に紹介する。					
予習・復習について	講義中に指示する。					
成績評価の方法・基準	中間試験、学期末試験で評価する。					
オフィスアワー	初回の講義で紹介する。					
担当教員からのメッセージ	確率、統計の基礎を高校の復習から学んでいきます。講義だけではなく、演習レポートを通じて確率統計を実践的に理解してもらえればと思います。また、統計(推定、検定)を扱うため、関数電卓があることがより望ましいです。					

授業科目名	集合と論理 (Sets and Logic)					
担当教員名	山田 耕三 (YAMADA Kohzo)	所属等	学術院教育学領域			
		研究室	教育学部 I 棟 4 0 1			
分担教員名						
クラス	数学	学期	後期		必修選択区分	—
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4	
キーワード	実数、有理数、無理数、無限、有限					
授業の目標	写像（関数）について学んだ後、実数の性質と無限集合について考える。					
学習内容	実数の性質と無限の概念について、演習を交えながら講義をする。					
授業計画	1. 写像と関数 2. 写像と関数 3. 写像と集合の演算 4. 写像と集合の演算 5. 有理数と無理数 6. 有理数と無理数 7. 実数の性質 8. 実数の性質 9. 実数の性質 1 0. 有限と無限 1 1. 有限と無限 1 2. 集合の濃度 1 3. 集合の濃度 1 4. 可算集合と非可算集合 1 1 5. 可算集合と非可算集合 2					
受講要件	前期の「集合と論理基礎」を受講していること。					
テキスト	大田春外著『はじめての集合と位相』日本評論社を前期に引き続き使用する。					
参考書	講義中に紹介する。					
予習・復習について	授業後にしっかり復習して、ノートを整理し、演習問題を解くことが重要である。					
成績評価の方法・基準	数回行う小テスト、中間テストと期末試験の成績を総合して判断します。					
オフィスアワー	講義のはじめに知らせます。					
担当教員からのメッセージ						

授業科目名	微分積分学 (Calculus)					
担当教員名	大和田 智義 (OWADA Tomoyoshi)			所属等	学術院教育学領域	
				研究室	教育学部 I 棟 4 1 0	
分担教員名						
クラス	数学	学期	後期		必修選択区分	—
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	火 7・8	
キーワード	テイラー展開、不定積分、定積分、広義の積分					
授業の目標	微分積分学の基礎を学ぶ。					
学習内容	高等学校で数学 III を履修していないことを前提にして、下記の授業計画にしたがって微分積分学の講義を行う。 前期の「微分積分学基礎」の続き。					
授業計画	回 内容 1 微分法の応用 4 2 微分法の応用 5 3 不定積分 1 4 不定積分 2 5 不定積分 3 6 不定積分 4 7 小テスト 8 定積分 9 微分積分法の基本定理 10 簡単な関数の不定積分 11 置換積分法 12 部分積分法 13 有理関数の積分 14 無理関数の積分 15 小テスト					
受講要件	前期「微分積分学基礎」を受講していること。					
テキスト	微分積分概論 (数学基礎コース (H2))高橋 泰嗣・加藤 幹雄 著 サイエンス社					
参考書	講義中に紹介する。					
予習・復習について	講義中に指示する。					
成績評価の方法・基準	最初の講義で伝えます。					
オフィスアワー	最初の講義で伝えます。					
担当教員からのメッセージ	高校までの計算主体の講義から、「何故そうなるのか」という理論展開を中心とした講義になります。理論的な考え方は講義を聞くだけでは身につけません。授業で学習した内容を、自分の力で正しく理解できるようになるまで、何度でもノートを読み返して復習するようにしてください。					

授業科目名	代数学Ⅱ (Algebra Ⅱ)					
担当教員名	谷本 龍二 (TANIMOTO Ryuji)		所属等	学術院教育学領域		
			研究室	教育学部Ⅰ棟403		
分担教員名						
クラス	数学	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火7・8	
キーワード	固有値、固有ベクトル、固有多項式、固有空間、対角化、内積、ノルム、正規直交基、シュミットの正規直交化、直交行列					
授業の目標	以下の(1), (2)を目標とする. (1) 対角化を理解する. (2) シュミットの正規直交化を理解する.					
学習内容	あたえられた正方行列が対角化可能であるかないかの判定法がある. この判定法は, 固有値・固有ベクトル・固有空間を用いてあたえられている. なお, 実対称行列は, ある直交行列により対角化可能である.					
授業計画	回 内容 1 対角化のはなし 2 線形変換の固有値と固有ベクトル 3 正方行列の固有多項式と固有値 4 固有空間 5 対角行列と対角化可能 6 対角化の計算 7 固有空間の次元の和について 8 対角化可能性の判定法 9 内積とノルム 10 正規直交基, シュミットの正規直交化 11 シュミットの正規直交化の計算 12 直交行列, 実対称行列 13 実対称行列の直交行列による対角化 14 演習, 補足 15 演習					
受講要件	線形代数学基礎および線形代数学を履修していること. また, 代数学Ⅰを履修していることが望ましい.					
テキスト	線形代数学基礎から用いているテキストを引き続き用いる.					
参考書	必要があれば適宜紹介する.					
予習・復習について						
成績評価の方法・基準	テスト60点, 小テスト20点, レポート20点を用いて成績評価をする.					
オフィスアワー						
担当教員からのメッセージ						

授業科目名	解析学Ⅱ (Analysis Ⅱ)					
担当教員名	大和田 智義 (OWADA Tomoyoshi)			所属等	学院教育学領域	
				研究室	教育学部Ⅰ棟410	
分担教員名						
クラス	数学	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水 5・6	
キーワード	2変数関数、偏微分、重積分					
授業の目標	2変数（多変数）で定義された関数の微分積分について学習します。理論的な背景を正しく理解して、具体的な関数で実際に計算が出来ることが目的です。					
学習内容	解析学Ⅰの続きの授業です。2変数関数の微分法(偏微分)や積分法(重積分)について学習します。					
授業計画	回 内容 1 2変数の関数 2 偏導関数 3 高次偏導関数・全微分 4 合成関数 5 陰関数 6 関数の展開 7 極大・極小 8 陰関数の極値 9 条件付き極値 10 累次積分 11 積分順序の変更 12 2重積分 13 極座標による2重積分 14 3重積分 15 体積					
受講要件	解析学Ⅰの授業の続きだから、それを承知で受講すること。					
テキスト	「微分積分」石原 繁, 浅野 重初 著, 裳華房					
参考書	「やさしく学べる微分積分」石村園子著 共立出版					
予習・復習について	復習は必ず行うこと。教科書の問題を常に解くようにすること。					
成績評価の方法・基準	2回行う小テスト、レポートおよび授業の取組み等で総合的に判断する。					
オフィスアワー	最初の講義で指示します。					
担当教員からのメッセージ	ノートをしっかりととり、学習した内容を暗記するのではなく、どのように理論が展開されて行くのかを理解すること。					

授業科目名	数学基礎論 (Foundations of Mathematics)					
担当教員名	鈴木 信行 (SUZUKI Nobuyuki)		所属等	学術院理学領域		
			研究室	理学部 C 棟 601		
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	月 1・2	
キーワード	数学基礎論、数理論理学					
授業の目標	数学基礎論の入門					
学習内容	数学基礎論の入門となる事項について、学生諸君のこれまでの学習状況などを踏まえた上で講義する。					
授業計画	まず、数理論理学の復習をした後、学生諸君の様子や学習進捗状況にあわせ、自然数論、モデル理論、直観主義論理とその Kripke モデル理論などから取り上げて解説する。そして、ゲーデルの不完全性定理について概説する。					
受講要件	数学科 3 年次前期までの授業が一通り理解できていることは、当然の前提である。特に数理論理学が解っていることが望ましい。(単位が取れているかどうか、は問わない。)					
テキスト	なし (プリント配布の予定)					
参考書	講義中に適宜指示する。					
予習・復習について	この講義は、数学科の専門科目である。2・3 年までの講義に比べたとき、難しくなるのは当然である。予習・復習などをしっかりやって欲しい。					
成績評価の方法・基準	試験 (適宜、レポートを加味する。)					
オフィスアワー	最初の授業で伝える。					
担当教員からのメッセージ	自主的な勉強なくしては、身につくものも少ない。しっかり勉強してください。(※この科目は隔年開講です)					

授業科目名	幾何学 I (Geometry I)					
担当教員名	久村 裕憲 (KUMURA Hironori)			所属等	学術院理学領域	
				研究室	理学部 C 棟 603	
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4	
キーワード	ガウス写像、第一基本形式、第二基本形式、ガウス曲率、測地線、ガウス・ボンネの定理					
授業の目標	ガウス・ボンネの定理を目標にする。					
学習内容	微分積分学や線形代数学を使って曲面の‘入り方’を調べることから、曲率が実は内在的な量であること（ガウス）ことを学ぶ。ガウス・ボンネの定理の意味を理解することを目指す。					
授業計画	1. 曲面の概念と例 2. 法ベクトルとガウス写像 3. 曲面の第一基本量 4. 曲面の第二基本量、形作用素 5. ガウス曲率と平均曲率 6. ガウス・ワインガルテンの公式（曲面の構造方程式） 7. 曲面上の曲線、測地線 8. ガウス・ボンネの定理					
受講要件	微分積分学・線形代数学を学んでいること。					
テキスト	梅原雅顕・山田 光太郎(著)「曲線と曲面—微分幾何的アプローチ」裳華房					
参考書	小林昭七著「曲線と曲面の微分幾何(改訂版)」裳華房					
予習・復習について	予習・復習をテキストで行うこと。					
成績評価の方法・基準	出席・試験等を総合的に判断して成績評価を行う。					
オフィスアワー	最初の授業の時に言います。					
担当教員からのメッセージ	極優しいところから、曲面論は始まります。絵を描いたりして学びましょう。					

授業科目名	植物生化学 (Plant biochemistry)					
担当教員名	天野 豊己 (AMANO Toyoki)		所属等	学術院理学領域		
			研究室	総 721		
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4	
キーワード	タンパク質、葉緑体、光合成、分子シャペロン、膜透過、老化、過敏反応					
授業の目標	植物のタンパク質合成および分解の分子機構を、発生および分化、老化と合わせて総合的に理解する。					
学習内容	光化学系の構造と機能、その構築機構、膜透過装置の作用機構などについて、タンパク質の立体構造とその機能変化の視点から解説を行う。これらのタンパク質複合体が形成する上で重要な分子シャペロンの作用機構および膜透過に関与するトランスロケーターについて解説する。また植物の老化および病原菌への作用機構など、生理学的に興味深い現象についても解説を行う。					
授業計画	1. 植物の熱ショック応答の分子機構 2. 分子シャペロンの構造と機能 3. 葉緑体へのタンパク質の輸送 4. タンパク質の輸送とブラウン運動 5. 葉緑体におけるタンパク質分解 6. 光化学系の構造と変動 7. 光リン酸化の分子機構 8. プロテアーゼによる基質認識メカニズム 9. 植物の老化過程の分子機構 10. 植物病原体に対する応答					
受講要件	植物の生化学およびタンパク質科学について興味があること					
テキスト	主としてプリントを配布する。					
参考書	植物の生化学・分子生物学（学会出版センター）、細胞の分子生物学（Newton Press）、ヴォート生化学(東京化学同人)、など。					
予習・復習について	しっかり行って下さい。					
成績評価の方法・基準	成績は、試験と出席状況から総合的に判断する。					
オフィスアワー	質問は適宜受け付ける。前もってメール(sbtaman@ipc.shizuoka.ac.jp)に連絡が望ましい。					
担当教員からのメッセージ	積極的に取り組んで下さい。					

授業科目名	生物環境科学概論Ⅱ (Introduction to Biogeosphere Sciences II)				
担当教員名	宗林 留美 (SOHRIN Rumi)		所属等	学院院理学領域	
			研究室	理学部C棟 411	
分担教員名	木村 浩之				
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	地球環境、水圏生態系、環境微生物				
授業の目標	生物と環境の関わりを理解するための基礎を身につける。				
学習内容	生態系を支える低次生産者（植物、微生物）に注目し、その特性と周囲の環境を整理することで生物と環境の関わりを学ぶ。				
授業計画	水圏生態系（宗林） 1. 生物生産 2. 光 3. 水温 4. 塩分 5. 栄養塩 6. 水柱の安定性 環境微生物（木村） 1. 微生物のサイズ 2. 微生物の誕生と進化 3. 微生物の分類 4. 微生物の代謝系と多様性（発酵、呼吸、化学合成、光合成） 5. 遺伝子解析による微生物の系統分類 6. 極限環境微生物				
受講要件	なし。				
テキスト	特に指定しない。				
参考書	適宜紹介する。				
予習・復習について	自ら知識を整理し、問題点を見つけるよう心がけること。				
成績評価の方法・基準	試験による。				
オフィスアワー	毎講義終了後の 30 分と月曜日の昼休み時間。				
担当教員からのメッセージ	なし。				

授業科目名	有機化学Ⅳ (Organic Chemistry IV)					
担当教員名	小林 健二 (KOBAYASHI Kenji)			所属等	学術院理学領域	
				研究室	小林研究室（総合研究棟 514）	
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4	
キーワード	有機化学、官能基、構造、反応、反応機構					
授業の目標	有機化合物の構造と反応を理解する					
学習内容	有機化学Ⅲの講義に引き続き、以下の項目についてテキストをもとに講述する。本講義で取り扱う内容は、現代有機化学の基礎を数多く含んでいる。有機反応の原理と多様性、材料・医薬品合成などの基礎をなす有機合成化学の重要性など、有機化学の魅力を感じてほしい。					
授業計画	テキストに従って以下の章を解説する。 15 章 ベンゼンと芳香族性:芳香族求電子置換反応 16 章 ベンゼン誘導体への求電子攻撃:置換基による位置選択性の制御 17 章 アルデヒドとケトン:カルボニル基の化学 18 章 エノール、エノラートとアルドール縮合: α, β -不飽和アルデヒドおよびケトン					
受講要件						
テキスト	「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 下(第 6 版)」(古賀憲司・野依良治ら監修)(化学同人)					
参考書						
予習・復習について	予習、復習を励行して欲しい。また、テキストの練習問題を解くことが望ましい。					
成績評価の方法・基準	期末試験により評価する。					
オフィスアワー	時間がある限り随時対応する。					
担当教員からのメッセージ						

授業科目名	分子生物学 (Molecular Biology)				
担当教員名	山内 清志 (YAMAUCHI Kiyoshi)	所属等	グリーン科学技術研究所		
		研究室	総合研究棟 602		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6
キーワード	遺伝学、遺伝物質、DNA、RNA、タンパク質、染色体、ヌクレオソーム、DNA 変異、DNA 複製、遺伝子研究技術				
授業の目標	生物学の一分野として、生命現象を分子レベルで理解するための基礎的な概念や専門用語などを修得し、分子生物学への興味を深める。				
学習内容	生命を理解する上で、マクロな視点を据えたミクロな視点（細胞・分子レベル）から学習し、現在得られつつある研究の趨勢を理解するための基礎を提供する。				
授業計画	回 内容 1 はじめに 2 遺伝学の歴史 3 遺伝物質の同定 4 遺伝子の機能と構造 5 DNA の機能と構造 6 RNA の機能と構造 7 タンパク質の機能と構造 8 染色体構造とヌクレオソーム 9 DNA 変異 10 DNA 複製 11 DNA から RNA へ（転写） 12 RNA からタンパク質へ（翻訳） 13 遺伝子研究の技術開発（1） 14 遺伝子研究の技術開発（2） 15 まとめ				
受講要件					
テキスト	化学同人 「ベーシック分子生物学」 米崎・升方・金沢 ISBN978-4-7598-1582-5				
参考書					
予習・復習について	授業の進行に合わせてテキストを用いて予習・復習に取り組むこと。HP(http://www4.tokai.or.jp/kyama)に「講義の概要と手引き」があるので、予習・復習に活用するとよい。				
成績評価の方法・基準	毎回の授業の開始時に前回の授業の復習を兼ねて小テストを行い、それによって普段の学習への姿勢を評価し（33%）、2 回の試験において到達度を評価する（66%%）。両者の評価を総合して最終的な成績評価とする。				
オフィスアワー	適宜応じる。事前に sbkyama@ipc.shizuoka.ac.jp に連絡すること。				
担当教員からのメッセージ	積極的な姿勢で受講してほしい。				

授業科目名	有機化学Ⅱ (Organic Chemistry II)					
担当教員名	坂本 健吉 (SAKAMOTO Kenkichi)	所属等	学術院理学領域			
		研究室	理学部B棟 301 号室			
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6	
キーワード	ハロアルカン、2 分子求核置換反応、1 分子求核置換反応、1 分子脱離反応、2 分子脱離反応、アルコールの合成、アルコールの反応、カルボカチオンの転移反応、エーテルの合成					
授業の目標	有機化学反応の基礎概念を学び、反応有機化学と合成有機化学の基本を理解する。					
学習内容	有機化学反応の基本反応である求核置換反応、脱離反応、カルボカチオンの転移反応について学ぶ。また、ハロアルカン、アルコール、エーテルの合成法と反応性について学ぶ。					
授業計画	テキストに従って以下の章を解説する。 6 章 ハロアルカンの性質と反応（2 分子求核置換反応） 7 章 ハロアルカンの反応（1 分子求核置換反応と脱離反応） 8 章 ヒドロキシ官能基：アルコールの性質と合成戦略 9 章 アルコールの反応とエーテルの化学					
受講要件						
テキスト	「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 上（第6版）」（古賀憲司・野依良治ら監訳）（化学同人）					
参考書	HGS 分子構造模型 有機学生用セット（丸善）					
予習・復習について						
成績評価の方法・基準	予習、復習を励行して欲しい。また、テキストの練習問題を解くことが望ましい。					
オフィスアワー	試験により評価する。					
担当教員からのメッセージ	特に時間は定めないので疑問点などがあつたら遠慮せずに研究室に来て下さい。あらかじめ連絡してもらえると有り難い。					

授業科目名	力学 I (Mechanics I)					
担当教員名	森田 健 (MORITA Takeshi)	所属等	学術院理学領域			
		研究室	理 A402			
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期前半		必修選択区分	必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6,金 3・4	
キーワード	力学					
授業の目標	ニュートン力学を、数学を用いて理解すること。					
学習内容	力学（ニュートン力学）は、これから学ぶ物理学の中で最も基本となる学問である。この、ニュートン力学について詳しく学ぶ。					
授業計画	後期前半・週 2 回 教科書の第 4 章以降を、教科書に沿って授業を進める。 1. いろいろな運動 2. 運動座標系					
受講要件	基礎物理学 I、基礎物理学 I I を習得していることが望ましい。					
テキスト	力学 吉岡大二郎 著 朝倉書店 ISBN 978-4-254-13756-9 （基礎物理学 I、基礎物理学 I I で使用している教科書と同じ）					
参考書	力学 植松恒夫 著 学術図書出版社 ISBN 4873619181					
予習・復習について	予習と復習は授業内容の理解に必要であるため、必ず行うこと。					
成績評価の方法・基準	試験の結果によって成績を評価する。また出席やレポートも考慮する。					
オフィスアワー	適宜。					
担当教員からのメッセージ	講義はできるだけその場で内容を理解できるようにみなさんと考えながら進めます。その分あまり細かい点を説明する時間は無いと思うので各自で教科書を使い復習することを望みます。					

授業科目名	力学Ⅱ (Mechanics Ⅱ)				
担当教員名	森田 健 (MORITA Takeshi)		所属等	大学院理学領域	
			研究室	理 A402	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期後半		必修選択区分 必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6,金 3・4
キーワード	力学				
授業の目標	ニュートン力学を、数学を用いて理解すること。				
学習内容	力学Ⅰを発展させ、前半では多体系や剛体の運動について学ぶ。さらに後半では多体系の運動の応用として弦の振動や波の性質を学ぶ。これら波の運動は二年生以降で学ぶ電磁気学や量子力学において基本的な役割も果たす。				
授業計画	後期後半・週2回 教科書の第6章以降を、教科書に沿って講義を進める。 1. 質点系 2. 剛体 講義の後半は教科書をはなれ「振動と波」について学ぶ。 フーリエ展開や線形代数を用いるので「物理のための数学」(基礎物理学の教科書)を参考にする。				
受講要件	基礎物理学Ⅰ、基礎物理学ⅠⅠ、力学Ⅰを習得していることが望ましい。				
テキスト	力学 吉岡大二郎 著 朝倉書店 ISBN 978-4-254-13756-9 (基礎物理学Ⅰ、基礎物理学ⅠⅠ、力学Ⅰで使用している教科書と同じ)				
参考書	力学 植松恒夫 著 学術図書出版社 ISBN 4873619181 振動・波 銅 小形正男 著 裳華房 ISBN 978478532088 物理のための数学 和達 三樹 著 岩波書店 ISBN 4000076507				
予習・復習について	予習と復習は授業内容の理解に必要であるため、必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	試験の結果によって成績を評価する。出席とレポートも考慮する。				
オフィスアワー	適宜。				
担当教員からのメッセージ	講義はできるだけその場で内容を理解できるようにみなさんと考えながら進めます。その分あまり細かい点を説明する時間は無いと思うので各自で教科書を使い復習することを望みます。				

授業科目名	線型代数学Ⅱ (Linear Algebra Ⅱ)				
担当教員名	久村 裕憲 (KUMURA Hironori)	所属等	学術院理学領域		
		研究室	理学部 C 棟 603		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	月 7・8
キーワード	ベクトル、ベクトル空間、基底、次元、部分空間、表現行列、固有値、固有ベクトル、対角化、上三角化				
授業の目標	ベクトル空間の基礎を学び、行列の対角化と上三角化を学ぶ。				
学習内容	線型代数学Ⅰでは行列の基本的性質と、それを用いて具体的に連立1次方程式を解くことを学習してきたが、線型代数学Ⅱではそれらを抽象化したベクトル空間の概念を理解するとともに、固有値・固有ベクトルまた行列の対角化について学習する。				
授業計画	第3章 ベクトル空間 3. 1 ベクトル空間の定義と線形写像 3. 2 基底と次元 3. 3 部分空間 3. 4 和空間と直和 3. 5 表現行列と基底の取り替え 第4章 固有値・固有ベクトルおよび行列の対角化 4. 1 固有値と固有ベクトル 4. 2 行列の対角化 4. 3 行列の上三角化 4. 4 行列の同時対角化				
受講要件	線型代数学Ⅰを受講していること。				
テキスト	基礎講義 線形代数学（二木昭人 著，培風館，ISBN-13: 978-4563002756）				
参考書	線形代数入門（斉藤正彦 著，東京代数学出版会，ISBN-13: 978-4130620017）基礎課程 線形代数（浅芝秀人著，培風館， ISBN978-4-563-00473-6）				
予習・復習について	ほぼテキストに沿って講義する予定ですので、予習・復習をしっかりとすること。				
成績評価の方法・基準	授業参加態度・レポート等の平常点と試験により評価する。				
オフィスアワー	授業時に連絡する。				
担当教員からのメッセージ	線型代数学Ⅰと違って線型代数学Ⅱは内容が抽象的になります。授業の内容で分からないことがあったら、できるだけ早く質問に来て下さい。				

授業科目名	放射化学 I (Radiochemistry I)					
担当教員名	大矢 恭久 (OYA Yasuhisa)	所属等	学術院理学領域			
		研究室	理学部 A202			
分担教員名	近田 拓未					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 7・8	
キーワード	放射化学、原子核、放射線、放射性核種、放射線測定、原子力発電、核融合発電					
授業の目標	放射性核種及び放射線の基礎知識を取得する					
学習内容	一般の化学が原子核のまわりの核外電子、特に価電子についてのみ取扱うのに対し、放射化学および核化学では原子核そのものやその挙動を対象としている。 授業前半（担当：近田）の講義では、原子核の様々な現象を物質の基本的概念として捕えることが出来るようなシラバスの項目、(1)、(2)について主に解説する。また、原子力エネルギー（核分裂、核融合）の原理等についても解説する。 授業後半（担当：大矢）では、シラバスの項目、(3)、(4)に基づき放射線の物質中での振る舞いや放射線による化学反応について解説する。また、研究並びに放射線管理の手段として、欠かすことのできない放射線測定器に関する基礎的原理についても言及する。 放射線取扱主任者試験を受験するものは本講義を受講することが望ましい。					
授業計画	(1)原子核のなりたちと壊変現象 ・核化学や放射化学における核現象の一つとして、放射能が主題となる。まずは原子核の組成やその安定性について解説し、放射能とは何かを理解する。 (2)原子核現象と化学状態 ・原子核と核外電子との相互作用、放射性核種の壊変定数等の化学状態による変化、核 γ 線共鳴(メスバウアー効果)および原子核の壊変に伴う化学的効果 (3)放射線と物質との相互作用 ・放射線の定義、種類、分類、それぞれの放射線についての特性 および物質との相互作用 ・放射線による化学反応：スプールの生成、素反応、水分子の放射線分により生成する活性酸素及びフリーラジカル ・放射線の生体に及ぼす影響：高線量放射線によるDNA損傷、放射線感受性、放射線障害放射線防御、低線量放射線による放射線ホルミシス現象 (4)放射線の検出と測定 ・主な放射線測定器の種類、基本構造、原理、測定技術 講義期間中に浜岡原子力発電所見学会を予定しています。					
受講要件	特になし					
テキスト	放射化学概論（富永健、佐野博敏著、東京大学出版会）					
参考書	放射線概論（通商産業研究社）					
予習・復習について	ホームページに公開している教材を活用して、予習・復習をすること					
成績評価の方法・基準	期末試験、演習、レポートにもとづき総合評価					
オフィスアワー	随時					
担当教員からのメッセージ	放射線取扱主任者試験を受験するものは本講義を受講することが望ましい。					

授業科目名	基礎熱化学 (Fundamental Thermochemistry)				
担当教員名	河合 信之輔 (KAWAI Shinnosuke)		所属等	学術院理学領域	
			研究室	理 B 3 0 2	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2
キーワード	熱力学第 1 法則、熱力学第 2 法則、エントロピー、自由エネルギー、変化の方向、相平衡、化学平衡、電気化学、電池、反応速度論				
授業の目標	化学分野の幅広い現象を理解する基礎となる熱化学について、その基礎を学ぶ。				
学習内容	物理化学のひとつの柱である熱化学について、数学・物理学的背景を含めてその基礎を学ぶ。前半では熱力学の理論体系と諸概念を理解・習得し、後半では電池や生体反応への応用を概観する。				
授業計画	最初の 2～3 回を、数学と物理の予備知識の復習にあてた後、 テキストの次の章を講義する。 1. 第 6 章 熱力学(1) 2. 第 6 章 熱力学(2) 3. 第 6 章 熱力学(3) 4. 第 6 章 熱力学(4) 5. 第 7 章 熱化学 6. 第 8 章 相平衡(1) 7. 第 8 章 相平衡(2) 8. 第 9 章 化学平衡 9. 第 10 章 電解質溶液 10. 第 11 章 電池 11. 第 12 章 反応速度(1) 12. 第 12 章 反応速度(2) 13. 第 12 章 反応速度(3)				
受講要件	基本的な微積分および物理の力学・熱力学・電磁気学の知識を前提とするので、高校の数学と物理の復習をしておくとともに、関連した授業をよく聞いておくこと				
テキスト	柴田茂雄著 「物理化学の基礎」(共立出版)				
参考書	「アトキンス 物理化学(上)」(東京化学同人)第 1～7 章田崎晴明著「新物理学シリーズ 32 熱力学」(培風館) その他、授業中に適宜引用文献を挙げる				
予習・復習について	新しく学ぶ諸概念や論理展開のしかたを理解するのに苦労する分野であるので、週 1～2 時間 (以上) を目安に、しっかりと予習復習および教科書や配布プリントの演習問題に取り組むこと。				
成績評価の方法・基準	毎回課される小レポートの提出を、出席代わりとする。成績は、小テストと最終試験の点数を半分ずつの割合で加算して評価する。				
オフィスアワー	随時。ただし会議等の都合で研究室に不在の時間があるので、事前に連絡を取ってもらったほうが安全ではある (sskawai@ipc.shizuoka.ac.jp)				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	応用数学 (Applied Mathematics)					
担当教員名	松本 敏隆 (MATSUMOTO Toshitaka)			所属等	学術院理学領域	
				研究室	理学部C棟510	
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	火1・2	
キーワード	フーリエ変換、超関数、緩増加超関数、基本解					
授業の目標	本講義ではルベーク可積分関数ならびに超関数のフーリエ変換を講義する。					
学習内容	本講義では、ルベーク可積分関数に対するフーリエ変換および、超関数の理論に基づき緩増加超関数に対するフーリエ変換を定義する。フーリエ変換は、微分演算を多項式をかける演算に置き換えるため、偏微分方程式を代数方程式として解くことを可能にする。応用として熱方程式の基本解を構成する。時間があればソボレフ空間についても触れる。					
授業計画	1. ルベーク可積分関数のフーリエ変換 （1）L ¹ 関数のフーリエ変換 （2）急減少関数 （3）反転公式 （4）L ² 関数のフーリエ変換 2. 超関数のフーリエ変換 （1）超関数の空間 （2）超関数の微分・合成積 （3）緩増加超関数 （4）緩増加超関数のフーリエ変換 （5）熱方程式の基本解					
受講要件	微分積分学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、解析学を受講していること。					
テキスト	なし					
参考書	垣田高夫・柴田良弘著、「ベクトル解析から流体へ」日本評論社など。					
予習・復習について	講義ノートおよび参考書で予習・復習を行い、理解度を深めて欲しい。					
成績評価の方法・基準	定期試験の結果（80％）、受講態度・レポート（20％）により総合的に判断する。					
オフィスアワー	月曜6～9限					
担当教員からのメッセージ	「解析学Ⅰ」を受講していると理解が深まる。					

授業科目名	解析力学 (Analytical Mechanics)					
担当教員名	松本 正茂 (MATSUMOTO Masashige)	所属等	学術院理学領域			
		研究室	理学部 A 棟 A501			
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2	
キーワード	変分法、最小作用の原理、ラグランジアン、ハミルトニアン、量子力学					
授業の目標	力学Ⅰ・Ⅱの内容を一般化して、ニュートン力学を様々な問題に適用できるようにする。					
学習内容						
授業計画	次の内容について学ぶ予定である。 1. 変分法 2. ラグランジアンと最小作用の原理 3. 解析力学の応用例 4. ハミルトン形式 5. 正準変換					
受講要件	原則として、基礎物理学Ⅰ・Ⅱ、力学Ⅰ・Ⅱを履修していること。					
テキスト	解析力学 畑浩之 著 東京図書 ISBN: 4489021682					
参考書	必要に応じて、授業中に紹介する。					
予習・復習について	予習と復習は授業内容の理解に必要であるため、必ず行うこと。					
成績評価の方法・基準	試験と提出物によって成績を評価する。					
オフィスアワー	適宜（必要に応じて設定する場合もある）					
担当教員からのメッセージ	解析力学とは、力学Ⅰと力学Ⅱで学んだニュートン力学と同等であるが、異なる視点から見た力学である。実際の計算において役立ち、量子力学へもつながるものであり、しっかり勉強して欲しい。					

授業科目名	海洋学 (Oceanography)					
担当教員名	宗林 留美 (SOHRIN Rumi)		所属等	大学院理学領域		
			研究室	理学部C棟 411		
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期前半		必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	1	曜日・時限	火 1・2	
キーワード	海洋、物質循環、生態系、輸送					
授業の目標	海洋学は、海洋の物理、化学、生物、地学の総合的な科目である。本授業では、水を含めた物質の輸送を通して、海洋の物質循環と生態系、およびそれらと地球環境との関係について理解することを目標とする。					
学習内容	海洋は、水、熱、炭素の巨大貯蔵庫であり、これらは海洋の内部や、外部と行き来することで、地球環境に大きな影響を与えている。このような循環を理解する上で必要となる、海洋学の基本的事項について学習する。					
授業計画	1. 海洋学の発展 2. 海水の性質 3. 海水の動き 4. 陸域と海洋 5. 大気と海洋 6. 鉛直輸送 7. 生物生産					
受講要件	生物環境科学概論Ⅱを履修していることが望ましい。					
テキスト	プリント					
参考書	海洋学（原著第4版、ポール R. ピネ、東海大学出版会）					
予習・復習について	一回の授業につき、予習・復習合わせて週1時間程度テキストを読む。					
成績評価の方法・基準	試験により評価する。ただし、状況によっては、授業への取り組み方（出席状況など）を評価の対象に加える。					
オフィスアワー	後期火曜の3・4時限と昼休み。					
担当教員からのメッセージ	（※この科目は隔年開講です）					

授業科目名	無機機器分析 (Inorganic Instrumental Analysis)					
担当教員名	加藤 知香 (KATO Chika)	所属等	学術院理学領域			
		研究室	理学部A棟 307			
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2	
キーワード	分光光学、吸光光度分析、赤外吸収分析法、原子吸光分析、X 線分析法、磁気共鳴分析、質量分析、クロマトグラフィー、熱分析					
授業の目標	最近の測定機器の発達によって、分析化学における機器分析の占める比重は大きなものになっている。この講義では、無機イオン・無機化合物を分析対象とした機器分析化学の基礎を方法別に学習する。					
学習内容	物質と電磁波（X線、紫外線、可視光線、赤外線、マイクロ波など）との相互作用や、物質の電気化学的性質に基づいた分析法の基礎を学習する。					
授業計画	回 内容 1 第1章 序論 2 第2章 吸光光度分析と蛍光光度分析 3 第3章 赤外吸収・ラマンスペクトル分析法 4 第3章 赤外吸収・ラマンスペクトル分析法（続き） 5 第4章 原子吸収光分析、フレイム分析および発光分光分析 6 第4章 原子吸収光分析、フレイム分析および発光分光分析（続き） 7 第5章 X 線分析法 8 第5章 X 線分析法（続き） 9 第6章 磁気共鳴分析 10 第6章 磁気共鳴分析（続き） 11 第7章 質量分析 12 第7章 質量分析（続き） 13 第8章 クロマトグラフィー 14 第8章 クロマトグラフィー（続き） 15 第10章 熱分析					
受講要件						
テキスト	庄野利之・脇田久伸編著 「入門機器分析化学」（三共出版）					
参考書						
予習・復習について	1 回の授業につき、予習・復習合わせて週 1 時間程度テキストを読めば十分である。					
成績評価の方法・基準	基本的にレポートにて評価するが、小テストや受講態度も加味する。					
オフィスアワー	随時					
担当教員からのメッセージ	関数電卓を持ってくるください。					

授業科目名	応用生化学 (Advanced Biochemistry)					
担当教員名	瓜谷 眞裕 (URITANI Masahiro)	所属等	学術院理学領域			
		研究室	理学部 A 棟 312 室			
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4	
キーワード	ガン、細胞周期、シグナル伝達、アポトーシス、染色体の構造、代謝の調節機構、タンパク質の細胞内局在の機構、免疫と抗体、核酸研究法、タンパク質研究法					
授業の目標	遺伝子組換え作物、DNA 型鑑定、遺伝子診断、臓器移植と免疫抑制剤、iPS 細胞を使った再生医療、生活習慣病の診断と予防、抗癌剤による癌治療。現代の社会は、生命科学の技術の進歩と深く関わっています。生命科学の根本原理や生命の仕組みを理解することは、より良く生きていくために、ますます重要になっていくでしょう。そのための知識や技術、そして考え方を身につけるとともに、生命科学と社会の関わりについての理解を深めていきます。					
学習内容	1. 体細胞変異とガン、真核生物の染色体、細胞周期、シグナル伝達、アポトーシス、肥満と糖尿病、血糖値の調節など高次の生命現象について学びます。 2. 生命科学を支える実験技術の原理を理解し、どのように使われているかを学びます。 3. タンパク質の「誕生から死」、タンパク質の分泌と細胞内輸送、代謝の調節機構、免疫と抗体などの基礎的な生命現象を分子レベルで理解します。					
授業計画	教科書に沿って、次の計画で講義を行う。 回 内容 1 染色体の構造と転写調節 2 細胞の増殖と細胞周期 3 増殖因子とそのシグナル伝達の機構 4 代謝と情報伝達 5 代謝制御の機構 6 タンパク質研究法 1 (分離と精製) 7 タンパク質研究法 2 (検出と同定) 代謝制御による血糖値調節の機構代謝制御とガン・糖尿病・肥満・寿命 8 酵素研究法 (活性とその調節) 9 核酸研究法 1 (分離と検出) 10 核酸研究法 2 (形質転換とその応用) タンパク質の分泌機構 11 タンパク質 1 (合成から分解まで) 12 タンパク質 2 (分泌機構) 13 タンパク質 3 (オルガネラの輸送のへの輸送機構) 14 免疫と抗体・運動と筋タンパク質 15 アポトーシスとその機構・総括					
受講要件	関心のある方であれば誰でも受講を歓迎します。					
テキスト	ヴォート基礎生化学 第3版 (東京化学同人)」によります。					
参考書	細胞の分子生物学 第5版 (ニュートンプレス)、ルーイン細胞生物学 (東京化学同人)					
予習・復習について	参考書やノートなどをよく読んで理解を深めることと、深く考えること、考えや疑問などをお互いに話し合うこと。					
成績評価の方法・基準	単位の認定には、原則として3分の2以上の出席が必要です。 単位の認定と成績の評価は、原則としてレポート (30%) および期末試験 (70%) の総点で判断します。					
オフィスアワー	月曜日の午前中を空けておきますが、これ以外でも可能な限り対応します。					
担当教員からのメッセージ	21 世紀には生命科学がより深く社会に関わりを持つことになるでしょう。生命科学の理解を通して、皆さんの将来の役に立てば幸いです。多くの方に受講してもらえることを願っています。					

授業科目名	古動物学 (Palaeozoology)					
担当教員名	鈴木 雄太郎 (SUZUKI Yutaro)			所属等	学術院理学領域	
				研究室	理学部 C 棟 502	
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期前半		必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	1	曜日・時限	火 3・4	
キーワード	進化、適応、形態、機能、化石、関係性					
授業の目標	動かざる化石の姿形から動物的特性を捉えてゆく.					
学習内容	骨格化石を動物として理解する捉え方や解析方法を学習する.					
授業計画	1. 動物骨格の化石. 2. 生物進化と化石生物. 3. 動物体と化石化する骨格の関係. 4. 形状を捉える. 5. アナロジー. 6. 生体システムの観点で化石動物を捉える. 7. 化石から動物の行動特性を探れるか. 8. テスト					
受講要件	特になし					
テキスト	適時プリント等の資料を配布する.					
参考書	なし					
予習・復習について	レポート作成を講義中に指示する.					
成績評価の方法・基準	レポートおよび筆記試験にもとづいて評価する.					
オフィスアワー	質問・相談等はメール (sysuzuk@ipc.shizuoka.ac.jp) でまず問い合わせして下さい.					
担当教員からのメッセージ	講義で興味を抱いた事象について, 自ら疑問をもつ, 広げてゆく, 深めてゆく心構えが備わるよう取り組んで欲しい.					

授業科目名	固体物理学 (Solid State Physics)					
担当教員名	海老原 孝雄 (EBIHARA Takao)			所属等	大学院理学領域	
				研究室	理学部 A 棟 512	
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4	
キーワード	電子、格子、逆格子、量子力学、量子統計力学					
授業の目標	物質の持つさまざまな性質を系統的に理解することが最終的な目標であり、そのための基本となる考え方を解説する。					
学習内容	固体物理学は、身近な固体の中で起こる物理現象を理解する学問で、現代のエレクトロニクス発展に、基盤概念と実験的手法を編み出してながら寄与して来た学問分野である。これらの基盤概念と実験的手法を編み出す元となった考え方を、順に解説する。同時に、先端研究への架け橋となるような話題を織り交ぜる。					
授業計画	-固体物理学とは- 2. 原子・分子の凝集と結晶(I) 3. 原子・分子の凝集と結晶(II) 4. 格子と逆格子 5. 結晶による波の回折 6. ブリルアンゾーン 7. 結晶格子振動 8. 結晶格子の熱的性質 9. 自由電子フェルミ気体 10. 電子比熱 11. ブロッホの定理					
受講要件	要件はないが、3 年生前期までの必修科目を修めておくと、本講義の理解を助けるだろう					
テキスト	なし					
参考書	固体物理学―工学のために：岡崎誠 著：ISBN-10: 4785322144					
予習・復習について	毎回よく行うこと。					
成績評価の方法・基準	テストの点数で決める。					
オフィスアワー	講義後					
担当教員からのメッセージ	1.今まで習った統計力学や量子力学が、どのように学問理解のために用いられるか、実感できる 2.電気が流れるといった簡単そうなことの理解が、実は意外に難しいことがわかるかもしれない。					

授業科目名	代数学 I (Algebra I)					
担当教員名	浅芝 秀人 (ASASHIBA Hideto)	所属等	学術院理学領域			
		研究室	理学部 C 棟 615			
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4	
キーワード	体、体の拡大、ガロア理論					
授業の目標	1 変数多項式 $f(x)$ によって $f(x)=0$ で表される方程式のすべての根が，その多項式の係数から四則演算とベキ根を取る操作で表されるとき，その方程式は代数的に解かれるという。そのための必要充分条件を $f(x)$ のガロア群が可解であるという形で与える。					
学習内容	このために，まず四則演算で閉じている集合である体とその拡大体を研究する。次に，体の拡大 L/K に対して L の K -自己同型の全体のなす群を考える。この拡大がガロア拡大であるとき，この群の部分群と， L/K の中間体の間に包含関係を逆にする 1:1 の対応が存在することを見る（ガロア理論の基本定理）。方程式 $f(x)=0$ が代数的に解けることは， $f(x)$ の係数の体 K にその方程式の根を添加してできる体 L (f の K 上の分解体) が， K にベキ根を添加してできる拡大体に含まれることと言換えられる。このことを基本定理を用いて，拡大 L/K のガロア群（= $f(x)$ のガロア群）を調べることによって判定できるようにする。					
授業計画	1. 体の拡大 2. 代数拡大 3. 正規拡大 4. ガロア理論の基本定理 5. 分離性 6. 超越拡大 7. 有限体 8. 単純拡大 9. 代数的閉体 10. 多項式のガロア群 11. 方程式の可解性					
受講要件	代数学入門および代数学を履修していること。					
テキスト	代数入門（東郷重明，サイエンス社）。あるいは下記の参考書。					
参考書	代数学 2（雪江明彦，日本評論社）現代代数学（服部昭著，朝倉書店）代数系入門（松坂和夫著，岩波書店）ガロア理論（E. アルティン著，寺田文行訳，東京図書）代数学（彌永昌吉，彌永健一共著，岩波全書）ガロアの時代ガロアの数学，第二部（彌永昌吉著，シュプリンガー・フェアラーク東京）					
予習・復習について	教科書や参考書で予習，授業ノートや教科書で復習すること。自主的に練習問題を解くこと。理解できないところは，できるだけ早く質問に来て理解すること。					
成績評価の方法・基準	出席，レポートによる平常点 20%と試験 80%で評価する。					
オフィスアワー	最初の授業のとき連絡する。					
担当教員からのメッセージ	授業の内容で分からないことがあったら，できるだけ早く質問に来て下さい。					

授業科目名	位相数学 I (Topology I)					
担当教員名	保坂 哲也			所属等	学術院理学領域	
				研究室	理学部 C 棟 606 室	
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6	
キーワード	ホモロジー、単体、複体、多面体、鎖群、単体写像、鎖準同型写像、単体近似、オイラー標数					
授業の目標	位相幾何の中で最も基本的な研究手法の 1 つであるホモロジー論の基礎を学ぶ。					
学習内容	多面体のホモロジー論は、位相幾何学のように連続性を基本とする幾何学を単体的複体の組合せ的性質によって規定していくものである。幾何学を如何に代数化するか、現代数学の端緒となったホモロジー論を学ぶ。					
授業計画	教科書に沿って講義する。 1. 位相空間と連続写像（2 年生の時の内容が主だが簡単に復習する） 2. 同値関係と商空間、（教科書の 3 節と 4 節は省く） 3. 単体と複体と多面体 4. 重心細分 5. 鎖群とホモロジー群 6. 単体写像と鎖準同型写像 7. 単体近似 8. 多面体のホモロジー群 9. オイラー標数 10. ホモロジー群と準同型写像 時間があれば、次の内容も扱う。 11. Mayer-Vietoris 完全系列 12. いろいろな応用					
受講要件	集合・位相、線形代数、群論の基礎知識を持っていることが望ましい					
テキスト	小宮克弘著「位相幾何入門」（裳華房）(ISBN: 978-4785315283)					
参考書						
予習・復習について						
成績評価の方法・基準	授業中に指示する。					
オフィスアワー	授業中に指示する					
担当教員からのメッセージ	授業の中で課題を出すので、課題を解くことを通して理解を深めてください。					

授業科目名	植物発生学 (Plant Developmental Biology)					
担当教員名	木寄 暁子 (KOZAKI Akiko)			所属等	学院院理学領域	
				研究室	総合研究棟 701	
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6	
キーワード	植物、発生、形態形成、遺伝子、遺伝子組換え植物					
授業の目標	植物の形態形成にかかわる遺伝子の働き，およびその研究方法を理解する． また、植物の分子生物学の基礎（特に遺伝子組換え植物等）を理解する．					
学習内容	近年，植物の形態形成を支配する遺伝子の同定・制御機構の研究がめざましい成果をあげている． 本講義では，これら植物の形態形成を制御する遺伝子について解説するとともに，どのようにこのように研究が進められているか（方法論）について解説する．					
授業計画	1． 植物の分子生物学の基礎と応用 2． （遺伝子組み換え植物等） 3． " 4． " 5． " 6． " 7． " 8． 形態形成にかかわる遺伝子の同定（方法） 9． " 1 0． " 1 1． " 1 2． 形態形成にかかわる遺伝子の働き 1 3． " 1 4． " 1 5． "					
受講要件						
テキスト	ベーシックマスター 植物生理学					
参考書	植物の生化学・分子生物学，細胞の分子生物学					
予習・復習について						
成績評価の方法・基準	試験および出席により評価する					
オフィスアワー						
担当教員からのメッセージ						

授業科目名	生化学 (Biochemistry)				
担当教員名	天野 豊己 (AMANO Toyoki)	所属等	学院院理学領域		
		研究室	総 721		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	タンパク質、アミノ酸、代謝				
授業の目標	生体を構成する分子の構造と機能が分かるようになり、それらがどのように結びついているのかが理解できるようにする。				
学習内容	生体内における酵素反応の分子機構について、タンパク質の構造と機能の両面から解説する。またタンパク質科学の実験方法についても解説する。				
授業計画	1. pH と緩衝液 2. 生体物質 3. アミノ酸 4. タンパク質の二次構造 5. タンパク質の三次構造 6. タンパク質の四次構造 7. タンパク質間相互作用 8. 酵素反応 9. 酵素反応速度論 10. タンパク質の沈殿 11. クロマトグラフィー 12. 電気泳動				
受講要件					
テキスト	プリントを配布する。				
参考書	ヴォート生化学(東京化学同人)、ストライヤー生化学(東京化学同人)、コーンスタンプ生化学(東京化学同人)、細胞の分子生物学 (Newton Press)、など。				
予習・復習について	高校で生物もしくは化学を学習していない人は、細胞の分子生物学 (第 5 版) の第 2 章と第 3 章に目を通して、分子の世界に慣れておくと良い。また、自分に合った生化学の入門書で全体像をつかんでおくことも勧める。				
成績評価の方法・基準	成績は、試験と出席状況から総合的に判断する。				
オフィスアワー	質問は適宜受け付ける。不在に備えて sbtaman@ipc.shizuoka.ac.jp に連絡が望ましい。				
担当教員からのメッセージ	しっかりやりましょう。				

授業科目名	地球科学入門Ⅲ (Introduction to Geosciences III)				
担当教員名	生田 領野 (Ryoya IKUTA)	所属等	学術院理学領域		
		研究室	共通教育C棟 306		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6
キーワード	地球のダイナミクス、プレートテクトニクス、地震、造山運動、宇宙の中の地球、太陽系の形成、宇宙の進化、恒星の一生、銀河				
授業の目標	英語で書かれた教科書に沿って学習しながら地球科学の基礎的素養を幅広く身につける。 地球を様々な時間空間スケールで認識し、複合的なシステムとして捉える視点を養う。				
学習内容	地球科学の入門。英語のテキストを用いて学習する。 岩石圏のダイナミクスを地球科学の発達史を踏まえて概観する。 天文学の発達史を踏まえて地球外の惑星、宇宙を概観し、相対的な視点で地球を捉える。 主眼は地球科学に対する入門であるが、英語の教科書を用いることで科学の共通語としての英語での読み書きに慣れる。				
授業計画	Unit III: Forces Within 7: Plate Tectonics: A Scientific Revolution Unfolds 8: Earthquakes and Earth's Interior 10: Crustal Deformation and Mountain Building Unit VII: Earth's Place in the Universe 21: Origins of Modern Astronomy 22: Planetary Geology 23: Light, Astronomical Observations, and The Sun 24: Beyond Our Solar System 回 内容 1 大陸移動説と大論争 2 プレートテクトニクスの勃興：プレート境界の力学とそれに伴う様々な事象 3 地球内部のダイナミクス 4 地震発生の物理 5 地震学；地震の波を見る 6 災害としての地震 7 地震と地殻変動 8 造山運動と地質構造 9 天文学；古代ギリシャから近代天文学へ 10 惑星運行と古典力学 11 太陽系の発達史と比較惑星学 12 現代天文学 13 恒星 14 宇宙 15 二年生からの地球科学の学び方				
受講要件					
テキスト	1. Tarbuck, Lutgens, TasaEarth Science, New International ed. 13th ed.Pearson Education, ISBN10:1-292-02085-72. ニューステージ 新地学図表, 浜島書店, ISBN:978-4-8343-4012-9				
参考書					
予習・復習について	英語辞書を十分に使い予習・復習することをすすめる。				
成績評価の方法・基準	授業中の発言、複数回の小課題に加え、学期末テストで授業の理解度を評価する。				
オフィスアワー	毎週火曜日の午後				
担当教員からのメッセージ	科学的な英語の文章には論理的な流れがあり、小説より断然簡単です。更に図版が大変美しい教科書なので眺めてみるだけでも楽しいこと請け合いです。地球科学全体の入門を1年間かけて進める中で、自分が好きな分野を見つけてください。				

授業科目名	微分積分学Ⅱ (Infinitesimal Calculus Ⅱ)					
担当教員名	板津 誠一 (ITATSU Seiichi)		所属等	学術院理学領域		
			研究室	理学部 C 棟 6 0 5		
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	火 5・6	
キーワード	Taylor の定理、不定積分、定積分、広義積分、級数、一様収束					
授業の目標	解析学の基礎となる微分積分学の定理の証明を述べます。応用上有用な Taylor の定理、1 変数関数の積分、関数列の収束について、基本的な諸定理の厳密な証明を理解することを目標とします。					
学習内容	微分積分学Ⅰで学習した数学用語・定理を用いて、Taylor の定理、定積分の定義および基本定理、広義積分の収束・発散、関数列の収束について論じます。					
授業計画	1. 高次導関数 2. Taylor の展開 3. 級数 4. 初等関数の Taylor 展開 5. 定積分 6. 定積分の基本的性質 7. 微分積分学の基本定理 8. 不定積分の計算法 9. 漸化式 10. 広義積分 11. 定積分の計算と曲線の長さ 12. 関数項級数 13. 関数列の一様収束 14. 項別微分と項別積分 15. ベキ級数					
受講要件	微分積分学Ⅰの内容を理解していることが望ましいです。					
テキスト	「解析学入門」、白岩謙一著、(学術図書出版社) ISBN 4-87361-114-8;ISBN 978-4-87361-114-3					
参考書	青木利夫・吉原健一・樋口禎一・寺田敏司共著「改訂 演習・微分積分学」(培風館) ISBN 4563-00197-X;ISBN 978-4563001971					
予習・復習について	授業のノートおよびテキストで予習および復習をしてください。数学の問題に取り組むことが重要です。					
成績評価の方法・基準	成績評価は受講態度、レポート（20％）および試験（80％）により行われます。試験では論述的な解答が求められます。					
オフィスアワー	初回の講義のときにお知らせします。					
担当教員からのメッセージ						

授業科目名	代数学入門 (Introduction to Algebra)					
担当教員名	毛利 出 (MORI Izuru)	所属等	学術院理学領域			
		研究室	理学部C棟511			
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	火7・8	
キーワード	群、部分群、巡回群、置換群、準同型、剰余類、正規部分群、剰余群、準同型定理					
授業の目標	群論の基本を学ぶこと。					
学習内容	大学で学ぶ抽象代数学の典型的な例として群・環・体があるが、この講義ではそのうち最も公理の少ない群について習得する。また群を学習することを通して、抽象代数学の基本的な考え方について慣れ親しむ。					
授業計画	1. 群の定義と例 2. 群の性質と部分群 3. 巡回群 4. 置換群 5. 準同型 6. 剰余類と正規部分群 7. 剰余群と準同型定理					
受講要件						
テキスト	特になし					
参考書	代数学（倉田吉喜著）近代科学社 ISBN4-7649-1029-2					
予習・復習について	数学は積み重ねの学問なので、前回の授業内容を確実に理解した上で授業に参加すること。復習しても理解できなかった点は、できるだけ早く質問に来るなどして解明すること。					
成績評価の方法・基準	授業参加態度・レポート・期末試験等で評価する。					
オフィスアワー	授業開始後決定する。					
担当教員からのメッセージ	初めて本格的な抽象代数学を学習するので、苦戦するかもしれないが、具体例を多く取り上げる予定なので、がんばってほしい。					

授業科目名	放射線生物学概論 (Fundamentals of Radiation Biology)					
担当教員名	山内 清志 (YAMAUCHI Kiyoshi)	所属等	グリーン科学技術研究所			
		研究室	総合研究棟 6 0 2			
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	—
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 9・10	
キーワード	放射線、生体影響、被曝					
授業の目標	放射線の人体に対する影響に関する基礎的知識を習得する。					
学習内容	一般に、人体が放射線を受ける（被ばくする）と何らかの悪影響を受けると考えられているが、放射線の種類や線量によってもその影響は様々である。この放射線の人体への影響について、分子レベルから個体レベルまでに分類して系統的に解説する。					
授業計画	回 内容 1 放射線影響の分類 2 放射線の分子レベルの影響（1） 3 放射線の分子レベルの影響（2） 4 細胞に対する放射線影響（1） 5 細胞に対する放射線影響（2） 6 組織に対する放射線影響 7 放射線の個体レベルの影響 8 晩発障害 9 胎児に対する影響（胎内被ばく） 10 内部被ばく 11 遺伝的影響 12 放射線感受性の修飾要因 13 生物領域における放射線利用（1） 14 生物領域における放射線利用（2） 15 まとめ					
受講要件	放射化学概論を履修していることが望ましいが、未履修者に対しても考慮しつつ講義を進めていく。					
テキスト	放射線概論（飯田博美編、通商産業研究社）					
参考書	資料を配布する。					
予習・復習について	1 回の授業につき、予習・復習としてテキスト等を読んでおくことこと。					
成績評価の方法・基準	期末試験およびレポート等により総合的に評価する。					
オフィスアワー	適宜応じる。					
担当教員からのメッセージ	目的意識を持って学習に取り組んでください。					

授業科目名	位相数学入門 (Introduction to Topology)				
担当教員名	依岡 輝幸 (YORIOKA Teruyuki)	所属等	学術院理学領域		
		研究室	理学部 C 棟 C616		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	連続写像、開集合、閉集合、位相、位相空間、コンパクト、連結、完備				
授業の目標	前期に学んだ「距離空間」を抽象化・一般化した「位相空間」について学びます。				
学習内容	2 年次前期に学んだ「集合・位相」および「集合・位相演習」の続きです。				
授業計画	位相空間という構造について学びます。これは、「集合・位相」で学んだ距離空間を一般化したものです。トピックを挙げると、次のようになります。 1. 位相空間（開集合・位相） 2. 位相空間上の連続関数 4. 位相空間のコンパクト性 5. 位相空間の連結性 6. 位相空間の完備性 7. 積位相と商位相				
受講要件	2 年次前期「集合・位相」および「集合・位相演習」の知識を前提に授業を行います。				
テキスト	大田春外著，『はじめての集合と位相』，日本評論社, 2012, 978-4-535-78668-4				
参考書	内田伏一著，『集合と位相』，裳華房, 1986, 978-4-7853-1401-9 矢野公一著，『距離空間と位相構造（共立講座 21 世紀の数学）』，共立出版, 1997, 978-4320015562 大田春外著，『はじめよう位相空間』，日本評論社, 2000, 978-4-535-78277-8				
予習・復習について	復習を絶え間なく行ってください。				
成績評価の方法・基準	レポート 30%，期末試験 70% で評価します。				
オフィスアワー	http://researchmap.jp/yorioka/ でオフィスアワーの時間を公開しています。				
担当教員からのメッセージ	今までの授業の中でも抽象度が高く、授業に出席してすぐに理解できることは通常ありません。毎回の授業でしっかりノートを取って、復習をしてはじめて理解ができます。				

授業科目名	代謝生化学 (Biochemistry of Metabolism)				
担当教員名	山本 歩 (YAMAMOTO Ayumu)	所属等	学術院理学領域		
		研究室	理学部A棟 311		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2
キーワード	エネルギー代謝、異化作用、同化作用、栄養、グルコース、アミノ酸、脂質、ATP				
授業の目標	生化学の主要な代謝経路について学習し、その原理を学ぶ。				
学習内容	「人はパンのみにて生きるにあらず」という言葉がありますが、パン（食物）なくして生きることができないのも事実です。人は食物を摂り、消化し、栄養を吸収します。生きていくのに必要なエネルギーと、体を作るのに必要な物質を、ともに栄養から得ているからです。栄養からどのようにしてエネルギーを取り出すのか？どのようにして体に必要な物質を合成するのか？こういった、エネルギーや物質の変化と流れを「代謝」と言います。ここでは、生化学の主要な代謝経路について解説をします。				
授業計画	教科書にそって、次の順序で代表的な代謝経路を解説します。 1. 代謝 2. グルコースの異化代謝 3. グリコーゲン代謝と糖新生 4. クエン酸サイクル 5. 電子伝達と酸化的リン酸化 6. 光合成 7. 脂質代謝 8. アミノ酸代謝				
受講要件	基礎量子化学、基礎熱化学、基礎有機化学Ⅰ・Ⅱ、基礎生化学、生物学Ⅰ・Ⅱの履修を前提とする。				
テキスト	ヴォート基礎生化学 第4版（東京化学同人）				
参考書	必要があれば、授業でそのつど紹介する。				
予習・復習について	テキスト・ノートを読むなどの予習・復習をすること。				
成績評価の方法・基準	単位の認定と成績の評価は、レポートおよび期末試験の総点で判断する。単位の認定は3分の2以上の出席を前提とする。				
オフィスアワー	空いているときはいつでも対応します。				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	有機化学Ⅵ (Organic Chemistry Ⅵ)					
担当教員名	山中 正道 (YAMANAKA Masamichi)			所属等	学術院理学領域	
				研究室	理学部 B 棟 3 1 1 室	
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2	
キーワード	有機化学、反応機構、官能基					
授業の目標	有機化学の総合的な理解を深める					
学習内容	有機化学 V の講義に引き続き、以下の項目についてテキストをもとに学習する。また、これまで個々の官能基別に学習してきた有機化学を繋ぎ合わせ、総合的な理解を深める。					
授業計画	2 4 章 炭化水素 2 5 章 ヘテロ環化合物 2 6 章 アミノ酸、ペプチド、タンパク質、核酸 有機化学全般に関する総合的な学習					
受講要件	特になし					
テキスト	「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 上（第 6 版）」（古賀憲司・野依良治ら監訳）（化学同人）「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 下（第 6 版）」（古賀憲司・野依良治ら監訳）（化学同人）					
参考書						
予習・復習について	予習、復習を励行して欲しい。					
成績評価の方法・基準	試験および出席状況により評価する。					
オフィスアワー	特に指定なし					
担当教員からのメッセージ	有機化学は、物質を創製・合成し、その特性を探究する重要な学問分野です。					

授業科目名	量子力学Ⅱ (Quantum Mechanics II)					
担当教員名	土屋 麻人 (TSUCHIYA Asato)	所属等	学術院理学領域			
		研究室	理 A 4 0 1			
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2	
キーワード	ブラ・ケット記号、シュレディンガー描像、ハイゼンベルグ描像、正準交換関係、正準量子化、生成・消滅演算子、角運動量、スピン、固有磁気モーメント					
授業の目標	量子力学Ⅰ に引き続き、量子力学の考え方に習熟することを目指す。					
学習内容	量子力学Ⅰ で学んだ基本的な事柄をふまえて、量子力学の体系を理解する。角運動量と対称性の関係を理解し、スピンについて学ぶ。電磁場中の荷電粒子を量子論的に理解する。					
授業計画	1. 量子力学の体系 2. 角運動量と対称性 3. 電磁場中の荷電粒子					
受講要件	基礎物理学Ⅰ、Ⅱ、力学Ⅰ、Ⅱ、解析力学、電磁気学Ⅰ、Ⅱ、物理数学Ⅰ、Ⅱ 及び量子力学Ⅰ が履修済みであることが望ましい。					
テキスト	「量子力学Ⅰ」「量子力学Ⅱ」 猪木・川合／著 (講談社サイエンティフィック)					
参考書	必要に応じて紹介する。					
予習・復習について	復習をすること。					
成績評価の方法・基準	中間試験と期末試験					
オフィスアワー	随時					
担当教員からのメッセージ	量子力学Ⅰ に続き、量子力学Ⅱ を学べば、量子力学の深さがだんだんとわかってくるでしょう。自ら手を動かすことが大事です。					

授業科目名	構造化学 (Structural Chemistry)					
担当教員名	岡林 利明 (OKABAYASHI Toshiaki)			所属等	学術院理学領域	
				研究室	総合研究棟 504	
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4	
キーワード						
授業の目標	物理化学のひとつの分野である構造化学について、その基礎を学ぶ					
学習内容	化学の種々分野で応用されている分光法は量子化学的知識に基づいて理解することにより、その特徴および限界などをよく把握できる。そのために必要な基礎的事項を学ぶ。また、分子の電氣的、磁氣的性質についても講義する。					
授業計画	テキストの次の章を、以下の順序で講義する。 1. 第 12 章 分子の対称 物体の対象要素 1 2. 第 12 章 分子の対称 物体の対象要素 2 3. 第 12 章 分子の対称 分子軌道法と分光学への応用 1 4. 第 12 章 分子の対称 分子軌道法と分光学への応用 2 5. 第 13 章 分子分光学 1：回転スペクトルと振動スペクトル 分光学の一般的性質 6. 第 13 章 分子分光学 1：回転スペクトルと振動スペクトル 純回転スペクトル 7. 第 13 章 分子分光学 1：回転スペクトルと振動スペクトル 二原子分子の振動 8. 第 13 章 分子分光学 1：回転スペクトルと振動スペクトル 多原子分子の振動 9. 第 14 章 分子分光学 2：電子遷移 電子遷移の特性 10. 第 14 章 分子分光学 2：電子遷移 電子励起状態がたどる道 11. 第 14 章 分子分光学 2：電子遷移 レーザー 12. 第 18 章 分子間相互作用 電氣的性質 13. 第 18 章 分子間相互作用 分子間相互作用 14. 第 18 章 分子間相互作用 気体と液体 15. まとめ					
受講要件	量子化学 I, II の知識が必要になるので、よく復習をしておくこと。					
テキスト	P. Atkins, J. de Paula 著 千原・中村訳 「アトキンス物理化学（上・下）」（東京化学同人）定価 5700+5800 円					
参考書						
予習・復習について	前もって教科書の目を通しておくこと。復習として教科書の問題を解いてください。					
成績評価の方法・基準	出席と最終試験に基づいて評価する。試験問題は主として章末問題および例題に基づいて出題する。					
オフィスアワー	随時					
担当教員からのメッセージ	解らないことは恥ずかしいことはありません。積極的に質問してください。					

授業科目名	生物物理学 (Biophysics)					
担当教員名	山崎 昌一 (YAMAZAKI Masahito)		所属等	電子工学研究所		
			研究室	理学部A棟410		
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期前半		必修選択区分	選必
対象学年	3年	単位数	1	曜日・時限	水3・4	
キーワード	生物物理学、複雑系の物理、ソフトマターの物理、生体分子の分子間相互作用、蛋白質、生体膜					
授業の目標	生体分子の分子間相互作用や高分子/分子集合体としての生体分子の物理的基礎を理解する					
学習内容	単純な系で成功をおさめた物理学は、現在、ひとつの方向として、より複雑な分子および分子集団の研究に向かおうとしている。ここではその複雑系の研究として、生物物理学における基礎的な理論や実験方法について述べる。このような複雑系においては、現象論的な理論が重要になり、現象の本質にせまる理論モデルを作成することが必要である。従ってそこで活躍するのは、統計熱力学とその応用になる。また複雑系の実験では、一種類の実験方法だけから得られる結論は非常に少ないので、多種類の実験方法から得られる結果を総合的に考察することが重要になる。					
授業計画	1. Chap.1: 生物物理学序論 Chap.2: 高分子の物理学 2-1 高分子鎖の統計的性質（ガウス鎖、末端間距離、実在鎖）、2-2 ゴム弾性 2. Chap.3: 拡散 3-1 自由拡散（拡散方程式、生体膜中の拡散）、3-2 外場があるときの拡散（Fokker-Planck 方程式、Einstein の関係式、Langevin 方程式、自己相関関数） 3. Chap.4: 生体分子の分子間相互作用 4-1 二成分系の統計力学（格子模型、Bragg-Williams 近似、相分離） 4. 4-2 疎水性相互作用（炭化水素の移行の自由エネルギー、疎水性相互作用の温度依存性） 5. 4-3 水溶液中の静電相互作用（Debye-Hückel 理論、Poisson-Boltzmann 方程式、デバイ長、生体膜の静電相互作用－1次元の Poisson-Boltzmann 方程式） 6. Chap.5: 蛋白質の物性論、5-1 蛋白質の構造、5-2 蛋白質のフォールディング 7. 5-3 蛋白質のアンフォールディング（温度変化によるアンフォールディング、2状態転移、超高感度マイクロカロリメーター、低温でのアンフォールディング） 8. 5-4 力による蛋白質のアンフォールディング（原子間力顕微鏡（AFM）の原理、1分子の蛋白質の力学特性の AFM による研究）					
受講要件	熱力学、統計力学 I、電磁気学 I をすでに受講して単位を取っていることが望ましい。					
テキスト	なし					
参考書	(1) 現代の物理学 19「高分子物理・相転移ダイナミクス」の第I部、土井、小貫、岩波出版、1992、ISBN 4-00-010449-7(2) 生命現象と物理学、北原、田中 編、朝倉書店、1994、4-254-13067-8(3) 生命と物質－生物物理学入門、永山、東京大学出版会、1999、978-4-13-062153-3(4) 生体膜のダイナミクス、共立出版、2000、4-320-05543-8					
予習・復習について	ほぼ毎回の授業で宿題を提出するので、それを解くのに1～2時間程度必要である。これが講義の良い復習になる。宿題は教官には提出しないが、それに関連した問題がレポート問題として出される可能性が大きい。					
成績評価の方法・基準	レポート					
オフィスアワー	未定（講義のときに発表する）					
担当教員からのメッセージ	複雑な生体物質や生命現象も分子の集合体やそれらのダイナミクスであるので、それらは物理法則により完全に説明されるはずである。生物物理学には解けていないチャレンジングな問題が山積みしている。生物物理学の研究者を目指す人だけでなく、複雑系に物理法則をどのように応用するかに興味がある人も、受講を歓迎する。					

授業科目名	地球ダイナミクス概論Ⅱ (Introduction to Geodynamics II)					
担当教員名	道林 克禎 (MICHIBAYASHI Katsuyoshi)	所属等	学術院理学領域			
		研究室	理学部C棟 401			
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4	
キーワード	岩石変形、地質構造、大陸移動説、海洋底拡大説、テクトニクス、造山運動、地殻変動、日本列島、東海地域					
授業の目標	地球のダイナミクスを理解する上で重要な構造地質学，プレートテクトニクスを学び，それらをふまえて日本列島で起こる様々な地殻変動の意味を理解する					
学習内容	概論Ⅰに引き続き，地球のダイナミクスを解説するうえで重要な地球内部の構造を理解するための構造地質学の基礎を概説する．引き続き，地殻およびマントル上部の運動を支配するプレートテクトニクスの理論について，その成り立ちと概要を解説する．これらをふまえて，日本列島周辺の過去から現在にかけてのプレートシステムの変遷，変動帯日本列島，とりわけ地殻変動の活発な東海地域周辺の位置づけ，成り立ちを明確にする．					
授業計画	1 項目 1 時間とは限らない 1 地球ダイナミクスと構造地質学 2 地質構造とは？ 3 応力と歪 4 断層と褶曲 5 弾性、脆性、塑性、粘性 6 プレートテクトニクスとは 7 日本列島周辺のプレートシステム 8 東海地域の地殻変動と東海大地震					
受講要件						
テキスト						
参考書	適宜紹介する					
予習・復習について	レポート等と併せて授業内容に関係した部分について適宜参考書等を独習しておくことを勧める．授業時間中に不明の点について随時質問できるように予習・復習する姿勢を養うこと．					
成績評価の方法・基準	レポート，授業時間内の理解度小テスト，期末試験，出席状況などを総合して評価する．					
オフィスアワー						
担当教員からのメッセージ						

授業科目名	地球生命史 (Evolution of Life on Earth)					
担当教員名	加藤 憲二 (KATO Kenji)	所属等	学術院理学領域			
		研究室	共通教育C棟 602			
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期前半		必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	1	曜日・時限	水 3・4	
キーワード	地球と生命の共進化、原核生物、真核生物、エネルギー生産、地球型生命					
授業の目標	地球は、誕生からしばらくの後に水の惑星となり、隕石の衝突などの急激な物理インパクトも経ながら、生命進化が繰り返ってきた。その中で酸素の惑星としての地球を作り上げたのは地球の無機的环境と微生物との相互作用である。ダーウインも触れることができなかった時代、生痕化石による進化学が扱うことのできない、生命がドラスティックに地球とともに進化した地球誕生後の25億年に焦点を合わせ、惑星地球の環境と生命の進化を考える。					
学習内容	惑星地球が誕生してからそこに生命が登場するまでの時間を遥かに超える間、地球上に存在したと考えられる生命は原核生物のみである。真核生物が登場するまでの10億年を超える時間の中で、生命は様々な環境の中で自らエネルギーを作り出す代謝系を獲得し、生息域を広げ、そして進化してきた。ダーウインも触れることができなかった生命が最もドラスティックに地球とともに進化した地球誕生後の25億年に焦点を合わせた、新しい地球と生命の見方をお話したい。					
授業計画	1. 分子系統樹に年代が入った！ （1）カール・ウーズ、全生命体の系統樹 （2）原核生物は最初に登場した生命に似ている。 （3）ベナールの実験 2. 地球型生命の誕生 （1）太陽系の中で地球型生命が存在しうる範囲 （2）生命は軽い元素できている；重い元素は生命活動に阻害的 （3）ミラーの実験 （4）生命が一回だけ誕生したと考える理由 3. “最古の化石”は本物か？ （1）西オーストラリアへ出かけて旧説をひっくり返す （2）分子マーカーという化石 （3）岩塩に封じ込められた2億年前の生きた細菌 4. 地球が水の惑星になったのは物理過程だが酸素の惑星になったのは生物作用 （1）光合成系の進化 （2）酸素濃度の上昇をめぐって 5. 中立進化と分子系統樹 （1）種とは？；原核生物における”種”の考え方 （2）Darwin の進化論と硫黄芝（化学合成細菌） （3）分子系統学（4）突然変異 6. 進化の中のアーキア （1）アーキア everywhere （2）Bacteria vs. Archaea 7. 真核生物の登場 （1）原核生物 vs. 真核生物；何が違うか？ （2）エネルギー代謝系はすべて原核生物が作った；カタラーゼの獲得 （3）真核生物はどのようにして生まれたのか；（連続）内部共生説 （4）Ring of Life 8. 生命進化の大きな出来事と全球凍結 （1）Kirschvinck と Hofmann （2）地球外生命体					
受講要件	理解を進める上で自分に欠けている基礎知識がみつければそれを補う努力をすること。自らの頭で生命と地球について考えるスタイルを作ろう！					
テキスト	講義ノートと配付資料が柱となる。					
参考書	適宜紹介する。たとえば、現代進化学入門（C.パターソン、岩波）、全地球史解説（熊澤他、東大出版）、生命と地球の共進化（丸山、磯崎、岩波新書）、スノーボールアース（G.ウォーカー、早川書房）など。					

予習・復習について	提供された資料と講義内容を講義後に確認し、理解すること。疑問点があれば次回に質問すること。
成績評価の方法・基準	授業への参加（出席することだけではない）と課題（もしくは試験）によって行う。
オフィスアワー	毎講義終了後の 30 分と月曜日の昼休み時間
担当教員からのメッセージ	

授業科目名	相対性理論 (The Theory of Relativity)					
担当教員名	嘉規 香織 (KAKI Kaori)			所属等	学術院理学領域	
				研究室	理学部 A 棟 4 0 5 号室	
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期後半		必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	1	曜日・時限	水 3・4	
キーワード	特殊相対性理論					
授業の目標	(特殊) 相対性理論の考え方を理解し, 基礎知識を習得する.					
学習内容	相対性理論 (主に特殊相対性理論) の基本事項について解説する.					
授業計画	(1) 特殊相対性理論の基礎 歴史的序論/Michelson-Morley の実験/Lorentz 変換 (特別な場合) /Lorentz 変換からの結果 (2) テンソル算 一般の Lorentz 変換/Minkowski 空間, 虚時間/スカラー, ベクトル, テンソル/テンソルの等式, 和, 差, 積と縮約/ 反対称テンソル, テンソル密度, デュアル. テンソル (3) 相対論的電磁気学 真空中の Maxwell の方程式 (復習) /Maxwell の方程式の相対論的書き換え/現象論的電気力学の相対論的書き換え (4) 相対論的力学 相対論的運動学/力学の基礎方程式の相対論的修正/エネルギーおよび運動量/Hamilton の原理 (5) 一般相対性理論 特殊相対性理論に対する反省/一般相対性原理/等価原理					
受講要件	力学 I, II, 電磁気学 I,II, 数学 II,IV (線形代数 A,B)を修得していること.					
テキスト	特に指定しない.					
参考書						
予習・復習について						
成績評価の方法・基準	提出物および学期末試験					
オフィスアワー	随時					
担当教員からのメッセージ						

授業科目名	熱力学 (Thermodynamics)				
担当教員名	鈴木 淳史 (SUZUKI Junji)	所属等	学術院理学領域		
		研究室	理学部 A 棟 502		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4
キーワード	温度、熱、エントロピー、熱平衡、準静的、カルノーサイクル、自由エネルギー				
授業の目標	高校までに修得した熱力学第一法則をこえ、熱力学第二、第三法則の理解をめざす。				
学習内容	熱力学は温度や体積、圧力といった少数の巨視的変数（熱力学量）の間に成り立つ一般的な関係を導く理論体系であり、さまざまな実験状況に応じた熱力学的諸量の間の正確な変換を与える。この極めて優れた現象論である熱力学を使いこなせるための準備を行なう。				
授業計画	1. 温度と熱 2. 理想気体 3. 準静的過程 4. 熱力学第 1 法則 5. 可逆過程と不可逆過程 6. 熱力学第 2 法則 7. カルノー・サイクル 8. エントロピー 9. 自由エネルギー 10. 熱平衡条件				
受講要件	一年生で学んだ事をよく復習しておくこと				
テキスト	授業初回に知らせる				
参考書	久保 他 著 「大学演習 熱力学・統計力学」 （裳華房）				
予習・復習について	前回の内容を十分復習してから授業に臨む事。				
成績評価の方法・基準	中間および期末試験、レポート、等で評価する。中間試験を受験しない者は、授業放棄とみなす。				
オフィスアワー	授業初回に相談して決定する。				
担当教員からのメッセージ	授業中も質問は随時受け付けるので、なるべくその場で理解するよう努力してほしい。				

授業科目名	微分積分学Ⅳ (Infinitesimal Calculus Ⅳ)					
担当教員名	松本 敏隆 (MATSUMOTO Toshitaka)		所属等	学術院理学領域		
			研究室	理学部C棟510		
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水3・4	
キーワード	重積分、積分可能、累次積分、ヤコビアン					
授業の目標	「微分積分学Ⅲ」に引き続き、多変数の積分について講義する。					
学習内容	多変数関数の積分（重積分と呼ばれる）を学ぶ。重積分の定義からはじめて、多変数関数の積分の基本性質を学ぶ。多変数関数の積分は1変数関数の定積分とある程度平行して進められる一方で、積分の順序交換やヤコビアンなど多変数関数の積分に特有な概念が重要である。定理や公式の証明とともにその性質の利用方法を修得する。					
授業計画	1. 長方形上の二重積分 重積分の定義、重積分の性質 2. 面積確定集合上の重積分 有界集合の上の二重積分、多重積分 3. 累次積分と積分の計算 累次積分、積分の順序交換 4. 重積分の変数変換公式 変数変換公式、ヤコビアン、極座標変換 5. 広義積分 広義積分の絶対収束、ガンマ関数とベータ関数 6. 線積分と面積分 線積分、曲面積、面積分					
受講要件	微分積分学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを受講していることが望ましい。					
テキスト	白岩謙一「解析学入門」（学術図書） ISBN 4-87361-114-8					
参考書	笠原皓司著「微分積分学」サイエンス社（サイエンスライブラリ12）					
予習・復習について	授業のノートおよびテキストで予習および復習を行い、理解度を高めて欲しい。					
成績評価の方法・基準	定期試験の結果（80％）、受講態度・レポート（20％）により総合的に評価する。					
オフィスアワー	月曜6～9時限					
担当教員からのメッセージ	1年次にあった演習の時間がなくなるため、テキストや参考書の演習問題を各自で解くことを勧める。問題に取り組むことで理解が深まります。					

授業科目名	量子化学 I (Quantum Chemistry I)					
担当教員名	松本 剛昭 (MATSUMOTO Yoshiteru)	所属等	学術院理学領域			
		研究室	総 512			
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4	
キーワード	量子論、シュレーディンガー方程式、波動関数、不確定性原理、箱の中の粒子、調和振動子、回転の量子化、スピン、					
授業の目標	量子力学の歴史を紐解きながら、ミクロな物質の運動を記述するシュレーディンガー方程式の概念と、これを解いて得られる波動関数の理解を目指す。また、不確定性原理やトンネル現象などの量子力学特有の考え方を理解し、ミクロな世界における物質観を養う。					
学習内容	電子や原子核のようなミクロな粒子の運動は、量子力学によって記述される。本講義では、化学の対象である原子や分子の構造を量子力学的に理解するための基礎的方法論を学習する。始めに、波と粒子の二重性に基づいて、粒子運動がシュレーディンガー方程式で記述されることを学ぶ。次に、これを解いて得られる波動関数とエネルギー準位を様々な運動形態に応じて概観し、実在の原子分子の性質が量子力学で説明されることを学ぶ。					
授業計画	量子力学の起源 ・古典物理学の破綻 ・波と粒子の二重性 微視的な系の力学 ・シュレーディンガー方程式 ・波動関数のボルンの解釈 量子力学的原理 ・波動関数に含まれる情報 ・不確定性原理 ・量子力学の基本原理 並進運動 ・箱の中の粒子 ・二次元および多次元における運動 ・トンネル現象 振動運動 ・エネルギー準位 ・波動関数 回転運動 ・二次元の回転： 環上の粒子 ・三次元の回転： 球面上の粒子 ・スピン 近似の手法 ・時間に依存しない摂動論 ・時間に依存する摂動論					
受講要件	古典力学、簡単な微積分・三角関数に関する知識					
テキスト	「アトキンス 物理化学(上)」(東京化学同人)第8章、第9章					
参考書	「量子化学 基礎からのアプローチ」(化学同人)					
予習・復習について	テキストを使った予習を大事にするのが望ましい。					
成績評価の方法・基準	レポートと期末試験で評価する。					
オフィスアワー	特に定めません。いつでも質問してください。					
担当教員からのメッセージ	ミクロな粒子運動を記述するシュレーディンガー方程式が理解できれば、分子を形成する原子核や電子の運動の様子が手に取るようにわかります。そんな量子化学を自由自在に操ることができれば、様々な分野の化学を根本的に見つめることができるはずです。量子化学は議論すればするほど身につきますので、質問に来てもらうのは大歓迎です。					

授業科目名	確率論 (Probability Theory)					
担当教員名	板津 誠一 (ITATSU Seiichi)		所属等	学術院理学領域		
			研究室	理学部 C 棟 6 0 5		
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	水 5・6	
キーワード	確率、平均値、中心極限定理					
授業の目標	「確率論」について講義する．確率論は偶然に伴う現象を記述する数学であり、また最近では株価の変動などの応用もある．講義では確率論での方法や理論を数学的な公理をもとに構成する．					
学習内容	最初に具体的な例をもとに確率論の基本的概念を学ぶ．この講義ではいろいろな確率分布を実際に現れる例と結びつけて述べ、確率変数、独立性、平均値などの概念とその性質を述べる．また確率論の最も典型的な定理である極限定理を述べる．					
授業計画	1．確率空間 2．確率の性質 3．独立性 4．離散型確率変数 5．確率変数と分布 6．確率変数の変換，多次元分布 7．平均値とその性質 8．分散、チェビシェフの不等式 9．独立確率変数の和、大数の法則 10．確率変数列の極限定理 11．特性関数 12．反転公式，分布の収束 13．中心極限定理 14．多次元正規分布					
受講要件						
テキスト	テキストはとくに指定しない．					
参考書	「シナイ確率論入門コース」，Ya.G. シナイ 著，森 真 翻訳，（丸善出版），ISBN-10: 4621062980，ISBN-13: 978-4-621-06298-2					
予習・復習について	配布するレジюмеおよび各自のノートで予習・復習してください．					
成績評価の方法・基準	成績評価はレポートおよび試験による．					
オフィスアワー	講義の時にお知らせします					
担当教員からのメッセージ	（※この科目は隔年開講です）					

授業科目名	放射化学概論 (Fundamentals of Radiochemistry)					
担当教員名	矢永 誠人 (YANAGA Makoto)	所属等	学術院理学領域			
		研究室	理学部 A 棟 201			
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	—
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 5・6	
キーワード	放射線、放射性核種、放射性核種利用					
授業の目標	非密封放射性核種に関する化学分野の基礎を総合的に習得する					
学習内容	本科目では、全学科の学生を対象に放射線取扱主任者試験に向けて必要となる“化学のうち放射線に関するもの”を構成する基礎的な知識と放射性核種の製造，分離，分析，核反応を利用した分析，および標識化合物に関わること等を講義するとともに，試験におけるポイントを演習により解説する．（なお，放射線物理学概論を履修していない受講者のために，講義をする上で必要に応じて放射線物理学概論の内容も解説する．）					
授業計画	授業計画 1．放射性壊変と放射能 2．放射平衡 3．天然放射性核種 4．核反応と R I の製造 核反応の種類，励起関数，原子断面積と同位体断面積，無担体 R I の調製法 5．核分裂 6．R I の分離法 共沈法，溶媒抽出法，イオン交換法，ラジオコロイド，その他 7．放射化分析 8．ホットアトムの化学 9．R I の化学分析への応用 放射化学分析，放射分析，同位体希釈分析 10.トレーサとしての化学的利用 11.放射線化学					
受講要件	興味を持って受講して頂ければ、特段の予備知識は必要としない。					
テキスト	放射線概論 第 8 版 （飯田博美 編，通商産業研究社）					
参考書	放射化学概論（第 3 版）（富永 健、佐野博敏共著、東京大学出版会）、放射線取扱の基礎（第 4 版）（日本アイソトープ協会）など					
予習・復習について	各時間の内容に合わせた簡単な演習を復習として行っていただくが、特に、放射線取扱主任者の国家試験を受験する者は、確実に合格できるように普段から演習を行っていただきたい。					
成績評価の方法・基準	授業時の演習と期末試験により総合的に評価する。					
オフィスアワー	質問等は、平日午前 9 時頃から午後 6 時頃まで、随時、受けつける。					
担当教員からのメッセージ	成績評価の方法に記した平常時の演習として、原則として、毎回の授業時に問題演習を行い、その時間の講義の理解を深める。					

授業科目名	離散数学Ⅱ (Discrete Mathematics II)					
担当教員名	保坂 哲也	所属等	学術院理学領域			
		研究室	理学部C棟 606 室			
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	水 7・8	
キーワード	グラフ、多面体、ケーリーグラフ、コクセター群、鏡映群					
授業の目標	グラフ理論，多面体の基礎，群のケーリーグラフ，コクセター群などについて学ぶ。					
学習内容	グラフ理論および有限な表示を持つ群のケーリーグラフについて学ぶ。これにより群が視覚的に捕らえられることを紹介する。またその具体例としてコクセター群について学ぶ。鏡映群とコクセター群、そしてそのケーリーグラフから導かれる立体について紹介する。					
授業計画	1. グラフ理論 2. 群の有限表示 3. 群のケーリーグラフ 4. コクセター群 5. コクセター群のケーリーグラフと立体 6. 有限鏡映群 7. 有限鏡映群とコクセター群 8. 有限コクセター群と立体					
受講要件	集合・位相、位相数学入門および代数学入門を履修していること					
テキスト	授業中にテキストを紹介する。またプリントを適宜配布する。					
参考書						
予習・復習について	授業中に課題を出すので、問題を解くことを通じて理解を深めてもらいたい。					
成績評価の方法・基準	課題・レポートなどを総合的に評価する。					
オフィスアワー	授業中に指示する					
担当教員からのメッセージ	この授業では毎回課題を出すので、課題を解くことを通して理解を深めてください。					

授業科目名	生物学Ⅱ (Fundamental Biology II)				
担当教員名	藤原 健智 (FUJIWARA Taketomo)		所属等	創造科学技術研究部	
			研究室	総 614	
分担教員名	徳元 俊伸				
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	木 1・2
キーワード	細胞膜、代謝、ゲノム、遺伝子発現、発生、がん、進化				
授業の目標	生物学は分子生物学的理解により急速に進歩し、複雑化してきている。その一方で、ゲノム情報を基盤とした分子レベルでの研究成果は生物の統合的な理解をもたらした。本講義では生物現象を進化論的に説明することを基本コンセプトに編集された下記の教科書を題材に現代生物学の概略を理解する。				
学習内容	現代生物学の概略について理解する。				
授業計画	回 内容 1 細胞膜 2 細胞間の相互作用 3 細胞間の相互作用 2 4 エネルギーと代謝 5 細胞はどのようにエネルギーを獲得するか 6 光合成 7 光合成 2 8 遺伝子組換え技術 9 遺伝子組換え技術 2 10 ゲノム 11 ゲノム 2 12 遺伝子発現の制御 13 遺伝子発現の制御 2 14 がんの生物学と細胞操作技術 15 がんの生物学と細胞操作技術 2				
受講要件					
テキスト	レーヴン／ジョンソン 生物学、培風館、P.レーヴン／G.ジョンソン／J.ロソス／S.シンガー著 6,400 円 (生協で販売)				
参考書	必要があればそのつど紹介する。				
予習・復習について	出欠の代わりとして、前回の復習を兼ねた小テストをするので、予習・復習を必ず行うこと。				
成績評価の方法・基準	前半と後半に分けて試験を実施する。内容はそれぞれの担当教員からアナウンスする。				
オフィスアワー	月曜日 7・8 時限を予定。				
担当教員からのメッセージ	授業計画通りに行う予定であるが、内容や進度によりシラバスと前後することがある。				

授業科目名	無機化学 I (Inorganic Chemistry I)				
担当教員名	近藤 満 (KONDO Mitsuru)		所属等	グリーン科学技術研究所	
			研究室	総合研究棟 5 0 1	
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	木 1・2
キーワード	原子の電子構造、局在化結合理論、分子軌道法、電子不足分子、多原子陰イオン				
授業の目標	無機化学を理解するための基本的な法則や原理を学ぶ。				
学習内容	無機化学は周期表にあるすべての元素を対象としており、それらから構成される単体、イオン性化合物、共有結合性化合物など多様な物質を扱う。この講義では、無機化学の基礎として、無機化合物の性質や構造を体系的に理解するための基本的な法則や原理を学習する。				
授業計画	テキストの章に従い、次の項目を講義する。 1 章の内容は必要に応じて解説する。 回 内容 1 2 章 原子の電子構造： 原子軌道 2 2 章 原子の電子構造： 電子配置 3 2 章 原子の電子構造： 有効核電荷 4 2 章 原子の電子構造： 元素の性質における周期的な傾向、原子およびイオンの磁気的性質 5 3 章 分子の構造と結合生成： 混成理論 6 3 章 分子の構造と結合生成： 原子価殻電子対反発理論 7 3 章 分子の構造と結合生成： 結合距離、分子のパッキング、分子軌道法 8 3 章 分子の構造と結合生成： 電子不足分子中の多中心結合 9 4 章 イオン性固体： 代表的なイオン性固体の構造 10 4 章 イオン性固体： 格子エネルギー、ボルン・ハーバーのサイクル 11 4 章 イオン性固体： 結晶格子の立体配置、最密パッキング 12 4 章 イオン性固体： 混合金属酸化物 13 5 章 多原子陰イオンの化学： 酸化物イオン、水酸化物イオン 14 5 章 多原子陰イオンの化学： オキソ酸陰イオン、多核オキソ酸イオン 15 5 章 多原子陰イオンの化学： ハロゲンを含む陰イオン、硫化物イオンおよび硫化水素化物イオン				
受講要件	特になし				
テキスト	F. A. Cotton, G. Wilkinson, P. L. Gauss 著／中原勝儼 訳「基礎無機化学（原著第 3 版）」（培風館）				
参考書	必要に応じて講義中に紹介する				
予習・復習について	授業毎に予習と復習をすること。				
成績評価の方法・基準	出席状況と期末試験の得点を総合して評価する。				
オフィスアワー	特に指定しない				
担当教員からのメッセージ	質問はできるだけ授業中に。研究室での質問等も随時受け付ける。				

授業科目名	解析学 I (Analysis I)					
担当教員名	田中 直樹 (TANAKA Naoki)		所属等	学術院理学領域		
			研究室	理学部 C 棟 602		
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4	
キーワード	関数空間、Banach 空間、Hilbert 空間、線形作用素、共役空間					
授業の目標	関数解析とは、関数にその導関数に対応させる微分に代表される作用素，関数にその定積分値に対応させることに代表される汎関数に対して成り立つ性質を抽象的にまとめた理論である。本講義では，偏微分方程式論や確率論への応用としても重要な手法である関数解析の基礎理論を修得することを目標とする。					
学習内容	完備な空間である，Banach 空間，Hilbert 空間を定義し，応用上重要な，不動点定理，Riesz の表現定理について述べる。位相的・代数的に不変な方法によって証明される，関数解析における three basic principle と呼ばれる 一様有界性の原理，開写像定理，Hahn-Banach の定理について述べる。					
授業計画	1. 線形空間、ノルム空間 2. Hilbert 空間（閉凸集合への射影，Riesz の表現定理，基底） 3. Banach 空間（完備性， L^p 空間，不動点定理） 4. Banach-Steinhaus の定理（一様有界性の原理） 5. 開写像定理と閉グラフ定理 6. Hahn-Banach の諸定理（線形汎関数の拡張，凸集合の分離） 7. 共役作用素 8. 弱位相，回帰的空間 9. コンパクト作用素					
受講要件	「解析学」（3 年前期開講）を受講していることが望ましい。					
テキスト						
参考書	伊藤清三・黒田成俊・藤田宏著「関数解析（岩波基礎数学選書）」岩波書店(4-00-007810-0)黒田成俊著「関数解析（共立数学講座 15）」共立出版(4-320-01106-6)ハイム・ブレジス著，藤田宏監訳，小西芳雄訳「関数解析－その理論と応用に向けて－」産業図書(4-7828-0507-1)					
予習・復習について	抽象的内容が多く一般的に真の理解には時間がかかるので，予習・復習により補う必要がある。					
成績評価の方法・基準	受講態度，レポート，小テスト，最終試験の結果を総合的に判断する。					
オフィスアワー	初回の授業の時に曜日と時限を決める。					
担当教員からのメッセージ						

授業科目名	神経科学 (Neuroscience)					
担当教員名	竹内 浩昭 (TAKEUCHI Hiro-aki)		所属等	学術院理学領域		
			研究室	理学部A棟6階612室		
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木3・4	
キーワード	神経、脳、情報処理、運動制御、記憶、学習、情動、ニューロイメージング、ニューロエソロジー、神経疾患					
授業の目標	脳科学・神経科学・神経行動学における基本的知識の修得					
学習内容	21世紀は脳科学・神経科学の時代と言われ、脳科学・神経科学の進歩は脳の老化防止、アルツハイマー病など脳・神経系難病の克服、脳の原理を生かしたコンピュータやロボットの開発に繋がることから、基礎研究のみならず応用研究の進展が多分野から注目されている。 本講義の前半では脳神経系の構造と発生、膜電位の生成機構、細胞の興奮、刺激受容と感覚情報処理などこの分野の基本事項を解説し、後半では古典的な神経解剖学・電気生理学的解析法から近年発達著しいニューロイメージングまで代表的な研究手法を紹介する。また、本能行動発現や記憶・学習の脳内メカニズムなどについても、重要な研究例をピックアップして解説する。					
授業計画	01～03. 脳神経系の構造と発生、進化 04～06. 細胞膜の構造と膜電位の生成機構 07～09. 細胞の興奮と興奮の伝導・伝達 10～11. 刺激受容と感覚情報処理 12～13. 神経科学の研究手法 14～15. 本能行動発現・記憶・学習の脳内メカニズム					
受講要件	授業に遅刻せず出席し、集中して聴講し、最低限の予習・復習ができること。					
テキスト	テキストは特に指定せず、適宜、資料・プリントを配布するが、下記参考書に目を通すことが望ましい。					
参考書	神経科学・脳の探究 -, M.F.ベアー・B.W.コノーズ・M.A.パラディーンソ (著) 加藤・後藤・藤井・山崎 (訳), 西村書店, 2007, 4890133569 脳・神経科学入門講座 前編 改訂版, 渡辺雅彦 (著), 羊土社, 2008, 9784758107297 脳・神経科学入門講座 後編 改訂版, 渡辺雅彦 (著), 羊土社, 2008, 9784758107303 脳・神経と行動, 佐藤真彦 (著), 岩波書店, 1996, 9784000078764 生き物をめぐる4つの「なぜ」, 長谷川眞理子 (著), 集英社, 2002, 9784087201680					
予習・復習について	1回の授業につき、予習・復習それぞれ15分以上。					
成績評価の方法・基準	授業の出席状況、授業時の小テスト（資料持込可）と期末試験（資料持込不可）の答案あるいはレポートの内容に基づいて成績を評価する。なお、答案は模範解答の6割程度を合否基準として成績を判定する。					
オフィスアワー	金曜日9・10時限（16:05-17:35）を予定。					
担当教員からのメッセージ	新聞やインターネット上の科学関連情報を積極的に利用して、予習・復習に努めてください。質問は、できるだけ授業中あるいは授業直後にしてください。ただし、メールでの質問も歓迎します。					

授業科目名	統計力学Ⅱ (Statistical Mechanics Ⅱ)				
担当教員名	松山 晶彦 (MATSUYAMA Akihiko)	所属等	学術院理学領域		
		研究室	共通教育C棟C 4 1 4		
分担教員名					
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分 必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード					
授業の目標	「統計力学Ⅰ」の授業に引き続き、統計力学の応用について学ぶことを目標とする。				
学習内容					
授業計画	1. 低温と量子効果 2. 開いた系と化学ポテンシャル 3. フェルミ統計とボーズ統計 4. プランクの輻射式 5. 格子振動による固体の比熱 6. 理想ボーズ気体 7. ボーズ・アインシュタイン凝縮 8. 理想フェルミ気体 9. 金属の電子比熱 10. 超流動と超伝導				
受講要件	熱力学を理解していること				
テキスト	統計力学Ⅰと同じ。				
参考書	「大学演習 熱学・統計力学」 裳華房 久保亮五 編など				
予習・復習について	毎回やること。特に復習が重要。				
成績評価の方法・基準	出席、宿題、および定期試験				
オフィスアワー	随時				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	反応錯体化学 (Reactions of Metal Complexes)					
担当教員名	菅野 秀明 (KANNO Hideaki)		所属等	学術院理学領域		
			研究室	理学部A棟3階 A306室		
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	3年	単位数	2	曜日・時限	木3・4	
キーワード	金属錯体の反応、 π 酸性配位子、有機金属化合物、触媒反応、生体関連錯体					
授業の目標	金属錯体、有機金属化合物、生体関連錯体について反応の基礎を習得する。					
学習内容	金属錯体（配位化合物）はさまざまな反応性を示し、組成や立体構造、中心金属の電子状態の変化など多種多様である。この講義では、それら反応の機構や速度を支配する因子について解説する。さらに、有機金属錯体の基礎と反応性および触媒作用、生体内反応における金属錯体の役割についても解説する。					
授業計画	テキストの章に従い、次の項目を講義する。 6章：配位化学（5節、6節） 金属錯体が示す様々な化学反応について解説する。 項目）配位化合物の反応性、置換反応、アネーション反応、アクア化反応、酸加水分解反応、塩基加水分解反応、トランス効果、電子移動反応、異性化反応、ラセミ化反応など 28章：金属カルボニルおよびπ受容性（π酸性）配位子との遷移金属錯体 金属から配位子への逆供与など、金属-配位子の結合について解説する 項目）単核・多核金属カルボニル、18電子則、ニトロシル錯体、シアノ錯体など 30章：有機金属化合物の化学量論的反応および触媒反応 金属-炭素結合をもつ化合物（有機金属化合物）による多様な触媒反応について解説する 項目）配位的不飽和、酸化的付加反応、挿入反応、水素化反応、接触付加、触媒反応など 31章：生物無機化学 金属酵素の構造と機能について解説する 項目）ポルフィリン錯体、鉄-硫黄タンパク質、ビタミンB12、など					
受講要件	構造錯体化学を履修していることが望ましい。					
テキスト	基礎無機化学（原著第3版）、Cotton,他著／中原勝儼 訳、培風館、1998年、4-563-04551-9					
参考書	講義中に紹介する。					
予習・復習について	毎回の講義毎に予習・復習をすること。					
成績評価の方法・基準	レポート、期末試験の結果を総合的に評価する。					
オフィスアワー	質問はできるだけ授業中に。特に時間を指定しないが、研究室での質問等は随時受け付ける。					
担当教員からのメッセージ						

授業科目名	化学反応論 (Rates and Mechanisms)					
担当教員名	関根 理香 (SEKINE Rika)		所属等	学術院理学領域		
			研究室	理学部 A 棟 3 階 302 号室		
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2	
キーワード	分子分配関数、気体分子運動論、反応速度論 、反応次数、速度式、連鎖反応、均一系触媒作用、酵素、光化学、衝突理論、遷移状態理論、分子衝突の動力学、吸着度、不均一系触媒作用					
授業の目標	分子分配関数を求め、平衡定数との関係を理解する。変化が起こる道筋となる過程について考察する。反応速度について説明するための準備として、気体と液体における分子運動を考察する					
学習内容	その次に反応速度の厳密な意味をはっきりさせ、反応全体としての速度、さらに二、三の反応の例を挙げて、複雑な挙動が基本的なステップの組合せとしてどう表現できるかを調べる。そのステップとしては分子と分子が出会うときに起こる原子の規模での事象もある。表面ではそれに特有な物理的、化学的な事象が起こるが、それらをどう記述できるかを学ぶ。触媒作用もその例である。					
授業計画	統計熱力学 2：応用 （1）熱力学と分子分配関数の復習 並進・回転・振動・電子状態の寄与 （2）平衡定数と分配関数の間の関係 分子の運動 （3）気体の分子運動論 （4）液体中の分子運動化学反応速度 （5）実験的な化学反応速度論 （6）速度式の解釈 複雑な反応の速度 （7）連鎖反応・重合の速度論 （8）均一系触媒作用・酵素 （9）光化学 反応の分子動力学 （10）反応性の出会い （11）衝突理論 （12）遷移状態理論 （13）分子衝突の動力学 固体表面の課程 （14）吸着度・不均一系触媒作用 （15）まとめ					
受講要件	基礎量子化学、基礎熱化学の履修。物理学 I,III の履修。また、量子化学 I,II、熱化学 I,II を履修していることが望ましい。					
テキスト	「アトキンス 物理化学(下)」第 8 版（東京化学同人）第 17 章、第 22 章、第 23 章、第 24 章、第 25 章					
参考書	アトキンス 物理化学 問題の解き方（学生版） 第 8 版 英語版 ISBN978-4-8079-0697、5400 円					
予習・復習について	予習 力学（物理学 I）、量子化学、熱化学を充分学習しておくこと。復習 宿題を必ず行うこと。					
成績評価の方法・基準	試験（70%）、宿題（レポート）の提出（20%）、毎回の小テスト(10%)					
オフィスアワー	特に指定しません。					
担当教員からのメッセージ	化学反応論は物理化学分野の総まとめです。しっかり復習しましょう。					

授業科目名	電磁気学Ⅱ (Electromagnetism Ⅱ)					
担当教員名	松本 正茂 (MATSUMOTO Masashige)	所属等	学術院理学領域			
		研究室	理学部 A 棟 A501			
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2	
キーワード	電磁誘導、マクスウェル方程式、電磁波、導体、誘電体、磁性体					
授業の目標	マクスウェル方程式の意味を理解することが最も重要な目標である。それによって、現代科学の基礎となっている電磁波について学ぶ。					
学習内容	電磁気学Ⅰに引き続き、時間変化する電流による磁場にかかわる事柄から始め、マクスウェル、電磁波について学ぶ。その後、具体的な物質中（導体、誘電体、磁性体）での電磁気学を学ぶ。					
授業計画	テキストの第9章から14章までの内容を、次の順に解説する予定である。 1. 時間変動する電磁場 2. マクスウェル方程式と電磁波 3. 導体と静磁場 4. 誘電体 5. 電流と磁場 6. 磁性体					
受講要件	原則として、基礎物理学Ⅰ・Ⅱ、力学Ⅰ・Ⅱ、電磁気学Ⅰ、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修していること。					
テキスト	電磁気学 横山順一 著 講談社 ISBN: 4061572040 （電磁気学Ⅰで使用するテキスト）					
参考書	ファインマン物理学〈3〉電磁気学 ファインマン 著 岩波書店 ISBN 4000077139					
予習・復習について	予習と復習は授業内容の理解に必要であるため、必ず行うこと。					
成績評価の方法・基準	提出物および試験					
オフィスアワー	適宜（必要に応じて設定する場合もある）					
担当教員からのメッセージ	電気と磁気を統一的に記述するマクスウェル方程式を、ぜひ理解して欲しい。					

授業科目名	微生物学 (Microbiology)					
担当教員名	藤原 健智 (FUJIWARA Taketomo)			所属等	創造科学技術研究部	
				研究室	総 614	
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2	
キーワード						
授業の目標						
学習内容	地球上のあらゆる環境に、肉眼では見ることはできない微小な生物たちが住んでいる。微生物の高い環境適応能力はどのようにもたらされるのであろうか。原核微生物（バクテリア・アーキア）の多様な生化学的機能に主眼をおいて微生物学を講義する。					
授業計画	1. 微生物学の歴史 2. 原生動物・細菌・ウイルス 3. 細胞・遺伝子の構造 4. 系統分類 5. 発酵・呼吸・光合成 6. 極限環境微生物 7. 共生・進化 8. 地球環境と微生物 9. 病原性微生物 10. 工業的利用					
受講要件						
テキスト	プリントを随時配布し資料とする。					
参考書	「Brock 微生物学」（オーム社）。各自手持ちの一般的な生化学の教科書も参考文献とする。					
予習・復習について	要復習					
成績評価の方法・基準	学期末に試験を行います。また出席回数が１０回以下の場合、成績評価の対象としない場合があります。					
オフィスアワー	月・金曜日午後（12:00-16:00）					
担当教員からのメッセージ						

授業科目名	複素解析学 I (Complex Analysis)					
担当教員名	奥村 善英 (OKUMURA Yoshihide)		所属等	学術院理学領域		
			研究室	理学部 C 棟 613		
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	前期		必修選択区分	必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2	
キーワード	積分公式、Taylor 展開、一致の定理、Liouville の定理、最大値の原理、Laurent 展開、孤立特異点、有理型関数、留数定理、偏角の原理					
授業の目標	正則関数と有理型関数の理論を中心に解説を行います。 はじめに「関数論入門」の続きとして、Cauchy の積分定理を用いて、正則関数の性質を導きます。Cauchy の積分公式、Taylor 展開、一致の定理、Liouville の定理そして最大値の原理等を扱います。次に、有理型関数の説明として、Laurent 展開、孤立特異点（特に極、真性特異点）、留数定理等を扱います。さらに、これらの応用として、実定積分の計算、偏角の原理と Rouche の定理を説明します。					
学習内容	複素解析学（関数論）は微分積分学に続いて学習される数学の基礎的な分野です。純粋数学の多くの美しい結果や驚くべき結果をうみ出す肥沃な領域です。純粋数学の中心をなす諸分野（例えば、リーマン面論、複素多様体論、タイヒミュラー空間論、代数幾何学、整数論等）は、複素解析学の上に築かれていると言えます。また、複素解析学は物理学等の自然科学諸分野にも、広く応用されています。 本学科における複素解析学の授業は四部から成っています。第一部は「関数論入門」、第二部は「複素解析学」、第三部は「複素解析学 I」、そして第四部は「複素解析学 II」です。 第一部および第二部では、複素解析学の基礎の習得を目標とします。					
授業計画	1. 積分定理. 2. 積分公式. 3. 整級数. 4. Taylor 展開. 5. 正則関数の性質. 6. 有理型関数. 7. Laurent 展開. 8. 孤立特異点. 9. 留数定理. 10. 実定積分の計算. 11. 偏角の原理. 12. Rouche の定理.					
受講要件	「関数論入門」を受講していることが望ましい。					
テキスト	林一道著，初等関数論（裳華房）。					
参考書	洲之内治男著，演習 関数論（サイエンス社）。					
予習・復習について	神保道夫著，複素関数入門（岩波書店）。谷口健二・時弘哲治，複素解析（裳華房）藤本 淳夫著，複素解析学概説（培風館）。野口潤次郎著，複素解析概論（裳華房）。L.V.アールフォルス著，複素解析（現代数学社）。佐藤宏樹著，複素解析学（近代科学社）。谷口雅彦・奥村善英共著，双曲幾何学への招待（培風館）。辻正次・小松勇作共編，大学演習函数論（裳華房）。					
成績評価の方法・基準	この講義では、美しい結果や驚くような結果が多く出てきます。最初は説明や証明が難しいかもしれませんが、そのからくりが理解できるように、講義，講義ノートや教科書を見直して下さい。					
オフィスアワー	定期試験を主に，受講態度，レポート等を加えて評価し判定します。					
担当教員からのメッセージ	講義中に連絡します。					

授業科目名	有機機器分析 (Organic Spectrometric Analysis)					
担当教員名	塚田 直史 (TSUKADA Naofumi)			所属等	学術院理学領域	
				研究室	理 B312	
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6	
キーワード	核磁気共鳴(NMR)分光法、赤外(IR)分光法、質量(Mass)分析法、紫外-可視分光法					
授業の目標	核磁気共鳴分光法、赤外分光法、紫外可視分光法および質量分析法で得られるスペクトルを解釈して有機化合物の構造を決定する方法を修得する					
学習内容	ここに一つの有機化合物（分子）がある。どのような元素からできているだろうか。分子量はどのくらいか。どのような官能基を含んでいるか。いったいどのような構造なのか。このような疑問に答えるのが、有機機器分析である。有機化合物を合成・単離精製し、種々のスペクトルを測定して読み解くことによって、有機化合物の構造式を決定できる。それ故に、有機化合物を扱う人には有機機器分析は必須となっている。本講義では、様々なスペクトルを解釈して有機化合物の構造を決定するための入門コースである。					
授業計画	テキストの有機機器分析に関する章を解説する 10章 核磁気共鳴（NMR）分光法 11章 赤外（IR）分光法、質量（Mass）分析法 14章 紫外-可視（UV-vis）分光法 および次の章の分光法に関する項目 11章、13章、15章、17章、19章、21章					
受講要件						
テキスト	第6版「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 上」、第6版「ボルハルト・ショアー 現代有機化学 下」（古賀憲司・野依良治ら監修）（化学同人）					
参考書						
予習・復習について	授業前にテキストに目を通しておくこと。章末問題を解く等復習をすることが望ましい。					
成績評価の方法・基準	主に試験により評価する					
オフィスアワー	随時					
担当教員からのメッセージ						

授業科目名	地球科学入門Ⅳ (Introduction to Geosciences IV)					
担当教員名	木村 浩之 (KIMURA HIROYUKI)			所属等	学術院理学領域	
				研究室	共通教育C棟 313	
分担教員名						
クラス	理学専門科目	学期	後期		必修選択区分	必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	金 7・8	
キーワード	海洋、大気、気象、気候変動					
授業の目標	英語で書かれたテキストを使用して、地球科学の基礎知識を習得する。地球科学の専門用語を英語と日本語に対応させ、その内容を理解する。					
学習内容	英語のテキストを使いながら、海洋、大気、気象、気候変動に関する地球科学の基礎知識を学習する。					
授業計画	• The Ocean Floor • Ocean Water and Ocean Life • The Dynamic Ocean • The Atmosphere: Composition, Structure, and Temperature • Moisture, Clouds, and Precipitation • Air Pressure and Wind • Wether Patterns and Severe Storms • World Climates and Global Climate Change					
受講要件	なし					
テキスト	Earth Science 13th Edition, Pearson New International Education, ISBN-13: 978-1-292-02085-3					
参考書	ニューステージ新地学図表, 浜島書店, ISBN978-4-8343-4012-9					
予習・復習について	英語辞書を使ってテキストを和訳し、十分に予習を行うこと。					
成績評価の方法・基準	テストを実施し、その結果をもとに成績評価する。					
オフィスアワー	講義終了後 30 分。					
担当教員からのメッセージ	本講義で使用するテキストは、地球科学の基礎知識を身につける上で最適です。事前にテキストを読み、十分に予習して下さい。					

授業科目名	持続可能型農業科学 (Sustainable Agriculture)					
担当教員名	南雲 俊之 (NAGUMO Toshiyuki)	所属等	学術院農学領域			
		研究室	農学総合棟 376			
分担教員名						
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 1・2	
キーワード	物質循環、土壌、環境保全、持続的農業生産、農業生態系					
授業の目標	農業の持続性に対する土壌の重要性、農業生態系の物質循環の特徴と今日的な環境問題とのかかわりについて理解を深める。					
学習内容	農業生態系あるいは食料システムの物質循環の特徴について、まず解説する。この物質循環の視点に立って、現在の農業が抱える構造的問題や今日的な環境問題とのかかわり、持続的に農業生産を行なううえでの肥料の役割や土壌機能の重要性について解説していく。					
授業計画	1. 授業ガイダンス 2. 農業生態系における物質循環の特徴 Key words) 開放系, 窒素, リン, 反応性窒素 3. 農業と環境 Key words) 有機性廃棄物, 水域の富栄養化, 地球温暖化, 酸性化, LCA 4. 伝統的農業生態系の物質循環 Key words) 焼畑, 水田稲作, 水田土壌 5. 農業の持続性とその実践形態ー代替農業 Key words) LISA, 有機農業 6. 化学肥料の特徴と作物生産性への貢献 Key words) 肥料資源, 追肥と肥効調節型肥料, 黒ボク土, 水田土壌 7. 有機性廃棄物の現状と農業利用における課題 Key words) 食料自給率, 食料・飼料の輸入と輸出, 土壌腐植, 堆肥, 緑肥, 農地の受入れ可能量					
受講要件	土壌学（土壌圏科学）を履修済みであることが望ましい。					
テキスト	とくになし。毎回、資料（プリント）を配布する。					
参考書	授業資料に引用した図表の出典となった書籍全般。					
予習・復習について	復習を重視します。講義後、記憶の新しいうちに、講義内容を整理しておくこと。図書館等で授業内容に関連する参考書等を調べて、読んで、考えてみてください。授業で紹介できる内容は限られたものです。より広い知識を得て、より深い理解ができると思います。					
成績評価の方法・基準	秀 (>90 点), 優 (>80 点), 良 (>70 点), 可 (>60 点), 不可 (<59 点)					
オフィスアワー	授業後および随時、来訪を歓迎します。ただし、事前にメール等で問合せること。					
担当教員からのメッセージ	私語は絶対厳禁。授業中はとにかく話を良く聴くこと。資料には余白がありますし、別途ノートを用意されてもかまいませんので、がんばってメモを取ってください。この授業では、（話を聴くことなしに）資料だけ見ても、その内容を理解できないものになっています。					

授業科目名	植物生理学 (Plant Physiology)					
担当教員名	原 正和			所属等		
				研究室		
分担教員名						
クラス	応用生物	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 1・2	
キーワード	光合成、呼吸、成長、植物ホルモン					
授業の目標	植物に特徴的な生命現象について、基礎を理解することを目標とする。					
学習内容	一定の場所に固着して独立栄養生活を営む植物は細胞レベルでも個体レベルでも動物と大きく異なっている。ここでは、植物に特徴的な生命現象の基礎的理解をめざす。光合成と呼吸、成長と植物ホルモンを中心に、植物生理の特性を概説する。					
授業計画	第 1 回 植物生理学について 第 2 回～第 4 回 光合成 第 5 回～第 6 回 呼吸 第 7 回～第 1 5 回 成長と植物ホルモン 種子の発芽、成長と運動、成長と分化、光形態形成 第 1 6 回 定期試験					
受講要件	生物学、植物形態学の基礎を理解していることが望ましい。					
テキスト	使用しない。必要に応じ、プリントを配布する。					
参考書	「植物生理学」テイツ／ザイガー（培風館）、「新しい植物ホルモンの科学」小柴恭一・神谷勇治（講談社） 「植物生理学講義」増田方雄（培風館）					
予習・復習について	とりわけ、復習をしっかり行い、疑問点は遠慮なく質問すること。					
成績評価の方法・基準	小テスト、定期試験により評価する。					
オフィスアワー	事前にメールでコンタクトをとって下さい。					
担当教員からのメッセージ	気軽に研究室へ来て下さい。					

授業科目名	森林利用システム学 (Forest Harvesting System)				
担当教員名	近藤 恵市 (KONDO Keiichi)	所属等	学術院農学領域		
		研究室	農学総合棟 273		
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	後期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4
キーワード	伐木・造材、車両系集材、架線系集材、作業システム、作業コスト、森林路網				
授業の目標	林道の配置計画、設計・施工技術、木材生産の為の作業計画及び作業技術について論じるのが森林利用システム学であるが、本講義では、森林土木工学で論じられる領域を除き、木材収穫計画・技術に関する基礎的な知識を得ることを目標にしている。				
学習内容	森林から収穫される木材は、伐出計画作業に始まって、伐木、造材、集材、運材（木材輸送）、といった作業を経て、市場に供給される。本講義における森林利用システム学では、以上のような森林諸作業の方法、問題点、コスト等について論じるものである。これらについて概説すると共に、収穫作業選択に大きく影響する環境因子についても概説する。				
授業計画	・木材収穫作業技術の変遷 ・伐木造材作業で使用する機械と道具 ・伐木造材作業の技術 ・集材作業の方法について ・車両系集材作業で使用する機械 ・車両系集材作業の技術 ・架線系集材作業で使用する機械 ・架線系集材作業の技術 ・作業システムと作業生産性 ・森林作業の作業コスト ・森林作業における労働安全				
受講要件	関連科目：森林土木工学				
テキスト	使用しない				
参考書	林業工学 上飯坂 実（地球社） 森林作業システム学 神埼康一他（文永堂） 林業工学入門 上飯坂 実編（地球社）				
予習・復習について	授業計画に合わせ参考書で予習				
成績評価の方法・基準	講義中のノート、配布されるプリント、参考書での復習				
オフィスアワー	履修態度・レポート（10%）、学期末試験（90%）の結果を総合して評価する。評価点の 90%以上を「秀」、80～89%を「優」、70～79%を「良」、60～69%を「可」とする。				
担当教員からのメッセージ	昼休み、農学部 A511 室。メール（afkkond@agr.shizuoka.ac.jp）で連絡して下さい。				

授業科目名	食品機能化学 (Nutritional Biochemistry of Functional Food)					
担当教員名	森田 達也 (MORITA Tatsuya)	所属等	学院院農学領域			
		研究室	農学総合棟 576			
分担教員名						
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4	
キーワード	食品の 3 次機能、生体調節機能、科学的根拠と現実性					
授業の目標						
学習内容	食品の持つ生体調節機能について生理、生化学的機構を中心に講義する。					
授業計画	1 序論（日本の栄養摂取量の現状と問題点） 2～ 4 食物繊維の機能（血糖値上昇抑制、コレステロール低下、大腸機能） 5～ 7 脂質の機能（不飽和脂肪酸と虚血性疾患、アレルギー） 8～10 活性酸素（その功罪、抗酸化 Vitamin 及び微量元素摂取の意味） 11～12 タンパク質の機能（アミノ酸組成と脂質代謝） 13?14 炭水化物の機能（消化抵抗性デンプンの栄養生理的意義）					
受講要件	関連科目：栄養化学、生化学					
テキスト	なし。必要な資料はコピーして配付する。					
参考書	「食品機能化学」（三共出版）「食物繊維」（第一出版）「フリーラジカルと生体」（学会出版センター）					
予習・復習について						
成績評価の方法・基準	評価は、定期試験を考慮して行う。					
オフィスアワー	月?金の昼休み、または夕方 6 時以降（農学部 A 棟 602）					
担当教員からのメッセージ						

授業科目名	生体機能学 (Endocrinology and Immunology)					
担当教員名	茶山 和敏 (SAYAMA Kazutoshi)		所属等	学術院農学領域		
			研究室	農学総合棟 579		
分担教員名						
クラス	応用生物	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4	
キーワード	内分泌、免疫、ホルモン、環境ホルモン、サイトカイン、ケモカイン、成長因子					
授業の目標	脊椎動物の生体機能のうち、主に哺乳類における内分泌および免疫の生体機構とそれらに関連するホルモン・サイトカインなどの生体内情報伝達物質に関する基礎的学理について講述し、それらを理解することを目標とする。					
学習内容	はじめに、概論として生体内の情報伝達機構について概説する。次に、内分泌（ホルモン分泌）機構および免疫機能に関する講義を行うとともに、それらに関係するホルモンやサイトカインなどの生体内情報伝達物質についても詳しく説明する。そして最後に、内分泌、免疫および神経の相互作用についてまとめる。					
授業計画	第 1 回 緒論、生体機能学とは、生体内の情報の受容と統合、ホメオスタシス 第 2 回 ホルモンの特性と作用 第 3 回 視床下部の神経内分泌機能、視床下部ホルモン 第 4, 5 回 下垂体の内分泌機能、下垂体ホルモン 第 6, 7, 8 回 ステロイドホルモン、性・生殖に関する内分泌機構とホルモン 第 9 回 その他のホルモンおよび成長因子の特性とその内分泌機構 第 10 回 内分泌かく乱物質（環境ホルモン）の作用と問題点 第 11 回 免疫機能に関連する情報伝達機構 第 12, 13, 14 回 免疫情報伝達物質（サイトカイン、ケモカイン、その他） 第 15 回 内分泌、神経および免疫系の関係と相互作用、まとめ					
受講要件	細胞生物学、動物生理学、動物繁殖生物学、動物生理化学と密接な関連があるので、それらの講義内容も含めて事前に予習しておくこと。					
テキスト	なし。 必要な資料は印刷して配布する。					
参考書	講義中に適宜紹介する。					
予習・復習について	講義時間内に予告なく小テストを行うので、講義前に必ず復習をしてくること。					
成績評価の方法・基準	小テスト（20～30％）と期末筆記試験（70～80％）の合計を基本として、自主レポートの点数をプラスして総合的に評価する。評価基準は、科目の目標に沿って、講義内容の理解度をみる。					
オフィスアワー	オフィスアワーは特に定めません、必要な時は、連絡をしたうえで研究室まで来てください。					
担当教員からのメッセージ	遅刻や講義中の私語は慎むこと。自主レポートの点数は成績評価に関係しますので、自発的・積極的に取り組んでください。					

授業科目名	応用生態学 (Applied Ecology)					
担当教員名	澤田 均 (SAWADA Hitoshi)	所属等	学術院農学領域			
		研究室	農学総合棟 471			
分担教員名						
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4	
キーワード	農地生態学、個体群生態学、群集生態学、生物多様性、食用作物					
授業の目標	農地生態学と農業環境問題の幅広い知識を身につけること、農作物及び農地の生物多様性を深く理解することを目指す。					
学習内容	この講義は農地生態学の入門編である。実際の研究例をとおして、農地生態学とはどのような学問か、何を研究対象とし、どのような方法を使うのかを学ぶ。特に個体群，群集，生態系レベルの研究対象を取り上げる。できるだけ主要な食用作物(イネ， トウモロコシなど)を例に取り上げる。					
授業計画	1. 授業ガイダンス， 応用生態学とは何か 2～4. 個体群 1－葉群光合成モデル (門司・佐伯モデル) 5～6. 個体群 2－有害生物問題 7～9. 個体群 3－有害生物防除戦略 (外来雑草防除モデル) 10～11. 生物多様性－栽培種と野生種 (トウモロコシの栽培化) 12～14. 群集－遺伝子組換え作物の生態的 インパクト 15. 生態系－農地生態系の窒素循環 16. 筆記試験					
受講要件	2 年生前期の「基礎生態学」を受講しておくことが望ましい。もし受講していない場合は、事前に生態学分野の大学初級程度のテキストを読んでおくことが望ましい。					
テキスト	特に使用しない予定。必要な資料は印刷して配布する。					
参考書	初回の授業ガイダンスで紹介する。さらに講義中に適宜紹介したい。					
予習・復習について	ほぼ毎回，予習用にクイズを課す。クイズの難易度及び解答に要する時間は適切なものである。一方，復習用には，毎回配布する資料が役立つ。					
成績評価の方法・基準	クイズ(20%を目安とする)と筆記試験(80%を目安とする)，授業への参加姿勢の合計で評価する予定である。評価基準は，主に講義内容の理解度をみる。特に筆記試験でみる。					
オフィスアワー	質問等は授業終了後に講義室にて。その他は電子メールで問い合わせてください。					
担当教員からのメッセージ	初回は授業ガイダンスを行うので，必ず出席するように。授業には遅刻しないように。遅刻すると，他の受講生の集中力を低下させ，クラスに悪影響をもたらす。正当な理由以外の欠席は，極力しないように。					

授業科目名	農業簿記入門 (Introduction to Agricultural Bookkeeping)					
担当教員名	柴垣 裕司 (SHIBAGAKI Hiroshi)			所属等	学院農学領域	
				研究室	農学 B 棟 309-2	
分担教員名						
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	月 5・6	
キーワード	農業簿記、財務分析					
授業の目標	講義内容（財務諸表の見方、企業の財務分析）を学生が、就職活動等で活用できるようになることを目指す。					
学習内容	農業簿記を題材として、簿記の基本原則を習得してもらう。さらに、簿記記帳により得られる財務情報を基にした財務分析手法を学んでもらう。					
授業計画	1 : 授業ガイダンス 2 : 簿記の計算方法 3 : 財務諸表 4 : 取引、取引要素の結合 5 : 仕訳、仕訳帳記入 6 : 元帳への転記 7 : 合計残高試算表 8～10 : 決算整理 11・12 : 帳簿決算 13～15 : 財務分析 16 : 期末試験					
受講要件	特になし。					
テキスト	工藤賢資・新井肇「農業会計」農文協、1993					
参考書	工藤賢資・新井肇「農業会計演習帳」農文協、1996、4540951068					
予習・復習について	簡単な宿題を出しますが、講義で理解できないところは復習しておくこと。簿記の学習は積み上げ方式のため、わからないまま放置しておくことと先に進めなくなります。					
成績評価の方法・基準	期末試験（100％）で評価するが、小テストの成績も考慮する。評価基準として、期末試験は講義内容の理解度をみる。					
オフィスアワー	相談事のある方は、事前にメールで当方の都合を聞いて下さい。					
担当教員からのメッセージ	簿記は「習うより慣れろ」で、講義中に練習問題を解いてもらいます。また、簿記の学習は積み上げ方式のため、欠席すると先に進めなくなりますので欠席しないこと。農業簿記について講義しますが、簿記の原理自体は共通ですので、関心のある学生はさらに学習を重ね「商業簿記」等の資格取得にチャレンジして下さい。					

授業科目名	ゲノム科学 (Genomics)					
担当教員名	堀池 徳祐 (HORIIKE Tokuma)		所属等	学術院農学領域		
			研究室	総合研究棟 302		
分担教員名	本橋 令子					
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	月 7・8	
キーワード	分子生物学、遺伝子、機能推定、データベース、ゲノム、バイオインフォマティクス、分子進化、コンピュータ					
授業の目標	最近のゲノム解析の進展は、分子生物学、遺伝学、分子進化学などの基礎学問ばかりでなく、応用分野にも大きな影響を持つようになってきている。情報解析を中心にゲノム解析の目標、進め方、新しい解析技術などについて幅広く講義することで、生命科学とその応用を学ぶ基盤とする。また、コンピュータによる基礎的な情報処理についても修得する。					
学習内容	コンピュータを利用したゲノム情報解析を行うための基本的な方法について理論と実践方法を学ぶ。					
授業計画	回 内容 1 ガイダンスーゲノム科学を学ぶにあたって 2 手作業の限界、網羅的研究、大量データの処理・自動化 3 コンピュータの基礎 4 デジタル回路 5 テキストエディタを用いたデータ編集 6 テキストエディタを用いたデータ編集、プログラミングの基礎演習 7 プログラミングの基礎演習 8 比較ゲノム解析 9 分子系統解析、タンパク質立体構造予測 10 メタゲノミクス 11 エピジェネティクス 12 突然変異の解析 13 ゲノムリソースサイトの紹介と利用 14 マイクロアレイ解析、プロテオーム解析、メタボローム解析などのオミックス解析についてとそのデータ処理方法 15 まとめ					
受講要件	パソコンを操作できる必要がある。					
テキスト	特に無し。					
参考書	特に無し。					
予習・復習について						
成績評価の方法・基準	受講状態とレポートにより評価する。					
オフィスアワー						
担当教員からのメッセージ						

授業科目名	生化学 (Biochemistry)					
担当教員名	鳥山 優 (TORIYAMA Masaru)		所属等	学術院農学領域		
			研究室	共通教育 C 棟 509 号室		
分担教員名						
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2	
キーワード	A T P、エネルギー生成、糖代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝、ヌクレオチド代謝					
授業の目標	生化学は生き物を分子レベルで理解しようとする学問分野である。この講義では、代謝の基本的な仕組みと原理、エネルギー代謝を中心とした個々の代謝について学ぶ。					
学習内容	指定された教科書の第Ⅲ部，代謝と生体エネルギー論の中で，光合成を除く代謝経路について理解する。					
授業計画	1. 代謝についての序論（化学反応の自由エネルギー変化） 標準自由エネルギーと実際の自由エネルギーとの違い，化学反応が進む方向は？ 2. 代謝についての序論（化学反応における活性化エネルギー） 化学反応が進む際の活性化エネルギーの意味，酵素による反応速度調節の意味 3. 解糖 ブドウ糖からピルビン酸まで，発酵による N A D 回収 4. 解糖の調節 解糖経路中の調節点とのその生理的意義 5. クエン酸回路 クエン酸回路の全容，その収支，アナプレロティック反応 6. クエン酸回路の調節 クエン酸回路の調節点とその生理的意義 7. グリコーゲン代謝と糖新生 グリコーゲン合成と分解のしくみ，血糖値維持との関連 8. 糖新生とペントースリン酸経路 ピルビン酸からグルコースへ，糖新生の前駆物質，ペントースリン酸経路によるリボース，N A D P H の生成 9. 電子伝達の概略 N A D H から酸素までの電子伝達，2 電子移動と 1 電子移動，電子移動に伴うプロトン駆動力の発生 10. 電子伝達と A T P 合成 A T P シンターゼによる A T P 合成のしくみ，ミトコンドリア内膜における A T P，リン酸輸送系 11. β酸化回路 脂肪酸分解経路の解説，不飽和脂肪酸と奇数鎖脂肪酸の分解経路 12. 脂肪酸合成 マロニル A C P による炭化水素鎖延長反応，アセチル C o A とコレステロール合成 13. アミノ酸合成 必須アミノ酸と非必須アミノ酸，2－オキソグルタル酸へのアミノ基の取り込み 14. アミノ酸異化 尿素回路，アスパラギン酸シャトル，種々のアミノ酸の異化過程 15. ヌクレオチド代謝 プリン環とピリミジン環の合成，プリン環異化と尿酸生成 16. 試験基本的に，1 回の授業で 1 項目を話しきる予定だが，項目によっては前後にずれ込むことがある。					
受講要件	なし					
テキスト	「ホートン生化学」Horton ら著、鈴木紘一ら訳（東京化学同人）（2015 年 4 月に手に入る最新版を使う）					
参考書	なし					
予習・復習について	各授業ごとで，教科書の章末の問題番号を指定するので，解答例を見ずに解いて，それをレポートとして提出することで，復習とする。					
成績評価の方法・基準	評価は定期試験のみで決める。定期試験は教科書，ノートなど持ち込み可とする。					
オフィスアワー	月曜日 7，8，9，10 時限，ただし，事前に電子メールで確認すること					
担当教員からのメッセージ	生物学概論で学習した代謝経路の概略と，生化学概論で学習した生体構成物質の基礎知識を十分に復習してから授業に臨むこと。有機化学の基礎知識も当然必要である。					

授業科目名	森林環境水文学 (Forest Hydrology)					
担当教員名	土屋 智 (TSUCHIYA Satoshi)		所属等	学院農学領域		
			研究室	農学総合棟 271		
分担教員名						
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2	
キーワード	森林の熱環境、水循環、降雨浸透、降雨流出、蒸発散					
授業の目標	太陽エネルギーによる熱収支と蒸発散による地表熱環境の緩和、森林土壌が果たす洪水流の調節機構、森林が発揮する熱環境の緩和機能等について基本的理解ができることを目標とする。					
学習内容	森林を含む水循環過程に焦点をあて、太陽エネルギーによる熱収支、蒸発散による地表熱環境の緩和、森林土壌が果たす洪水流の調節機構、森林が発揮する環境緩和機能について概説する。また、蒸発散過程、雨水流出過程について、森林と水循環過程の定量的関係を講述する。					
授業計画	1・2. 森林地をとりまく水循環とそこでの水循環過程 3. 水資源の涵養と水利用に関する環境倫理 4・5. 土壌中の水の動き：土壌水と地下水、ベルヌイ(Bernoulli)の定理、水理ポテンシャルとダルシー則 6. 不飽和流動の基礎と測定：体積含水率、水分特性曲線、テンシオメータと吸引圧 7・8. 浸透基礎理論：不飽和水分移動の解析、一次元不飽和流動式と数値解、一次元土壌カラム実験 9. 森林斜面における水移動：ホートン型地表流、降下浸透と飽和帯 10. 流出解析：流出モデル、合理式、タンクモデル 11. 地下水流出：地下水のダルシー則、降下浸透と飽和帯 12. 安倍川流域の概要と洪水流出の実態 13. 蒸発散：蒸発散の測定法、水収支法、熱収支法、土壌水分変化法 14. 蒸発散量の推定：蒸発計蒸発量、ソーンスウェイト法、 Penman - monteith 式 15. 水文統計：面積平均雨量の算定、ティーセン法、等雨量線法、超過確率 16. 筆記試験					
受講要件	関連科目：地学概論，地学実習					
テキスト	必要な資料は印刷して配布する。					
参考書	森林水文学，文永堂					
予習・復習について	復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。					
成績評価の方法・基準	履修態度（10%），レポート（20%），学期末試験（70%）の結果を総合し評価基準とする。成績の「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。					
オフィスアワー	授業終了後に質問や相談を受け付ける。それ以外は電子メール（afstuti@ipcshizuoka.ac.jp）で前もって連絡のこと。					
担当教員からのメッセージ	オフィスアワーを積極的に利用し、質問してください。					

授業科目名	微生物代謝工学 (Microbial Engineering and Biotechnology)					
担当教員名	徳山 真治 (TOKUYAMA Shinji)			所属等	学術院農学領域	
				研究室	農学総合棟 525	
分担教員名	小谷 真也					
クラス	応用生物	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2	
キーワード	微生物バイオテクノロジー、代謝制御、遺伝子工学、タンパク質工学					
授業の目標						
学習内容	遺伝子工学、パンパ櫛津工学、制御代謝工学、微生物バイオテクノロジー全般					
授業計画	回 内容 1 ガイダンス 2 微生物の多様性 3 微生物のバイオテクノロジー 4 遺伝工学の基礎 1 5 遺伝子工学の基礎 2 6 遺伝子工学の基礎 3 7 遺伝子工学の基礎 4 8 細菌における蛋白質生産 9 細菌における物質生産 10 放線菌の物質生産（前） 11 放線菌の物質生産（後） 12 酵母におけるタンパク質生産 13 アミノ酸発酵 14 微生物酵素 15 バイオマス					
受講要件	分子生物学及び応用微生物学を受講していることが望ましい					
テキスト	未定					
参考書	ガイダンスで紹介					
予習・復習について	毎回復習することが望ましい					
成績評価の方法・基準	出席・試験成績を評価して総合的に判断する。					
オフィスアワー	平日：8 時～21 時					
担当教員からのメッセージ	遺伝子工学の基礎から、最近のバイオテクノロジーまで紹介します。					

授業科目名	土壌圏科学 (Soil Science)					
担当教員名	南雲 俊之 (NAGUMO Toshiyuki)		所属等	学術院農学領域		
			研究室	農学総合棟 376		
分担教員名						
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分	必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4	
キーワード	物質循環、土壌、環境保全、農業生産					
授業の目標	土壌は、陸上生態系における物質循環の中心であり、様々な生き物を支えている基盤的資源である。土壌と植物生育の関わりや地域・地球環境問題との関わりを、物質循環という視点から理解するための基礎的な知識の習得を目指す。					
学習内容	土壌の特徴を化学的、物理学的、生物学、地学的、そして農学的側面から概説する。					
授業計画	回 内容 1 1) 土壌とは何か？ ガイダンス 2 2) 土壌生成論 土壌生成因子・作用、層位分化と ABC 層位 3 3) 土壌の構成成分 とくに土壌鉱物 4 4) 土壌の物理 I 土壌の三相分布と土壌構造 5 土壌の物理 II 土壌が水を保持する力、マトリックポテンシャル 6 土壌の物理 III 土壌中の水移動、保水性・排水性と植物生育 7 5) 土壌の化学 I 土壌の電荷とイオン吸着・交換反応 8 土壌の化学 II 土壌の反応（pH）と交換性陽イオン、アルミニウム 9 土壌の化学 III 土壌の酸化還元反応 10 土壌の化学 IV 腐植物質の特徴と役割 11 6) 土壌の生物 I 土壌生物の種類と量、土壌環境と微生物生態 12 土壌の生物 II 土壌微生物バイオマスと生態系の物質循環 13 土壌の生物 III 土壌微生物と植物生育 14 7) 日本の代表的土壌 15 8) まとめ					
受講要件	高校レベルの化学の内容（できれば、物理、生物も）がおおむね理解できている前提で授業を行う。					
テキスト	土壌サイエンス入門（三枝正彦・木村真人編、文永堂）（4000 円程度）なお、毎回プリントを配布する。					
参考書	土壌学は農学基礎分野の 1 つであり、高校教科書（農業高校）や一般向けに平易に解説した普及書からより高度な専門書まで幅広い土壌書が出版されています。是非、これらの土壌書を手にとって読んでみてください。					
予習・復習について	復習を重視します。授業内容は忘れないうちに、教科書の該当箇所と別途指示する関連箇所をよく読み、しっかり理解すること。予習は、次回授業に必要となる高校理科の内容・単元の復習や、次回授業の理解に役立つ調べ学習（レポート）を指示し、これをもって代えます。					
成績評価の方法・基準	期末テスト（100%）により評価する。なお、簡単な演習問題を課す小テストを行なう場合がある。秀（>90 点）、優（>80 点）、良（>70 点）、可（>60 点）、不可（<59 点）					
オフィスアワー	授業終了後から昼休みの時間。随時の来訪を歓迎しますが、事前にメール等で問合せること。					
担当教員からのメッセージ	私語は絶対厳禁。					

授業科目名	食品製造化学 (Food Technology)					
担当教員名	日野 真吾 (HINO Shingo)	所属等	学術院農学領域			
		研究室	農学総合棟 577			
分担教員名						
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4	
キーワード	食品化学、食品機能成分					
授業の目標	化学的知見をもとに、食品の栄養価や経済性、保存性、安全性などを説明できるようになること。食品成分の性質を理解し、加工のしくみを理解すること。					
学習内容	食品を化学的見地から、構成成分、構造、性質、反応などについて解説する。さらに、化学的方法による食品加工についても解説する。					
授業計画	1) 炭水化物の化学とその利用（1－3回） 2) 脂質の化学とその利用（4－6回） 3) タンパク質の化学とその利用（7－9回） 4) 園芸食品とその加工（10－11回） 5) 嗜好食品，香辛料（12－13回） 6) 機能性食品 （14回） 7) 食物摂取と栄養（15回）					
受講要件						
テキスト	「わかりやすい食品化学」三共出版					
参考書	その都度指示する。					
予習・復習について	分からない点や興味ある事項について、インターネット等を活用して調べることが望ましい。					
成績評価の方法・基準	定期試験（80％）と出席（20％）。評価基準は、講義内容の理解度をみる。					
オフィスアワー	オフィスアワー：随時（事前に電話や電子メールで問い合わせること）					
担当教員からのメッセージ	積極的に質問をしてください。					

授業科目名	生命環境倫理学 (Ethics of Life in Environment)					
担当教員名	竹之内 裕文 (TAKENOUCHI Hirobumi)	所属等	学術院農学領域			
		研究室	農学部総合棟 520			
分担教員名						
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2	
キーワード	生命、環境、農業、農学、農村、中山間地域、食、自然、環境、幸福					
授業の目標	本講義の目標は、生命とそれを取り巻く環境との相互形成作用に注目しつつ、日常的なものの見方・考え方（倫理）を掘り下げて考究することにあります。この目標を達成すべく、本講義では 7 つの主題（テーマ）について、対話を通して徹底的に考え抜いていきます。対話とは、人と人がかけがえのない者として出会い、向かい合い、話し合うことであり、その反復の中でのみ、双方が対話し得るあり方につくり変えられていくと考えます。					
学習内容	授業計画に記載の 7 つのテーマについて、次の①～③の行程を辿るかたちで進められます。 ①提示された問いに対する回答を練り上げるグループワーク（45 分） ②各グループの回答の提示と全体討議（45 分） ③教員による Short Lecture（45 分）					
授業計画	序章. 生命環境倫理学への招待（講義概要、進め方、グループ分け、役割分担、評価等について） 第 1 章 農業を哲学する 第 2 章 農学の使命について考える 第 3 章 中山間地域の暮らしを考える 第 4 章 「食べる」とはどういうことか？——食を問いなおす 第 5 章 「自然である」とはどういうことか？ 第 6 章 「環境を守る」とはどういうことか？ 第 7 章 「幸福に生きる」とはどういうことか？					
受講要件	討議を中心に進められる講義ですので、出席は前提になります。くわえて討議に積極的に参加し、講義に貢献することが期待されます。					
テキスト	本年度は教科書を使用しません。講義内で多くの参考文献を紹介します。					
参考書	『食と農の社会学 生命と地域の視点から』榊渥俊子・谷口吉光・立川将司編著、ミネルヴァ書房、2014 年、『人間にとって農業とは』坂本慶一、学陽書房、1989 年、『農の福祉力 アグロ・メディコ・ボリスの挑戦』池上甲一、農山漁村文化協会、2013 年、村瀬学『「食べる」思想』、洋泉社、2010 年					
予習・復習について	講義は、討議（グループ討議&全体討議）を中心に進められるので、予習復習を徹底し、必ず一度は発言してください。					
成績評価の方法・基準	1) 平常点 30% Group Work のファシリテーション（司会・書記） 全体討論での発言 Short Lectures に対する質疑 2) 出席状況 10%3) 学期末試験 60% 学期末に、論述形式の筆記試験を実施する。講義でとり挙げたテーマ（各章の内容）に基づき、受講者が自分で問題を立て回答する形式で、学期末に試験を実施する（ただしそれは採点基準が甘いことを意味しない）。					
オフィスアワー	水曜日と金曜日の午後。事前に電話かメールで連絡のうえ来室することが望ましい。					
担当教員からのメッセージ	自分なりの気づきを大切に、自らの内に秘められた考えをなんとか言葉にしましょう。次に異なった意見に耳を傾け、それぞれの独自の視点を活かしながら、事柄そのものの理解を共に広げ、深めていきましょう。この目標のもと、本講義は、受講生による討議を中心に進められます。討議できる人になって、世界に飛び立ちましょう。教師から知識、情報、見解を一方通行で受け取りたい人には受講を勧めません。					

授業科目名	有機化学概論 (Introduction to Organic Chemistry)					
担当教員名	河岸 洋和 (KAWAGISHI Hirokazu)		所属等	グリーン科学技術研究所		
			研究室	農学総合棟 672		
分担教員名						
クラス	応用生物	学期	後期		必修選択区分	必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2	
キーワード	分子軌道、構造、命名法、立体化学、反応					
授業の目標	有機化学の重要性を理解し、分子軌道、有機化合物の構造、命名法、立体化学、性質、反応性の基礎を学ぶ。					
学習内容	原子、分子の構造、軌道について理解し、その後、構造式や命名法、立体化学、反応機構の基礎を講義する。					
授業計画	1) 有機化学の必要性について例を挙げながら解説する。2) 原子、分子の構造、軌道について解説する。3) 構造式の表し方、有機化合物の命名法について解説する。4) 有機化合物の立体化学について解説する。5) 有機化合物の反応機構の基礎について解説する。最初と最後の1～2回を除き、毎回、小テストを行う。 回 内容 1 有機化学の必要性について例を挙げながら解説 2 原子、分子の構造、軌道について解説 3 原子、分子の構造、軌道について解説 4 原子、分子の構造、軌道について解説 5 原子、分子の構造、軌道について解説 6 構造式の表し方、有機化合物の命名法について解説 7 構造式の表し方、有機化合物の命名法について解説 8 構造式の表し方、有機化合物の命名法について解説 9 有機化合物の立体化学について解説 10 有機化合物の立体化学について解説 11 有機化合物の立体化学について解説 12 有機化合物の反応機構の基礎について解 13 有機化合物の反応機構の基礎について解 14 有機化合物の反応機構の基礎について解 15 有機化合物の反応機構の基礎について解					
受講要件	本講義は「生物有機化学1，2」に引き継がれる。高等学校で「化学」を未履修の者は、高等学校の「化学」の教科書を読んで学び、一日も早く追いつけるように努力すること。					
テキスト	ビギナーズ有機化学（第2版） 川端 潤著／化学同人 2013					
参考書	ジョーンズ有機化学（上）（下） 東京化学同人					
予習・復習について	授業後と授業前に教科書とノートを読み、理解を深め、小テストに備えること。					
成績評価の方法・基準	定期試験（約40%）と小テストの結果（約50%）と出席（約10%）を総合して評価する。					
オフィスアワー	随時（事前に電話や電子メール等で問い合わせること）					
担当教員からのメッセージ	有機化学は生物を扱う学問の大事な基礎です。					

授業科目名	園芸食品利用学 (Postharvest Technology of Fruit and Vegetables)					
担当教員名	山脇 和樹 (YAMAWAKI Kazuki)			所属等	学院院農学領域	
				研究室	農学総合棟 431	
分担教員名						
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2	
キーワード	青果物、貯蔵、流通、加工、呼吸生理、予冷、品質保持、缶詰、冷凍食品、色素と変色					
授業の目標	生鮮な果実や野菜の多くは軟弱で貯蔵性が乏しく、また季節性、地域性も強いいため、これらの利用は多くの制約を受ける。このような青果物の収穫から消費までの品質低下やロスを抑える技術は、生産の一部と認識すべきで、世界的に見て更なる開発や整備の余地が大きく残されている。また、缶詰や冷凍、乾燥などの加工は生産物の利用率を上げる重要な手段で、生産と切り離して考えることはできない。講義では、収穫後も生命体であり食品でもある青果物の有効な利用を目指す技術についての理解と関心を深め、さらに農業生産を広い視野で捉える感覚も養う。					
学習内容	園芸生産物を食品として取扱い、その貯蔵や流通、加工に関する基礎知識や技術について学ぶ。					
授業計画	1. 授業ガイダンス：講義概要、背景、意義 2. 呼吸生理： 養分の供給は断たれても生きている。長所でもあり短所でもある 3. 呼吸の制御： 温度、空気組成、エチレン、物理的刺激、熟度、齢など 4. 予冷の意義： 収穫後、なぜ急いで冷やさないといけないのか 5. 予冷の実際： 差圧通風予冷、真空予冷、ハイドロクーリングなど 6. 予措： 流通、貯蔵の前に行う処理。キュアリング、脱渋、追熟処理など 7. CA貯蔵とMA貯蔵： リンゴが一年中食べられるのはCA貯蔵のおかげ 8. 生理障害と市場病害： 収穫した時点で農作物は法的に食品の扱いを受ける 9. 品質評価と選別： 傷つけずに成分や品質を測定、評価し、選別する技術が実用化 10. 缶・びん詰、レトルト食品：200 年以上の歴史 11. 冷凍食品：単に凍らせた食品ではない 12. 色素と変色：きれいな色を保つのは至難のわざ 13. 水分活性と腐敗：水分活性とは？ 14. ゲル化剤としてのペクチン：どうして固まるのか 15. 総括および加工実習 16. 筆記試験					
受講要件	関連科目：収穫後生理学，果樹園芸学，野菜園芸学など					
テキスト	特に使用しない 資料を適宜プリントして配布する					
参考書	「食品保蔵・流通技術ハンドブック」(建帛社) 「園芸食品の流通貯蔵加工」(養賢堂)「青果保蔵学汎論」(建帛社) 「野菜の鮮度保持マニュアル」(流通システム研究センター) 他					
予習・復習について	特に予習の必要はないが、身近な果物，野菜の生理現象にも関心を持ち，講義に臨んで欲しい。講義後は復習と興味を持った事柄について独自の学習を期待する。					
成績評価の方法・基準	出席，小テスト，レポートにより受講意欲や関心度などを評価（30％）し，期末の筆記試験で総合的な理解度を評価（70％）する。					
オフィスアワー	随時					
担当教員からのメッセージ	講義中の質問は授業への積極的な参加として，加点评価する。					

授業科目名	住環境構造学 (Structure of Wooden Houses and Environment)					
担当教員名	安村 基 (YASUMURA Motoi)	所属等	学術院農学領域			
		研究室	農学総合棟 332			
分担教員名	小林 研治					
クラス	環境森林	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4	
キーワード	木造住宅、建築構法、建設・施工、調達・物流、生産管理、耐震設計、耐風設計、許容応力度設計					
授業の目標	木造住宅の構法・施工と生産管理および構造設計法の概要に関する基礎的な知識を修得することを目標とする。					
学習内容	木材・木質材料の生産と調達・物流および木造住宅の構法・建設・施工と生産管理に関する知識を身につけるとともに、木造建築の構造的特徴と地震・暴風・積雪・常時荷重に対する設計法について学ぶ。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (B)および (D)に対応する。					
授業計画	回 内容 1 わが国における住宅生産の推移 2 建築材料と建築構法・施工・生産管理の概要 3 木造住宅の構工法と施工（１）－在来軸組構法 4 木造住宅の構工法と施工（２）－桝組壁工法・木質パネル工法 5 その他の構法と施工（大断面木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造） 6 住宅生産における積算と工程管理 7 住宅各部詳細の施工と管理 8 住宅生産における材料調達と物流 9 構造計算の概要 10 荷重と外力 11 木造建築における耐震・耐風設計 12 木造建築における壁量計算 13 部材の設計 14 材料の強度と許容応力度 15 構造解析手法					
受講要件	3 年前学期の「材料力学」、後学期の「住環境工学」を履修することが望ましい。					
テキスト	授業中にプリントを配布。					
参考書	杉山英男編著「木質構造」（共立出版）、日本建築学会「構造用教材」「建築材料教材」。その他は授業中に随時紹介する。					
予習・復習について	復習を行い、理解できない点は教員に質問すること。					
成績評価の方法・基準	学期末試験の結果により評価する。成績の「秀」は90％以上、「優」は80％以上、「良」は70％以上、「可」は60％以上とする。					
オフィスアワー	昼休み、農学部 A426 室。メール（afmyasu@ipc.shizuoka.ac.jp）で連絡してください。					
担当教員からのメッセージ	積極的に質問してください。本科目は、二級・木造建築士受験資格を得るために必修となる科目です。					

授業科目名	植物微生物学 (Plant Microbiology)					
担当教員名	瀧川 雄一 (TAKIKAWA Yuichi)	所属等	創造科学技術研究部			
		研究室	農学総合棟 385			
分担教員名						
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4	
キーワード	微生物と植物、寄生、共生、多様性					
授業の目標	植物に寄生・共生する微生物の諸相とその応用について理解を深める。					
学習内容	植物と微生物の関係について様々な側面から概説する。まず、植物の病原体としての微生物を概観し、次に植物と微生物の共生関係について講義する。この講義は植物病理学の基礎をなす。					
授業計画	I. 植物と微生物（第 1 回） II. 微生物とは（第 2 回） III. 植物の病原体としての微生物（第 3 回―第 1 0 回） 1. 菌類 2. 細菌 3. ウイルス IV. 共生的な植物と微生物の関係（第 1 1 回―第 1 5 回） 1. 根粒菌と窒素固定 2. 菌根とキノコ 3. エンドファイト					
受講要件	基礎微生物学の単位を取得していること。（3 年次編入生は除く）					
テキスト	「植物病理学」（大木 理 著、東京化学同人）を前半に用いる。後半はプリントで行う。					
参考書	「カビ図鑑」細矢剛・出川洋介・勝本謙 著 全国農村教育協会 2010 ISBN978-4-88137-153-4「少女系きのこ図鑑」玉木えみ 著 DU BOOKS 2012 ISBN978-4925064590 このほか講義中に適宜紹介する。					
予習・復習について	授業の最後に行われる質疑応答について次回までに内容を自分で十分に復習すること。					
成績評価の方法・基準	毎回の質疑応答と学期末試験で評価する。欠席の程度で評価は低下する。講義内容を理解し、微生物学および植物病原学の基礎的な知識が身に付いている程度を判定する。					
オフィスアワー	毎日昼休時					
担当教員からのメッセージ	植物の病気についてはもちろん微生物が関わるわけですが、環境問題や生物農薬などでも微生物の知識は必須です。広い視野を持って問題解決にあたるための基礎となる分野です。					

授業科目名	植物機能科学 (Plant Physiology and Function)					
担当教員名	原 正和 (HARA Masakazu)	所属等	グリーン科学技術研究所			
		研究室	農学総合棟 678			
分担教員名						
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4	
キーワード	植物の生理機能、植物の素材、機能と素材の活用					
授業の目標	植物の機能と利用に関する基礎知識を理解する事を目標とする。					
学習内容	生物産業や環境分野における、植物の高度利用を支える学術情報と具体的活用方法を、植物の成長やストレス耐性などに焦点を当て、生物的、化学的側面から概説する。主としてプリントを用いた講義形式で進める。					
授業計画	植物の機能（光合成、水分生理、二次代謝）をベースに、利用形態（素材、環境保全）、利用のための方法論（化学調節、育種、バイオテクノロジー）について概説する。 回 内容 1 ガイダンス 2 植物の機能 水分生理① 3 植物の機能 水分生理② 4 植物の機能 水分生理③ 5 植物の機能 温度生理① 6 植物の機能 温度生理② 7 植物の機能 温度生理③ 8 植物の機能 重金属生理 9 植物の利用形態 素材① 10 植物の利用形態 素材② 11 植物の利用形態 環境保全① 12 植物の利用形態 環境保全② 13 利用のための方法論 化学調節 14 利用のための方法論 育種 15 利用のための方法論 バイオテクノロジー					
受講要件	植物生理学を履修していること。化学・生化学関連の基礎知識が必要である。					
テキスト	特に用意する必要はない					
参考書	植物生理学、植物化学などに関する各種参考書					
予習・復習について	事前にプリントを配る予定であるので、それらに目を通しておくとよい。					
成績評価の方法・基準	植物の機能と利用に関する基礎知識の習得度に応じて評価する。評価は、筆記試験（70%）、小テスト（30点）とし、出席状況もまた、評価に反映する。					
オフィスアワー	定時のオフィスアワーを設けていないので、必要な時は事前にメールで問い合わせてください。					
担当教員からのメッセージ	評価は厳格に行うため、選択した場合にはしっかりと勉強してください。					

授業科目名	環境社会学 (Environmental Sociology)					
担当教員名	富田 涼都 (TOMITA Ryoto)			所属等	学術院農学領域	
				研究室	農学部 B 棟 312 研究室	
分担教員名						
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 5・6	
キーワード	環境と社会、環境保全、生物多様性、生態系サービス、公害問題、資源管理、社会的公正、科学知と生活知、文化と伝統					
授業の目標	「環境問題の解決」と一口に言っても、具体的に何を指しているのだろうか。少なくとも、そもそも「問題」と呼ばれているものの正体は何なのか、それに対して何が必要なのかを見極めなくてはならない。また、こうした問題の多くは、現場ごとに様々な特徴を持っているのでマニュアル式に決まった正解が導けるわけでもない。そのため、問題解決を目指すにしても現場から学ぶという姿勢が重要になる。 したがって、この講義では、環境社会学の導入編として「環境と社会」という観点から「環境問題」と呼ばれているものを現場で把握し、それに対して何が必要なのかを考えるための『土台』を提供することを目標とする。					
学習内容	本講義は三部構成からなる。まず第一部では、「何を守るのか」という問いをもとにして、環境と社会の相互作用に注目する。第二部では「誰の環境を守るのか」という問いをもとにして、環境をめぐる社会的公正を考える。第三部では「どうやって守るのか」という問いをもとにして、環境の政策理念や遂行プロセスについて考える。 なお、講義においては事例を取り上げるという性格上、視聴覚資料などを活用するほか、内容の理解を深めるために、グループディスカッションも行う。受講者からの発言を重視するので、それを踏まえて毎回の講義に臨んでほしい。					
授業計画	1. ガイダンス 第一部『何を守るのか』 2. エコロジカル・フットプリントから見える「環境負荷」 3. 自然の「恵み」を受け続けるためには？ 4. 生態系サービスをめぐる環境と社会の相互作用 5. 自然保護において「守るべきもの」とは何か？ 第二部『誰の環境を守るのか』 6. 水俣病から学ぶ（その1） 7. 水俣病から学ぶ（その2） 8. リスクの分配は公正か？ 9. 自然再生事業は誰のもの？ 第三部『どうやって守るのか』 10. 「コモンズの悲劇」を超えて 11. 社会林業の意義 12. 人は環境に「無関心」なのか？ 13. 「文化」の落とし穴 14. 「専門家」の役割は何か？―「傍観者」にならないために 15. 講義のまとめ					
受講要件	環境と社会の関係性に興味を持ち、講義に真摯な姿勢で臨む心構えがあること。					
テキスト	特に指定しない。適宜資料を配布する。					
参考書	『自然再生の環境倫理』, 富田涼都, 昭和堂, 2014, 978-4812213544 『環境の社会学』, 関礼子・中澤秀雄・丸山康司・田中求, 有斐閣, 2009, 978-4641123854 『環境の豊かさをもとめて』, 鬼頭秀一 編, 昭和堂, 1999, 978-4812299227 『よくわかる環境社会学』, 鳥越皓之・帯谷博明 編, 2009, ミネルヴァ書房, 978-4623053247 『環境と社会』 西城戸誠・舩戸修一 編, 2012, 人文書院, 978-4409001097 『自分で調べる技術』, 宮内泰介, 岩波書店, 978-4007001178					
予習・復習について	講義中に示された参考書を参照したり、講義内容に基づいて各テーマについて自主的に学習を進めたりすることを推奨する。					

成績評価の方法・基準	講義に対する参加意欲（リアクションペーパーの提出と内容）と最終レポートによって総合的に評価する。評価のウェイトは、おおむね 2:8 である。また、最終レポートは、講義の内容を通じて学生自らが自主的に学びながら「思考」し、論じているかという点を主に評価のポイントとする。
オフィスアワー	農学部 B 棟 3 階 312 号室。出張による不在も多いので、事前に tomita.ryoto@shizuoka.ac.jp まで問い合わせること。なお、メールでの問い合わせは、友人への携帯メールとは異なるので、名前等の情報をきちんと書くこと。
担当教員からのメッセージ	環境社会学は、環境と社会の関係性についてのさまざまな領域の知見が用いられます。それらは具体的に環境と社会を見ていくために有効な視点を提示してくれます。この講義では、フィールドにおける各種の課題を見ていくための基礎知識を提示し、習得してもらうことを目的にしています。

授業科目名	森林生態学 (Forest Ecology)					
担当教員名	檜本 正明 (NARAMOTO Masaaki)	所属等	学術院農学領域			
		研究室	農学総合棟 281			
分担教員名	王 権、水永 博己					
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	水 5・6	
キーワード	エコシステム、相互関係、環境要因、物質循環、物質生産					
授業の目標	森林の生態系の特徴を 他の耕地や草原の生態系と比較しながら、樹木およびその集団としての森林が環境とどのような関係を維持しているかについて理解を深めることを目的とする。生態系の構造と機能について、森林気象学、森林立地学、樹木生理学など様々な学問分野と関連づけて解説する。					
学習内容	森林生態系の物質循環やエネルギー循環を中心として講義する。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標（B）に対応する。					
授業計画	1〕 ガイダンス 2〕 英語論文の読み方 3〕 森林エコシステム 4〕 太陽放射、輻射 （1） 5〕 太陽放射、輻射 （2） 6〕 林冠構造と LAI 7〕 炭素循環 ― 光合成 8〕 炭素循環 ― 呼吸 9〕 炭素蓄積、吸収源と放出源 10〕 窒素循環 11〕 エネルギーバランス 12〕 蒸発散 13〕 水循環 14〕 生態モデル 15〕 まとめ					
受講要件	関連科目：2年生：樹木・組織学、森林遺伝学、3年生：造林学、森林立地学、2年生実習：樹木学実習					
テキスト	無					
参考書	Plant Eco-Physiology (Larcher, Springer)					
予習・復習について						
成績評価の方法・基準	● 履修態度（10%）、最終レポート・中間テスト・宿題（90%）の結果を総合して評価する。● 成績の「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上 89%未満、「良」は 70%以上 79%未満、「可」は 60%以上 69%未満とする。● 講義中に口頭で回答させる。					
オフィスアワー	原則的に火曜日、水曜日の午前中をあてる（フィールドに出ていることが多いのでメールでアポイントメントを取ることを）					
担当教員からのメッセージ	授業は、英語プリントを主に使用して講義を進める。					

授業科目名	動物生理学 (Animal Physiology)					
担当教員名	与語 圭一郎 (YOGO Keiichiro)		所属等	学院農学領域		
			研究室	農学総合棟 585		
分担教員名						
クラス	応用生物	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 5・6	
キーワード	動物、器官、組織、細胞、感覚、神経、筋、恒常性					
授業の目標	動物の複雑な生理機能とその仕組みを理解するのが生理学という学問である。授業では、生体における外部刺激の受容と応答の仕組み、内部環境を一定に保つための各器官の働き、そして、それら機能を調節する神経やホルモンの働きなどについて紹介する。動物に備わった生命を維持・継承するための実に巧妙なシステムを理解しよう。					
学習内容	主にヒトの生理を中心に学習するが、動物は進化の過程で、それぞれの生活環境に合わせ独自の生理機能・形態を発達させてきた。このようなユニークな動物の生理機能についても、ヒトと比較しながら紹介する予定である。					
授業計画	1.生体膜 2.神経 3.視覚 4.嗅覚・フェロモン 5.味覚 6.聴覚 7.体性感覚 8.筋肉 9.自律神経系 10.血液 11.循環 12.呼吸 13.消化・吸収 14.腎・尿生成 15.生殖					
受講要件	特になし					
テキスト	講義内容に即したプリントを毎回配布する。特に購入を求めないものの、下記の参考書は授業内容の理解に役立つ。					
参考書	「シンプル生理学第6版」(南江堂)「生理学テキスト」第4版(文光堂)「哺乳類と鳥類の生理学」第4版(学窓社) など					
予習・復習について						
成績評価の方法・基準	期末試験の成績で評価する。出席が 2/3 に満たない場合は試験の受験資格を失う。					
オフィスアワー	とくに指定しないが、電話やメールで事前に連絡を。					
担当教員からのメッセージ						

授業科目名	高分子材料学 (Polymer Material Science)				
担当教員名	山田 雅章 (YAMADA Masaaki)	所属等	学院農学領域		
		研究室	農学総合棟 329		
分担教員名					
クラス	環境森林	学期	後期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 7・8
キーワード	天然高分子、合成高分子、高分子材料、構造、物性、設計				
授業の目標	高分子の歴史、構造・分子の挙動とその物性との関係についてその基礎となる諸事項を講説するとともに、建築材料・生活材料として広く利用されている高分子材料の利用適性への理解を深めることを目的とする。				
学習内容	高分子の歴史、高分子合成、構造とその物性、高分子材料などについて学習する。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の (D)に対応する。				
授業計画	回 内容 1 高分子化合物の基礎 高分子とは 2 高分子化合物の基礎 構造をしているか 3 高分子化合物の基礎 ポリエチレンからダイヤモンドまで 4 高分子化合物の基礎 コポリマー 5 高分子化合物の基礎 高分子を立体的に見る 6 高分子化合物の基礎 立体構造と高分子の性質 7 高分子材料の基礎 高分子の集まった形 8 高分子材料の基礎 高分子材料の強さ 9 高分子材料の基礎 高分子材料を試験する 10 高分子材料の基礎 ゴムの不思議 11 高分子材料の基礎 高分子を熱したり冷やしたりする 12 高分子材料の基礎 流れる高分子 13 高分子材料の基礎 これからの高分子 14 高分子の製品をつくる 高分子化合物をつくる 15 高分子の製品をつくる 高分子を設計する				
受講要件	木材のクリープや応力緩和、接着剤の物性に大きく関与しており、「木質機能科学」「木材接着学」およびそれらの「実験」の基礎となる。				
テキスト	横田健二著「高分子を学ぼうー高分子材料入門」化学同人、および配布プリント				
参考書	適宜講義中に紹介する。				
予習・復習について	毎回授業の予習及び復習を行って欲しい。				
成績評価の方法・基準	履修態度および小テスト（30%）・筆記試験結果（70%）を総合して評価する。成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。				
オフィスアワー	水曜日 昼休み または夕方5時以降				
担当教員からのメッセージ	午後の授業であるので集中力を持続させること。				

授業科目名	野菜園芸学 (Vegetable Crop Science)					
担当教員名	糠谷 明 (NUKAYA Akira)		所属等	学院農学領域		
			研究室	農学総合棟 480		
分担教員名	鈴木 克己					
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	木 1・2	
キーワード	周年供給、安定生産、品種・学名、発育生理、露地栽培、施設栽培、作型分化、果菜類、葉根菜類、連作障害					
授業の目標	野菜の作型分化を通して、「周年供給」「安定生産」に対する理解を深めることを目標とする。					
学習内容	第2次世界大戦後の日本の野菜栽培は、「周年供給」「安定生産」を目標として栽培技術の発展・普及がなされてきた。本講義では、これらをキーワードとして、野菜生産の現状及び問題点について述べるとともに、果菜類・葉根菜類を中心とした野菜の発育生理・栽培生理を講義する。					
授業計画	回 内容 1 I) 野菜園芸とは II) 野菜の学名について 2 野菜の原産地, 来歴, 生産・消費・流通, 3 野菜の成長と発育 (1) 4 野菜の成長と発育 (2) 5 栽培技術の基本 6 施設利用型野菜の作型と栽培体系 (1) 7 施設利用型野菜の作型と栽培体系 (2) 8 施設利用型野菜の作型と栽培体系 (3) 9 品種利用型野菜の作型と栽培体系 (1) 10 品種利用型野菜の作型と栽培体系 (2) 11 イチゴの作型と栽培体系 (1) 12 イチゴの作型と栽培体系 (2) 13 施設環境と施設栽培 14 環境保全, 省力化などをねらった栽培法 15 連作障害の現状と対策					
受講要件	植物生産学演習, 園芸生産学を受講しておくことが望ましい。					
テキスト	野菜園芸の基礎(篠原温 編), 農文協					
参考書	「蔬菜園芸学」, 伊東 正他著 (川島書店)「野菜園芸学」, 金浜耕基編 (文永堂)「園芸学概論」, 斎藤 隆他著(文永堂)					
予習・復習について	毎時間最後に小試験を行い、採点して次回に返却するので、それらを参考に復習すること。この章試験は、出席点の算出のベースとなる。					
成績評価の方法・基準	評価は、定期試験(40%)、レポート(30%)、出席・小試験(30%)により行う。再試験は行わない。					
オフィスアワー	昼休み。できればメール abanuka@ipc.shizuoka.ac.jp でアポイントメントを取ることが望ましい。					
担当教員からのメッセージ	本講義は野菜生産の現状と栽培生理を講義するもので、直接的栽培技術は扱いません。講義方法や内容について意見や質問がある場合は、授業中または授業後に直接意見を寄せてください。					

授業科目名	分子機能化学 (Molecular Functional Chemistry)					
担当教員名	平井 浩文 (HIRAI Hirofumi)		所属等	学術院農学領域		
			研究室	農学部 A 棟 633・1（移転後：農学総合棟 675）		
分担教員名						
クラス	応用生物	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	木 1・2	
キーワード	バイオリファイナリー、白色腐朽担子菌、リグニン生分解、バイオレメディエーション、二次代謝産物、生合成経路					
授業の目標	第一部では木質バイオリファイナリーに関する基礎的知見を、第二部では二次代謝産物の生合成経路について理解する。					
学習内容	現在の地球環境問題から考えて、木質系バイオマスを利用したバイオリファイナリー技術の確立は急務である。しかしながら様々な問題から未だ確立された技術として認められていない。本講義の第一部では木質バイオリファイナリー技術の必要性から、白色腐朽菌担子菌を用いた木質バイオリファイナリーに関する内容まで講義する。 第二部では、様々な生物が産生する二次代謝産物（セルロース、リグニン、テルペノイド、ポリケチド、フラボノイド等）の生合成経路に着目し、その経路を詳細に講義する。					
授業計画	回 内容 1 序章（講義内容、目的等の解説） 2 地球環境問題と木質バイオリファイナリーについて 3 微生物によるリグニン生分解機構 ～木質バイオリファイナリーを念頭において～（1） 4 微生物によるリグニン生分解機構 ～木質バイオリファイナリーを念頭において～（2） 5 微生物によるバイオレメディエーションについて ～地球環境問題を念頭において～（1） 6 微生物によるバイオレメディエーションについて ～地球環境問題を念頭において～（2） 7 研究最前線についての紹介 8 中間試験 9 セルロースの生合成経路について 10 シキミ酸経路について 11 リグニン（シキミ酸経路）の生合成経路について 12 メバロン酸経路について 13 非メバロン酸経路について 14 酢酸－マロン酸経路について 15 酢酸－マロン酸－シキミ酸複合経路について					
受講要件	生化学・有機化学・分子生物学の基礎を理解しておくこと。					
テキスト	講義に必要なファイルを web 公開するので、必要に応じてダウンロードすること。また「意外に知らない、いまさら聞けない バイオ実験超基本 Q&A 改訂版（ISBN978-4-7581-2015-9）」も使用する。					
参考書	講義中に随時紹介する。					
予習・復習について	予習の必要はなし。ただし毎回小テストを実施するので、復習は十分にやること。					
成績評価の方法・基準	履修態度（10％）、小テスト・中間テスト・学期末試験（90％）の結果より評価する。小テスト・中間テスト・学期末試験の評価基準は、講義内容の理解度とする。					
オフィスアワー	火曜日 11:00～12:00。なお、質問は随時受け付けますので、まずはメール（ahhirai@ipc.shizuoka.ac.jp）にて連絡すること。					
担当教員からのメッセージ	本講義は小・中間テストの総得点 70%以上の者は最終試験を免除します。つまり、毎回の復習が重要となりますので、わからないところがある場合はそのままにせず、積極的に質問に来てください。そして、是非好成績で本講義の単位を取得してください。					

授業科目名	分子細胞生物学 (Molecular Biology of the Cell)				
担当教員名	与語 圭一郎 (YOGO Keiichiro)	所属等	学院農学領域		
		研究室	農学総合棟 585		
分担教員名					
クラス	応用生物	学期	後期		必修選択区分 必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4
キーワード	DNA、タンパク質、転写、翻訳、細胞増殖、細胞分化、がん、老化、幹細胞				
授業の目標	分子生物学とは「分子の言葉で生命を語る」学問である。つまり、複雑な生命現象を、遺伝子やタンパク質といった分子の働きで成り立つシステムとしてとらえ、個々の分子の機能や細胞内局在、分子間・細胞間の相互作用を明らかにすることで、生命の本質を理解することを目的としている。本講義では、生命の最小単位である細胞を中心に、先達たちが明らかにしてきた、生命システムの分子基盤を理解することを目指す。				
学習内容	細胞にとって基本的な機能である、遺伝情報の発現と細胞増殖を中心にその調節の分子メカニズムについて学習する				
授業計画	1. 細胞内シグナル伝達 イオンチャネル型受容体 G タンパク共役型受容体 チロシンキナーゼ型受容体 2. 遺伝情報発現の制御 転写調節因子 クロマチン構造 選択的スプライシング マイクロ RNA 翻訳レベルでの調節 翻訳後修飾 3. 細胞増殖と死、およびその異常 細胞周期・チェックポイント 細胞分裂・染色体分配 アポトーシス がん 老化 4. 幹細胞とバイオテクノロジー 幹細胞・ES 細胞・iPS 細胞 遺伝子改変マウス				
受講要件	2 年次までの専門科目（必修）を理解していること。				
テキスト	エッセンシャル細胞生物学（南江堂）				
参考書	細胞の分子生物学（ニュートンプレス） 遺伝情報の発現制御（メディカル・サイエンス・インターナショナル）				
予習・復習について	テストに向けた単なる暗記に終わってはあまり意味がない。細胞の中で分子一つ一つが見せているはずの動きや反応を頭の中で想像するとともに、そのミクロレベルの働きが細胞の分化や増殖といったマクロな変化を引き起こしていくストーリーの全体像の把握に努めてほしい。				
成績評価の方法・基準	試験の得点をもとに評価する。特段の理由なき欠席が 3 分の 1 を超えると試験の受験資格を失う。				
オフィスアワー	特に設定しないが事前に連絡を				
担当教員からのメッセージ					

授業科目名	酵素科学 (Enzymology)					
担当教員名	村田 健臣 (MURATA Takeomi)	所属等	学術院農学領域			
		研究室	農学総合棟 527			
分担教員名						
クラス	応用生物	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2	
キーワード	タンパク質、生体触媒、酵素阻害、反応速度論、触媒機構					
授業の目標	酵素は生命活動を支える様々な生体反応を促進する役割を担っている。従って、生命現象を理解するためには、酵素タンパク質の性質や触媒機構についての基礎的な知識が必要である。ここでは、酵素タンパク質の一般的性質や触媒機構の基礎について分子レベルで理解する。					
学習内容	酵素の構造、反応速度論、反応機構などの基礎の習得とともに、分子レベルでみた触媒機構を学ぶ。講義中には、最近の研究での応用技術などの具体例を挙げ、酵素に対する興味を深める。					
授業計画	回 内容 1 酵素科学の概要 2 酵素の構造 3 酵素の分類 4 酵素反応速度論Ⅰ 5 酵素反応速度論Ⅱ 6 酵素反応の阻害Ⅰ 7 酵素反応の阻害Ⅱ 8 酵素活性の調節 9 酵素の反応機構の基礎 10 反応機構の触媒様式 11 リゾチームの触媒作用 12 セリンプロテアーゼの触媒作用 13 リボヌクレアーゼの触媒作用 14 補酵素 15 筆記試験					
受講要件	関連科目：生化学概論、生化学、有機化学概論					
テキスト	ホートン生化学 第5版（東京化学同人）					
参考書						
予習・復習について						
成績評価の方法・基準	期末筆記試験により評価する。					
オフィスアワー	講義後やメールで連絡いただければ、時間や場所について対応いたします。					
担当教員からのメッセージ	酵素の魅力や不思議を探してください。					

授業科目名	分子生物学 (Molecular Biology)					
担当教員名	加藤 竜也 (KATO Tatsuya)	所属等	大学院農学領域			
		研究室	共通教育 C 棟 2 1 0 室			
分担教員名						
クラス	応用生物	学期	後期		必修選択区分	必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2	
キーワード	核酸、遺伝子工学、遺伝子の発現制御、シグナル伝達、変異、バイオテクノロジー					
授業の目標	生命活動を司る核酸と遺伝子の構造と機能、タンパク質の機能や構造および DNA の複製や転写・翻訳について学ぶ。					
学習内容	授業計画の通り					
授業計画	回 内容 1 代謝、エネルギーについて 2 酵素反応速度論について 3 アミノ酸、タンパク質の構造について 4 酵素の働き、調節について 5 タンパク質の研究について 6 DNA の構造、染色体について 7 DNA の複製について 8 DNA ポリメラーゼおよびテロメアについて 9 DNA の変異および修復について 10 相同性組換え、トランスポゾン、ウイルスについて 11 転写および RNA について 12 RNA ポリメラーゼについて 13 翻訳機構について 1 14 翻訳機構について 2 15 抗体について					
受講要件						
テキスト	Essential 細胞生物学(原書第 3 版) 監訳：中村桂子・松原謙一					
参考書						
予習・復習について						
成績評価の方法・基準	期末試験の結果(5 0 %)とレポート(5 回、5 0 %)で評価する。					
オフィスアワー	月・金 農学部生物工学研究室（共通教育 C 棟 211 もしくは 307）に来てください。(8:30-18:00)					
担当教員からのメッセージ	授業に遅れないで出席すること。					

授業科目名	環境毒性学 (Environmental Toxicology)																																																																																																					
担当教員名	釜谷 保志 (KAMAYA Yasushi)		所属等	学術院農学領域																																																																																																		
			研究室	農学総合棟 380																																																																																																		
分担教員名																																																																																																						
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分	選択																																																																																																
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2																																																																																																	
キーワード	微量化学物質、環境動態、生態毒性、リスク評価																																																																																																					
授業の目標	環境経由で暴露する化学物質と生物の相互作用について理解を深める。																																																																																																					
学習内容	環境中に放出された物質が環境中でどのような挙動を示し、生物とどのように関わるか、有害影響の可能性を考えるために必要な事項を整理し、生態系への影響評価の現状と課題について学ぶ。																																																																																																					
授業計画	<table><tr><td>回</td><td colspan="5">内容</td></tr><tr><td>1</td><td colspan="5">1. はじめに 環境毒性学について</td></tr><tr><td>2</td><td>2. 物質の特性と環境動態</td><td colspan="4">2. 1. 環境媒体と輸送・分布</td></tr><tr><td>3</td><td>2. 物質の特性と環境動態</td><td>2. 2. 非生物の変換・分解</td><td colspan="3">1) 酸化反応</td></tr><tr><td>4</td><td>2. 物質の特性と環境動態</td><td>2. 2. 非生物の変換・分解</td><td colspan="3">2) 還元・加水分解反応</td></tr><tr><td>5</td><td>2. 物質の特性と環境動態</td><td>2. 2. 非生物の変換・分解</td><td colspan="3">3) 光反応</td></tr><tr><td>6</td><td>3. 物質の特性と生体内動態</td><td>3. 1. 生体との相互作用</td><td colspan="3">1) 吸収・分布</td></tr><tr><td>7</td><td>3. 物質の特性と生体内動態</td><td>3. 1. 生体との相互作用</td><td colspan="3">2) 生物蓄積 小テスト 1</td></tr><tr><td>8</td><td>3. 物質の特性と生体内動態</td><td>3. 1. 生体との相互作用</td><td colspan="3">3) 代謝・排泄</td></tr><tr><td>9</td><td>3. 物質の特性と生体内動態</td><td>3. 2. 生物の変換・分解</td><td colspan="3">1) 微生物</td></tr><tr><td>10</td><td>3. 物質の特性と生体内動態</td><td>3. 2. 生物の変換・分解</td><td colspan="3">2) 植物・水生生物</td></tr><tr><td>11</td><td>4. 生態リスク</td><td>4. 1. 生態毒性と毒性評価試験</td><td colspan="3"></td></tr><tr><td>12</td><td>4. 生態リスク</td><td>4. 2. 生態リスク評価</td><td colspan="3"></td></tr><tr><td>13</td><td>4. 生態リスク</td><td>4. 3. バイオマーカーとバイオモニタリング</td><td colspan="3"></td></tr><tr><td>14</td><td>4. 生態リスク</td><td>4. 4. 生態リスク・環境毒性まとめ</td><td colspan="3"></td></tr><tr><td>15</td><td>5. 環境毒性学の課題</td><td>小テスト 2</td><td colspan="3"></td></tr></table>						回	内容					1	1. はじめに 環境毒性学について					2	2. 物質の特性と環境動態	2. 1. 環境媒体と輸送・分布				3	2. 物質の特性と環境動態	2. 2. 非生物の変換・分解	1) 酸化反応			4	2. 物質の特性と環境動態	2. 2. 非生物の変換・分解	2) 還元・加水分解反応			5	2. 物質の特性と環境動態	2. 2. 非生物の変換・分解	3) 光反応			6	3. 物質の特性と生体内動態	3. 1. 生体との相互作用	1) 吸収・分布			7	3. 物質の特性と生体内動態	3. 1. 生体との相互作用	2) 生物蓄積 小テスト 1			8	3. 物質の特性と生体内動態	3. 1. 生体との相互作用	3) 代謝・排泄			9	3. 物質の特性と生体内動態	3. 2. 生物の変換・分解	1) 微生物			10	3. 物質の特性と生体内動態	3. 2. 生物の変換・分解	2) 植物・水生生物			11	4. 生態リスク	4. 1. 生態毒性と毒性評価試験				12	4. 生態リスク	4. 2. 生態リスク評価				13	4. 生態リスク	4. 3. バイオマーカーとバイオモニタリング				14	4. 生態リスク	4. 4. 生態リスク・環境毒性まとめ				15	5. 環境毒性学の課題	小テスト 2			
回	内容																																																																																																					
1	1. はじめに 環境毒性学について																																																																																																					
2	2. 物質の特性と環境動態	2. 1. 環境媒体と輸送・分布																																																																																																				
3	2. 物質の特性と環境動態	2. 2. 非生物の変換・分解	1) 酸化反応																																																																																																			
4	2. 物質の特性と環境動態	2. 2. 非生物の変換・分解	2) 還元・加水分解反応																																																																																																			
5	2. 物質の特性と環境動態	2. 2. 非生物の変換・分解	3) 光反応																																																																																																			
6	3. 物質の特性と生体内動態	3. 1. 生体との相互作用	1) 吸収・分布																																																																																																			
7	3. 物質の特性と生体内動態	3. 1. 生体との相互作用	2) 生物蓄積 小テスト 1																																																																																																			
8	3. 物質の特性と生体内動態	3. 1. 生体との相互作用	3) 代謝・排泄																																																																																																			
9	3. 物質の特性と生体内動態	3. 2. 生物の変換・分解	1) 微生物																																																																																																			
10	3. 物質の特性と生体内動態	3. 2. 生物の変換・分解	2) 植物・水生生物																																																																																																			
11	4. 生態リスク	4. 1. 生態毒性と毒性評価試験																																																																																																				
12	4. 生態リスク	4. 2. 生態リスク評価																																																																																																				
13	4. 生態リスク	4. 3. バイオマーカーとバイオモニタリング																																																																																																				
14	4. 生態リスク	4. 4. 生態リスク・環境毒性まとめ																																																																																																				
15	5. 環境毒性学の課題	小テスト 2																																																																																																				
受講要件	有機化学、生化学、生態学、微生物学などに関連するので、これらの基本事項を理解していることが望ましい。																																																																																																					
テキスト	久野勝治・渡辺 泉編、『環境毒性学』、朝倉書店（2010）、ISBN978-4-254-40020-5、4536 円																																																																																																					
参考書	必要に応じて、授業で紹介する。																																																																																																					
予習・復習について	予習復習には、テキストや授業で紹介する参考書を利用されたい。																																																																																																					
成績評価の方法・基準	期末試験、小テスト 2 回の結果から評価する。																																																																																																					
オフィスアワー	特に指定しないので、適宜連絡予約されたい。																																																																																																					
担当教員からのメッセージ	不明な点は直接質問するか、自分で調べて、そのままにはしないこと。																																																																																																					

授業科目名	溪流環境学 (Torrent Control)					
担当教員名	土屋 智 (TSUCHIYA Satoshi)	所属等	学術院農学領域			
		研究室	農学総合棟 271			
分担教員名						
クラス	環境森林	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 1・2	
キーワード	砂防工学、河川工学、溪流生態砂防学					
授業の目標	一般河川の源流域で生産された土砂がどのような移動形態をとり下流に運搬されるか、また洪水時に生起するダイナミックな土砂移動対策等に関する基礎的な知識を得ることを目標とする。					
学習内容	一般河川の上流や溪流を対象に、水と土砂の移動運搬に関する実態と対策について溪流環境の保全といった観点を交え講義する。源流域で生産された土砂がどのような移動形態をとり下流に運搬されるかについて、流水環境、地形地質環境とともに広範囲に解説する。 なお本授業の履修を通して、技術者教育プログラムで設定された次の学習・教育目標の達成を目指す。なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標（B）および（D）に対応する。					
授業計画	回 内容 1 侵食場の形成 2 森林による土地保全 3 流域の土砂生産 4 溪流の水理学Ⅰ 5 溪流の水理学Ⅱ 6 土砂水理と運搬 7 河床変動のシミュレーション 8 砂防調査と計画 9 砂防えん堤の機能 10 砂防えん堤の設計 11 溪流保全工 12 ダム堆砂量の予測 13 河川環境と利水に関する環境倫理 14 土砂災害（土砂移動現象）と環境倫理 15 溪流堆積土砂量の推定方法					
受講要件	山地安定学」を履修しておくこと。「砂防学実習」の基礎科目となる。「森林水文学」、「応用気象学」、「地質学概論」、「地学実習」と関連が深い。					
テキスト	新砂防工学（朝倉書店）。また、随時プリントを配布する。					
参考書	砂防学概論（鹿島出版会）、山地保全学（文永堂）					
予習・復習について	復習を行い、理解できないあるいは疑問を生じた箇所は、授業後やオフィスアワー時に質問してください。					
成績評価の方法・基準	履修態度（10%）、レポート・中間テスト・学期末試験（合計 90%）の結果を総合して評価する。成績の「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。					
オフィスアワー	授業終了後に質問や相談を受け付ける。それ以外は電子メール（afstuti@agr.shizuoka.ac.jp）で前もって連絡のこと。					
担当教員からのメッセージ	オフィスアワーを積極的に利用し、質問してください。					

授業科目名	樹木成分化学 (Chemistry of Wood Components)					
担当教員名	河合 真吾 (KAWAI Shingo)			所属等	学術院農学領域	
				研究室	農学部総合棟 325	
分担教員名						
クラス	環境森林	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4	
キーワード	セルロース、ヘミセルロース、リグニン、抽出成分、化学構造、化学的特性					
授業の目標	再生可能な樹木資源は、紙パルプ原料、化学工業原料、医薬原料、建築材料および燃料などに利用されている。本授業では、樹木成分の化学組成などを理解し、主体的関心を持つことを目標とする。					
学習内容	木質系資源の主成分であるセルロース、ヘミセルロース、リグニンおよび副成分である抽出成分の化学構造や特性を講述する。また、それら成分の機器分析を用いた化学構造解析法についても学習する。 なお本科目は、技術者教育プログラムにおける学習・教育目標（D）に対応する。					
授業計画	1. 木質成分の化学組成-含有量とその分布 2. リグニンの構造と構成単位 3. リグニンの化学構造の解析 4. リグニンの結合様式とサブストラクチャー 5. リグニンの単離法と利用 6. 木質成分の化学構造解析法 7. 紫外分光法と赤外分光法 8. 核磁気共鳴分光法 1 9. 核磁気共鳴分光法 2 10. 電磁波スペクトルを用いた構造解析 11. セルロースの化学構造 12. セルロース誘導体とその利用 13. ヘミセルロースの化学とその利用 14. 抽出成分の化学構造（スチルベノイド、フラボノイド、リグナン） 15. 抽出成分の化学構造（ジアリールヘプタノイド、タンニン、イソプレノイド） 16. 筆記試験					
受講要件	2 年生前学期の「樹木生化学」、3 年生前期「木質利用化学」と関連する。					
テキスト	必要な資料を印刷して配布する。					
参考書	日本木材学会編：木質の化学（文永堂）福島和彦ほか 編集：木質の形成 -バイオマス科学への招待-（海青社）					
予習・復習について	配布資料にかかれている内容をよく理解すること。「樹木生化学」の配付資料も参照。					
成績評価の方法・基準	履修態度（25%）と筆記試験（75%）の合計で評価する。・筆記試験の評価基準は、講義内容の理解度とする。・成績の「秀」は90%以上、「優」は80%以上、「良」は70%以上、「可」は60%以上とする。					
オフィスアワー	総合農学棟、325 室で随時受け付ける。					
担当教員からのメッセージ	樹木成分の化学構造を知ることが、木質系バイオマスを有効に利用する上で非常に重要です。興味を持って授業に望んでください。オフィスアワーを積極的に利用してください。					

授業科目名	生物有機化学 2 (Bioorganic Chemistry 2)					
担当教員名	轟 泰司 (TODOROKI Yasushi)			所属等	学術院農学領域	
				研究室	農学総合棟 682	
分担教員名						
クラス	応用生物	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4	
キーワード	有機化学、生物有機化学、ケミカルバイオロジー					
授業の目標	有機化学概論と生物有機化学 1 を引き継いで、有機化学の基礎を講義する。生物が示す様々な現象を真に分子のレベルで議論し理解するのに必要な知識と考え方を習得する。					
学習内容	有機化学の基礎知識と考え方に重点を置いて、これらを逐一確認しながら、共役系・芳香族・カルボニル化合物についての性質と反応，および生物現象との関わりについて学習する。					
授業計画	1. 授業ガイダンス，有機化学の基礎的な知識・考え方を復習① 2. 有機化学の基礎的な知識・考え方を復習② 3. 芳香族性・ベンゼンの反応 1 4. 芳香族性・ベンゼンの反応 2 5. 芳香族性・ベンゼンの反応 3 6. 芳香族性・ベンゼンの反応 4 7. 置換ベンゼンの反応 8. カルボニル化合物Ⅰ：求核アシル置換反応 1 9. カルボニル化合物Ⅰ：求核アシル置換反応 2 10. カルボニル化合物Ⅰ：求核アシル置換反応 3 11. カルボニル化合物Ⅱ：アルデヒドとケトンの反応 1 12. カルボニル化合物Ⅱ：アルデヒドとケトンの反応 2 13. カルボニル化合物Ⅲ：α 炭素上での反応 1 14. カルボニル化合物Ⅲ：α 炭素上での反応 2 15. 生体有機化合物 16. 期末試験 ＊毎回，具体例を挙げて，生物現象を有機化学的視点から解説します。					
受講要件	関連科目：1 年生の化学概論 A と B，1 年生後期の有機化学概論，2 年生前期の生物有機化学 1					
テキスト	ブルース有機化学 第 7 版 上および下（化学同人）					
参考書	生物有機化学がわかる講義（清田洋正著，講談社）					
予習・復習について	予習は必要ありません。復習を重視してください。講義後にノート・教科書を参照して，もう一度じっくり考え，自分の手を動かして反応機構を書いてください。「書きながら，じっくり考える」ことが何よりも重要です。					
成績評価の方法・基準	小テスト（30％），期末試験（70％）の総合点で成績評価を行います。詳細については，初回講義時に説明します。					
オフィスアワー	金曜日の午後，農学部 A 棟 702 室まで。質問に来る場合は，事前にメール等でご連絡ください。					
担当教員からのメッセージ	頭を悩ませて下さい。					

授業科目名	植物生理学 (Plant Physiology)				
担当教員名	大野 始 (OHNO Hajime)	所属等	学院農学領域		
		研究室	農学総合棟 429		
分担教員名					
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分 必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	光合成、呼吸、成長、植物ホルモン				
授業の目標	植物に特徴的な生命現象について、基礎を理解することを目標とする。				
学習内容	一定の場所に固着して独立栄養生活を営む植物は細胞レベルでも個体レベルでも動物と大きく異なっている。ここでは、植物に特徴的な生命現象の基礎的理解をめざす。光合成と呼吸、成長と植物ホルモンを中心に、植物生理の特性を概説する。				
授業計画	第1回 植物生理学について 第2回～第4回 光合成 第5回～第6回 呼吸 第7回～第15回 成長と植物ホルモン 種子の発芽、成長と運動、成長と分化、光形態形成 第16回 定期試験				
受講要件	生物学、植物形態学の基礎を理解していることが望ましい。				
テキスト	使用しない。必要に応じ、プリントを配布する。				
参考書	「植物生理学」ティツ／ザイガー（培風館）、「新しい植物ホルモンの科学」小柴恭一・神谷勇治（講談社） 「植物生理学講義」増田方雄（培風館）				
予習・復習について	とりわけ、復習をしっかりと行い、疑問点は遠慮なく質問すること。				
成績評価の方法・基準	小テスト（30%）、定期試験（70%）により評価する。				
オフィスアワー	事前にメールでコンタクトをとって下さい。				
担当教員からのメッセージ	気軽に研究室へ来て下さい。				

授業科目名	応用測量学 (Applied Surveying)					
担当教員名	逢坂 興宏 (OHSAKA Okihiro)		所属等	学院農学領域		
			研究室	農学総合棟 272		
分担教員名						
クラス	環境森林	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6	
キーワード	平板測量、スタジア測量、三角測量、光波測量、GPS 測量、空中写真測量、地形図					
授業の目標	前期に引き続き、各種測量技術の原理を理解し、応用測量技術の知識を得ることを目標とする。 なお、本科目は技術者教育プログラムにおける学習・教育目標の（D）に対応する。					
学習内容	各種の平板測量とスタジア測量、セオドライト・トータルステーションによる三角測量、電磁波を利用した光波測量、衛星を利用した GPS、航空写真測量の原理と立体視、並びに数値地形モデルについて、応用技術を中心に講義する。 「測量学」の応用編である。					
授業計画	主として下記の項目について、講義・解説し、問題演習を行う。 1. 平板測量 1) 測量機材、2) 放射法、3) 導線法、4) 交会法 2. スタジア測量 1) アリダードによるスタジア測量 3. 三角測量 1) 原理、2) 内角の測定と誤差調整、3) 面積計算 4. 電磁波を利用した測量 1) 光波測量、2) 衛星による測量（GPS） 5. 空中写真測量 1) 原理、2) 実体視、3) 標定 6. 面積測量、体積測量 1) 面積測量、2) 体積測量 7. 地図の仕組みと利用法 1) 地図の仕組み、2) 地形図の利用					
受講要件	あらかじめ「測量学」の講義を履修しておく必要がある。「応用測量学実習」と続けて受講することが望ましい。集大成としての「森林測量学実習」の基礎となる。					
テキスト	測量学 第2版, 大木正喜著, 森北出版 また、随時プリントを配布する。定規, 電卓を持参してください。					
参考書	適宜紹介する。					
予習・復習について	実習の進行とあわせ、教科書を中心に予習・復習を行うこと。履修態度（20%）、課題レポート・学期末試験（80%）の結果を総合して評価する。成績の「秀」は 90%以上、「優」は 80%以上、「良」は 70%以上、「可」は 60%以上とする。					
成績評価の方法・基準	随時、質問や相談を受け付けます。まず直接あるいは電子メールで連絡をして下さい。					
オフィスアワー	測量は土木・建築分野だけでなく、広く環境分野に利用されている技術です。この機会に測量技術と地形図に関心を持ちましょう。					
担当教員からのメッセージ						

授業科目名	応用昆虫学 (Applied Entomology)					
担当教員名	西東 力 (SAITO Tsutomu)	所属等	学院農学領域			
		研究室	農学総合棟 474			
分担教員名						
クラス	共生バイオ	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6	
キーワード	農業害虫、生態、防除					
授業の目標	農業害虫を取り巻く情勢は社会情勢や国際化と密接に関連しており、刻々と変化しています。こうした実情を理解してもらうことを目標とします。					
学習内容	農業情勢と関連させながら、主要害虫の特徴を詳しく紹介します。講義を通して害虫防除のあり方を考えてもらいます。					
授業計画	回 内容 1 授業ガイダンス、人と昆虫の関係 2 昆虫の特徴 3 農業害虫と社会情勢（1） 4 農業害虫と社会情勢（2） 5 イネの害虫 6 野菜の害虫（1） 7 野菜の害虫（2） 8 花卉の害虫 9 果樹の害虫、茶の害虫 10 化学的防除法 11 生物的防除法（1） 12 生物的防除法（2） 13 物理的防除法、耕種的防除法 14 総合的害虫管理 15 総合的害虫管理					
受講要件	1 年後期の「一般昆虫学」を受講してください。					
テキスト	「最新応用昆虫学」（朝倉書店）					
参考書	「応用昆虫学の基礎」（朝倉書店）「天敵」（養賢堂）					
予習・復習について	テキスト、参考書に目を通し、授業の概要を把握しておいてください。					
成績評価の方法・基準	筆記試験により評価します。					
オフィスアワー	研究室に直接または電話					
担当教員からのメッセージ	人と害虫の戦いは農耕の開始とともに始まりました。人が新しい防除法を開発しても、害虫は対抗手段で応じてきます。害虫との戦いは続いています。					

授業科目名	基礎無機化学 (Basic Inorganic Chemistry)					
担当教員名	平川 和貴 (HIRAKAWA Kazutaka)		所属等	学術院工学領域		
			研究室	共 503		
分担教員名						
クラス	C	学期	後期		必修選択区分	必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	月 1・2	
キーワード	電子、原子と原子軌道、結合、分子軌道、周期表、結晶構造、ボルン・ハーバーサイクル、非金属元素、典型金属、生物無機化学					
授業の目標	専門の無機化学を学習するために必要な基本的事項を修得する。具体的には、 1 代表的な元素の英語名や無機物質の命名法を習得する。 2 ボーアモデルから量子力学の誕生まで、シュレーディンガー方程式の意味を学ぶ。 3 電子配置が元素の性質を支配し、元素の周期性を決めることを学ぶ。 4 分子の構造と結合形成を分子軌道法によって理解する。 5 イオン性固体の構造と熱力学的安定性について学ぶ。6 元素の周期的な性質について、材料科学への応用や生命科学との関連という視点を大切にしながら理解を深める。7 代表的な典型元素の基本的な物性を学ぶ。8 生物無機化学の入門的内容を学ぶ。					
学習内容	無機物質の多くは、電子部品や建築材をはじめとした様々な材料、さらに燃料等として基本的かつ重要であるだけでなく、生命にとっても欠くことができない。この講義の目的は、無機化学の基礎概念を把握し、理解できることを目的とする。したがって元素別各論の詳細は専門科目に譲り、むしろ基礎概念がどのように物質の性質と多様性を支配しているかに主眼を置いて解説する。					
授業計画	授業内容と回数の対応は目安なので、必ずしも固定されたものではない。授業の状況によって、中間試験を行う回が変更される場合や実施されない場合もある。必要に応じて下記計画を補足する内容を盛り込む場合がある。 1 現代化学の中の無機化学の位置付け、原子の電子構造と周期表の概略（高校の化学および工学基礎化学Ⅰの簡単な復習）、元素の英語名 2 ボーア理論と量子化学の基礎（水素原子および水素類似原子の電子構造・シュレーディンガー方程式）、多電子原子の電子構造（原子軌道・パウリの排他原理・フントの規則） 3 元素の周期的性質と元素のブロック分類、元素の存在状態 4 結合の種類、結合と構造を支配する立体因子（原子およびイオンの大きさ） 5 イオン結合と格子エネルギー・ボルン・ハーバーサイクル 6 金属結晶およびイオン結晶の構造 7 結合と構造を支配する電子因子（有効核荷電・イオン化エネルギー・電子親和力・電気陰性度・結合エネルギー） 8 中間試験 9 共有結合と分子軌道法その 1（分子軌道法の基礎、水素分子） 10 共有結合と分子軌道法その 2（第 2 周期元素から成る等核ならびに異核二原子分子） 11 非金属元素の化学その 1（水素・水素化物・第 2 および第 3 周期典型元素とそれらの化合物） 12 非金属元素の化学その 2（第 2 および第 3 周期典型元素とそれらの化合物・酸素と酸化物） 13 非金属元素の化学その 3（オキソ酸・ハロゲン） 14 典型金属の化学（金属単体の性質と反応性） 15 生物無機化学入門 16 期末試験					
受講要件	高校の「化学」が基礎になるので、未履修者は各自で自習が必要である。講義の前半部分は、工学基礎化学Ⅰと関連する部分が多い。					
テキスト	教科書：「無機化学」(化学入門コース 3)斎藤太郎著(岩波書店)					
参考書	参考書：「はじめて学ぶ大学の無機化学」三吉克彦著(化学同人) / 「無機化学(上・下)」シュライバー他、玉虫他共訳(東京化学同人) / 「無機化学演習」合原他共著(三共出版) / 「化学の基礎」(化学入門コース 1)竹内敬人著(岩波書店) / 「物理化学」(化学入門コース 2)関一彦著(岩波書店) / 「無機化学—その現代的アプローチ」平尾一之他著(東京化学同人)いずれも図書館に複数冊所蔵している。					
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習がそれぞれ必要である。特に、受講後その日の内に十分復習することを推奨する。					
成績評価の方法・基準	専門の無機化学に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。評価の配分は、試験 80%(中間試験 40%、期末試験 40%)、演習・レポート 20%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。					

オフィスアワー	初回授業で説明する。
担当教員からのメッセージ	大学の無機化学は決して暗記科目ではない。常に、「なぜそう考えるのか」という視点に立って学び、考えてほしい。工学基礎化学Ⅰ、同Ⅱ、特にⅠと内容が一部重複するので、両方の講義によって理解を深めてほしい。さらに、2年前期以降の専門科目と関連するので十分に理解した上で先に進んでほしい。

授業科目名	基礎無機化学 (Basic Inorganic Chemistry)					
担当教員名	平川 和貴 (HIRAKAWA Kazutaka)		所属等	学術院工学領域		
			研究室	共 503		
分担教員名						
クラス	D	学期	後期		必修選択区分	必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4	
キーワード	電子、原子と原子軌道、結合、分子軌道、結晶構造、周期表、ボルン・ハーバーサイクル、非金属元素、典型金属、核化学					
授業の目標	専門の無機化学を学習するために必要な基本的事項を修得する。具体的には、 1 代表的な元素の英語名や無機物質の命名法を習得する。 2 ボーアモデルから量子力学の誕生まで、シュレーディンガー方程式の意味を学ぶ。 3 電子配置が元素の性質を支配し、元素の周期性を決めることを学ぶ。 4 分子の構造と結合形成を分子軌道法によって理解する。 5 イオン性固体の構造と熱力学的安定性について学ぶ。6 元素の周期的な性質について、材料科学への応用や生命科学との関連という視点を大切にしながら理解を深める。7 代表的な典型元素の基本的な物性を学ぶ。8 アクチノイドの物性の概略と核化学の入門的内容を学ぶ。					
学習内容	無機物質の多くは、電子部品や建築材をはじめとした様々な材料、さらに燃料等として基本的かつ重要であるだけでなく、生命にとっても欠くことができない。この講義の目的は、無機化学の基礎概念を把握し、理解できることを目的とする。したがって元素別各論の詳細は専門科目に譲り、むしろ基礎概念がどのように物質の性質と多様性を支配しているかに主眼を置いて解説する。					
授業計画	授業内容と回数の対応は目安なので、必ずしも固定されたものではない。授業の状況によって、中間試験を行う回が変更される場合や実施されない場合もある。必要に応じて下記計画を補足する内容を盛り込む場合がある。 1 現代化学の中の無機化学の位置付け、原子の電子構造と周期表の概略（高校の化学および工学基礎化学Ⅰの復習）、元素の英語名 2 ボーア理論と量子化学の基礎（水素原子および水素類似原子の電子構造・シュレーディンガー方程式）、多電子原子の電子構造（原子軌道・パウリの排他原理・フントの規則） 3 元素の周期的性質と元素のブロック分類、元素の存在状態 4 結合の種類、結合と構造を支配する立体因子（原子およびイオンの大きさ） 5 イオン結合と格子エネルギー・ボルン・ハーバーサイクル 6 金属結晶およびイオン結晶の構造 7 結合と構造を支配する電子因子（有効核電荷・イオン化エネルギー・電子親和力・電気陰性度・結合エネルギー） 8 中間試験 9 共有結合と分子軌道法その 1（分子軌道法の基礎、水素分子） 10 共有結合と分子軌道法その 2（第 2 周期元素から成る等核ならびに異核二原子分子） 11 非金属元素の化学その 1（水素・水素化物・第 2 および第 3 周期典型元素とそれらの化合物） 12 非金属元素の化学その 2（第 2 および第 3 周期典型元素とそれらの化合物・酸素と酸化物） 13 非金属元素の化学その 3（オキソ酸・ハロゲン） 14 典型金属の化学（金属単体の性質と反応性） 15 アクチノイドの化学、核化学入門 16 期末試験					
受講要件	高校の「化学」が基礎になるので、未履修者は各自で自習が必要である。講義の前半部分は、工学基礎化学Ⅰと関連する部分が多い。					
テキスト	教科書：「無機化学」(化学入門コース 3)斎藤太郎著(岩波書店)					
参考書	参考書：「はじめて学ぶ大学の無機化学」三吉克彦著(化学同人)/「無機化学(上・下)」シュライバー他、玉虫他共訳(東京化学同人)/「無機化学演習」合原他共著(三共出版)/「化学の基礎」(化学入門コース 1)竹内敬人著(岩波書店)/「物理化学」(化学入門コース 2)関一彦著(岩波書店)/「無機化学—その現代的アプローチ」平尾一之他著(東京化学同人)いずれも図書館に複数冊所蔵している。					
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習がそれぞれ必要である。特に、受講後その日の内に十分復習することを推奨する。					
成績評価の方法・基準	専門科目に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。評価の配分は、試験 80%(中間試験 40%、期末試験 40%)、演習・レポート 20%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。					

オフィスアワー	初回授業で説明する。
担当教員からのメッセージ	大学の無機化学は決して暗記科目ではない。常に、「なぜそう考えるのか」という視点に立って学び、考えてほしい。工学基礎化学Ⅰ、同Ⅱ、特にⅠと内容が一部重複するので、両方の講義によって理解を深めてほしい。さらに、2年前期以降の専門科目と関連するので十分に理解した上で先に進んでほしい。

授業科目名	生物学Ⅱ (Biology II)					
担当教員名	吉田 信行 (YOSHIDA Nobuyuki)		所属等	学術院工学領域		
			研究室			
分担教員名						
クラス	工 1	学期	後期		必修選択区分	—
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4	
キーワード	エネルギー代謝、生殖、神経、ホルモン、光合成、窒素同化、免疫、生態系、進化、バイオテクノロジー					
授業の目標	生物学Ⅰの内容を踏まえて、より高次の生物のしくみについて学び、その卓越した生体システムを理解する。また、生物学がいかに社会に応用されているかを学び、3・4年次の生物関連専門科目の必要性を感じ取る。					
学習内容	多細胞生物の高次機能（生殖、個体の制御、集団としての生き方など）について、基本的なところから分かりやすく講義する。また、最先端バイオ技術についても、工学部での実例を交えて紹介する。					
授業計画	回 内容 1 生命を支える反応 3 「電子伝達系と ATP 生産」 2 生命を支える反応 4 「光合成と窒素同化」 3 次世代の個体を誕生させる 1 「生殖」 4 次世代の個体を誕生させる 2 「動物の発生と分化・再生」 5 多細胞生物個体の統御 1 「ホメオスタシス：神経系」 6 多細胞生物個体の統御 2 「ホメオスタシス：内分泌系」 7 中間試験 8 外敵の侵入とその防御 1 「細菌とウイルス」 9 外敵の侵入とその防御 2 「免疫」 10 生物の集団と生き方 1 「個体群」 11 生物の集団と生き方 2 「生物群集と生態系」 12 生物の進化 13 先端バイオ技術と社会とのかかわり 1 「遺伝子・細胞を操作する」 14 先端バイオ技術と社会とのかかわり 2 「工学部で行われている生物関連研究」 15 エピローグ「生物とは何か？（再び）ー動的平衡」					
受講要件	生物学Ⅰで学んだ内容がベースとなっているので、復習が出来ていないと理解するのが難しいし、興味も半減する。講義においては積極的な発言を期待する。					
テキスト	コア講義 生物学（田村隆明 著、裳華房）					
参考書	理工系のための生物学（坂本順司 著、裳華房）、Essential 細胞生物学（中村桂子、松原謙一 監訳、南江堂）					
予習・復習について	講義での理解を助けるために予習は必要であるが、本講義では特に復習に力を入れる。毎回講義の前半に、前回の講義内容についてのプレゼンテーションを数人で行ってもらい、皆で議論・復習する時間を作る。					
成績評価の方法・基準	高次の生物機能、生物学の応用などに対する基本的な理解ができたか評価する。評価の配分は中間試験 40%、期末試験 40%、プレゼンテーション 10%、その他レポート等 10%とする。試験については、講義内容を理解することにより取り得る点(70%)、講義内容を理解し、それを応用することにより取り得る点(30%)とする。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。					
オフィスアワー	随時（但し、事前にメールでの問い合わせが望ましい。）					
担当教員からのメッセージ	生物学Ⅰで学んだことをベースに、工学部での生物学で最も重要な代謝、調節、生物集団について学びます。3年次以降の専門科目に役立つように、しっかり学んで下さい。					

授業科目名	ことばと表現 (Language Arts)					
担当教員名	田村 敏広 (TAMURA Toshihiro)		所属等	学院情報学領域		
			研究室	J2715		
分担教員名						
クラス	情工 3	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4	
キーワード	絵本、ことば、絵、絵本学					
授業の目標	絵本というメディアにおいて「ことば」と「絵」がどのような役割を果たしているのかを考察することで、特に「ことば」を意識的に捉える力（メタ言語意識）を養うことを目標とします。					
学習内容	言語分析を中心とした「絵本学」の観点から、日本や海外の様々な絵本を分析します。 絵本の「ことば」と「絵」から絵本自体のもつ魅力が見えるだけではなく、私たちの日常の言語コミュニケーションにおける言語戦略なども垣間見ることができます。 講義では、毎回 1 冊の絵本を扱い、その内容や言語表現、絵などについて分析を行います。					
授業計画	* 講義内容は予定です 回 内容 1 ガイダンス 2 子どもにとっての絵本の魅力とは？①（ページをめくる楽しみ） 長新太『わんわんにやーにやー』『へんてこへんてこ』『ごろごろにやーん』など 3 子どもにとっての絵本の魅力とは？②（ハラハラドキドキ・安心感） グリム童話『おおかみと七ひきのこやぎ』・フラック『アンガスとあひる』など 4 表現の面白さ①（オノマトペ） ラーソン&ブレイク『ナイトキャット』・谷川俊太郎『もこもこもこ』など 5 表現の面白さ②（語りの手法） クラッセン『どこいったん』『ちがうねん』・セイラー『ぼちぼちいこか』など 6 語りの手法①（視点の切り替え） 岸田・中谷『かばくん』など 7 語りの手法②（文体と同化） 宮部みゆき『悪い本』・斎藤隆介『花さき山』など 8 語りの手法③（文体スタイルシフトと入り込み） 長新太『みみずのオッサン』など 9 人気絵本の秘密を探る①センダック『かいじゅうたちのいるところ』人気絵本の秘密を探る②中川李枝子・大村百合子『ぐりとぐら』人気絵本の秘密を探る③ウンゲラー『すてきな三にんぐみ』人気絵本の秘密を探る④佐野洋子『百万回生きたねこ』人気絵本の秘密を探る⑤ウィリアムズ『しろいうさぎとくろいうさぎ』人気絵本の秘密を探る⑥瀬田貞二訳『おだんごぱん』人気絵本の秘密を探る⑦ジオン『どろんこハリー』					
受講要件	「絵本」に興味のある学生を歓迎します					
テキスト	必要に応じてプリントを配布					
参考書						
予習・復習について						
成績評価の方法・基準	コメントカード（毎回提出）30%、期末レポート 70%					
オフィスアワー	空いている時間であればいつでも対応します					
担当教員からのメッセージ						

授業科目名	日本国憲法 (The Japanese Constitution)					
担当教員名	岡田 安功 (OKADA Yasunori)		所属等	学術院情報学領域		
			研究室	J－2 7 2 5		
分担教員名						
クラス	情工 2	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	火 3・4	
キーワード	国民主権、民主主義、基本的人権、権力分立					
授業の目標	憲法が何のためにあるのかを理解し、法的思考ができるようになる。憲法は政治の場で議論されることが多いが、法的議論と政治的議論の区別ができない政治家やジャーナリストが多い。しかし、この区別ができなければ、正確に憲法を語ることができない。法的思考とそれ以外の思考の違いを理解しよう。					
学習内容	教科書を素材にして憲法の全領域を講述します。					
授業計画	教科書の章立てを以下に紹介します。教科書に沿って授業を進めます。時間をかける章とそうでない章がありますが、全ての章を教材にします。 第 0 章 憲法を読む前に一憲法の基礎知識 第 1 章 日本国憲法とは―その歴史と構成 第 2 章 国民主権と象徴天皇制 第 3 章 平和主義 第 4 章 基本的人権の尊重―基本的人権Ⅰ 第 5 章 法の下での平等―基本的人権Ⅱ 第 6 章 精神的自由―基本的人権Ⅲ 第 7 章 経済的自由―基本的人権Ⅳ 第 8 章 人身の自由―基本的人権Ⅴ 第 9 章 社会権―基本的人権Ⅵ 第 10 章 参政権・国務請求権―基本的人権Ⅶ 第 11 章 国会―統治機構Ⅰ 第 12 章 内閣―統治機構Ⅱ 第 13 章 裁判所―統治機構Ⅲ 第 14 章 地方自治―統治機構Ⅳ 第 15 章 憲法改正					
受講要件	ありません。					
テキスト	毛利透『グラフィック憲法入門』（新世社、2014）					
参考書	図書館で積極的に探して読んでください。					
予習・復習について	予習と復習を含めて教科書を 3 回読むと、授業の内容が確実に頭に残ります。					
成績評価の方法・基準	法的思考力の深さを評価します。憲法の知識を応用して展開する能力を試験します。					
オフィスアワー	事前にメールをいただくと可能な時間帯にいつでも対応します。					
担当教員からのメッセージ	教養科目を受講する意義は単位を取るのではなく、自分の専門領域とは異なる発想を身につけることにあります。専門とは異なる分野の様々な発想を身につけなければ、大学卒業後に大学で学んだことを応用して発展させる能力を身につけることができなくなります。この授業では法的思考の特徴をつかむ努力をしてください。知識は読書で身につけますが、思考方法や発想の仕方は授業に出ないと身につけるのに時間がかかります。自転車の乗り方を憶えるように、受講という経験を積んでください。					

授業科目名	現代の社会 (Contemporary Japanese Society)					
担当教員名	笹原 恵 (SASAHARA Megumi)	所属等	学術院情報学領域			
		研究室	J－2825			
分担教員名						
クラス	情工3	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火3・4	
キーワード	家族、人権、結婚、夫婦、親子、血縁、シングル、恋愛、性、ジェンダー					
授業の目標	現在の家族にまつわるさまざまなトピックをとりあげながら、社会的な思考、社会科学な視点から家族と社会を考える					
学習内容	家族とは何か、シングル論、恋愛、夫婦、親子の問題など、現代の家族が直面する諸問題を考えることを通して、現代家族とそれを取りまく現代社会について考える					
授業計画	1 ガイダンス～「家族を考える」とは？ 2・3 「家族」って何だろう 4・5 恋愛～いろいろな恋愛 *恋愛と結婚 *多様な性概念（セックス・セクシュアリティ・ジェンダー） 6 シングル論～どうして結婚しなくちゃいけないの？ *非婚化と晩婚化、 *パラサイト・シングル 7・8 結婚 *結婚とは？ 人は結婚に何を求めるのか *事実婚と法律婚 *「夫婦別姓」を考える～姓を変えるとは？ 9 夫婦関係 *夫婦関係の変化 *結婚の自由・離婚の自由 10・11 親子関係 *親の離婚と子ども *いろいろな親子関係 *子どもの人権 *子どもの虐待 12・13 *生殖技術の変化と代理出産 14 *高齢期の親と子ども 15 まとめ～家族と人権 *家族における男女平等					
受講要件	現代社会のことを深く考えたい人。家族の問題を考えてみたい人。					
テキスト	テキストは特に指定せず、毎回プリントを配付する。					
参考書	講義の中で紹介する。					
予習・復習について	予習は特に求めないが、復習については、講義中の出席レポート、中間レポート（冬休みレポート）、最終レポートという形で提出を求める。					
成績評価の方法・基準	① 席重視、講義をきいて「考える」ことを重視→講義の中で出席レポートを課す（60%） ② 中間レポート（冬休みレポート）、最終レポート（それぞれ20%）*レポートの評価は、きちんとテーマをとらえて、調べ、自分自身で考え、自分の言葉で書いていること。自分で考えていること。					
オフィスアワー	授業中に連絡します					
担当教員からのメッセージ	現代の家族問題を考えることを通して、自身の価値観・考え方を相対化できるような講義になれば…と思っています。					

授業科目名	心理学 (Psychology)					
担当教員名	漁田 武雄 (ISARIDA Takeo)		所属等	学術院情報学領域		
			研究室	J－2525		
分担教員名						
クラス	情工4	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火3・4	
キーワード	自己理解、学習、自己、自我					
授業の目標	この講義では、「自分を知る」ということをテーマとして、心理学の基礎理論やそれを実証するために行われた実験を理解することを目的とする。					
学習内容	心理学は「こころ」の科学である。すなわち、研究対象が「こころ」、研究方法が「科学」という学問である。科学とはいふものの、「こころ」という得体の知れないものを対象としているだけに、なかなか一筋縄では行かない。またそれが心理学の楽しさでもある。 また、これらの基礎理論や実験とともに、現実場面へのさまざまな応用例も取りあげる。まだまだわからないことだらけの心理学であるが、これまでに明らかになってきた「こころ」の法則は、教育や治療などの世界で応用され、着実な成果をあげている。					
授業計画	オリエンテーション この講義について、評価の方法、レポートの書き方、受講のQ&A 第1章 自分の心 感情の認知説、デートはつり橋で 自分の感情 空腹感、ダイエット、拒食症 自分の心と体 ごほうびの効果、勉強しなさい 自分の目と他人の目 第2章 心の形成 因果関係スキーマ、恐怖の学習、恐怖症の治療 パブロフの条件反射 ほめること叱ること、無気力の学習、トイレット・トレーニング オペラント条件づけ テレビと暴力、体罰 観察学習 算数嫌いがなおった 学習と目標 第3章 自己と自我 認知、適応、統合 自我の機能 ストレス、防衛機制 適応 アイデンティティ、多重人格 自我同一性 ロジャースの理論、カウンセリングの基礎 自己概念					
受講要件	特になし					
テキスト	テキストは使用せず、資料としてプリントを配布する。					
参考書	参考書は、オリエンテーションの際に、参考図書リストを配付して解説する。					
予習・復習について	毎回復習することが望ましい。そうすればレポート作成も楽になる。					
成績評価の方法・基準	3回のレポートによって評価する。各レポートのテーマ、配点、書き方のポイント等は、オリエンテーションの際に、プリントを配布して解説する。					
オフィスアワー	原則として随時。電子メールによる質問も可。詳細は、オリエンテーションの際に紹介する。					
担当教員からのメッセージ	できるだけ楽しい講義となるように心がけている。受講生も、講義に毎回出席し、「聞いて、理解し、考える」ということを行ってほしい。講義内容を暗記しようなんて思わないこと。暗記する労力は、「聞いて、理解し、考える」そして「楽しむ」ことに使ってほしい。					

授業科目名	心理学 (Psychology)					
担当教員名	須藤 智 (SUTO Satoru)	所属等	大学教育センター			
		研究室	共通教育A棟513 (西)			
分担教員名						
クラス	情工5	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	1年	単位数	2	曜日・時限	火3・4	
キーワード	心理学、こころ					
授業の目標	私たちの生活に密着した学問である心理学の基礎的な知識を習得する。そして、それらの知識を、自らの今後の生活や研究分野にどのように生かせるのかを考えることができるようにする。授業はテキストに準拠し、パワーポイントを使ってそれぞれの内容を具体的に説明する形式をとる（配布資料有）					
学習内容	心理学の研究領域で基礎的な知識について学ぶ。実際に、心理学研究で行われた実験、調査、検査等について体験し、実践的に知識を学ぶ。					
授業計画	1.科学としての心理学の歴史と方法論 2.生理心理学1（脳の機能と役割を考える） 3.生理心理学2（脳の機能と役割を考える） 4.感覚・知覚1（外界と心の相互作用を考える） 5.感覚・知覚2（外界と心の相互作用を考える） 6.学習（学ぶということは） 7.認知1（知のメカニズムを知る） 8.認知2（記憶のメカニズムを知る） 9.認知3（注意とは何か？） 10.発達1（乳児期から児童期までの発達を知る） 11.発達2（青年期から死までの発達を知る） 12.性格（性格とは何か？） 13.最新のトピック1（高齢者の心理） 14.最新のトピック2 15.まとめ					
受講要件	特になし					
テキスト	特になし					
参考書	兵藤宗吉・緑川晶編著、心の科学―理論から現実社会へ（ナカニシヤ出版）、477950385X					
予習・復習について	予習：参考書を持っている場合は、当該箇所を一読してくる。所有していない場合は、図書館等で関連図書を借り、当該箇所を一読してくる。復習：配布されたレジュメを一読し、整理すること。					
成績評価の方法・基準	学期末レポート＋α（エクストラクレジット）で評価を決定する。学生の受講状況によっては、レポートではなく試験を実施する場合もある。学期末レポートは、各回の内容の自学自習についても記入することが求められるので、日常的な事前事後学習をしていないと記入することができない。レポートだからといって軽く考えないこと。					
オフィスアワー	静岡キャンパス 共通A棟5F513室 火曜日5,6限					
担当教員からのメッセージ	授業に関する情報は、以下の URL から取得できる(パソコン：http://www.sutolab.net/class/)。多数の学生の受講が予測されるので、厳密な点数に基づく成績評価を行う予定。また、授業中に最新の授業支援ツールを利用する予定					

授業科目名	歴史と文化 (History and Culture)					
担当教員名	杉山 茂 (SUGIYAMA Shigeru)	所属等	学術院情報学領域			
		研究室	J-2717			
分担教員名						
クラス	情工2	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水3・4	
キーワード	日本・日本語・日本人、伝統、自己植民地化、沖縄、福島、原子力発電、差別・人種主義					
授業の目標	「伝統」や「文化」、「日本の歴史」を尊重すべきだと命じてきた「国家教」を信奉する人々は、「日本の安全保障」を沖縄に依存／強要し続け、戦争一戦後責任を回避して東アジアに緊張状態を放置し、若者が生きにくい社会制度を作り、受講生世代に1000兆円以上の公的債務を残し、皆さんの孫の世代を超えて続く放射能汚染を残しました。このような結果を生み出した「日本の歴史と文化」を批判的に考察し、こうした「日本」に「誇り」を持て、と強制する言説を批判的に考察する。					
学習内容	本講義で受講生が学ぶことは、国民国家を枠組みとした「日本文化」や標準語／共通語と呼ばれる人工語などによる分割を超えて20世紀の世界が経験した「近代」とは何かという問いなど、現在の歴史学が応えようとしている諸課題である。今期の焦点は、日本・日本人の実在性、制作された日本語・伝統、「人種主義」、自己植民地化に焦点を当てながら、福島や沖縄に代表される「地方」を犠牲にする戦後国家について学ぶ。					
授業計画	1. 抽選雑務 2. 日本・日本人の実在性について——時間軸の中の空間的变化、「日本人」という虚偽意識 3. 日本・日本人の実在性について——人々をつなぐ「海」と列島社会の地域的差異、タテ社会？ヨコ社会？ 4. 日本語の制作——「国語」イデオロギー 5. イデオロギーとしての「タテ社会論」——上意下達の伝達、それとも水平的なコミュニケーション？ 6. 粉飾された伝統、生きられる伝統——サクラ、富士山 7. 粉飾された伝統、生きられる伝統——武道 8. 自己植民地化と人種主義 9. 日本人問題としての「沖縄」——軍事基地のはじまりと恒久化 10. 日本人問題としての「沖縄」——戦後責任問題 11. 「国破れて山河無し」——原発事故がもたらした「新しい日常」 12. 低線量被曝——チェルノブイリとヒロシマ・ナガサキから見てくるもの 13. 中央vs地方問題としての福島原発問題 14. 労働問題としての福島原発問題 15. 歴史学における「真正さ」「応答責任」について、記憶と忘却について考える					
受講要件	とくにありませんが、中学校・高等学校における日本史・世界史の学習および新聞を読んだりテレビドキュメンタリー（特にNHKスペシャルやE TV特集）を視聴するように心がけてください。					
テキスト	なし。参考文献を読むようにしてください。					
参考書	割り当て文字数が少なすぎるので詳細は講義で示さざるをえませんが、富山一郎『近代日本と「沖縄人」——「日本人」になるということ』日本経済評論社、1991年；小森陽一『レイシズム』（岩波書店、2006年）；ましこ・ひでのり『幻想としての人種／民族／国民』（三元社、2008年）、キャロル・グラック、桑原武夫、酒井直樹、梅森直之、安田敏朗、川島正樹、松田素二、竹沢泰子、吉野耕作、黒川みどり、ジョナサン・マークス、テッサ・モーリス＝スズキ、ベネディクト・アンダーソンらの研究を参照してください。					
予習・復習について	予習・復習について講義課題が変わるときに、予習・復讐のためのレポートを課す予定です。					
成績評価の方法・基準	講義中の小レポートと学期末レポートを4：6で評価する。					
オフィスアワー	TBA					
担当教員からのメッセージ	自分が直近の家族や学校だけではなく、まだ見たことも経験したこともないような時間的・空間的な広がりの中で生きていることに気づくことが大切です。「日本人として……と考える」というような肥大化し安易で無責任な「日本人であること」に依存せず、広がりのある時間軸・空間軸の中で、自分はどう考えか何をしようとするのかを考えるようになってもらえたらよいのですが。					

授業科目名	現代の社会 (Contemporary Japanese Society)					
担当教員名	中澤 高師 (NAKAZAWA Takashi)			所属等	学院情報学領域	
				研究室	J2725	
分担教員名						
クラス	情工 4	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 3・4	
キーワード	迷惑施設、公正、環境正義、差別、民主主義、廃棄物、原子力発電所、米軍基地、社会福祉施設					
授業の目標	迷惑施設という具体的な問題を通じて、現代社会を理解し考える力を養うこと。					
学習内容	迷惑施設とは、社会的に「必要」とされているが、その周辺環境に及ぼす影響から、地域住民に忌避される施設のことである。廃棄物処理施設、火葬場、刑務所、ダム、飛行場、基地、社会福祉施設、原子力発電所、あるいは風力発電等の自然エネルギー関連施設まで、その立地は地域社会との摩擦を生み、ときに反対運動が展開される。この問題は NIMBY (Not-In-My-Back-Yard) と呼ばれ、全体利益を損なう個別利益の噴出、あるいは「地域エゴ」と揶揄されることもある。しかし、こうした見方は妥当なのだろうか？講義では、具体的な事例を取り上げながら迷惑施設立地問題を考えるための視角を示すとともに、それを通じて現代社会への理解を深めていく。					
授業計画	回 内容 1 迷惑施設問題とは何か？（ガイダンス） 2 住民の反対はエゴなのか？（1） 3 住民の反対はエゴなのか？（2） 4 受益圏・受苦圏論の視座（1） 5 受益圏・受苦圏論の視座（2） 6 「公正」の諸類型（1） 7 「公正」の諸類型（2） 8 環境的人種差別と環境正義（1） 9 環境的人種差別と環境正義（2） 10 迷惑施設と民主主義（1）市民・住民参加をめぐって 11 迷惑施設と民主主義（2）地域の自己決定と住民投票 12 迷惑施設と民主主義（3）差別・偏見と社会福祉施設コンフリクト 13 迷惑施設と民主主義（4）市民委員会と上位政策段階からの合意形成 14 迷惑施設と民主主義（5）ボランティア・アプローチ 15 迷惑施設問題とは何か？（まとめ）					
受講要件						
テキスト	特に使用しない。					
参考書	講義中に適宜指示する。					
予習・復習について	特に必要ないが、期末レポートの作成に向けて各自調査・学習を進めることが求められる。					
成績評価の方法・基準	平常点と期末レポートによる。					
オフィスアワー	特に日時は指定しません。個別に応じるので連絡をください。t.nakazawa@inf.shizuoka.ac.jp					
担当教員からのメッセージ	迷惑施設という具体的な問題から、現代社会の様々な側面を考えてもらいたいです。講義中に考えや意見を聞くことがあると思いますので、積極的な参加をよろしくお願いします。					

授業科目名	心理学 (Psychology)					
担当教員名	高橋 晃 (TAKAHASHI Akira)		所属等	学院情報学領域		
			研究室	J－2523		
分担教員名						
クラス	情工6	学期	後期		必修選択区分	選必
対象学年	2年	単位数	2	曜日・時限	水3・4	
キーワード	感覚・知覚、記憶、学習、思考、心理テスト、脳、人工知能					
授業の目標	人間の“こころ”をさまざまな側面からとらえ、その多様な情報処理特性を把握すること。 一見当たり前に思える「常識」を学問で覆す。					
学習内容	“こころ”を扱う古典的な心理学のテーマに、脳や人工知能などの認知科学的トピックを絡ませて学習する					
授業計画	テーマ 授業計画					

	導入		講義の概要、レポートの書き方			
	感覚・知覚		「見る」という行為の本当の意味			
	記憶		「覚える・思い出す」ことの人間の性質			
	学習		人間が何かを学ぶ原理			
	問題解決とエラー		心の中にある過ちとその意味			
	心をはかる		各種の心理テストについて			
	脳と心		脳の構造とその機能			
	人工知能と人間		人間のこころと機械のこころ			

	まとめ		全体の復習と実験の説明			
	これらのトピックについて各1回ないし2回の講義でまとめる。 また時間外に行われる「心理学実験」を実際に体験することで理解を深めることも含まれる					
受講要件	特になし					
テキスト	全体は特に指定しない。各トピックで参考図書を示す場合がある。					
参考書	テーマごとに参考文献を示す。					
予習・復習について	各単元の内容が終了した後に、一週間の期限でその講義内容を簡単にまとめたレポートを課す。					
成績評価の方法・基準	毎回の課題付きの出席とテーマごとに課される課題レポートの成績で決定する。課題レポートは、主として講義内容のまとめであるが、それに関連した課題が加わることもある。					
オフィスアワー	金曜日 34限					
担当教員からのメッセージ	脳や心に興味のある学生の受講を希望します。遅刻は厳禁です。					

授業科目名	工学基礎化学Ⅱ (Basic Chemistry for Engineers Ⅱ)				
担当教員名	梅本 宏信 (UMEMOTO Hironobu)	所属等	学術院工学領域		
		研究室	6-504		
分担教員名					
クラス	M (クラスⅠ)	学期	後期		必修選択区分 必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	木 1・2
キーワード	熱力学、化学平衡、溶液、化学反応の速度				
授業の目標	基礎的な化学の知識を習得するとともに、実生活・社会との関わりで出会う「化学」について、常に問題意識をもち、自ら考える力の基礎を養う。主な内容は、工学基礎化学Ⅰに続く化学の基礎である。基礎的な熱力学の理論から始め、化学平衡、状態の変化、溶液の性質、化学反応の速度について理解を深める。				
学習内容	工学基礎化学Ⅰでは、原子や分子の世界について扱った。ここではそれらが集まってできる巨視的な系について学ぶ。そのような物質の状態変化、化学変化、構造変化などを、熱力学的もしくは平衡論的な視点に立って理解し、それぞれの専門分野に応用できる基礎力を養う。特に、エネルギーやエントロピーの概念を扱う熱力学は、プロセス化学、半導体工学、エネルギー変換など、工学のあらゆる分野と関連している。				
授業計画	以下の授業内容と回数は目安であり、必ずしも固定されたものではない。より詳細な講義計画は、初回の講義の際に担当教員によって示される。進捗によっては、中間のまとめ（8回目）を実施しないこともある。また、随時演習を行う。 1 物質系の変化とエネルギー（1） 熱力学第一法則、理想気体 2 物質系の変化とエネルギー（2） エンタルピー、ヘスの法則 3 物質の変化の方向性（1） 熱力学第二法則、可逆過程と不可逆過程 4 物質の変化の方向性（2） エントロピー、熱力学第三法則 5 物質変化の駆動力と平衡（1） 化学ポテンシャル、化学平衡 6 物質変化の駆動力と平衡（2） 標準平衡定数と自由エネルギー変化、平衡の移動 7 物質の状態変化（1） 物質の三態、相律 8 中間のまとめ 9 物質の状態変化（2） 相転移、相図 10 溶液の性質（1） 溶媒と溶質 11 溶液の性質（2） 理想溶液、ファンツァーの式 12 溶液内の化学反応（1） 酸と塩基、水のイオン積 13 溶液内の化学反応（2） 酸化還元反応、電池 14 化学反応の速度（1） 反応速度と反応速度式 15 化学反応の速度（2） 反応速度の温度依存				
受講要件	高校の化学の教科書をよく復習しておくことを要望する。				
テキスト	「基礎から学ぶ大学の化学」植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田眞吉 共著（培風館）ISBN978-4-563-04607-1				
参考書	化学入門シリーズ 1「化学の基礎」、竹内敬人著、同 2「物理化学」、関一彦著（岩波書店）シリーズ 1 ISBN4-00-007981-6 シリーズ 2 ISBN4-00-007982-4；一般化学、芝原寛泰・斉藤正治共著（化学同人）ISBN4-7598-1020-X；化学－基本の考え方を中心に、Alan Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之共訳（東京化学同人）ISBN4-8079-0334-9				
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。教科書の各章末の演習問題を復習課題として課す。また、別途演習課題を示すことがある。				
成績評価の方法・基準	個別目標が達成され、専門課程に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、宿題に丁寧に取り組むことを求める。それによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験 70%、演習・宿題 30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。				
オフィスアワー	講義後または教員室にてオフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも可能な限り質問は随時受け付ける。担当者が非常勤講師の場合は、専任教員（植田、梅本、平川、宮林）が対応する。				
担当教員からのメッセージ	大学の化学は決して暗記科目ではない。常に、「何故そうなるのか」、「何故そのように考えるのか」という観点から学びを深めてほしい。				

授業科目名	工学基礎化学Ⅱ (Basic Chemistry for Engineers Ⅱ)					
担当教員名	梅本 宏信 (UMEMOTO Hironobu)		所属等	学術院工学領域		
			研究室	6・504		
分担教員名						
クラス	D	学期	後期		必修選択区分	必
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	木 3・4	
キーワード	熱力学、化学平衡、溶液、化学反応の速度					
授業の目標	基礎的な化学の知識を習得するとともに、実生活・社会との関わりで出会う「化学」について、常に問題意識をもち、自ら考える力の基礎を養う。主な内容は、工学基礎化学Ⅰに続く化学の基礎である。基礎的な熱力学の理論から始め、化学平衡、状態の変化、溶液の性質、化学反応の速度について理解を深める。					
学習内容	工学基礎化学Ⅰでは、原子や分子の世界について扱った。ここではそれらが集まってできる巨視的な系について学ぶ。そのような物質の状態変化、化学変化、構造変化などを、熱力学的もしくは平衡論的な視点に立って理解し、それぞれの専門分野に応用できる基礎力を養う。特に、エネルギーやエントロピーの概念を扱う熱力学は、プロセス化学、半導体工学、エネルギー変換など、工学のあらゆる分野と関連している。					
授業計画	以下の授業内容と回数は目安であり、必ずしも固定されたものではない。より詳細な講義計画は、初回の講義の際に担当教員によって示される。進捗によっては、中間のまとめ（8回目）を実施しないこともある。また、随時演習を行う。 1 物質系の変化とエネルギー（1） 熱力学第一法則、理想気体 2 物質系の変化とエネルギー（2） エンタルピー、ヘスの法則 3 物質の変化の方向性（1） 熱力学第二法則、可逆過程と不可逆過程 4 物質の変化の方向性（2） エントロピー、熱力学第三法則 5 物質変化の駆動力と平衡（1） 化学ポテンシャル、化学平衡 6 物質変化の駆動力と平衡（2） 標準平衡定数と自由エネルギー変化、平衡の移動 7 物質の状態変化（1） 物質の三態、相律 8 中間のまとめ 9 物質の状態変化（2） 相転移、相図 10 溶液の性質（1） 溶媒と溶質 11 溶液の性質（2） 理想溶液、ファンツァーの式 12 溶液内の化学反応（1） 酸と塩基、水のイオン積 13 溶液内の化学反応（2） 酸化還元反応、電池 14 化学反応の速度（1） 反応速度と反応速度式 15 化学反応の速度（2） 反応速度の温度依存					
受講要件	高校の化学の教科書をよく復習しておくことを要望する。					
テキスト	「基礎から学ぶ大学の化学」植田一正・梅本宏信・平川和貴・山田眞吉 共著（培風館）ISBN978-4-563-04607-1					
参考書	化学入門シリーズ 1「化学の基礎」、竹内敬人著、同 2「物理化学」、関一彦著（岩波書店）シリーズ 1 ISBN4-00-007981-6 シリーズ 2 ISBN4-00-007982-4；一般化学、芝原寛泰・斉藤正治共著（化学同人）ISBN4-7598-1020-X；化学－基本の考え方を中心に－、Alan Sherman 他著、石倉洋子・石倉久之共訳（東京化学同人）ISBN4-8079-0334-9					
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。教科書の各章末の演習問題を復習課題として課す。また、別途演習課題を示すことがある。					
成績評価の方法・基準	個別目標が達成され、専門課程に進むための基礎学力と応用力が培われたかどうかを評価する。授業時間内の演習問題と、宿題に丁寧に取り組むことを求める。それによって、予習・復習をして授業に臨んでいるか否かを判断する。評価の配分は、試験 70%、演習・宿題 30%である。ただし、評価の内容は、80%が授業内容の理解、20%が理解した内容を応用する力である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。					
オフィスアワー	講義後または教員室にてオフィスアワーを設けるが、具体的な曜日・時間については初回講義時に案内する。この時間帯以外でも可能な限り質問は随時受け付ける。担当者が非常勤講師の場合は、専任教員（植田、梅本、平川、宮林）が対応する。					
担当教員からのメッセージ	大学の化学は決して暗記科目ではない。常に、「何故そうなるのか」、「何故そのように考えるのか」という観点から学びを深めてほしい。					

授業科目名	静岡県の防災・減災と原子力 (Disaster prevention and mitigation for nuclear safety in Shizuoka)				
担当教員名	大矢 恭久 (OYA Yasuhisa)	所属等	学術院理学領域		
		研究室	理学部 A202		
分担教員名	近田 拓未、矢永 誠人、熊野 善介、鈴木 誠之、原田 賢治、郡司 賀透				
クラス	情工	学期	後期		必修選択区分 ー
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	防災・減災、地域と原子力、長期的なエネルギー問題				
授業の目標	静岡県は東海地震想定域に位置しているとともに、中部電力浜岡原子力発電所を有している。そのため、長期的なエネルギー問題や原子力の在り方について「みんなで考える」機会を持つと共に、防災・減災（特に原子力防災・減災）の在り方について理解を深め、原子力の在り方について学生自らの問題として理解し、考えることのできる学生の育成をめざす。				
学習内容	静岡県の減災・防災の取り組みや原子力・放射線への理解を高めると共に、原子力防災・減災の取り組みや長期的なエネルギー問題における原子力の在り方について「みんなで考える」そして「みんなで理解する」科目である。グループワークを通して、自分の問題として原子力や防災・減災について考えてみる。中部電力、静岡県、静岡新聞社の担当者を招聘してそれぞれの機関での防災対策についても解説してもらいます。				
授業計画	1. ガイダンス 2. 社会合意形成とは（グループワークを通して） 3. 放射線と放射能 4. 津波災害についての基礎 5. 浜岡原子力発電所と安全対策 6. 静岡県の原子力防災・減災体制 7. 静岡市の緊急時支援体制 8. 報道と原子力防災 9. 防災・減災教育 10. 原子力災害からの復興 11. 目で見る放射線とその防護（1） 12. 目で見る放射線とその防護（2） 13. 議論することとその方法 14. 専門家と市民とのコミュニケーションの方法論 15. まとめ 講義の順番は前後することがある。				
受講要件	特になし				
テキスト	静岡県の防災・減災と原子力（静岡学術出版）当日配布します。				
参考書	なし				
予習・復習について	テキスト、講義資料や関連図書による予習および復習をおこなうこと。				
成績評価の方法・基準	講義中に小レポート、講義中の発表内容および期末のレポートを総合的に評価する。				
オフィスアワー	8:00-20:00				
担当教員からのメッセージ	静岡県の原子力の在り方、原子力防災・減災の在り方についてみんなで考えてみませんか？				

授業科目名	新・佐鳴湖から考える (Human Ecology)																																				
担当教員名	戸田 三津夫 (TODA Mitsuo)		所属等	学術院工学領域																																	
			研究室	工学部 4 号館 406																																	
分担教員名	松田 智、金原 和秀、二又 裕之、前田 恭伸、新谷 政己、西原 純																																				
クラス	情工	学期	後期		必修選択区分 ー																																
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4																																
キーワード	COD (H18 ワースト 1、H21 ワースト 10)、佐鳴湖漁業、富栄養化、水質汚濁、栄養塩 (窒素、リン)、汽水湖、魚類生息 50 種以上、ヤマトシジミ、現地フィールドワーク、生態系バランス																																				
授業の目標	2003 年度より展開している「静岡大学アメニティ佐鳴湖プロジェクト」の成果を活用して、佐鳴湖の環境と水質、微生物について交代で講義をする。日本の湖沼や閉鎖海域の汚濁解消はなかなか進まず、基準値達成率は 50%以下である。また、水質改善が進む一方漁獲が低迷する問題が各地で発生している。キャンパスから近い佐鳴湖を題材に水質汚濁からとりわけ水に関わる環境問題について深く考えることを目標とする。																																				
学習内容	授業計画に従って、さまざまな切り口から佐鳴湖の環境について理解を深める。また、どうすれば問題の解消が進むか考えることにより、地球上で発生している水環境問題の理解と解決の糸口を探る習慣を身につけてもらう。この講義の特色はなんといっても現地佐鳴湖でのフィールドワークを大々的に取り入れていることである。キャンパスから約 2 キロと近い立地を生かし、全 15 回の講義のうち 5 回分を主に土日のフィールドワークにあてる。																																				
授業計画	<table><tr><td>回</td><td>内容</td></tr><tr><td>1</td><td>イントロダクション：佐鳴湖と「静岡大学アメニティ佐鳴湖プロジェクト」の紹介 (戸田)</td></tr><tr><td>2</td><td>佐鳴湖の水質：水質データから佐鳴湖の水環境を考える (松田)</td></tr><tr><td>3</td><td>佐鳴湖の生態系と水文 (戸田)</td></tr><tr><td>4</td><td>「静岡大学アメニティ佐鳴湖プロジェクト」の研究紹介 (戸田)</td></tr><tr><td>5</td><td>生物利用浄化技術 (1)：微生物利用の水質浄化 (二又)</td></tr><tr><td>6</td><td>生物利用浄化技術 (2)：よりサイズの大きな生物による水質浄化、ヤマトシジミ (戸田)</td></tr><tr><td>7</td><td>佐鳴湖の生態系：微生物生態系とその利用 1 (金原)</td></tr><tr><td>8</td><td>佐鳴湖の生態系：微生物生態系とその利用 2 (新谷)</td></tr><tr><td>9</td><td>佐鳴湖の水質浄化対策、全国の事例紹介 (前田)</td></tr><tr><td>10</td><td>事前アンケートをもとに受講者全員で討論 (最終回：戸田ほか)</td></tr><tr><td>11</td><td>フィールドワーク 1：「佐鳴湖に行ってみよう」スケジュール初期に佐鳴湖を訪れる。(天候を考慮するため期日未定)</td></tr><tr><td>12</td><td>フィールドワーク 2：「佐鳴湖水質調査体験」年 4 回、静岡県浜松土木事務所が開催している市民参加の佐鳴湖水質調査 (春)に参加する。所用約 3 時間授業 2 コマ分、5 月中旬の土曜が予定日 (期日は前期当初には決まるが雨天順延あり)</td></tr><tr><td>13</td><td>フィールドワーク 3：「佐鳴湖をいろいろ見て回る」佐鳴湖周辺の様々なものを見、人の話を聞き、動物に出会う体験をする。所用約 3 時間授業 2 コマ分 (天候を考慮するため期日未定)</td></tr><tr><td>14</td><td></td></tr><tr><td>15</td><td></td></tr></table>					回	内容	1	イントロダクション：佐鳴湖と「静岡大学アメニティ佐鳴湖プロジェクト」の紹介 (戸田)	2	佐鳴湖の水質：水質データから佐鳴湖の水環境を考える (松田)	3	佐鳴湖の生態系と水文 (戸田)	4	「静岡大学アメニティ佐鳴湖プロジェクト」の研究紹介 (戸田)	5	生物利用浄化技術 (1)：微生物利用の水質浄化 (二又)	6	生物利用浄化技術 (2)：よりサイズの大きな生物による水質浄化、ヤマトシジミ (戸田)	7	佐鳴湖の生態系：微生物生態系とその利用 1 (金原)	8	佐鳴湖の生態系：微生物生態系とその利用 2 (新谷)	9	佐鳴湖の水質浄化対策、全国の事例紹介 (前田)	10	事前アンケートをもとに受講者全員で討論 (最終回：戸田ほか)	11	フィールドワーク 1：「佐鳴湖に行ってみよう」スケジュール初期に佐鳴湖を訪れる。(天候を考慮するため期日未定)	12	フィールドワーク 2：「佐鳴湖水質調査体験」年 4 回、静岡県浜松土木事務所が開催している市民参加の佐鳴湖水質調査 (春)に参加する。所用約 3 時間授業 2 コマ分、5 月中旬の土曜が予定日 (期日は前期当初には決まるが雨天順延あり)	13	フィールドワーク 3：「佐鳴湖をいろいろ見て回る」佐鳴湖周辺の様々なものを見、人の話を聞き、動物に出会う体験をする。所用約 3 時間授業 2 コマ分 (天候を考慮するため期日未定)	14		15	
回	内容																																				
1	イントロダクション：佐鳴湖と「静岡大学アメニティ佐鳴湖プロジェクト」の紹介 (戸田)																																				
2	佐鳴湖の水質：水質データから佐鳴湖の水環境を考える (松田)																																				
3	佐鳴湖の生態系と水文 (戸田)																																				
4	「静岡大学アメニティ佐鳴湖プロジェクト」の研究紹介 (戸田)																																				
5	生物利用浄化技術 (1)：微生物利用の水質浄化 (二又)																																				
6	生物利用浄化技術 (2)：よりサイズの大きな生物による水質浄化、ヤマトシジミ (戸田)																																				
7	佐鳴湖の生態系：微生物生態系とその利用 1 (金原)																																				
8	佐鳴湖の生態系：微生物生態系とその利用 2 (新谷)																																				
9	佐鳴湖の水質浄化対策、全国の事例紹介 (前田)																																				
10	事前アンケートをもとに受講者全員で討論 (最終回：戸田ほか)																																				
11	フィールドワーク 1：「佐鳴湖に行ってみよう」スケジュール初期に佐鳴湖を訪れる。(天候を考慮するため期日未定)																																				
12	フィールドワーク 2：「佐鳴湖水質調査体験」年 4 回、静岡県浜松土木事務所が開催している市民参加の佐鳴湖水質調査 (春)に参加する。所用約 3 時間授業 2 コマ分、5 月中旬の土曜が予定日 (期日は前期当初には決まるが雨天順延あり)																																				
13	フィールドワーク 3：「佐鳴湖をいろいろ見て回る」佐鳴湖周辺の様々なものを見、人の話を聞き、動物に出会う体験をする。所用約 3 時間授業 2 コマ分 (天候を考慮するため期日未定)																																				
14																																					
15																																					
受講要件	佐鳴湖や環境問題にの関心がある人、生物が好き、水が好きな人を歓迎します。 3 回 (講義 5 回分) を現地フィールドワーク (土日開催予定) にあてます。																																				
テキスト	特に定めません。																																				
参考書	水環境関係の書籍は大学附属図書館にいくらか所蔵されています。浜松市図書館の蔵書とともに参照してください。																																				
予習・復習について	日頃から水環境関連の情報に注意してください。また、講義の際の質問はどんどんしてください。佐鳴湖関係の資料は、浜松市図書館 (中央館郷土資料室、城北図書館など) に多く所蔵されています。																																				
成績評価の方法・基準	随時行う小テストやコメントペーパー (50%)、期末レポート (50%) で評価します。																																				
オフィスアワー	以下までメールしてから来てください。tmtoda@ipc.shizuoka.ac.jp 必要に応じてほかの担当者にも伝達します。																																				
担当教員からのメッセージ	2011 年まで開講していた「佐鳴湖から考える」の内容を増補し、フィールドワークをもり込みましたので、別講義として単位取得可能です。佐鳴湖関係の行事、講演会なども随時案内します。是非参加してください。なお、授業計画の順番や内容は変更することがあります。																																				

授業科目名	ロックとアートからみるメンタルヘルス (Rock, Art and Mental Health)					
担当教員名	太田 裕一 (OTA Yuichi)		所属等	保健センター		
			研究室	工学部 7 号館 3 F		
分担教員名						
クラス	情工	学期	後期		必修選択区分	—
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4	
キーワード	ロック、現代アート、メンタルヘルス、臨床心理学、精神医学、歴史、ドラッグ、精神疾患、発達障害、トラウマ					
授業の目標	ロックの歴史、現代アートなどを題材にこころの健康問題をさまざまな角度から考えたいと思います。					
学習内容	過去の講義で取り上げたミュージシャン：シド・バレット、ソフト・マシーン、キング・クリムゾン、ジェネシス、ヴェルヴェット・アンダーグラウンド、パティ・スミス、ラモーンズ、ジミ・ヘンドリックス、ジャニス・ジョプリン、ザ・ドアーズ、ジェファーソン・エアプレーン、ビートルズ、ローリング・ストーンズ、キンクス、ザ・フー、ボブ・ディラン、ディープ・パープル、レッド・ゼッペリン、ブラック・サバス、セックス・ピストルズ、ダムド、クラス、コンフリクト、MC5、デッド・ボーイズ、ストゥージーズ、ニルヴァーナ、マリリン・マンソン、ブラインド・メロン、ティム&ジェフ・バックリー、村八分、モップス、はっぴいえんど、外道、フリクション、スターリン、ちえるしい、筋肉少女帯、ヒカシュー、GISM、amazarashi、初音ミク。アーティスト(ジャンル)：John Hathway、草間彌生、石井徹也、松井冬子、会田誠、山口晃、村上隆、カイカイキキ、近藤聡乃、やなぎみわ、球体関節人形、四谷シモン、天野可淡、アイアン澤田、ハンス・ベルメール、金子國義、谷川俊太郎、寺山修司、河鍋暁斎、鳥山石燕、円山応挙、月岡国芳、アウトサイダー・アート、岡本太郎、ヘンリー・ダーガー、アンディ・ウォーホル、ニキ・ド・サンファル、バルテュス、妖精画。メンタルヘルスの話題：統合失調症、うつ病、躁うつ病、PTSD、アルコール依存症、薬物依存、DV、アスペルガー障害、ADHD、性同一性障害。					
授業計画	授業計画 1. ロックミュージックのルーツ 2. ロックと破壊、人間の攻撃性 3. サイケデリック・ミュージックと意識の拡大 4. ドラッグ、ヒッピー、人間潜在力開放運動 5. 統合失調症と幻聴 草間彌生 6. ベトナム戦争と PTSD 7. グラムロックと両性具有 8. アウトサイダー・アートと精神疾患 9. ロックと反社会性、パンクロックの起源 10. ニューウェーブ ゴシックとグロテスク 11. ハードコアパンクと暴力、ドメスティックバイオレンス 12. アスペルガー障害、サヴァン症候群と The Vines 13. 摂食障害 Cocco とカレン・カーペンター 14. 人形とフランケンシュタイン 15. 人間の心のレジリエンス 内容は適宜変更します。					
受講要件	ロックを爆音で聞ける人。とりあげる現代アートには性的なものやグロテスクなものが含まれるのでそれに耐えられる人。					
テキスト						
参考書	パワーポイントのタイトル用イラスト、自作音楽の投稿(講義での視聴)、講義中のセッション参加で加点します。2013 年度にはハービー・ハンコックのカメレオンという曲のライブ・セッションを講義中に行いました。ブルース進行でセッションができれば嬉しいです。ミニ・レポートでリクエスト曲を募り、採用された場合は加点を行い、次の講義で講師がその曲を歌います。					
予習・復習について	毎回、電子メール提出で 200 字以上のミニ・レポートを課します。内容は講義の感想や好きなアーティストの紹介など。毎回のミニ・レポートと最終レポート(2000 字以上。メンタルヘルスとロックまたはアートについてテーマ自由)で評価します。最終レポートを提出できるのはミニ・レポートを 10 回以上提出した人に限ります。インターネットの文章の無断転載(コピー&ペースト)は基本的に不可です。					
成績評価の方法・基準	オフィスアワーは随時行います。カウンセリングの予約がはいっていることも多いので、できれば電子メール(ota.yuichi@ipc.shizuoka.ac.jp)で連絡を取ってからの方が確実です					

オフィスアワー	過去に抽選になったことはありません。ロック・現代アート・メンタルヘルスなどに興味ある方の積極的な参加を期待します。twitter 実況の公式ハッシュタグは #mentalrock の予定。人数集まればカラオケオフを行う予定です。
担当教員からのメッセージ	

授業科目名	音楽・音響と人間 (Music, Sound and Humanity)				
担当教員名	松田 智 (MATSUDA Satoshi)		所属等	大学院工学領域	
			研究室	C216	
分担教員名	杉浦 敏文、高岡 智子、立蔵 洋介				
クラス	情工	学期	後期		必修選択区分 —
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4
キーワード	音楽芸術、音響、視聴覚情報処理、心理的效果				
授業の目標	音楽とは何だろうか？物理的には音響(空気の振動)の羅列に過ぎない音楽が、なぜか人間の心に働きかけ、喜びや悲しみの感情を引き起こしたり、何かを思い出させたり、強い感動をもたらしたりする。それは一種の心理反応であり、相当多くの人が同じような感じ方をすると言う意味で普遍性をもつ。本講では様々な音楽・音響を実体験していただくとともに、脳波研究その他いくつかの視点から、音楽(オペラや映画では映像情報を含む)体験が人間に何をもたらすかを考える。				
学習内容	西洋古典音楽を中心に、現代音楽や映画音楽なども視野に入れながら、幅広い音楽を実体験するとともに、それを受け取る側の人間の脳についての最新研究を概観する。また音楽を造る側(演奏者)は音楽をどのように捉えて実際の作品表現に結びつけているのかなどについても紹介する。実音楽体験では、西洋古典音楽を中心に様々な音楽を聴き、どのような感覚・感想を抱くかをレポートし発表していただく。作品についての簡単な解説などをその都度与える。				
授業計画	第 1 週(10/2) 松田 導入・ガイダンス：本授業の狙いと目的、実音楽体験(1)長調と短調 第 2 週(10/9) 松田 実音楽体験(2)響き(人の声、ピアノ、弦楽器、オーケストラ等)の違いとその効果 第 3 週(10/16) 松田 実音楽体験(3)バッハの音楽作品(器楽曲から声楽曲まで) 第 4 週(10/23) 杉浦 脳の構造と働き：私たちは音響情報をどのように処理しているのか？ 第 5 週(10/30) 杉浦 脳と音楽Ⅰ：音楽に憑かれて（突発性音楽嗜好症、音楽発作、音楽幻聴など） 第 6 週(11/13) 杉浦 脳と音楽Ⅱ：感情と音楽（抑制不能—音楽と側頭葉、病的な音楽好きなど） 第 7 週(11/20) 高岡 実音楽体験(4)数学・兵器としての音楽(古代ギリシア天球の音楽、音響兵器) 第 8 週(11/27) 高岡 実音楽体験(5)政治と音楽(ナチス・ドイツ時代の楽劇「マイスタージンガー」) 第 9 週(12/4) 高岡 実音楽体験(6)映画の声と身体性(ドイツ映画「パルジファル」の声の分離) 第 10 週(12/11) 立蔵 音楽を記述する：楽譜とその解釈、演奏者による解釈の違いとその影響 第 11 週(12/18) 立蔵 音楽を造り出す：演奏者は音楽をどう捉えているのか？指揮者～奏者の関係 第 12 週(1/8) 立蔵 音楽・音響とテクノロジー：音場の伝送と再現、受信技術など 第 13 週(1/15) 松田 実音楽体験(7)ベートーヴェンの音楽作品(特にピアノソナタと弦楽四重奏曲) 第 14 週(1/22) 松田 実音楽体験(8)ロマン派～20 世紀の音楽作品(Chopin、Debussy、Brahms、Bruckner、Mahler など) 第 15 週(1/29) 松田(できれば全員) 授業のまとめ、総括討論(この授業で何を学んだか、何を伝えたかったか)				
受講要件	音楽・音響等に関心のある人。				
テキスト	特に指定しない。主に配布資料等を用いる。				
参考書	授業時に適宜指示する。				
予習・復習について	適宜、課題を提示するので、それに従う。				
成績評価の方法・基準	出席を含む日常点 2 割、各担当者が課すレポートの総合成績 8 割。				
オフィスアワー	講義時間の前後に適宜。来室の場合は、事前にメールでの予約が望ましい。				
担当教員からのメッセージ	音楽・音響の世界の多彩さ・奥深さを味わい、人生を豊かにして下さい。				

授業科目名	化学物質と人間 (Chemicals and Human Being)					
担当教員名	田中 康隆 (TANAKA Yasutaka)		所属等	学術院工学領域		
			研究室	C311		
分担教員名	立元 雄治、昆野 昭則、佐古 猛、松田 智、前田 康久、奥谷 昌之					
クラス	情工	学期	後期		必修選択区分	—
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	金 3・4	
キーワード	人間生活、肥料、太陽電池、公害、地球環境、医療、分解、リサイクル、エネルギー、エコマテリアル					
授業の目標	人間は自然界に存在する様々な化学物質と関わり、長い歴史の中で自らの生命を守り暮らしを豊かにする化学物質を作り出す方法・技術を発展させてきた。化学物質がどのようにして有効に利用され、一方で、どのような場合に問題を引起こすのか、さらにはその問題を解決するための技術および今後の展望について考え、理解を深める。					
学習内容	化学物質と人間との関わりを軸に、化学の様々な視点からの講義を通じて基礎から環境・エネルギー等、人類の抱える諸問題に至るまでの幅広い内容を学習する。また化学しくみや功罪を学びながら「医療と化学」、「光と化学」、「地球環境と化学物質」を中心に学習する。					
授業計画	1 回目, 10/2(金) 授業内容紹介とクラス分け。田中康隆担当 2 回目, 10/9(金)エネルギー有効利用のための、エネルギー消費の評価。田中康隆担当 3 回目, 10/16(金) エネルギー有効利用のための、エネルギーを貯めるシステムについて。田中康隆担当 4 回目, 10/23(金) 化学物質の生産と処理技術 (1)。立元雄治担当 5 回目, 10/30(金) 化学物質の生産と処理技術 (2)。立元雄治担当 6 回目, 11/13(金) 毒と薬、人工と天然、材料とゴミといったキーワードから化学物質の二面性について考える。 昆野昭則担当 7 回目, 11/20(金) グリーンケミストリー (環境に配慮した化学合成およびプロセス) について紹介する。 昆野昭則担当 8 回目, 11/27(金) 超臨界～亜臨界水の特異な性質と、その水を用いる難分解性有害物質 (PCB、ダイオキシン等) の分解技術の概要について説明する。佐古猛担当 9 回目, 12/4(金) 化学工業の展開：ルブラン法開発以降、石炭化学から石油化学工業まで。松田智担当 10 回目, 12/11(金) エネルギーを求めて：動力源の発展史を化学物質の側面から見直す。松田智担当 11 回目, 12/18(金) 物質とエントロピー (1)：エントロピーとは何か、熱エントロピーと物質エントロピー、環境とエントロピー。前田康久担当 12 回目, 1/8(金) 物質とエントロピー (2)：統計力学的エントロピー、第3法則と絶対エントロピー、エントロピーと量子論。前田康久担当 13 回目, 1/15(金) エネルギー材料1：新エネルギー源としての期待の高い太陽光発電について、その開発動向について解説する。 奥谷昌之担当 14 回目, 1/22(金) エネルギー材料2：リニアモーターカーに代表される超伝導材料について、実用化と課題について解説する。奥谷昌之担当 15 回目, 1/29(金) ディスカッション。担当教員全員担当。 担当教員の順番が入れ替わる事があります。					
受講要件	特になし					
テキスト	テキストは用いず、必要に応じて資料を配付する。					
参考書	「まんが化学に強くなる」(講談社：BlueBacks シリーズ), 「化学のしくみ」(ナツメ社) 等であるが、特に購入の必要はない。					
予習・復習について	特に予習復習は必要ないが、日頃から化学物質・環境・エネルギー問題等への関心をもって、授業に臨んでもらいたい。					
成績評価の方法・基準	授業への取り組み状況とレポートにより評価する。8割以上の出席で評価の対象とする。受講態度が悪い場合は、評価の対象としない。					
オフィスアワー	質問は随時受け付けますが、応じられないときもあることを承知下さい。					
担当教員からのメッセージ	電子物質科学科および化学バイオ工学科の教員が「化学」に関するエネルギー、環境、人間生活と化学の関わり等、ホットな話題を平易に解説する。オムニバス形式の講義で、内容に一部重複もあるが、同じ事柄でも話し手(教員)ごとに異なる見解があることも含めて化学物質と人間のかかわりについて考えてもらいたい。特に福島原子力事故以来、化学、環境、エネルギーの関係が注目を集めている。なお、教員によっては講義資料を置いたホームページを紹介する場合がある。必要に応じてダウンロードしてください。授業中は、それら資料は指示が無い限り必要ないので、パソコンの起動は禁止します。					

授業科目名	わが街・浜松の市政 (Municipal Administration in Hamamatsu)					
担当教員名	中澤 高師 (NAKAZAWA Takashi)		所属等	学術院情報学領域		
			研究室	J2725		
分担教員名	原田 伸一郎					
クラス	情工	学期	後期		必修選択区分	—
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6	
キーワード	地方自治、地方分権、行政、浜松市、政令指定都市、まちづくり、行政改革					
授業の目標	私たちが住んでいる浜松市の行政はどのように運営されているのだろうか。地方行政は、実際、どのように私たちの生活に関わっているのだろうか。いま声高に言われている地方分権とはどのような意味を持っているのか。浜松市の行政の実際とあり方について学習します。					
学習内容	私たちは浜松市に住み、水道水の提供やゴミ処理のサービスなど浜松市の行政に依存しながら生活しています。それにもかかわらず、浜松市の行政がどのように運営されているのかをよく知っているとは言えません。 私たちが浜松市で安心して快適に暮らすために、市役所はどのような組織を構成し、職員を配置して日々どのように仕事を進めているのか。その現状と未来について、浜松市の専門職員から説明を受け、政令指定都市・浜松の地方自治を学びます。					
授業計画	1 回 授業ガイダンス 2 回 まちづくりの展望----地方自治体を取り巻く現状・市の総合計画について 3 回 浜松市の特色（１）創造的な"ものづくり"による地域経済の振興----浜松市の産業の現状と振興策について 4 回 浜松市の特色（２）子育て世代を全力で応援----浜松市の子ども政策について 5 回 浜松市の特色（３）住みやすさナンバーワンの都市づくり----浜松市のユニバーサルデザイン政策について 6 回 浜松市の特色（４）特色ある農林水産業わが街・浜松の市政----浜松市の農林水産業について 7 回 浜松市の特色（５）文化振興ビジョンにみる文化政策----浜松市の文化政策について 8 回 浜松市の特色（６）世界を身近に感じる交流都市づくり----外国人市民との共生を目指して 9 回 中間まとめ(第１課題レポートの提出)と浜松検定 10 回 浜松市が抱える今後の課題（１）防災・減災対策の強化について 11 回 浜松市が抱える今後の課題（２）中心市街地の活性化に向けて 12 回 浜松市が抱える今後の課題（３）浜松市の中山間地域について～元気な田舎づくりを目指して～ 13 回 浜松市が抱える今後の課題（４）浜松市の行財政改革 14 回 浜松市の発展に向けて（１）みんなで取り組もう、シティプロモーション！ 15 回 浜松市の発展に向けて（２）市民パワーが地域を変える、創る！					
受講要件	とくになし。					
テキスト	毎回、講義資料を配布します。					
参考書	必要に応じて紹介します。					
予習・復習について	講義資料だけでなく市役所の HP などとも参考にして、復習に時間を割いてください。					
成績評価の方法・基準	評価は、中間・期末に提出する課題レポートによっておこないます。評価基準は中間では講義の理解度、期末では浜松市制にかんする調査・分析・考察の深さに置きます。					
オフィスアワー	個別に対応するので、下記アドレスまで連絡をください。					
担当教員からのメッセージ	t.nakazawa@inf.shizuoka.ac.jp					

授業科目名	ヒューマン・エコロジー (Human Ecology)				
担当教員名	戸田 三津夫 (TODA Mitsuo)		所属等	学術院工学領域	
			研究室	工学部 4 号館 406	
分担教員名	安村 基、山脇 和樹、檜本 正明、野上 啓一郎、恒川 隆生、雨谷 敬史、藤本 征司				
クラス	情工	学期	後学期		必修選択区分 ー
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6
キーワード	ヒューマン・エコロジー、自然科学、社会科学、人文科学、循環共生社会、環境倫理、生態学、行政法と刑法、知の統合、自然と人間				
授業の目標	東日本大震災直後に乾電池や飲料水が高騰した。リーマンショック後の世界的な不況では消費、生産、物流が停滞し、絶望視されていた CO2 排出の抑制がすんなり実現した。前者は、地球科学者から見ればいつかは必ず起こる現象で、経済学者から見れば全く想定外であった。後者は、経済学者には社会での大事件だが、地球科学者から見れば取るに足らないイレギュラーである。このように、個々の学問は、現世の現象をとらえ分析して教訓とし、未来を展望する行為を総合的に行うには根本的な欠陥がある。ヒューマン・エコロジー（人類生態学）は、現在の克服困難な問題や、人類の将来を考えるにあたり必要不可欠であると思われる新しい考え方を提示する。そのために学問分野の垣根をとりはらい、いろいろな視点から人間の行動を科学的にとらえ理解することをねらう。				
学習内容	異なる研究分野の問題に共通する概念、手法、構造を抽出することで、それぞれの分野の間での知の互換性を確立し、それを通して、より普遍的な知の体系を教授する。				
授業計画	回 内容 1 戸田三津夫（静岡大学工学研究科）：ガイダンス，受講者決定 2 未定：問いとしてのヒューマンエコロジー 環境と倫理をめぐる（1） 3 未定：問いとしてのヒューマンエコロジー 環境と倫理をめぐる（2） 4 安村 基(静岡大学農学研究科)：安全・快適そして人と環境にやさしい住宅の供給 5 山脇和樹(静岡大学農学研究科)：食料と生活エネルギーの循環 6 藤本征司：生態学から見た人間環境の構造と風景造り 7 藤本征司：生態学から見た風景モザイクの動態と造景 8 檜本正明（静岡大学農学研究科）：乾燥地生態系概論 9 野上啓一郎(静岡大学農学研究科)：ヒューマンエコロジーの周辺 10 恒川隆生（静岡大学法科大学院）：環境保全---ヒューマンエコロジーと行政法--- 11 山本雅昭：ヒューマンエコロジーをめぐる刑事規制--- 12 雨谷敬史(静岡県立大学)：室内環境に快適さや安全性を求めて 13 雨谷敬史(静岡県立大学)：環境リスク評価と管理 14 戸田三津夫（静岡大学工学研究科）：都市と田舎---安全・快適・便利をもとめて--- 15 戸田三津夫（静岡大学工学研究科）：水環境の保全と修復（1）---損なわれやすい身近な環境，（2）---浜松市佐鳴湖流域を例に---				
受講要件	教科書を毎回持参すること				
テキスト	野上啓一郎編「ヒューマン・エコロジーをつくる 人と環境の未来を考える」、共立出版（2010）.				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	教科書を読み、下調べ、確認などを行うこと。新聞その他のニュース、時事問題に関心を持ち情報収集すること。				
成績評価の方法・基準	総合評価の割合は、レポート 40%、その他（小テスト、コメントペーパーなど毎回の評価） 60%とする。				
オフィスアワー	あらかじめ戸田まで、メール連絡すること。 tmtoda@ipc.shizuoka.ac.jp				
担当教員からのメッセージ	専門分野が異なった先生方の講義です。知的好奇心旺盛で多角的思考に興味がある学生の受講を勧めます。 なお、授業計画の順番や内容は変更することがあります。				

授業科目名	ロボットと人間 (Robot and Human being)					
担当教員名	末長 修 (SUENAGA Osamu)	所属等	学術院工学領域			
		研究室	A421			
分担教員名	大岩 孝彰、橋本 岳					
クラス	情工	学期	後期		必修選択区分	—
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6	
キーワード	ロボットの技術と応用、センシング、制御、機構、システム、人間の機能と特性					
授業の目標	ロボットはメカトロニクスの典型例であり、メカトロニクスは機械工学と電子工学を結合した技術、またはそれを応用した電子機械装置である。アミューズメントやエデュテイメント、あるいは手術支援や介護介助など、人間と共存する環境で動作するロボットも発表されている。本講義は、ロボットに関して初心者を対象として、その歴史と現在、ロボットを構成するさまざまな技術の基礎を学び、ロボットと人間の今後の関係を考察してゆく。					
学習内容	3名の教員が分担し、ロボットと人間の関係をさまざまな側面から捉える。橋本の担当では、ロボットにおけるセンシングや制御に関する解説とそれらが実現した未来社会を考える。末長の担当ではロボットなどといった人間が扱う機械システムにおいて考慮すべき内容を人間工学の観点から学ぶ。そして、大岩の担当においては、ロボットの形状や機構を中心とした内容を学ぶ。					
授業計画	回 内容 1 ガイダンス：授業全体の説明 2 橋本(1)：ロボットのセンシング 3 橋本(2)：ロボットの制御 4 橋本(3)：様々なロボット 5 橋本(4)：ロボット研究と未来社会 6 末長(1)：人間工学とロボティクス（人間工学的観点からの人とロボットとの係わり） 7 末長(2)：人間の情報処理モデル（情報処理システムとしての人間の特性理解） 8 末長(3)：ヒューマン・インタフェース 9 末長(4)：福祉・介護におけるロボット 10 大岩(1)：パラレルロボット（1）（人やロボットの機構を並列・直列という観点から見る） 11 大岩(2)：パラレルロボット（2） 12 大岩(3)：マイクロロボット・マイクロマシン（1）（人やロボットの機構を大きさという観点から見る） 13 大岩(4)：マイクロロボット・マイクロマシン（2） 14 総括と質疑応答 15 授業アンケート					
受講要件	特になし					
テキスト	特に指定しない。プリントの配布，HPからのダウンロードなど，授業時間中に指示する。					
参考書	渡辺,小保:“ロボット入門”,オーム社,(2006). 増田,小金澤,甲斐:“新しいロボット工学”,昭晃堂,(2006). 新井(監):“図解雑学ロボット”,ナツメ社,(2005). 城井田:“ロボットのしくみ”,日本実業出版社,(2001). 松日楽,大明:“ロボットシステム入門”,オーム社,(1999). など.					
予習・復習について	授業での指示に従うこと。プリント，ダウンロード資料などを読んで理解する，など。図書館での文献検索やネットワーク上での資料検索などを要することもある。					
成績評価の方法・基準	担当教員ごとの成績評価を平均し，評価する。ただし，1課題でも未提出の場合は「不可」とする。・橋本教員：レポートにより評価する。・末長教員：レポートにより評価する。・大岩教員：レポートにより評価する。※レポート提出期限を厳守するとともに，学務情報システムによりレポートをアップロードする際は，アップロードの完了を必ず各自で確認すること。なお原則として，提出期限後のレポート提出は認められません。					
オフィスアワー	担当教員ごとに異なるので，事前に確認すること。事前に連絡・予約がないと後日となる場合がある。					
担当教員からのメッセージ	ロボットは，さまざまな技術をシステムとしてまとめたものであり，また日々発展している分野であるため，講義は限られた側面からの基礎的な情報の紹介，学習のきっかけを与える入口の案内となる。そこで，受身にとどまらず，興味を覚えたところから，自分で積極的に情報収集などして学習を深め広げてゆくことを期待する。					

授業科目名	科学技術と倫理を考える (Ethics in Science and Technology)					
担当教員名	清水 一男 (SHIMIZU Kazuo)	所属等	イノベーション社会連携推進機構			
		研究室	イノベーション社会連携推進機構（浜松）			
分担教員名	榎木 英介					
クラス	情工	学期	後期		必修選択区分	—
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6	
キーワード	科学技術と倫理、科学と社会、社会責任と企業責任					
授業の目標	科学技術の発展に伴い、倫理的問題が顕在化しています。特に論文ねつ造やレポートのコピペ量産により大学における知の根幹がゆらいでいます。本講義では科学技術の社会及び自然に及ぼす影響・効果に関する理解力や責任について事例を扱いながら考えるとともに社会に対する責任を自覚する能力を身につけることを目標としています。					
学習内容	科学技術と倫理は一見、難しそうですが、皆さんの身の回りにも直結する事例が多々あります。社会に出て失敗するのでは遅いので、本講義では学生時代に基本的倫理観を身につけられるような、科学技術と倫理に関する実践的対応力を養います。					
授業計画	回 内容 1 オリエンテーション 2 研究者（技術者）の責任ある行動とは 3 科学者（技術者）になるということ 4 科学における不正行為 5 これまでとこれからの日本 6 科学研究における不正行為 7 事例研究 1（研究者のモラル） 8 研究開発 9 研究で人間や動物を使用するとき 10 個人の自立と科学者（技術者）の資質 11 研究成果の共有 12 研究成果の共有 13 知的財産の考え方 14 特別講演（STAP 細胞問題とは） 15 科学者（技術者）の倫理					
受講要件	「科学者をめざす君たちへ」をテキストとするので、予め全範囲を予習しておく事。また、「科学技術と倫理」に関する参考書にも目を通しておくことが望ましい。					
テキスト	米国科学アカデミー編集、「科学者をめざす君たちへ」、化学同人					
参考書	科学を志す人びとへ」化学同人、「科学技術倫理を学ぶ人のために」世界思想社「科学研究における倫理」など					
予習・復習について	講義時間内に取り上げる事例には限りがあるので、広く扱った事例集（参考書）や新聞等を読んでおくことで、科学技術と大学や倫理活動の動きを把握する事が望ましい。					
成績評価の方法・基準	講義への出席、小レポートと最終試験課題レポートを総合的に評価する。特に次の（１）～（３）の基準において評価する。（１）科学技術と社会の関連において、科学者や技術者のあるべき姿が理解できる。（２）科学者、技術者の倫理について理解している。（３）科学者、技術者として社会に対する責任感と実践的対応力が理解できる。					
オフィスアワー	随時					
担当教員からのメッセージ	科学技術と倫理という難しそうなテーマにやさしく迫ってみよう。レポートや論文のコピペやねつ造など、誘惑は身の回りにありますが、皆さんの学生としての意識が少しでも変わってくれたら嬉しいです。					

授業科目名	身近なナノテク (Nanotechnology in Our Living Environment)				
担当教員名	下村 勝 (SHIMOMURA Masaru)	所属等	学術院工学領域		
		研究室	電子工学研究所 207		
分担教員名	早川 泰弘、池田 浩也、小野 篤史、伊藤 哲、荻野 明久、根尾 陽一郎				
クラス	情工	学期	後期		必修選択区分 一
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	金 5・6
キーワード	ナノテクノロジー、コンピュータ、半導体、光、通信、エネルギー、宇宙開発				
授業の目標	インターネットに代表される情報化社会の発達は、私たちの生活や産業のあり方を大きく変えてきた。本講義では、現在の高度情報化社会を構築する基盤技術の概要を理解してもらうとともに、宇宙開発からエネルギー問題、身近な製品に至まで、私たちの生活を支えるナノテクノロジーについて理解を深めてもらう。				
学習内容	現代の情報化社会を支える様々な基盤技術についてナノテクノロジーの側面から解説し、私たちの生活との関わりについて概説する。				
授業計画	回 内容 1 概論～ナノテクノロジーの動向～：下村 2 宇宙開発と社会：早川 3 宇宙環境利用のサイエンス：早川 4 ディスプレイの変遷：小野 5 ナノの世界を見る：小野 6 情報を捕まえる素子～センサ～：伊藤 7 情報を蓄える素子～メモリ～：伊藤 8 タッチパネルの科学：下村 9 自己組織化によるナノ構造：下村 10 進化する電池：池田 11 エネルギー問題に挑戦するナノテク：池田 12 ナノエレクトロニクスの発展：荻野 13 プラズマが拓く新しい技術：荻野 14 電磁波の歴史と応用～発生から検波まで～：根尾 15 古くて新しい誘電体：根尾				
受講要件	ナノテクに興味のある人。【注意】過去に「ロングテールとナノテクノロジー」「ナノテクノロジーとグローバル社会」「グローバル社会とナノテクノロジー」の単位を修得した学生は履修不可。				
テキスト	特に指定しない。				
参考書	講義中に適宜紹介する。				
予習・復習について	シラバスに記載された各講義題目中の単語をインターネットなどを使って調べておくことが望ましい。				
成績評価の方法・基準	各教員がレポートを課して採点し、それらの合計点で評価する。ただし、規定の出席回数に満たない学生は、レポートの点数に関わらず不合格とする。				
オフィスアワー	特定の時間を設けてはいないが、質問には時間の許す限り随時応じる。				
担当教員からのメッセージ	将来の専門分野と進路を決める際の参考にしてください。【注意】本講義は、2010 年度まで「ロングテールとナノテクノロジー」、2011 年度は「ナノテクノロジーとグローバル社会」、2012・2013 年度は「グローバル社会とナノテクノロジー」という授業科目名で開講されていたので、これらの単位を既に取得した学生は履修できません。				

授業科目名	環境化学工学 (Environmental Chemical Engineering)					
担当教員名	松田 智 (MATSUDA Satoshi)		所属等	学術院工学領域		
			研究室	C216		
分担教員名						
クラス	CA	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	月 1・2	
キーワード	大気汚染、水質汚濁、廃棄物、リサイクル、対策技術、単位操作、温暖化					
授業の目標	環境を浄化・修復する工学技術の3つの柱となっている大気汚染防止技術、水処理技術、および廃棄物処理技術は、その中に化学工学の単位操作の原理を数多く包含している。すなわち、分離選別、粉碎、脱水、乾燥、油化、ガス化、生物利用などを総合的に活用することで技術が成り立っている。技術を構成しているそれぞれの単位操作を理解し、組み合わせの結果としての技術の原理を理解する。					
学習内容	1. 環境問題解決へ向けた化学工学の視点からの取り組み 2. 廃棄物処理の現状とリサイクル技術 3. 地球温暖化問題の理解と対応策 4. 大気汚染物質の汚染防止技術とその原理 5. 焼却および高温操作に関わる定量的な取扱い 6. 水質汚濁の現象と機構についての理解					
授業計画	1 環境化学工学とは(1): 環境問題の理解(科学)と対策技術(工学)、システム思考、地球環境問題と地域環境問題 2 環境化学工学とは(2): 環境工学における化学工学的手法の重要性、対策技術の概要 3 地球温暖化(1): 温暖化のメカニズム(地球の温度の決まり方、温度への影響因子)、将来予測 4 地球温暖化(2): 対応策をめぐって(エネルギー使用の効率化と新エネ、低炭素社会は真の目標か?) 5 オゾン層破壊とその対策: メカニズム、オゾンホール及び紫外線量の実態、対策技術 6 酸性雨とその対策: NO _x と SO _x 、塩化水素、光化学オキシダントなどの成因及び対応策 7 大気汚染と対策技術: 脱硫と脱硝技術、ばいじん、ダイオキシン、浮遊微粒子などの成因及び対応策 8 中間試験 9 廃棄物とリサイクル(1): 一般廃棄物と産業廃棄物、廃棄物の処理と処分、特に中間処理技術としての焼却について 10 廃棄物とリサイクル(2): 最終処分をめぐって、リサイクルの分類と用いられる技術 11 焼却と高温操作をめぐる演習(1): 種々の発熱量、自然条件、焼却操作(空気比その他) 12 焼却と高温操作をめぐる演習(2): エンタルピー収支の応用(定容・定圧・定温・断熱の諸過程、ガスの加温・冷却所要熱量など) 13 焼却と高温操作をめぐる演習(3): 断熱火炎温度、発電機の効率、送風機動力(気体の圧縮仕事) 14 水環境: 水循環と水資源、水質指標とその意味(BOD・COD・TOC・DO・pH・アルカリ度など)、水質汚濁の原因と対策の実例・佐鳴湖の場合 15 化学物質と環境: 化学物質の使用と環境への排出、リスクによる管理(ダイオキシンを例に)					
受講要件	化学工学の単位操作について理解しておくこと。地球環境科学・環境技術、リサイクル量論、および資源循環化学を習得していることが望ましい。					
テキスト	「入門 環境の科学と工学」(川本克也・葛西栄輝 著、共立出版)					
参考書	「廃棄物工学の基礎知識」(田中信壽 編著、技報堂出版)「環境工学入門」(鍋島淑郎他著、産業図書)					
予習・復習について	授業だけで理解することは難しいので、授業に匹敵する予習および復習が必要である。また授業で取り上げられた演習問題を独力で再び解いてみることも必要である。					
成績評価の方法・基準	授業での到達目標が達成され、環境問題に対処する方法論としての化学工学の基礎知識と定量的扱いに関する基礎が身に付いているかどうかを評価する。評価の配分は、中間試験・期末試験計 80%、演習・レポート等 20%である。その内容は、授業内容を十分に理解し身につけているかどうか(70%)、授業内容を応用する力がついているか(30%)で評価する。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。					
オフィスアワー	毎週金曜日の 9・10 時限にオフィスアワーを設ける。また、オフィスアワー以外でも質問は随時受け付けが、電子メール (tcs mats@ipc.shizuoka.ac.jp) で予約することが望ましい。					
担当教員からのメッセージ	環境問題に対処するには、幅広い知識だけでなく、具体的な対策を考えるために、定量的・工学的な考察(収支バランス等)が有用であることを、本授業でしっかり学んでいただきたい。					

授業科目名	食品工学 (Food Engineering)					
担当教員名	金原 和秀 (KIMBARA Kazuhide)	所属等	学術院工学領域			
		研究室	工 C218			
分担教員名	二又 裕之					
クラス	CB	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	3 年	単位数	2	曜日・時限	月 3・4	
キーワード	微生物、発酵食品、物質収支、エネルギー収支、移動現象、単位操作					
授業の目標	発酵食品に代表される、微生物機能を応用した食品の製造を理解するため、発酵食品の製造法を学ぶとともに、製造プロセスの設計に必要な、物質収支、エネルギー収支、移動現象、単位操作の概念を習得することを目標とする。					
学習内容	発酵食品は、微生物の代謝機能を利用して製造される。この過程を十分に理解し、製造工程を学ぶとともに、製造プロセスの設計に必要な、計算手法を学ぶ。また、移動現象を理解して、単位操作の基本設計と計算手法の基礎について習得する。さらに、実用化されている技術や今後の課題等について解説し理解を深める。					
授業計画	回 内容 1 発酵食品（アルコール飲料） 2 発酵食品（大豆発酵食品） 3 発酵食品（水産発酵食品） 4 発酵食品（乳製品等） 5 食品と微生物 6 食品工学の基礎計算 7 物質収支・エネルギー収支 8 中間試験 9 伝熱（電動伝熱、対流伝熱） 10 伝熱（熱交換操作） 11 凍結食品の伝熱特性 12 濃縮 13 平衡と物質移動 14 蒸留 15 抽出					
受講要件	本講義で扱う化学工学の基礎の理解のため、2 年次の移動現象論Ⅰ、3 年次の移動現象論Ⅱの習得を薦める。					
テキスト	「食品工学」（日本食品工学会編集、朝倉書店）を用い、板書にて講義を行う。					
参考書	「くらしと微生物 改訂版」（村尾沢夫ら著、培風館）、「生物化学工学 第3 版」（海野肇ら編集、講談社）、「新生物化学工学 第2 版」（岸本通雅ら著、三共出版）、「微生物機能学」（森田英利編著、三共出版）、また図書館浜松分館にも関連書籍があるので、是非参考にしてほしい。					
予習・復習について	講義内容を理解するには十分な予習・復習が不可欠である。適宜レポートを課すので、予習・復習に活用してほしい。					
成績評価の方法・基準	授業での到達目標が達成され、発酵食品製造プロセスの理解、および物質収支・エネルギー収支・移動現象に基づいた単位操作の設計の基礎が、十分に習得されているか評価する。適宜、演習を実施する。評価の配分は、中間・期末試験 80%、演習・レポート 20%であり、内容は、(a)授業内容の吸収・理解により取り得る点（70%）、(b)授業内容を理解し、それを応用することにより取り得る点(30%)である。学習度が 60%を満たしている場合を合格とする。					
オフィスアワー	毎週オフィスアワーが設定されている。オフィスアワー以外にも随時質問を受け付けるが、事前に電子メールにて予約することが望ましい。					
担当教員からのメッセージ	化学工学、応用微生物学に関する講義が他に少ないので、習得すべきことが多岐にわたる。推奨した講義の履修を行うとともに、例示した参考書も活用して、化学工学、応用微生物学に関する基礎知識を補ってほしい。					

授業科目名	基礎有機高分子材料 (Basic Organic Polymer Materials)					
担当教員名	久保野 敦史 (KUBONO Atsushi)		所属等	学術院工学領域		
			研究室	物質 1 号館 3 階 316 号室 (教員室)		
分担教員名	昆野 昭則					
クラス	D	学期	後期		必修選択区分	—
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	水 5・6	
キーワード	有機、高分子、材料					
授業の目標	身の回りで使われている有機・高分子材料について、その種類や用途についての概要を学ぶとともに、材料の構造と物性に関する基礎的な考え方を身につけることを目標とする。					
学習内容	液晶や色素などの低分子有機材料とプラスチックや繊維などの高分子材料に関して講義する。					
授業計画	回 内容 1 有機材料 (1) : 概論 2 有機材料 (2) : 界面活性剤 3 有機材料 (3) : 香料 4 有機材料 (4) : 色素 5 有機材料 (5) : 有機感光体 (光導電体) 6 有機材料 (6) : 液晶の基礎 7 有機材料 (7) : 表示素子 (液晶、有機 E L) 8 中間試験 9 高分子材料 (1) : 概論 10 高分子材料 (2) : 合成高分子の種類 11 高分子材料 (3) : 高分子の物理的性質 12 高分子材料 (4) : 繊維 13 高分子材料 (5) : 汎用プラスチック 14 高分子材料 (6) : エンジニアリングプラスチック 15 高分子材料 (7) : 天然高分子					
受講要件	一般的な「物理学」「化学」に関する知識が必要となるので、専門(基礎)の講義ならびに実験等で身につけておくこと。					
テキスト	「マテリアルサイエンス有機化学」伊与田正彦 他, 東京化学同人, ISBN978-4-8079-0614-7 に加え、一年次の材料科学基礎で用いた「高分子化学」齋藤勝裕, 坂本英文, オーム社, も使用する					
参考書	「はじめての高分子化学」井上祥平, 化学同人, 2006, ISBN 9784759810752					
予習・復習について	教科書にしたがった予習・復習に加え、自主的に身近な有機・高分子材料について調べることが望ましい。					
成績評価の方法・基準	試験・演習課題・レポート等の評価より総合的に判断し、学習の到達度が 60%以上と認められる場合を合格とする。					
オフィスアワー	相談は随時行う。					
担当教員からのメッセージ	この講義では、高学年時の専門科目である「高分子物性」「高分子化学」「機能性有機材料」において、より高度な内容を学ぶために必要となる基礎的な知識の習得を目指す。なお、習熟状況に応じて講義の順番や内容を変更することがある。					

授業科目名	オペレーションズ・リサーチ (Operations Research)					
担当教員名	守田 智 (MORITA Satoru)	所属等	学術院工学領域			
		研究室	A724			
分担教員名						
クラス	S	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	1,2	曜日・時限	水 5・6	
キーワード	オペレーションズ・リサーチ、マルコフ連鎖、待ち行列、ゲーム理論、シミュレーション、データ分析					
授業の目標	さまざまなシステムを効率的に設計・運用する手法を学ぶ。					
学習内容	オペレーションズ・リサーチおよびデータ解析の各種手法にを学び、パソコンを活用した体験的な学習によってその理解を深める。					
授業計画	回 内容 1 ガイダンス 2 確率モデルの基礎 3 確率モデルの応用 4 マルコフ連鎖の理論 5 マルコフ連鎖の演習 6 待ち行列理論の理論 7 待ち行列理論の演習 8 データ分析（推定・検定）の理論 9 データ分析（推定・検定）の演習 10 データ分析（回帰分析）の理論 11 データ分析（回帰分析）の演習 12 ゲーム理論の理論 13 ゲーム理論の演習 14 在庫管理の理論 15 在庫管理の演習					
受講要件	特になし。					
テキスト	指定しない。 随時、プリントを配布する。					
参考書	今野浩，数理決定法入門（朝倉書店，1992 年）間瀬茂 他，工学のためのデータサイエンス入門（数理工学社，2004 年）					
予習・復習について	授業の進行状況に応じて指示する。復習を重視してほしい。					
成績評価の方法・基準	レポート：25%，講義内での課題（出席を兼ねる）：25%，期末試験＋小テスト：50%					
オフィスアワー	講義中に指定する。					
担当教員からのメッセージ						

授業科目名	博物館情報・メディア論					
担当教員名	高松 良幸 (TAKAMATSU Yoshiyuki)			所属等	学院情報学領域	
				研究室	J－2629	
分担教員名						
クラス	1 クラス	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	月 1・2	
キーワード	博物館資料、博物館情報、保存、情報システム、ミュージアムコンテンツ、知的財産					
授業の目標	情報機関としての博物館のあり方、博物館における情報管理、発信のあり方を理解するとともに、そのための視聴覚教育メディアの活用方法に関する基礎的能力の養成をはかる					
学習内容	情報メディア・教育メディアとしての博物館のあり方やその方法についての理解をはかる。また、博物館で使用する視聴覚メディアの種類や内容、その活用方法に関する理解をはかる。あわせて、実習を通じて、博物館における視聴覚教育メディアの企画・制作に関する基礎的能力を養成する。					
授業計画	回 内容 1 博物館と情報 2 メディアとしての博物館 3 視聴覚教育メディアと博物館 4 博物館教育と視聴覚メディア 5 展示のための視聴覚メディア 6 教育普及のための視聴覚メディア 7 情報発信のための視聴覚メディア 8 インターネットと博物館 1ー博物館のホームページ 9 インターネットと博物館 2ーデジタル・アーカイブ 10 視聴覚教育メディアの企画・制作Ⅰ 11 視聴覚教育メディアの企画・制作Ⅱ 12 視聴覚教育メディアの企画・制作Ⅲ 13 博物館と知的財産権 14 博物館と情報倫理 15 まとめ					
受講要件	博物館学芸員資格取得のための必修授業（平成 24 年度以降入学生）					
テキスト	なし。					
参考書	授業中に指示する。また、必要に応じてプリント等を配布する。					
予習・復習について	授業時間の 2 倍程度の予習、復習時間を要する。					
成績評価の方法・基準	授業中に作成するコンテンツと最終レポートにより評価する。両者の比率は各 5 0 % とする。コンテンツは授業の内容理解の上に立ち、受講生各自のコンテンツへの応用度を基準に採点する。最終レポートは、授業の内容理解度を基準に採点する。					
オフィスアワー	授業中に指示する。					
担当教員からのメッセージ	出来るだけ多くの美術館博物館を訪れ、その実際を体験してください。					

授業科目名	現代コミュニケーション論 (Current Topics in Communication Studies)					
担当教員名	近藤 真 (KONDO Makoto)	所属等	学術院情報学領域			
		研究室	J－1313			
分担教員名	田村 敏広、シェフタル モーデカ、ウィルキンソン					
クラス	1 クラス	学期	後期		必修選択区分	－
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	月 7・8	
キーワード	コミュニケーション、ことば、文化					
授業の目標	情報伝達や意味形成という側面から情報社会を分析するための基本的な視点を学ぶ。情報メディアにおけるコミュニケーション分析の課題や、合意形成や市民参加の討論のためのコミュニケーション的課題など、メディア系・コミュニティ系の両科目を受講するための基盤となる知識を身につける。					
学習内容	現代情報社会における様々なコミュニケーションに注目し、それらの特徴や仕組み、文化・社会的背景を学ぶことによって、現代社会における異なる視点を持ったアクターによる意思疎通や合意形成の方法について知識を深めることを目的とする。					
授業計画	各講師の担当順序は変更になる場合がある。 回 内容 1 オリエンテーション -授業全体の概観- (全員) 2 コミュニケーションの基礎概念 (近藤) 3 言語メッセージ・非言語メッセージの特徴 (近藤) 4 日本人のコミュニケーションの特徴 (近藤) 5 受け手から見たコミュニケーション (近藤) 6 言語コミュニケーションにおける発話意図と含意 (田村) 7 言語コミュニケーションのメカニズム (田村) 8 言語コミュニケーションと対人配慮 (田村) 9 コミュニケーション活動を通してコミュニケーションを考える(1) (ウィルキンソン) 10 コミュニケーション活動を通してコミュニケーションを考える(2) (ウィルキンソン) 11 コミュニケーション活動を通してコミュニケーションを考える(3) (ウィルキンソン) 12 異文化コミュニケーションの落とし穴(1) (シェフタル) 13 異文化コミュニケーションの落とし穴(2) (シェフタル) 14 異文化コミュニケーションの落とし穴(3) (シェフタル) 15 まとめ (全員)					
受講要件	特になし。					
テキスト	なし。(授業時に資料を配布する。)					
参考書	講義の中で必要に応じて指示します。					
予習・復習について	講義中にふれられた話題について、参考書、インターネット、新聞、テレビなどで資料収集をする作業を最低 90 分行うこと。					
成績評価の方法・基準	4 人の講師がそれぞれレポートを課し、各レポートの評価点を総合して評価する。ただし、未提出のレポートがある場合には、他のレポートの評価に関わらず、最終評価を「不可」とする。					
オフィスアワー	近藤のオフィスアワーは、水曜 5,6 時限。各担当教員を直接訪ねる場合には、事前にメール等でアポイントを取ること。					
担当教員からのメッセージ	「言語コミュニケーション論」の前提となる。					

授業科目名	美術史 (History of Fine Arts)					
担当教員名	高松 良幸 (TAKAMATSU Yoshiyuki)			所属等	学術院情報学領域	
				研究室	J－2629	
分担教員名						
クラス	1 クラス	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	2 年	単位数	2	曜日・時限	火 1・2	
キーワード	狩野派、イコノロジー、パトロン、イノベーション					
授業の目標	美術作品は、単に人に美的な感動を与えるだけでなく、そこに見られるさまざまな表現などからは、その作品が制作された意図や社会背景等を読み取ることも可能である。すなわち美術作品は、それが制作、伝来した過程で関わった人々の心情や社会状況などを伝えるヴィジュアルなメディアとしての側面を有している。この講義では、美術史研究の基本的な目的である美術作品の様式史の解明とともに、このようなヴィジュアルな表現の解釈法を身につけることを目標とする。 また、近年、各種の美術作品は、デジタルコンテンツ等の題材として取り上げられることが多い。本授業を通じて、実物の美術作品に関する制作、受容の状況を理解するとともに、その過程をモデル化することで、デジタルコンテンツ等を作成するための資質養成に役立ててもらいたい。					
学習内容	本年度は、中世から近世にかけて日本画壇をリードしてきた狩野派を中心に、日本の中・近世絵画史を概観する。 狩野派は、室町時代には足利幕府、桃山時代には、織田信長、豊臣秀吉、江戸時代には徳川幕府と、常に時の権力者に密着して、画壇において勢威を振るう存在であった。しかし、そのような権威を保持しえたのは、単に時の権力者に取り入ることに長けていたためだけでなく、権力者の嗜好などの時代のニーズにこたえた絵画様式と製作技法を常に開拓し続けてきた賜物でもあった。本講義では、各時代の狩野派等の作家・作品を紹介するとともに、このようなイノベーター（改革者）としての狩野派のあり方について考察する。					
授業計画	回 内容 1 美術史入門 2 狩野派以前 1－中世漢画の動向 3 狩野派以前 2－中世やまと絵の動向 4 狩野正信－狩野派の創始 5 狩野元信 1－画工の長 6 狩野元信 2－和漢兼帯 7 狩野永徳－大画と金碧障屏画 8 狩野光信とその周辺－「倭画の風情」と風俗画 9 桃山時代の他流派－長谷川等伯・海北友松らの動向 10 狩野探幽 1－江戸狩野体制 11 狩野探幽 2－和漢融合と縮図 12 江戸絵画と狩野派－琳派・写生派・文人画等への影響 13 江戸後期の狩野派革新－狩野晴川院の画業を中心に 14 近代日本画への影響－狩野芳崖・橋本雅邦の活動 15 まとめ－狩野派組織論					
受講要件	3 年次配当の博物館実習で美術系博物館での実習を希望するものは必ず履修しておくこと。					
テキスト	必要に応じてプリント等を配布する。					
参考書	授業中に指示する。					
予習・復習について	授業時間の 2 倍程度の予習・復習が必要である。					
成績評価の方法・基準	授業中のレポート（10％）、期末試験（90％）により評価する。いずれも授業内容理解度 50％、授業内容応用度 50％で採点する。					
オフィスアワー	授業中に指示する。					
担当教員からのメッセージ						

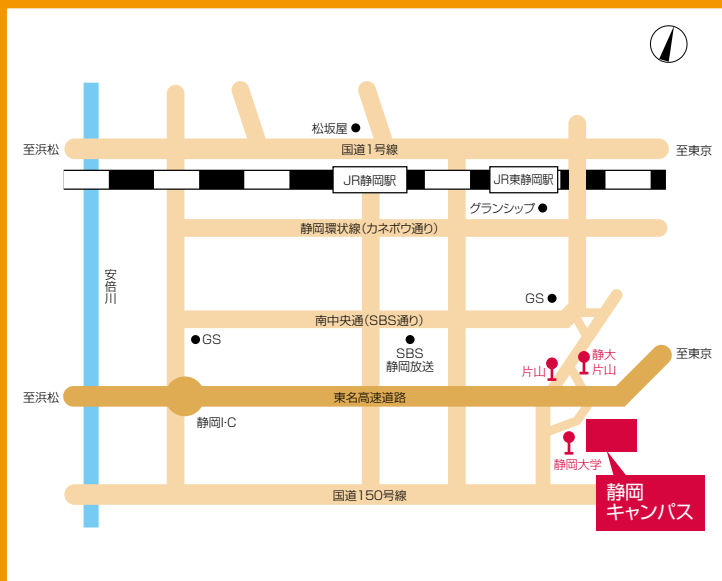
授業科目名	社会調査論 (Theory of Social Research)					
担当教員名	中 正樹 (NAKA Masaki)	所属等	学術院情報学領域			
		研究室	J2831			
分担教員名	藤井 史朗					
クラス	1 クラス	学期	後期		必修選択区分	選択
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	水 1・2	
キーワード	社会調査、統計的調査、事例的調査、社会調査史、量的調査、質的調査					
授業の目標	社会科学としての社会調査の意義や種類、社会調査の歴史、社会調査の基本的な目的と方法、社会調査を実施する上でのモラル、実際の調査例（量的調査と質的調査）などの全体概要について解説する。					
学習内容	第 1 部では、まず社会調査とは何かについて学ぶ。ついで、社会調査の歴史について学ぶ。その際に対象となるのは、古典的な貧困研究、20 世紀初頭のアメリカの地域研究、古典的な産業労働調査である（担当：中）。第 2 部では、労働者に対する社会調査の実例を取り上げつつ、日本における地域社会調査について学ぶ（担当：藤井）。以上の授業を通じて、社会調査について基礎的な知識を習得することを目指す。					
授業計画	回 内容 1 オリエンテーション 2 第 1 部：社会調査とは何か 3 第 1 部：社会調査の歴史① 社会調査の始まり 4 第 1 部：社会調査の歴史② 古典的社会調査 5 第 1 部：社会調査の歴史③ シカゴ学派 6 第 1 部：社会調査の歴史④ 地域調査 7 第 1 部：社会調査の歴史⑤ 世論調査 8 第 1 部：社会調査の歴史⑥ マス・コミュニケーション効果調査 9 第 2 部：社会調査とは何か 2（私と社会調査） 10 第 2 部：ホーソン・リサーチ 11 第 2 部：地域社会調査の検討 12 第 2 部：地域社会調査の検討 13 第 2 部：地域中小企業労働者調査 14 第 2 部：炭鉱労働者調査 15 第 2 部：社会学的人間論の課題					
受講要件	特になし。					
テキスト	特に指定しない。必要に応じて、プリントを配布する。					
参考書	福武直・松原治郎編『社会調査法』（有斐閣双書、1998 年）大谷信介・木下英二・後藤範章・小松洋編『新・社会調査へのアプローチ』（ミネルヴァ書房、2013 年）ほか、必要な場合には講義中に紹介する。					
予習・復習について	授業の進行状況に応じて指示する。※毎回小レポートを提出していても、内容が評価に値しなければ当然単位が取得できないことはありうる。※毎回出席を取るが成績には反映しない。十分な出席回数にも関わらず不可の場合、追加レポートを課す可能性がある。					
成績評価の方法・基準	中：金曜日 5・6 限（12 時 45 分～14 時 15 分）を予定。藤井：昼休み前後など、基本的に研究室にいるときはいつでも。					
オフィスアワー						
担当教員からのメッセージ	社会調査法、多変量データ解析、統計学入門、コミュニティデザイン論、都市・地域政策論、フィールドリサーチ					

授業科目名	認知心理学 (Cognitive Psychology)					
担当教員名	漁田 武雄 (ISARIDA Takeo)			所属等	学術院情報学領域	
				研究室	J－2525	
分担教員名						
クラス	1 クラス	学期	後期		必修選択区分	－
対象学年	1 年	単位数	2	曜日・時限	水 5・6	
キーワード	認知、心理学、スキーマ、記憶、社会情報					
授業の目標	情報システムを活用するのはあくまで人であり、人が情報をどのように認知するかという視点を欠いて情報システムを開発することはできない。「認知心理学」では、人が情報を認知する際の心理学的な基礎知識を身につけさせることが目的である。					
学習内容	この講義では、「認知という心の働き」を中心として、心理学の基礎的な理論や実験等について解説する。また、この講義は、情報学部に通じる人たちに共通して必要と思われる内容で構成してある。 われわれ人間は、絶えず、環境からの莫大な情報にさらされており、同時に、環境に働きかけている。このような環境と行動の相互作用は、「認知という心の働き」によって支えられている。 「認知」とは、「知るという心の働き」および獲得された「知識」であり、さまざまな情報の処理過程からなっている。また、認知が成立するためには、認知の対象（外界、過去の出来事、自分自身など）に関する情報を処理するばかりでなく、対象に関する既存の知識（これをスキーマという）をフル活用する。					
授業計画	オリエンテーション この授業について (シラバス、評価の方法、参考図書) 第1章 認知とスキーマ 1. 認知とスキーマ スキーマとは、エームズの部屋 2. スキーマの使用 同化と調節、好奇心 3. スキーマの発達 ピアジェの理論、自己中心性 第2章 記憶 1. 記憶とは 記憶の基礎、記憶できなくなったら 2. 忘却 忘却曲線、検索の失敗 3. 記憶喪失 逆行性健忘、PTSD、多重人格 4. 検索の過程 文脈依存記憶 5. 記憶の変容 記憶とスキーマ、再構成、目撃証言 6. 記憶術とその基礎 魔法の数 7 ± 2、記憶術 アンダーライン、一夜漬け 第3章 社会的情報処理 1. 社会情報の処理 認知的不協和理論、説得 2. 社会情報の伝達 うわさ 3. 社会情報の潜在的効果 サブリミナルCM単純接触の効果、鏡の顔					
受講要件	特になし					
テキスト	特に指定しない。そのかわり、全部で10数枚の講義資料を配付する。					
参考書	オリエンテーションの際に、参考図書リストを配布して解説する。					
予習・復習について	毎回講義の復習をすることが望ましい。そうすれば、レポート作成も楽になる。					
成績評価の方法・基準	各単元ごとに、レポートを提出する。単位取得の基準は、3回のレポートを全部提出していること、3回のレポートの合計点が60点以上であること。詳細は、オリエンテーションで解説する					
オフィスアワー	随時。メールでアポを取ることが望ましい。					
担当教員からのメッセージ	できるだけ楽しい講義となるように心がけている。受講生も、講義に毎回出席し、「聞いて、理解し、考える」ということを行ってほしい。講義内容を暗記しようなんて思わないこと。暗記する労力は、「聞いて、理解し、考える」そして「楽しむ」ことに使ってほしい。					

■静岡キャンパス

人文社会科学部・教育学部・理学部・農学部

〒422-8529 静岡県静岡市駿河区大谷 836



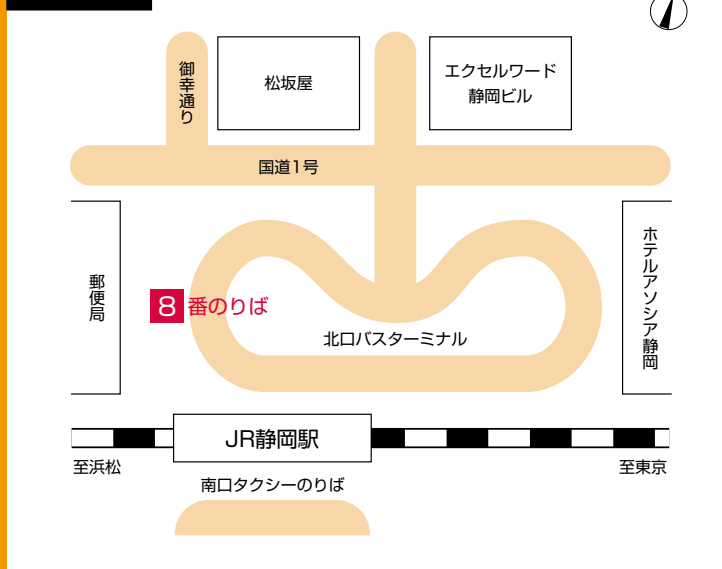
■浜松キャンパス

情報学部・工学部

〒432-8011 静岡県浜松市中区城北 3-5-1

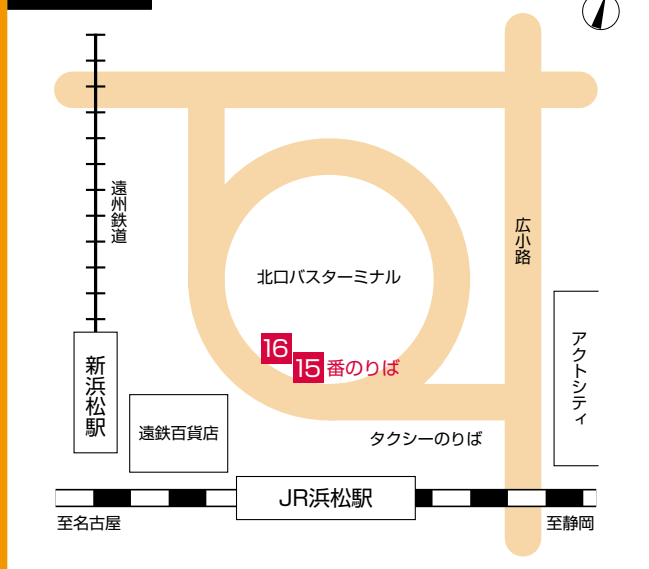


バス停案内図



1. JR静岡駅北口しずつジャストラインバス8番乗り場から、「静岡大学」または「東大谷」行きに乗車し、「静岡大学」または「静大片山」バス停下車(所要時間約25分、1時間に5〜7本運行)。*静岡駅午後発の「東大谷」行きバスは「静岡大学」バス停を経由しないため、「片山」バス停で降りてください。「片山」と「静大片山」バス停は位置が異なりますのでご注意ください。
2. JR静岡駅からタクシーで約15分。

バス停案内図



1. JR浜松駅北口バスターミナルより、遠州鉄道バス15番または16番乗り場から乗車し(全路線)、「静岡大学」バス停下車(所要時間約20分、1時間に10本程度運行)。
2. JR浜松駅からタクシーで約10分。



静岡大学イノベーション社会連携推進機構

Organization for Innovation and Social Collaboration

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

TEL: 054-238-4817 [平日9:30~16:00(10/1~10/19のみ、9:00~16:30)] FAX: 054-238-4295

E-mail: LLC@ipc.shizuoka.ac.jp http://www.Lc.shizuoka.ac.jp/